

史跡出雲国府跡

- 7 -

附編 山代郷南新造院跡

2011年3月

島根県教育委員会

題字：勝部 昭

序

出雲国府跡は、昭和43～45（1968～1970）年の松江市教育委員会・奈良国立文化財研究所・島根県教育委員会による発掘調査で所在地が確定されました。昭和46（1971）年には約42万m²におよぶ広大な範囲が国史跡に指定されています。この一部が史跡公園として整備され、今日まで市民の憩いの場として親しまれています。また、出雲国府跡のある意宇平野には条里制を残した美しい水田地帯が広がっています。古代・中世から現代まで、ひとびとの営みの中で残してきた全国的にも貴重な景観といえます。

島根県教育委員会では、この史跡出雲国府跡を保存・活用するため、平成11（1999）年度から継続的に調査を実施しています。

平成19（2007）年度からは、「国司館」の一角と想定されている、史跡公園北寄りの範囲を対象に調査を実施しています。本書はこのうち平成20～21（2008～2009）年度に実施した発掘調査の成果を取りまとめたものです。この調査では「国司館」の東側を区画する溝跡のほか、漆紙文書が出土した平安時代初め頃の穴、中世の井戸跡が見つかりました。こうした成果を積み上げていくことで、出雲国府跡の施設配置や変遷が徐々に明らかになっていくものと考えています。

本書が、今後の出雲国府跡に関する研究はもとより、当地域の歴史像を解明する上で一助になれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査にあたって多大な御支援と御協力を賜りました地元の皆様をはじめ、奈良文化財研究所、松江市教育委員会ならびに関係各位に心より感謝申し上げます。

平成23年3月

島根県教育委員会教育長

今 井 康 雄

例言

1. 本書は島根県教育委員会が平成20（2008）年度から平成21（2009）年度に国庫補助事業として実施した風土記の丘地内遺跡発掘調査事業の報告書である。
2. 本書に掲載した遺跡の所在地は、下記のとおりである。

史跡出雲国府跡 松江市大草町509-1番地外
3. 本書に収録した内容は、次のとおりである。
 - 平成20（2008）年度 宮の後地区発掘調査
 - 平成21（2009）年度 宮の後地区発掘調査
4. 第3章挿図中の北は測量法に基づく平面直角座標系第Ⅲ系のX軸方向を指し、座標系のXY座標は日本測地系による。X軸は磁北より $7^{\circ}12'$ 、真北より $0^{\circ}32'$ 東の方向を指している。また、調査に使用した座標は、過去の調査との整合性を図るために日本測地系を使用した。
5. 本書に掲載した遺跡分布図は国土地理院発行の1:25000（松江）を使用した。また、遺跡周辺の地形図は島根県教育委員会で作製した風土記の丘地内の1:10000地形図をもとに作製した。
6. 微化石分析、木製品樹種同定及びC14年代測定は文化財調査コンサルタント株式会社に委託した。
7. 本書に掲載した写真は、第4章及び図版45～48掲載写真をのぞき、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター調査員が撮影した。第4章・図版45掲載写真については国立歴史民俗博物館が撮影した。
8. 本書の編集は、埋蔵文化財調査センター職員の協力を得て、宮本正保が行った。
9. 本書の執筆は、神柱靖彦、宮本正保、稲田陽介が分担して行った。なお、第4章については、国立歴史民俗博物館長平川南氏、日本学術振興会特別研究員武井紀子氏に御執筆いただいた。
10. 本書に掲載した出土遺物は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（松江市打出町33）で保管している。
11. 本書の附編として、平成21（2009）年度に実施した山代郷南新造院跡の範囲確認調査成果について収録した。

遺跡の所在地・内容は次のとおりである。

所在地 山代郷南新造院跡 松江市山代町144番地

内容 山代郷南新造院跡範囲確認調査
12. 附編挿図中の北は測量法に基づく平面直角座標系第Ⅲ系のX軸方向を指し、座標系のXY座標は世界測地系による。レベル高は海拔により表記している。
13. 附編の執筆及び図版46～48掲載写真的撮影は、林健亮（島根県教育庁文化財課）が行った。
14. 本文・図版中の表記に用いた遺構略号は次のとおりである。

SA：柱列 SB：掘立柱建物跡 SD：溝状遺構
15. 本書で用いた遺物の分類及び年代観は基本的に下記の論文・報告書を参考にした。

（青磁・白磁） 太宰府市教育委員会「太宰府条坊跡XV」2000
 国立歴史民俗博物館「日本出土の貿易陶磁」1993

（平瓦・丸瓦） 島根県教育委員会「史跡出雲国府跡6」2009

（陶硯） 山中敏史「陶硯関係文献目録」「埋蔵文化財ニュース」41 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター 1983

調査組織

史跡出雲国府跡

史跡出雲国府跡発掘調査指導委員会

蓮岡法暉（元鳥根県文化財保護審議会委員）、金田卓裕（人間文化研究機構機構長）、井上寛司（鳥根大学名誉教授）、佐藤信（東京大学大学院人文社会系教授）、大橋泰夫（鳥根大学法文学部教授）、花谷浩（出雲市文化企画部学芸調整官）、清水重敦（奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室長）

指導助言 渡辺丈彦（文化庁文化財部記念物課文化財調査官 平成21年度）、水ノ江和同（同平成22年度）

事務局 平成20年度

卜部吉博（教育庁文化財課長）、佐藤正範（同文化財課グループリーダー）、林健亮（同主幹）、池淵俊一（同企画員）、是田敦（同文化財保護主任）

川原和人（教育庁埋蔵文化財調査センター副所長）、中川寧（同文化財保護主任）
平成21年度

卜部吉博（教育庁文化財課長）、佐藤正範（同文化財課グループリーダー）、林健亮（同主幹）、池淵俊一（同企画員）、是田敦（同文化財保護主任）

川原和人（教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、萩雅人（同主幹）
平成22年度

松本岩雄（教育庁文化財課長）、廣江耕史（同文化財課調整監）、池淵俊一（同企画員）、松尾充晶（同文化財保護主任）

川原和人（教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、丹羽野裕（同調査第1グループ課長）
平成23年度

調査担当者 平成20年度

宮澤明久（教育庁埋蔵文化財調査センター調査第1グループ課長）、間野大丞（同文化財保護主任）、神柱靖彦（同文化財保護主任）、人見麻生（同調査補助員）
平成21年度

神柱靖彦（教育庁埋蔵文化財調査センター文化財保護主任）、人見麻生（同調査補助員）
平成22年度

宮本正保（教育庁埋蔵文化財調査センター企画員）、稻田陽介（同主事）、人見麻生（同調査補助員）
平成23年度

調査指導、協力機関・協力者

文化庁、奈良文化財研究所、松江市教育委員会、松江市大庭公民館、松江市竹矢公民館、勝部昭（鳥根県文化財保護審議会委員）、武井紀子（日本学术振興会特別研究員）、田中広明（埼玉県埋蔵文化財事業団主査）、平川南（国立歴史民俗博物館長）、町田章（鳥根県文化財保護審議会委員）、米田克彦（岡山県教育庁文化財課主任）

山代郡南新造院跡

事務局 卜部吉博（教育庁文化財課長）、佐藤正範（同文化財課グループリーダー）、池淵俊一（同企画員）、是田敦（同文化財保護主任）

調査担当者 林健亮（同主幹）、人見麻生（教育庁埋蔵文化財調査センター調査補助員）

本文目次

第1章 史跡出雲国府跡の位置と歴史的環境 ······	(稻田)	1
第1節 出雲国府跡の位置 ······	1	
第2節 出雲国府跡周辺の歴史的環境 ······	2	
第2章 調査に至る経緯と調査の経過 ······	4	
第1節 調査に至る経緯 ······	(稻田)	4
第2節 調査の経過 ······	(神柱)	4
第3章 平成20・21（2008・2009）年度の発掘調査 ······	(神柱・宮本)	7
第1節 昭和43～45（1968～1970）年度調査区の再発掘 ······	7	
第2節 宮の後地区の調査 ······	18	
第4章 烏根県 史跡出雲国府跡出土 漆紙文書 ······	(平川・武井)	74
第5章 総括 ······	(神柱)	75
附編 山代郷南新造院跡 ······	(林)	95
第1節 山代郷南新造院跡の調査に至る経緯と経過 ······	95	
第2節 遺構の概要 ······	96	
第3節 出土遺物 ······	98	
第4節 まとめ ······	99	

挿図目次

(第1章)	
第1図 史跡出土雲国府跡と周辺の遺跡等位置図	1
(第2章)	
第2図 史跡出土雲国府跡調査区位置図	5
(第3章)	
第3図 第52・53トレンチと昭和調査区の位置図	8
第4図 第52トレンチ実測図	9
第5図 第52トレンチ出土遺物実測図（1）	11
第6図 第52トレンチ出土遺物実測図（2）	12
第7図 第52トレンチ出土遺物実測図（3）	13
第8図 第52トレンチ出土遺物実測図（4）	14
第9図 第52トレンチ出土遺物実測図（5）	14
第10図 第53トレンチ実測図	15
第11図 第53トレンチ出土遺物実測図	16
第12図 宮の後地区遺構配置図	19
第13図 宮の後地区土層断面図	20
第14図 宮の後地区13号井戸実測図	21
第15図 宮の後地区13号井戸出土遺物実測図（1）	23
第16図 宮の後地区13号井戸出土遺物実測図（2）	23
第17図 宮の後地区13号井戸出土遺物実測図（3）	24
第18図 宮の後地区平成19～21年度調査区遺構配置図	24
第19図 宮の後地区70号・72号満実測図	25
第20図 宮の後地区70号満土層実測図	25
第21図 宮の後地区70号満出土遺物実測図（1）	26
第22図 宮の後地区70号満出土遺物実測図（2）	26
第23図 宮の後地区73号満実測図	27
第24図 宮の後地区73号満出土遺物実測図（1）	29
第25図 宮の後地区73号満出土遺物実測図（2）	30
第26図 宮の後地区73号満出土遺物実測図（3）	30
第27図 第54トレンチ実測図	32
第28図 第54トレンチ出土遺物実測図（1）	33
第29図 第54トレンチ出土遺物実測図（2）	34
第30図 宮の後地区40号土坑実測図	35
第31図 宮の後地区40号土坑出土遺物実測図（1）	36
第32図 宮の後地区40号土坑出土遺物実測図（2）	37
第33図 宮の後地区40号土坑出土遺物実測図（3）	38
第34図 宮の後地区40号土坑出土遺物実測図（4）	39
第35図 宮の後地区40号土坑出土遺物実測図（5）	40
第36図 宮の後地区40号土坑出土遺物実測図（6）	41
第37図 宮の後地区40号土坑出土遺物実測図（7）	42
第38図 宮の後地区40号土坑周辺出土遺物実測図（1）	43
第39図 宮の後地区40号土坑周辺出土遺物実測図（2）	43
第40図 宮の後地区40号土坑周辺出土遺物実測図（3）	44
第41図 宮の後地区41号・42号土坑実測図	45
第42図 宮の後地区41号土坑出土遺物実測図	45
第43図 宮の後地区42号土坑出土遺物実測図（1）	46
第44図 宮の後地区42号土坑出土遺物実測図（2）	46
第45図 宮の後地区44号・46号土坑出土遺物実測図	46
第46図 宮の後地区集石遺構実測図	47
第47図 宮の後地区第1サブトレンチ実測図	48
第48図 宮の後地区第1サブトレンチ出土遺物実測図（1）	50
第49図 宮の後地区第1サブトレンチ出土遺物実測図（2）	51
第50図 宮の後地区第1サブトレンチ出土遺物実測図（3）	52
第51図 宮の後地区第1サブトレンチ出土遺物実測図（4）	52
第52図 宮の後地区第1サブトレンチ出土遺物実測図（5）	53
第53図 宮の後地区出土須恵器実測図（1）	54
第54図 宮の後地区出土須恵器実測図（2）	55
第55図 宮の後地区出土須恵器実測図（3）	56
第56図 宮の後地区出土須恵器実測図（4）	56
第57図 宮の後地区出土須恵器実測図（5）	57
第58図 宮の後地区出土硯実測図	58
第59図 宮の後地区出土土師器実測図	59
第60図 宮の後地区出土瓦実測図（1）	60
第61図 宮の後地区出土瓦実測図（2）	61
第62図 宮の後地区出土瓦実測図（3）	62
第63図 宮の後地区出土瓦実測図（4）	63
第64図 宮の後地区出土瓦実測図（5）	64
第65図 宮の後地区出土土製品実測図	65
第66図 宮の後地区出土陶磁器実測図	65
第67図 宮の後地区出土遺物実測図	66
第68図 宮の後地区出土玉作闇連遺物実測図	66
第69図 宮の後地区出土金属器生産闇連遺物実測図	67
第70図 採集資料（銅印）実測図	68
(第4章)	
第1図 漆液を入れた容器（曲げ物）の推定図	73
第2図-1 肥沢城跡出土 古文孝経	73
第2図-2 肥沢城跡出土 古文孝経	73
第3図-1 秋田城跡出土 第16号漆紙文書	71
第3図-2 秋田城跡出土 第16号漆紙文書訳文	71
第4図 長岡宮跡出土漆紙文書	71
第5図 一号文書・三号文書（破片）	70
第6図 二号文書の文字配列	70
第7図 三号文書の文字配列	70
(附編)	
第1図 山代郷南新造院跡調査区配置図	96
第2図 山代郷南新造院跡遺構配置図・土層断面図	97
第3図 山代郷南新造院跡出土土器・瓦類実測図	98
第4図 山代郷南新造院跡出土古錢拓影	99

表 目 次

第1表 史跡出雲国府跡の発掘調査	6	第10表 出雲国府跡出土玉作関連遺物・石器集計表	92
第2表 40号土坑出土瓦類集計表	42	第11表 出雲国府跡出土陶磁器分類表	93
第3表 出雲国府跡出土遺物観察表	77	第12表 出雲国府跡軒瓦等の出土点数一覧	93
第4表 出雲国府跡出土金属製品観察表	90		
第5表 出雲国府跡13号井戸出土木製品観察表	90	(附編)	
第6表 出雲国府跡出土鐵貨観察表	90	第1表 山代郷南新院跡出土土器・瓦類観察表	100
第7表 出雲国府跡出土金属器生産関連遺物観察表	90		
第8表 出雲国府跡出土玉作関連遺物観察表	91		
第9表 出雲国府跡出土金属器生産関連遺物集計表	91		

写真図版目次

図版1 第52トレンチ（北東から）	図版15 70号・72号溝出土遺物
第52トレンチ未調査部分（東から）	図版16 73号溝出土遺物
第52トレンチ未調査部分SD010e-1ライン（南東から）	図版17 73号溝出土遺物
図版2 第52トレンチSA004 P7（東から）	第54トレンチ出土遺物
第52トレンチSA004 P6 SB004 P2 P12（東から）	図版18 第54トレンチ出土遺物
第53トレンチ（北から）	図版19 第54トレンチ出土遺物
図版3 平成20年度調査区全景（東から）	40号土坑出土遺物
平成20年度調査区（東から）	図版20 40号土坑出土瓦
平成21年度調査区全景（西から）	図版21 40号土坑出土瓦
図版4 13号井戸（南から）	図版22 40号土坑出土瓦
13号井戸南西部（東から）	図版23 40号土坑出土瓦
13号井戸南西部方頭大刀（柄頭）出土状況（南から）	図版24 40号土坑出土瓦
図版5 13号井戸・40号土坑遺物出土状況（南西から）	図版25 40号土坑出土遺物
13号井戸・40号土坑遺物出土状況（南西から）	40号土坑周辺出土遺物
漆文紙書出土状況（南から）	図版26 40号土坑出土瓦
図版6 40号土坑北西部掘削状況（西から）	41号土坑出土瓦 42号土坑出土遺物
70号溝（東から）	図版27 42号土坑出土遺物
73号溝（南から）	44号・46号土坑出土遺物
図版7 73号溝・43号土坑（東から）	図版28 第1サブトレンチ出土遺物
73号溝 e-fライン土層断面（北から）	図版29 第1サブトレンチ出土遺物
第54トレンチ（西から）	図版30 第1サブトレンチ出土遺物
図版8 第54トレンチ（北から）	図版31 第1サブトレンチ出土遺物
第54トレンチ 73号溝（南から）	宮の後地区出土須恵器
42号・43号土坑（北から）	図版32 宮の後地区出土須恵器
図版9 集石遺構・第1サブトレンチ（西から）	図版33 宮の後地区出土須恵器
集石遺構・第1サブトレンチ（南から）	図版34 宮の後地区出土須恵器
石製巡方出土状況（西から）	図版35 宮の後地区出土須恵器
図版10 第52トレンチ出土遺物	図版36 宮の後地区出土須恵器
図版11 第52トレンチ出土遺物	図版37 宮の後地区出土硯
図版12 第52トレンチ出土遺物	図版38 宮の後地区出土土師器
第53トレンチ出土遺物	図版39 宮の後地区出土瓦
図版13 第53トレンチ出土遺物	図版40 宮の後地区出土瓦
図版14 13号井戸出土遺物	図版41 宮の後地区出土瓦

図版42 宮の後地区出土瓦

図版43 宮の後地区出土土製品

　宮の後地区出土巡方・錢貨・陶磁器

図版44 宮の後地区出土玉作関連遺物

　宮の後地区出土金属器生産関連遺物

図版45 宮の後地区出土漆紙1～3号文書

図版46 山代郷南新造院跡調査地遺景（南から）

　山代郷南新造院跡完掘状況（北西から）

　第2トレンチP12・P13（北西から）

図版47 第1トレンチ完掘状況（北東から）

　第1トレンチ完掘状況（北西から）

　第1トレンチP8（東から）

図版48 山代郷南新造院跡出土遺物

写真1 二号文書 一行目部分 72

本文写真目次

既報告一覧

「史跡出雲国府跡1」島根県教育委員会 2003

「史跡出雲国府跡2」島根県教育委員会 2004

「史跡出雲国府跡3」島根県教育委員会 2005

「史跡出雲国府跡4」島根県教育委員会 2006

「史跡出雲国府跡5」島根県教育委員会 2008

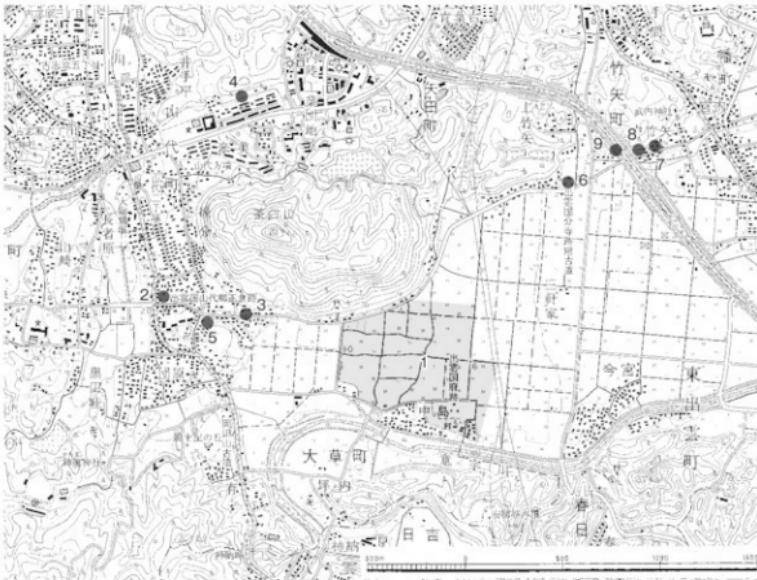
「史跡出雲国府跡6」島根県教育委員会 2009

第1章 史跡出雲国府跡の位置と歴史的環境

第1節 出雲国府跡の位置

史跡出雲国府跡は松江市大草町に所在し、市の東南部にある意宇平野南端に立地する。史跡の南側には、松江市八雲町熊野の山間部に源を発する意宇川が流れ、北には『出雲國風土記』に「神名桶野」と記載された標高171mの茶臼山がそびえる。さらに北には大橋川が東流し、意宇平野の東側に広がる汽水湖、中海へとそそぐ。

史跡出雲国府跡の立地する意宇平野は、斐伊川水系の支流である意宇川が形成した沖積平野で、肥沃な土壌を基盤とした水田が広がっている。意宇平野の南側丘陵には、東百塚古墳群^①や安部谷横穴墓群^②、最古の石棺式石室を有する古天神古墳^③などが分布する。また北東約800mには史跡出雲国分寺跡^④が史跡公園として整備されているほか、そのさらに東150mには、出雲国分寺瓦窯跡^⑤が保存されている。平野北西には、山代段丘が南北に延びており、山代二子塚古墳^⑥を始め、大庭鶴塚古墳^⑦などの首長墓や、山代郷北新造院跡（来美庵寺）^⑧や山代郷南新造院跡（四王寺跡）^⑨といった寺院跡なども知られている。



第1図 史跡出雲国府跡と周辺の遺跡等位置図 (S = 1 : 25,000)

- 1. 史跡出雲国府跡
- 2. 史跡出雲国山代郷道路群正倉跡
- 3. 山代郷南新造院跡（四王寺跡）
- 4. 史跡出雲国山代郷道路群北新造院跡（来美庵寺）
- 5. 山代郷南新造院瓦窯跡（小無田Ⅱ遺跡）
- 6. 史跡出雲国分寺跡附古道
- 7. 出雲国分尼寺跡
- 8. 出雲国分寺瓦窯跡
- 9. 中矢矢道跡

第2節 出雲国府跡周辺の歴史的環境

1. 律令期以前の遺跡 出雲国府跡周辺の歴史は、旧石器時代にまで遡る。下黒田遺跡^①では、玉髓製剥片のブロックが検出されている。また古代寺院として知られる山代郷北新造院跡（来美庵寺）の造成土中からは、玉髓製のナイフ形石器が出土している^②。縄文時代の遺跡は少なく、いざれも土器や石器の小片が確認されているに過ぎない。才塚遺跡^③では後期中葉の土器と打製石斧、磨製石斧が、法華寺前遺跡^④では前期と思われる土器が採取されている。弥生時代になると、意宇平野に遺跡が急増する。建築材と考えられる木製品が多数出土した上小紋遺跡^⑤や、水田跡が検出された布田遺跡^⑥などがある。古墳時代は、大橋川沿いから大庭町にかけて多くの遺跡が分布している。出雲国府跡の周辺には、東百塚古墳群^⑦、古天神古墳^⑧、大草岩船古墳^⑨、安部谷横穴墓群^⑩などが見られる。また茶臼山西麓には、山代二子塚古墳^⑪や山代方墳^⑫、永久宅後古墳^⑬といった、出雲を代表する後期古墳が立地している。古墳時代の集落跡としては、夫敷遺跡^⑭が知られている。夫敷遺跡からは多孔の瓶が出土しており、渡来人との関係も指摘されている。

2. 律令期の遺跡 律令期の遺跡は、大きく官衙、寺院、窯跡、居館、集落、墓地、古道に分けられる。以下、遺跡の種類ごとに記述していく。古代の官衙関連の遺跡としては、多量の炭化米と整然と配置された総柱建物群を検出した山代郷正倉跡^⑮が著名である。また、隣接する下黒田遺跡^⑯・黒田館跡^⑰では大溝と大型の掘立柱建物跡が検出されていて、山代郷正倉跡を構成する遺構の一部と推定されている。

寺院としては、日置臣目烈が建立したとされる山代郷北新造院（来美庵寺）^⑱と出雲臣弟山建立の山代郷南新造院（四王寺跡）^⑲、出雲国分寺跡^⑳、出雲国分尼寺跡^㉑が調査されている。付近には、これらの寺院に瓦を供給した窯跡も見つかっており、山代郷南新造院の瓦を作製した小無田II遺跡^㉒では瓦窯3基、出雲国分寺の瓦生産を行なった出雲国分寺瓦窯跡^㉓で2基、中竹矢遺跡^㉔で平窯1基が検出されている。

居館つまり豪族居宅に関する遺跡は、台地に立地する中西遺跡^㉕が知られている。中西遺跡では、2間×2間の総柱建物跡の他に、1辺1mを超える大型方形の柱穴で構成された庇付建物跡が検出され、出雲国造家との関連が推定されている^㉖。これに対して一般的な集落遺跡は、平坦地ではなく丘陵裾に立地することが多い。才ノ峠遺跡^㉗、中竹矢遺跡^㉘、岸尾遺跡^㉙、島田池遺跡^㉚、渋山池遺跡^㉛、原ノ前遺跡^㉜では、掘立柱建物跡や加工段が見つかっている。

出雲国府周辺における墓地遺跡はあまり知られておらず、わずかに意宇平野周縁で、八稜鏡を収めた火葬骨壺が検出された社日古墳群^㉖が確認されているにすぎない。

古代道路跡としては、出雲国府跡堂田地区で確認された平安時代の道路跡がある。現在の市道に平行して南北に走り、推定十字街から国府への進入路と想定されている^㉗。正西道については、大坪遺跡^㉘の発掘調査で検出が期待されたものの、遺構の確認には至っておらず、木簡の出土による間接的な推測に留まっている。1989年の上ノ免・水垣地区及び石ヶ坪・横枕地区^㉙では時期不明の東西溝が検出されており、正西道の可能性が想定されている。一方、意宇平野以外では、時期不明ながら松本古墳群^㉚で道路遺構が確認され、古代山陰道を復元する重要な手掛かりとなっている。

3. 律令期以後の遺跡 律令期以後の遺跡は、意宇平野を横断する送電線鉄塔建設に伴う調査で、多く発見されている。意宇平野対岸の天溝谷遺跡^㉛では、掘立柱建物跡と共に古代末から中世の土器や陶磁器が出土した。中竹矢遺跡^㉜でも白磁類を多く伴う集落の調査が行われている。黒田館跡^㉖

では掘立柱建物跡と井戸跡、溝跡等とともに、白磁、青磁、朝鮮半島の陶器である粉青沙器が出土している。(稲田)

註

- (1) 「八雲立つ風土記の丘周辺の文化財」鳥根県教育委員会 1975年
- (2) 註(1)と同じ
- (3) 「石棺式石室の研究」出雲考古学研究会 1987年
- (4) 註(1)と同じ
- (5) 関崎進二郎「出雲国分寺瓦窯について」『八雲立つ風土記の丘No.35』鳥根縣八雲立つ風土記の丘 1979年
- (6) 註(1)と同じ
- (7) 註(1)と同じ
- (8) 「風土記の丘地内道路発掘調査報告書13 来美庵寺 「山代郡新造院」推定地発掘調査報告書」鳥根県教育委員会 2002年
「山代郡北新造院跡」鳥根県教育委員会 2007年
- (9) 「風土記の丘地内道路発掘調査報告書V - 鳥根県松江市山代町所在・四王寺跡一」鳥根県教育委員会 1985年
「風土記の丘地内道路発掘調査報告書V - 鳥根県松江市山代町所在・四王寺跡一」鳥根県教育委員会 1988年
「風土記の丘地内道路発掘調査報告書X 山代郡南新造院跡」鳥根県教育委員会 1994年
- (10) 「風土記の丘地内道路発掘調査報告書VI」鳥根県教育委員会 1989年
- (11) 「史跡出雲国分寺跡2」鳥根県教育委員会 2004年
- (12) 「鳥根縣文化財調査報告書第5集」鳥根県教育委員会 1968年
- (13) 註(12)と同じ
- (14) 「北松江幹線新設工事松江連絡橋新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書」鳥根県教育委員会 1987年
- (15) 註(14)と同じ
- (16) 註(1)と同じ
- (17) 註(3)と同じ
- (18) 註(1)と同じ
- (19) 「鳥根縣文化財調査報告書第5集」1968年
- (20) 註(1)と同じ
- (21) 「風土記の丘地内道路発掘調査報告仮」鳥根県教育委員会 1993年
- (22) 註(1)と同じ
- (23) 「一般国道9号鰐松江道路建設予定地内道路埋蔵文化財発掘調査報告書VI (夫敷道路)」鳥根県教育委員会 1989年
- (24) 「史跡出雲国山代郡正倉跡」鳥根県教育委員会 1981年
- (25) 「下里田道跡発掘調査報告書」松江市教育委員会 1988年
- (26) 「黒田道跡」松江市教育委員会 1984年
- (27) 註(8)と同じ
- (28) 註(9)と同じ
- (29) 註(1)と同じ
- (30) 「出雲国分寺第3次発掘調査概報」鳥根県教育委員会 1976年
- (31) 「小無田Ⅱ道跡発掘調査報告書」松江市教育委員会 1997年
- (32) 註(5)と同じ
- (33) 「一般国道9号鰐松江道路建設予定地内道路埋蔵文化財発掘調査報告書X (中竹矢道路)」鳥根県教育委員会 1992年
- (34) 「出雲國府周辺の復元研究－古代八雲立つ風土記の丘復元の記録－」鳥根県古代文化センター 2009年
- (35) 註(34)と同じ
- (36) 「一般国道9号鰐松江道路建設予定地内道路埋蔵文化財発掘調査報告書II (オノ峠道路)」鳥根県教育委員会 1993年
- (37) 註(33)と同じ
- (38) 「岸尾道路・島田道路」鳥根県教育委員会 1997年
- (39) 「鳥田池道路・鶴賀道路」鳥根県教育委員会 1997年
- (40) 「若山池道路・原ノ前道路」鳥根県教育委員会 1997年
- (41) 註(40)と同じ
- (42) 「社日古墳」鳥根県教育委員会 1998年
- (43) 「史跡出雲国府跡6」鳥根県教育委員会 2009年
- (44) 「市道真名井神社親睦事業に伴う大坪道路発掘調査報告書」松江市教育委員会 2002年
- (45) 註(43)と同じ
- (46) 「松本古墳群・大角山道路・すべりぎこ古墳群」鳥根県教育委員会 1997年
- (47) 註(14)と同じ
- (48) 註(33)と同じ
- (49) 訓(26)と同じ

第2章 調査に至る経緯と調査の経過

第1節 調査に至る経緯

出雲国府跡は、島根県松江市大草町・山代町地内に所在する。江戸時代から続く長い所在地論争を経てこの地を出雲国府と確定させたのは、恩田清氏が『大草村検地帳』に発見した字「こくてう」の文字と、昭和43（1968）年から昭和45（1970）年度の発掘調査区（以下、昭和調査区）で検出された、整然と配置された奈良時代の建物群であった。これらの成果を受け、昭和46（1971）年12月13日には、史跡出雲国府跡として約420,000m²が国指定史跡となり、島根県教育委員会がその中心区域である六所脇・宮の後地区を整備、史跡公園として活用が図されることになった。

その後、平成3（1991）年には「八雲立つ風土記の丘構想」、平成9（1997）年には「古代文化の郷“出雲”整備構想」が策定された。いずれも島根県立八雲立つ風土記の丘を中心とした遺跡整備の必要性が唱えられ、これに基づいて史跡の公有地化や準備が進められてきた。

こうした状況を受け、島根県教育委員会では、昭和45年度以来本格的な調査が中断していた史跡出雲国府跡を継続的に発掘調査することとし、平成11（1999）年度より風土記の丘地内遺跡調査の一環として開始した。調査は、昭和40年代の発掘では明らかになっていない政府や後方官衙周辺の諸施設の確認と、景観復元を目的として行われた。この結果、大倉原地区で多数の建物群や溝跡などが検出され、建物配置や出土遺物の検討から国司館に関する諸施設と推定された。平成15（2003）年度からは、国司館の周辺状況を確認するため、大倉原地区・一貫尻地区・日岸田地区・堂田地区などの調査を行なった。これらの地区では、石敷造構や工房城、道路状造構といった多様な造構・遺物が検出され、国司館周辺の実態が徐々に明らかになってきた。平成19（2007）年度以降は、国司館の造構の広がりを確認することを目的として、未調査であった史跡公園内北側の宮の後地区的調査を開始した。また、昭和調査時の造構の正確な位置を確認するため、再発掘調査を併せて行なっている。今回の報告は、平成20年度と平成21年度に行なわれた調査で、宮の後地区を対象としている。

第2節 調査の経過

1. 平成20（2008）年度

国司館東側の溝、70号溝の延長部分及び国司館南東部分の建物配置を確認する事を目的に、前年度調査区の隣接部分で本調査を実施した。また六所神社北側で昭和調査区の造構位置の確認調査を実施した。

昭和調査区の再発掘調査は5月19日から7月3日にかけて実施し、6月16日には県内在住の発掘調査指導委員会委員から調査方法等について指導を受けた。

本調査は8月22日から12月19日までの期間で行い、国司館東側の区画となる南北方向の溝跡（73号溝）1条を検出している。一方、目的とした70号溝の延長部分の検出には至らず、建物跡も検出されなかった。11月26日には発掘調査指導委員会を開催したほか、12月6日には現地説明会を開催し、平成21（2009）年3月25日から5月11日の日程で風土記の丘展示学習館における発掘速報展を実施した。

2. 平成21（2009）年度

前年度の調査成果をうけ、前年度本調査区の周辺を拡張する形で本調査を実施した。目的として



第2図 史跡出雲国府跡調査区位置図 (S = 1 : 1,500)

は、前年度の調査で確認できなかった70号溝の延長を確認すること、前年度に検出した南北溝（73号溝）の東側の状況を確認することがあった。ちなみにこの地点では、道路跡の存在が推定されその検出が期待された。現地調査は、6月1日から12月1日まで行った。調査の結果、70号溝の延長部分を一部確認し、調査区東側で検出した土坑跡（40号土坑）からは漆紙文書が出土した。このほか井戸跡（13号井戸）を1基確認した。また、73号溝の延長部分を確認するために本調査区南側に第54トレンチを設置し調査を行ったが、遺構の残存状況が思わしくなく明確に検出できなかった。

本調査とあわせ昭和調査区の確認調査を、史跡公園内の第53トレンチで実施した。トレンチは、昭和調査の座標のずれの問題をさらに追求するために宮の後地区中央付近に設定した。調査の結果、再検出した遺構の一部の座標がずれていることを確認できた。

10月19日に調査指導委員会を開催し、10月23日には大橋委員の指導を受けた。11月14日に現地説明会を開催し、平成22（2010）年3月24日から5月10日には風上記の丘展示学習館で発掘速報展を実施した。

第1表 史跡出雲国府跡の発掘調査

年度	調査主体	調査原因	主な調査地点	報告
昭和43(1968)年度	松江市教育委員会	学術調査	宮の後地区	
昭和44(1969)年度	松江市教育委員会	学術調査	宮の後・一貫尻・水垣・櫛ノ口地区	島根県教育委員会 2008年 島根県教育委員会 2009年
昭和45(1970)年度	松江市教育委員会	学術調査	宮の後・六所脇地区	
昭和49(1974)年度	島根県教育委員会	史跡整備	宮の後地区	島根県教育委員会 1975年 島根県教育委員会 2009年
昭和49(1974)年度	島根県文化財保護協会	水道管埋設	推定十字街ほか 第1～4地点	島根県教育委員会 2009年
昭和60(1985)年度	島根県教育委員会	土地改良総合整備事業		
昭和61(1986)年度	島根県教育委員会	土地改良総合整備事業		島根県教育委員会 1988年
昭和62(1987)年度	島根県教育委員会	土地改良総合整備事業		
平成元(1989)年度	島根県教育委員会	道路舗装	(A)地点:水垣地区 (B)地点:横枕地区	島根県教育委員会 1991年 島根県教育委員会 2009年
平成2(1990)年度	島根県教育委員会	道路舗装	松葉田ほか 1～11区	島根県教育委員会 1988年
平成5(1993)年度	松江市教育委員会	道路拡幅	六所前	(財)松江市教育文化振興事業団 1997年
平成8(1996)年度	松江市教育委員会	個人住宅改築	六所前	松江市教育委員会 1996年
平成8(1996)年度	松江市教育委員会	道路拡幅	前川原	松江市教育委員会 1996年
平成9(1997)年度	松江市教育委員会	個人住宅建設	前川原	松江市教育委員会 1997年
平成11(1999)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大舍原地区	
平成12(2000)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大舍原地区	
平成13(2001)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大舍原地区	
平成14(2002)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大舍原地区	
平成15(2003)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	大舍原・一貫尻・ 日岸田地区	島根県教育委員会 2004年 島根県教育委員会 2005年
平成16(2004)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	日岸田・大舍原地区	島根県教育委員会 2006年
平成17(2005)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	日岸田・六所脇地区	
平成18(2006)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	堂田・宮の後・ 六所脇地区	島根県教育委員会 2008年
平成19(2007)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	堂田・宮の後・ 六所脇地区	島根県教育委員会 2009年
平成20(2008)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	宮の後地区	島根県教育委員会 2010年
平成21(2009)年度	島根県教育委員会	風土記の丘地内遺跡調査	宮の後地区	
平成21(2009)年度	松江市教育委員会	下水道工事	六所脇・六所下	松江市教育委員会 2009年

第3章 平成20・21(2008・2009)年度の発掘調査

第1節 昭和43～45（1968～1970）年度調査区の再発掘

1. はじめに 昭和43～45（1968～1970）年度発掘調査区（以下、昭和調査区）の再発掘は、平成20（2008）年度および平成21（2009）年度で1カ所ずつ実施した。これに先立つ平成18（2006）年度および平成19（2007）年度の調査において、昭和調査区で検出した遺構の座標がずれて記録されていることが判明していた。

具体的には、記録された遺構の位置を計算して得られた座標が、六所脇地区では日本測地系の座標から南東にずれていた。また、宮の後地区では東にずれている事を確認している^①。この事を受け、順次昭和調査区を再調査し、記録された遺構の位置と座標のズレを確認することとした。

2. トレンチの設定（第3図） 第52トレンチは、宮の後地区的南端部（六所神社北側）に東西9m×南北12mで設定した。この地点で調査を実施すれば一ヵ所で昭和調査区の遺構の位置を確認できるため、より効果的な調査が行えると判断した。第52トレンチでは、一部未調査の箇所もトレンチの範囲に含んでいる。これは、昭和調査区で未確認であったSD010の西側延長部分の様相を明らかにするためであった。

第53トレンチは、宮の後地区中央部に東西6m、南北7mの長方形に設定したが、南西隅部分は建物の復元表示箇所にかかるため調査を行わなかった。このトレンチの設定箇所では、昭和44・45（1969・1970）年度の調査箇所により幅約2mの未調査箇所が挟まれたような格好となっている。この位置では、過去の調査区で記録された位置のズレを確認するとともに、未確認の遺構の検出が期待されたため調査実施地点として選定した。

3. 各トレンチの調査状況

1) 宮の後地区 第52トレンチ（第4図）

(1) トレンチの層序 層序は、既調査（昭和調査区）部分では上位から順に、公園整備の際に遺構面の保護のために搬入された黄色真砂土、その下に昭和調査区の埋戻し土がみられ、その下層が昭和調査区の遺構検出面となっている。未調査区部分では上位から、黄色真砂土、水田耕作土、黒色土（遺物包含層）、灰色系土による遺構面となる。

(2) 再検出した遺構

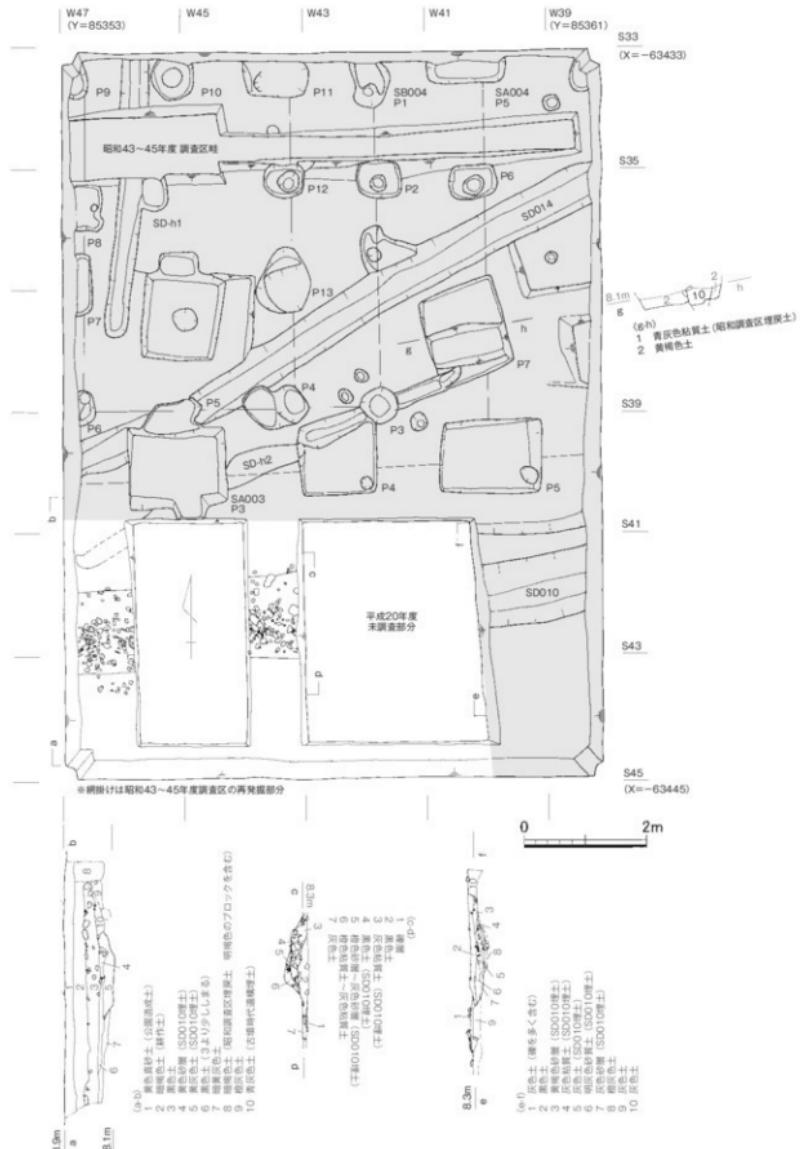
①SD010 SD010は、宮の後地区的南端から検出された大溝である。溝の東端は宮の後地区東端まで到達すると考えられるが、削平が激しく詳細は不明である。昭和44（1969）年の調査で、3本の南北方向の溝（SD037、038、124）が宮の後地区東端部で接続することが確認されている。昭和調査時の検出部分では、上幅は1.2m～2.4m、深さ0.2mで、断面はU字形を呈している。

②SA003 17間以上の柵列跡である。主軸は東西で、SD010の北に位置し、SD010と平行している。柱は玉石で固定されており、掘方の平面形は方形が多い^②。今回の調査では、P 3・4・5の3基の柱穴を再検出した。3基とも方形を呈し、P 3は幅約1.6m、P 4は約1.2m、P 5は約1.7mであった。

③SA004 7間（14.8m）の柵列跡で、主軸は南北方向でSA003P5に接続している。柱痕跡の周囲からは石材が出土している^③。P 7は、1.2m×1.6mの方形の平面形を呈している。昭和調査時に土層断面を実測しているが、地山と掘方の区別が不明瞭であった。このため再検出を実施したが、



第3図 第52・53トレンチと昭和調査区の位置図 ($S = 1 : 300$)



第4図 第52トレンチ実測図 (S = 1 : 80)

柱痕が抜かれた上で掘り切られていたため、掘方の確認はできなかった。P 6 の掘方は約0.8m×0.4mの長方形形状を呈し、ほぼ中心で径約0.2m程度の柱穴を検出した。P 5 については、調査区の北端部にかかるため掘方の南側の部分のみを検出した。幅は約1.2mで、全体の平面形は梢円形であった。

⑤SB004 3間（5.2m）×3間（5.6m）の掘立柱建物跡である^④。

⑥SD014 南西から北東に主軸を持つ溝で、調査区を斜行している^⑤。調査区内での検出長は約19mで、幅は0.5～0.8m、深さは0.26m、断面コ字状を呈する。

⑦SD-h1 調査区北西隅付近で南北方向の溝を再検出した。なお、遺構名は未設定であったために仮の遺構名を振った。以下、遺構名に「h」を付加した遺構は再発掘区で新たに検出した遺構及び過去の調査で検出済みだったが名称未設定であった遺構である。

⑧SD-h2 SD014の南に平行する溝を再検出した。さらに南西に延びる延長部分を約4.4m検出した。

（3）新たに確認した部分を含む遺構

①SD010 調査区南端で、SD010の延長部分を検出し、その一部にサブトレチを設定し、土層堆積状況を確認した。今回の調査で新たに掘削したサブトレチの範囲においては、SD010は深さ約0.2m～0.3mで、幅は約1.2m～1.8mであった。

②SD-h2 昭和調査区での検出部分から南西に延びる延長部分を4.4m検出した。

③SB004（P2・P12）これまでの報告書^⑥等では、調査区の畦にかかる北端部については掘削が行われていない状態での平面図が掲載されていたが、実際には畦を部分的に掘削し遺構の完掘が実施されていたことが確認された。

④SA004（P 6）についてもSB004（P2・P12）と同様に遺構の全体を再検出した。

（4）遺構の位置の測定結果 再検出した遺構の位置の計測を行ったところ、調査区北端の昭和45（1970）年度調査区で再検出した遺構（SB004のP9・P10・SD-h1）が、東にずれて記録されていることが確認できた。これは、昭和43（1968）年調査時の平面図と昭和45（1970）年調査時の平面図を合成する際にそれが生じたためと想定される。（神柱）

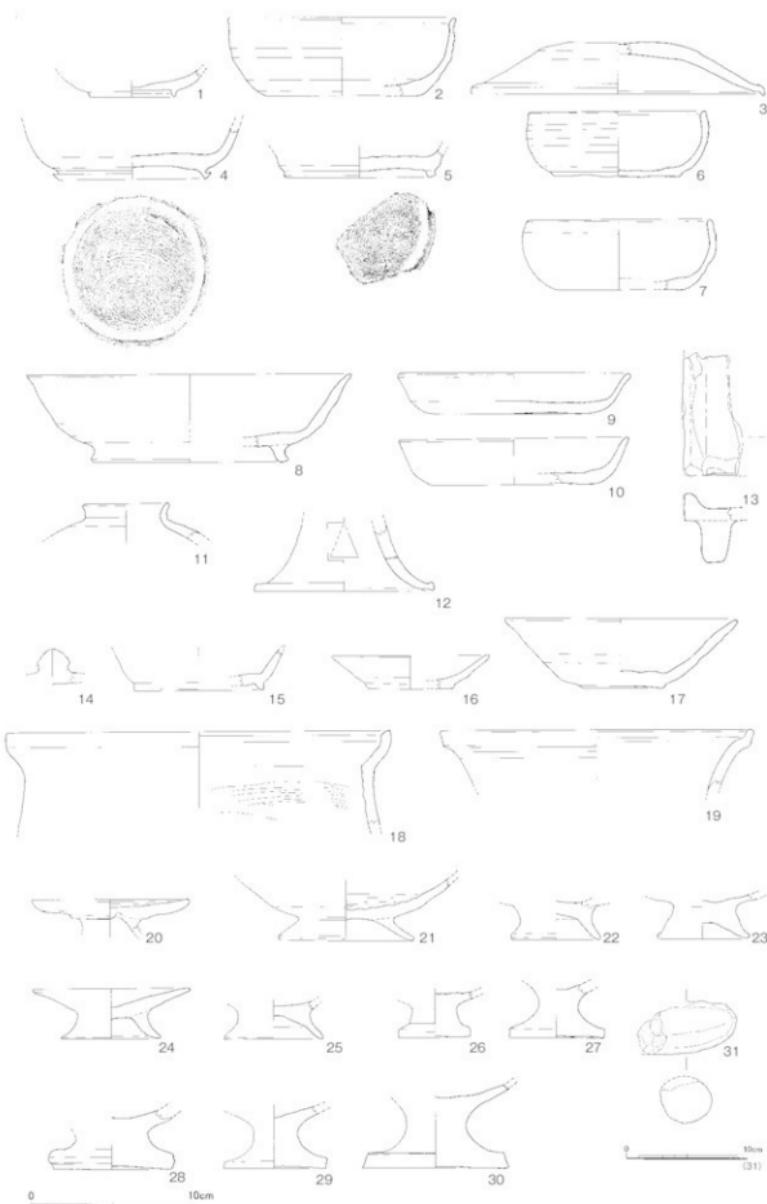
（5）第52トレチ出土遺物（第5図～第9図）

第52トレチから出土した遺物には、遺構及び今回新たに掘削した区域から出土した遺物、昭和43～昭和45（1968～1970）年度調査時の埋戻土及び排土から出土した遺物がある。

①遺構・包含層出土遺物（第5図・第6図・第9図）

須恵器 第5図1・2はSD010出土の坏で、1は低く直立する高台をもち、底部は糸切りの後ナデを施す。外面に黒色の付着物がある。2は緩く外側に折れる口縁部をもち、底部は糸切り後未調整である。3～12は新たに掘削した区域から出土した。3は蓋で、天井部を広範囲にヘラケゼリする。4・5は高台付坏で、4は断面三角形の短い高台、5には底部最外周に断面四角形の短い高台が付く。いずれも底部外面は回転糸切りの後ナデを施し、5には爪状の圧痕も残る。6・7は坏で、体部は緩やかに内清して口縁を丸くおさめる。底部外面は回転糸切り痕が残る。8は高台をもち、体部が強く外傾する。9・10は皿で、体部はわずかに外反して口縁に至る。いずれも回転糸切りで切り離すが、10にはナデを施す。なお、9は内面が磨滅しており、転用硯と考えられる。11は小形の壺、12は高坏脚部である。

硯 第5図13は脚をもつ陶硯で、風字硯の可能性がある。



第5図 第52トレンチ出土遺物実測図（1）（S=1:3、1:4）

土師器・土師質土器 全般に風化の影響を受け、調整が判別しがたいものが多い。第5図14は蓋の宝珠状つまみ部分である。15は底部の最外周に高台がつく。16・17は壊で、16の底部は回転糸切りである。17は風化のため不明である。18は壺で、口縁が内湾して罐部は面をもつ。19は壺で、口縁部外面に面をもつものである。20は浅い皿に脚がつくもので、底部外面の観察から皿を糸切りした後、脚を貼りつけたことがわかる。21～25は「ハ」の字に聞く高台をもつもので、全形を窺えるのは24のみである。22・23・25は高台の高さや高台径が類似し、24に近い形態が考えられるが、21はこれらに比べ大形のものである。26～30は柱状高台付壠であるが、いずれも壊部を欠いている。31は壺の把手と見られる。

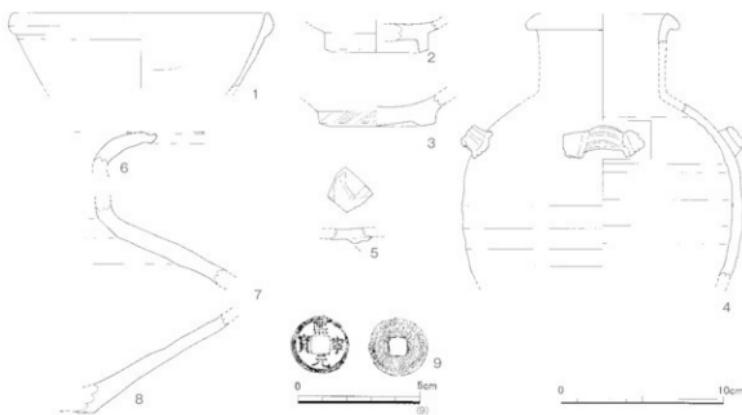
陶磁器 第6図1～8は陶磁器で、1～4は白磁、5は中国陶器、6～8は瓷器系陶器である。1は碗IV類、2は碗V類、3は壺の底部でIV類、4は四耳壺III類である。5は褐釉がかかる壺の把手部分、6は口縁部、7は頸部～肩部付近、8は底部付近である。6の外面下方には平行タタキが認められる。

銭貨 9は北宋錢で、熙寧元寶である。1068年初鑄のもので、裏面に文字は認められない。

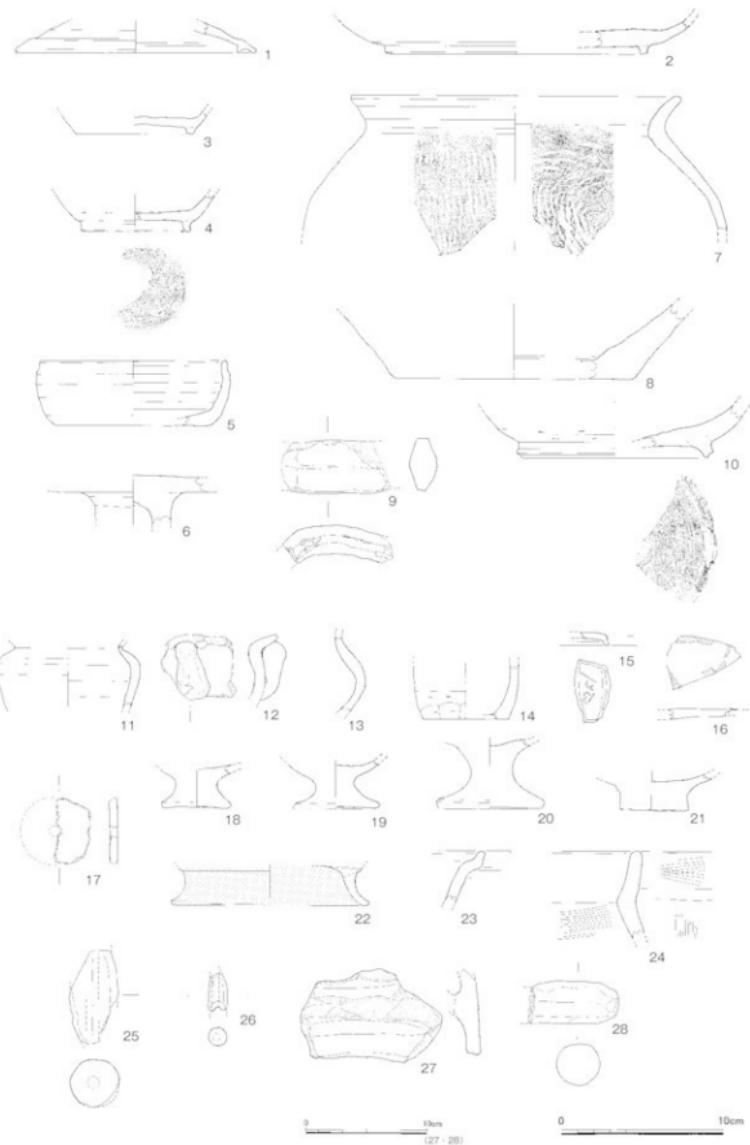
玉作関連遺物 第9図1は平玉の未成品で、調整段階のものである。石材は水晶で、結晶の先端部を利用している。

②埋戻土等出土遺物（第7図～第9図）

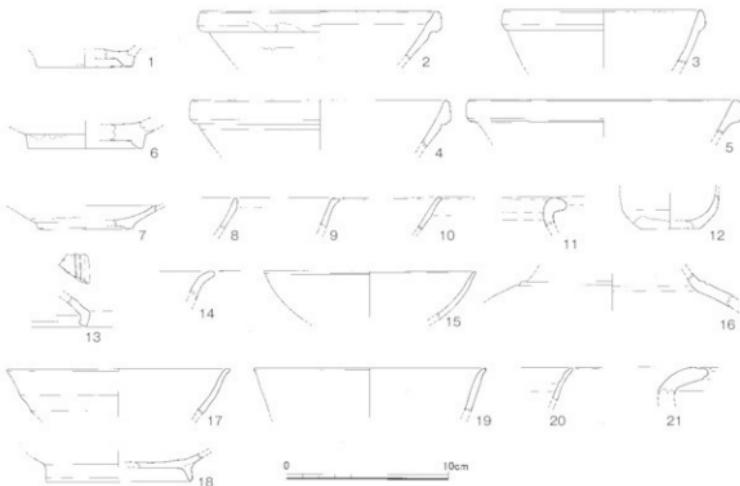
須恵器 第7図1は蓋で、わずかにかえりをもつ。2～4は高台付壠で、2は大形で短小な高台をもつもの、3・4は小形で、4の底部外面に爪状圧痕が認められる。5は壠で、体部が内湾して口縁部はわずかに外反する。6は平底に脚がつき、盤であろうか。7は壺、8は底部でヘラケズリを施す。9は把手でヘラケズリの後粗くナデを施す。10は長頸壺の底部とみられ、転用硯の可能性がある。11は短く外反する口縁をもち、小形の壺か甌と見られる。12は外面に棒状のつまみが付き、小形の鉢と見られる。13は小形の壺の体部、14も壺の底部であろう。15は蓋の口縁部で、焼成後内面に「門」が線刻されている。16も蓋の天井部付近で、直線状のヘラ描きが認められる。



第6図 第52トレンチ出土遺物実測図(2) (S=1:2, 1:3)



第7図 第52トレンチ出土遺物実測図（3）（S=1:3、1:4）



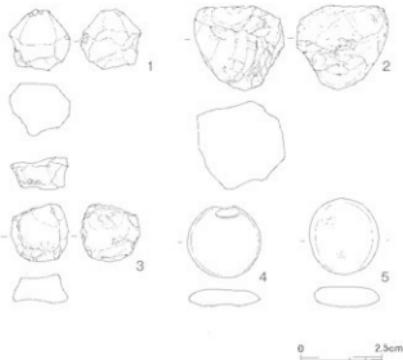
第8図 第52トレンチ出土遺物実測図(4) ($S = 1 : 3$)

土師器・土製品 第7図17～28は土師器及び土製品である。17は壺を転用した紡錘車で、孔径は0.6cmと推定される。18～21は柱状高台付壺で、底部は回転系切りである。22は外反する高台をもつ壺とみられ、内外面とも赤彩を施す。23は壺、24は壺と見られる。25・26は土鍤である。25は外径約3cm、26は同約1cmである。27は移動式窓、28は瓶の把手と見られる。

陶磁器 第8図1～13は白磁である。1は底部で碗II類、2～5は碗IV類で、玉縁状の口縁をもつ。8も碗IV類と見られる。6は碗IV類・VI類・VII類のいずれか、7は福建省系である。9・10は口縁部がわずかに外反し、碗V類と考えられる。11は四耳壺、12は小形の壺または合子の底部である。13は合子の蓋で、上面に2条の沈線を入れる。14は龍泉窯系の青磁碗D類、15も青磁で、越州窯系か。16は中国陶器で褐釉の壺である。17・18は灰釉陶器、19・20は綠釉陶器である。19は篠、20は近江系で、いずれも硬質である。21は瓷器系陶器の口縁部である。

玉作関連遺物 第9図2は埋戻土から出土した丸玉の未成品で、調整段階である。3は平成20(2008)年度調査で、排土から採集した平玉の未成品である。碧玉を板状に切断し、切断面に調整を加えている。4・5はいずれも平玉の製品である。4は一部欠けているが、完成後の欠損と考えられる。

遺物の時期は、第5図2が国庁編年⁷⁾の第4形式であることからSD010の年代観と矛盾しない。(宮本)



第9図 第52トレンチ出土遺物実測図(5) ($S = 2 : 3$)

2) 宮の後地区 第53トレンチ (第10図)

(1) トレンチの層序 層序は、昭和調査区部分では上位から順に、公園整備の際に遺構面の保護のために搬入された採石、黄色真砂土、その下に埋戻し土がみられ、その下層が遺構検出面となっている。未調査区部分では上位から、採石、黄色真砂土、明褐色土（水田畦）となる。

(2) 再検出した遺構

①SB008 (P 6・P 7) 2間 (4.0m) × 4間 (8.4m) の掘立柱建物跡^④、北西隅のP 7とその東隣のP 6を検出した。P 7は調査区の北西隅にかかっていたためその東側の一部を検出するにとどめたが、P 6については埋戻し土の掘削も実施した。

②SB009 (P 4・P 5) 5間 (10.7m) × 2間 (4.8m) の掘立柱建物跡^④、北側の柱筋のうちP 4の一部とその東隣のP 5を検出した。P 4は昭和調査区では未検出であった東側部分を検出し、埋土の一部を掘削した。P 5は北西隅が未検出であったが、今回の調査で全体を検出し、埋め戻し土を掘削した。

③SD-h3 幅約30cm程度の溝で、昭和調査区では直線的に伸びる南北溝として記録されているが、今回の調査で南端が東に曲がっていることを確認した。

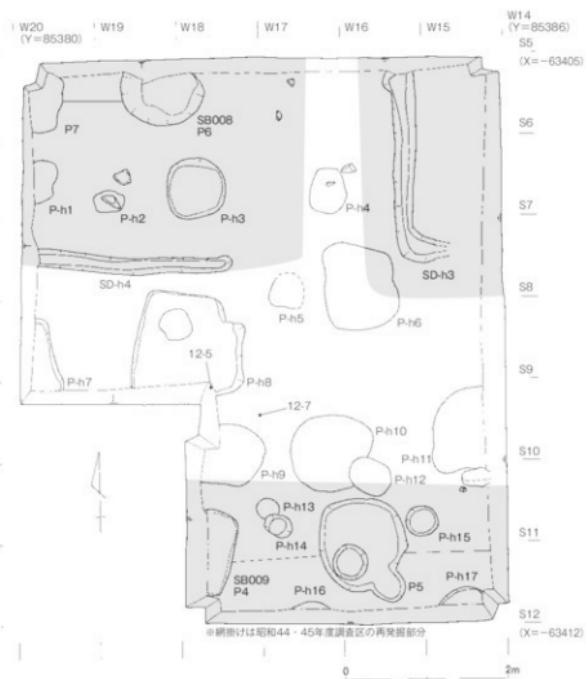
④P-h1~3・15~17 昭和調査区で遺構名を振らなかったピットを6基再検出し、P-h1・16以外は埋め戻し土の一部を掘削した。

(3) 新規に検出した遺構

①P-h4~14 合計11

基のピットをあらたに検出した。このうちP-h6~8・P-h9~11はその規模がほぼそろい、位置的にも直線的に並んでいるため、それぞれ一つの建物の柱穴や横列の柱穴の一部分の可能性が考えられる。

②SD-h4 調査区の西壁から東に伸びる幅20cm程度の溝で、調査区内での検出長は約2.4mであった。



第10図 第53トレンチ実測図 (S = 1 : 60)

(4) 遺構の位置の測定結果

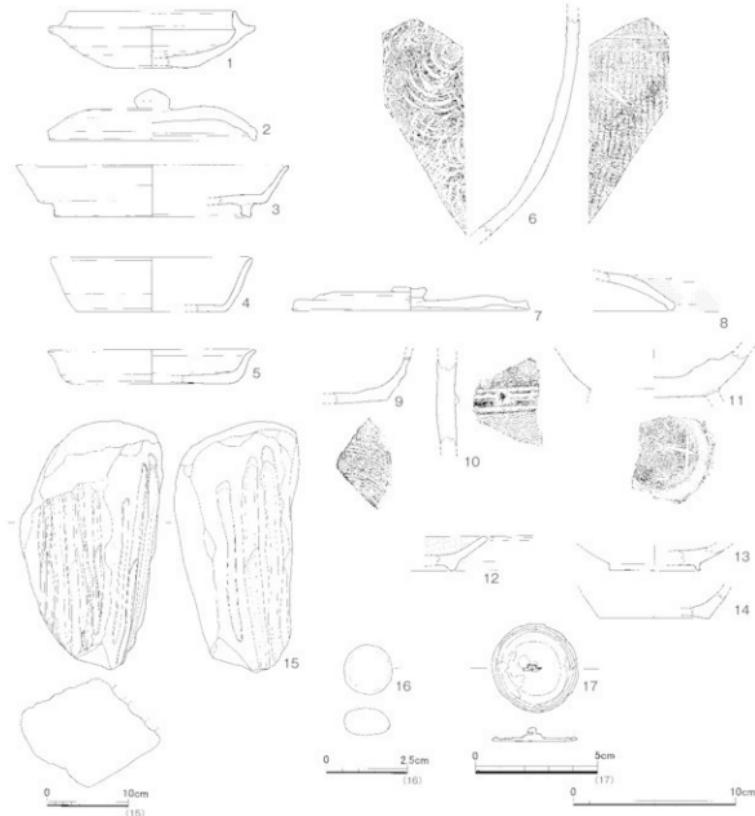
再検出した遺構の位置の計測を行ったところ、SB008のP6およびP7がの位置が実際の座標から南東にずれて記録されていることが確認できた。これは、昭和44（1969）年調査時の平面図と昭和45（1970）年調査時の平面図を合成する際にそれが生じたと想定される。（神柱）

(5) 第53トレント出土遺物

第11図1～7・15は新たに発掘した土層、ほかは昭和43～45（1968～1970）年度調査時の埋戻土からの出土である。

①包含層出土遺物（第11図1～7・15）

須恵器 第11図1はかえりをもつ壊身で、全面に回転ナデが施される。2は宝珠状つまみをもつ蓋で、天井部外周にヘラケズリを施す。3は高台付壊、4は壊で、底部外面はナデ調整である。5は皿で、口縁は外反し、底部外面を回転糸切りする。6は壺の胴部で、外面に2条の沈線をもつ。7は蓋で、ボタン状のつまみをもち、器高が低い。



第11図 第53トレント出土遺物実測図（S=1:2、1:3、2:3、1:6）

玉作関連遺物 15は花崗岩製の筋砥石で、利用した3面のうち2面に筋状の研磨痕、他の1面にも平滑な研磨痕が認められる。

②埋戻土等出土遺物（第11図8～14・16・17）

須恵器 9は底部で、外面は静止系切りである。10は体部の破片で沈線と波状文で飾る。11は脚をもつ底部で、ヘラ記号をもつ。

土師器 8は蓋で、外面全体に赤彩を施す。12は皿で、内面は赤彩される。

陶磁器 13は越州窯系の青磁であるが器種は不明である。14は白磁で壺の底部である。

銅鏡 17は素文鏡である。径3.5cm～3.6cmで縁をわずかに厚くつくる。平城京では素文鏡が祭祀に使用された例¹⁹があり、この鏡もこれに類するものと見られる。

玉作関連遺物 16は水晶製の平玉で、完成品である。（宮本）

4. 小結

平成15（2003）年に刊行された『史跡出雲国府跡1』の作成作業以来、昭和調査区の遺構実測図について整理作業を行ってきた。この過程で、磁北を基準とした当時の図面から求められる日本測地系の座標が、実際の座標からずれて記録されていることが判明した。

これをうけ、平成18（2006）年度の調査では、遺構そのもので昭和調査区の位置関係を確認するため六所脇地区で再発掘を行った。その結果、実際の遺構の位置と復元された柱表示がずれている事が確認された。この年は検出した面積が狭かったことから、平成19（2007）年以降はさらに広い範囲を再検出し、確実な遺構での照合を実施することとなった。

平成19（2007）年度は、六所脇地区と宮の後地区の2地点で遺構の再発掘を実施した。調査の結果、六所脇地区で設定した第49トレチで再検出した遺構（SB019など）について、昭和調査区の図面に記録された位置は、実際の座標（日本測地系）から南東方向にずれている事が判明した。また宮の後調査区では、昭和44（1969）年度調査で検出していた「井桁状遺構」を再検出し、位置確認作業を行った。結果、南北方向の大きなずれではなく、東に若干ずれている事が判明した。この時点で、各調査区で座標のずれがまちまちであることがわかったため、今後も確認調査を継続していく方向が確認された。

平成20（2008）年度は第52トレチを設定して、昭和調査区を再発掘した。この結果前述のとおり、記録された遺構の一部（昭和45（1970）年度調査区の遺構）が、実際の遺構の座標から東にわずかにずれて記録されている事が明らかとなった。

平成21（2009）年度に調査した第53トレチでも、遺構の一部（昭和45（1970）年度調査区の遺構）が若干南東方向にずれている事が確認できた。

ずれの正確な幅については、誤差の要因が多岐にわたると想定されるため、現時点までの検討では確定が困難である。このため、さらなる検討を行い、結果については今後刊行する総括報告書で報告を行う。（神柱）

第2節 宮の後地区の調査

1. 遺構の配置（第12図）

調査に至る経緯は第2章で述べたが、今回の調査は「国司館」の南側の様相を明らかにすることを大きな目的としている。具体的には、平成18・19（2006・2007）年度の調査で確認された溝跡（70号溝）の延長を確認するとともに、大倉原地区4号溝・56号溝の南延長部分を確認し、周辺の施設の性格を明らかにすることを主な目的とした。平成20（2008）年度の調査区は、平成19（2007）年度の調査区の東側に一部を重複させる形で設定した。調査区内は、国土地理院第Ⅲ座標系（日本測地系）の南北軸座標座標X = -63400mと東西軸座標Y = 85400mの交点を原点とする区割りに準拠している。原点から西にW、東にE、北にN、南にSをふり、北西交点をグリッド名とし、N○E○と呼称する。

W5ラインからE10ラインにかけて、70号溝が屈曲しながら伸びている。W1ライン付近で南北方向の72号溝が検出されている。

N30W0グリッドでは、井桁状遺構³¹を検出している。井桁状遺構は、昭和44（1969）年度の調査時にも検出されており、N30W10グリッドおよびN10W25グリッドでもその一部を再検出している。

その南側では、47号土坑、東側では集石遺構を検出している。集石遺構の北東部に接する位置で41号土坑を検出している。N40E10グリッドでは48号土坑の一部を検出しており、この遺構は調査区外に広がっている。

E20ライン付近では、南北方向に伸びる73号溝が検出されており、調査区外にまで伸びている。73号溝の東側、N30E20グリッドでは42号土坑、43号土坑が検出された。この2つの土坑は本来1基の遺構だと考えられる。

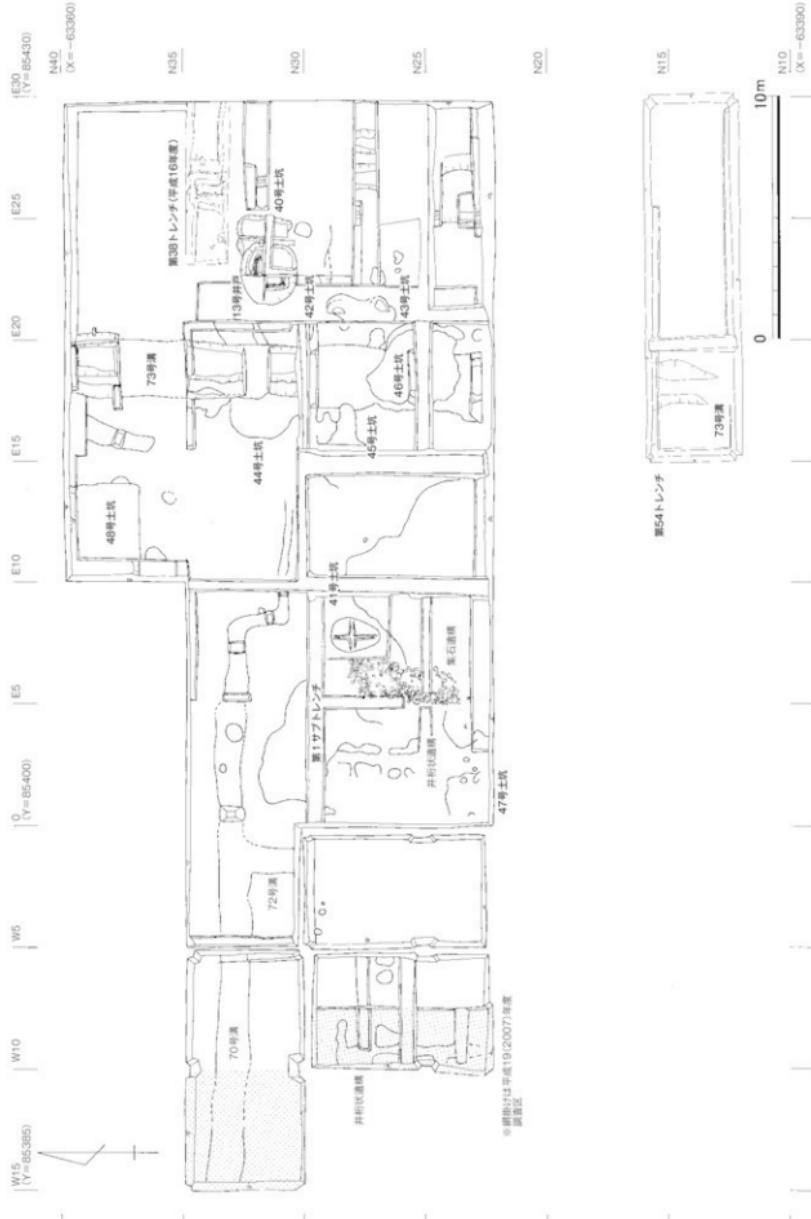
また、N35E20グリッドでは、13号井戸および40号土坑を検出した。13号井戸は正方形の井戸枠が残っていた。40号土坑は13号井戸にその一部を切られており、須恵器、瓦、玉作関連遺物、金属生産関連遺物が出土しているが、特に瓦の出土が多くみられた。またこの土坑から漆紙文書が出土している。

N30W0グリッドの北壁及び東壁、N30E5グリッドの北壁に沿って幅50cmのT字状のサブトレンチを掘削し、第1サブトレンチとした。このサブトレンチは、下層の土層堆積状況を把握するために設定したトレンチである。須恵器、土師器等が出土した。

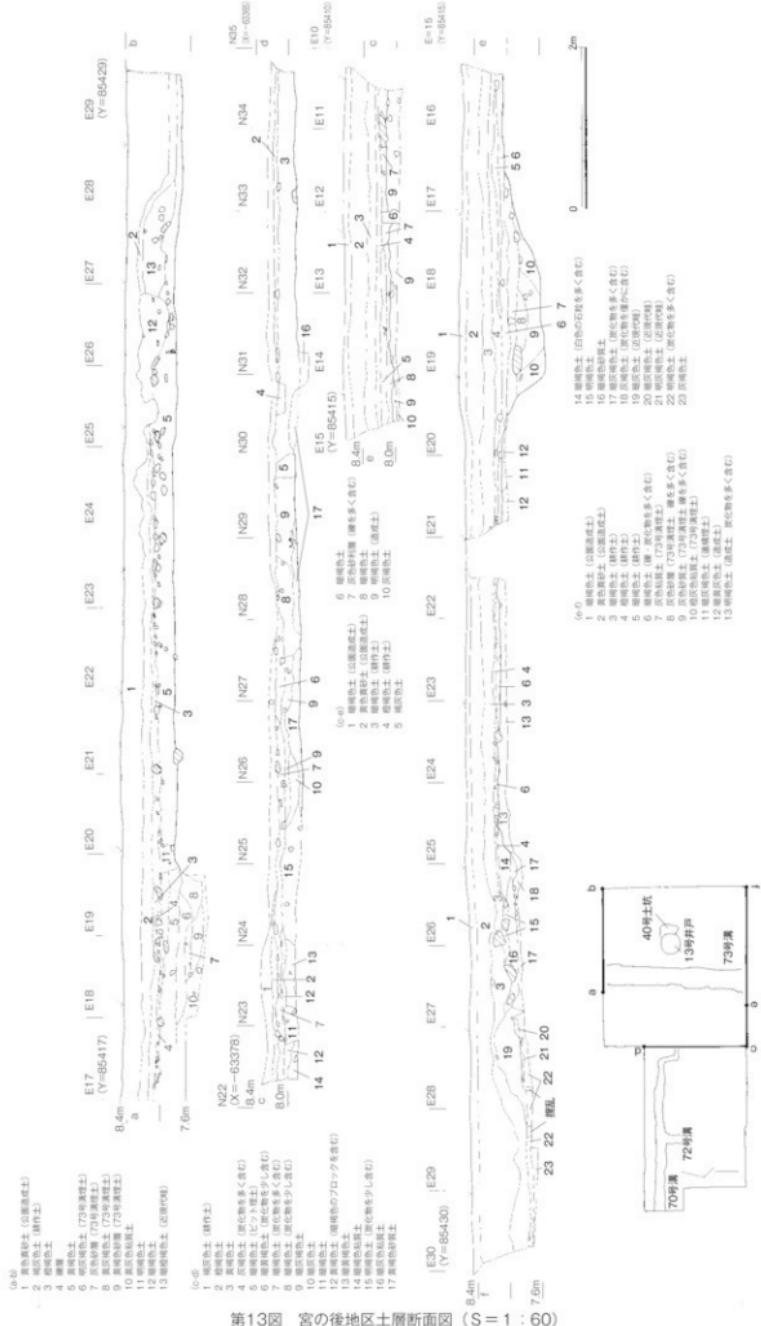
本調査区の南に、復元された2本の東西大溝に挟まれた通路状の区画がある。平成21（2009）年度調査においてこの区画のE15ラインからE30ラインにかけて調査区を設け第54トレンチとした。このトレンチは、平成20（2008）年度に検出した73号溝の延長部分の検出をねらって設けたトレンチである。

2. 調査区の層序（第13図）

地表面から順に、公園整備にかかる造成土（芝生・バラス・マサ土）、水田耕作土、砂利・礫、整地土となる。砂利・礫は調査区全体を覆っている。礫のあいだには古代から中世の遺物が混ざる。瓦が特に多い。平成19（2007）年度の調査では、この層から17世紀前半の肥前系陶器が出土しており³²、中世から近世にかけて調査区内が流路になっていたものと考えられている。流路の方向はおおむね南西から北東方向と想定される。整地土上で古代から中世の遺構が確認される。



第12図 宮の後地区遺構配置図 (S = 1 : 200)



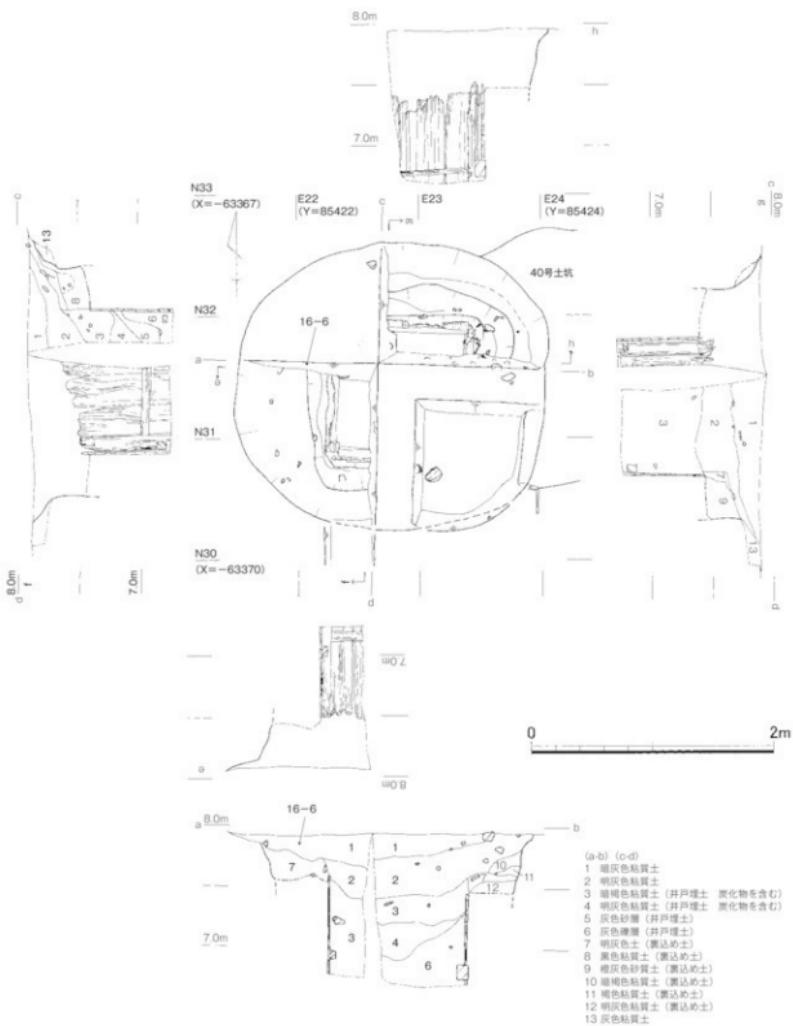
第13図 宮の後地区土壌断面図

3. 検出した遺構

1) 13号井戸（第14図）

（遺構の位置） 調査区の東側中央付近で確認された井戸である。

（検出過程） 碟層の上面を検出した段階で、掘方を検出していたが、遺構として認識しないまま掘



第14図 宮の後地区13号井戸実測図 (S = 1 : 40)

り下げため、本来の掘方の上端は第14図に示した上端より高い位置に存在したと考えられる。

(規模と構造) 13号井戸は方形の井戸枠を持つもので、辺をほぼ南北に揃えている。井戸枠は径約2.5mの不整円形の掘方の中に組まれており、縦板組隅柱横棟留めである。枠は少なくとも一段で横桿木を渡し縦板を支えている。横桿は幅6～9cm、厚さ4～13cmで南西の隅柱では段違いになっている。大きさは推定の内法で一辺約1mの正方形で、掘削した深さは約1.2mである。縦板は一辺に3～4枚程度が使われていると考えられ、幅25～31cm、厚さ2cm強である。掘方は深さ0.2m付近から、一辺約1mの方形に掘られており、深さ0.4m付近から下の状況は掘削を実施していないために、不明である。

(土層堆積状況) 井戸枠と掘方の間には、灰色系粘質土を主とする裏込め土が詰められている。暗灰色粘質土(1層)及び・明灰色粘質土(2層)は井戸が埋め戻された後掘り返され再堆積した際の埋土と考えられる。また、埋土は掘削を行った深さまでは基本的には4層で、炭化物を含む暗褐色粘質土(3層)・炭化物を含む明灰色粘質(4層)・灰色砂層(5層)、灰色礫層(6層)が堆積している。

自然科学分析³³⁾の試料採取の際に簡易ボーリングを実施したが、6層以下では細砂質粘土、腐植層、細砂混じり粘土(腐植質、植物片含む)、腐植質細砂粘土、腐植質細砂混じり粘土、粘土質細砂、腐植質細砂混じり粘土、腐植質粘土(ビビアナイト顕著、植物片多量)となっていた。ボーリングでも腐植質粘土直下(検出面から深さ約1.9mの深さ)で透水層と考えられる砂層が分布することからこの層が井戸の基底部と推定される。

(遺物出土状況) 埋土および裏込め土から遺物が出土しており、埋土出土遺物には隣接する40号土坑など周辺からの流れ込みの可能性も考えられる。

(自然科学分析結果) 縦板及び隅柱を試料とする樹種同定、縦板および埋土を対象とした年代測定、井戸埋土を試料とした花粉分析を実施した。

樹種同定の結果は、報告によると縦板・隅柱共にスギ材であるとの結果を得ている。

また、年代測定結果によると「得られた年代値は 1175 ± 15 yrs BP、 1160 ± 15 yrs BPとほぼ等しかったため、暦年較正値である8世紀後半から10世紀中頃までに作られたものと考えられる」と結論づけられている。

花粉分析結果では、「井戸の周囲には、ネズミモチやイボタノキなどが生育していたものと推定できる。このほか、エノキ属・ムクノキ属も近辺に生育していたものと推定できる。ただし、エノキは、意宇川扇状地上に林分を成していた可能性もある。このほか、井戸の周辺にはイネ科やタデ科、ヨモギ属などの人里植物が生育していたと考えられる。」としている。(神柱)

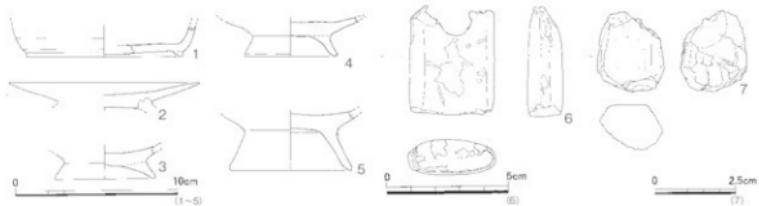
13号井戸出土遺物(第15図～第17図)

13号井戸からは、須恵器・土師器のほか大刀の柄頭、玉作関連遺物、瓦、木製品が出土している。

須恵器 第15図1は須恵器で、高台付坏である。底部周縁よりやや内側に短い高台が付き、底部外面はナデ調整する。

土師器 第15図2～5は土師器で、足高高台付坏である。2は浅い坏部に、内外面ともナデ調整を施す。3～5は高台部で、いずれもナデ調整である。

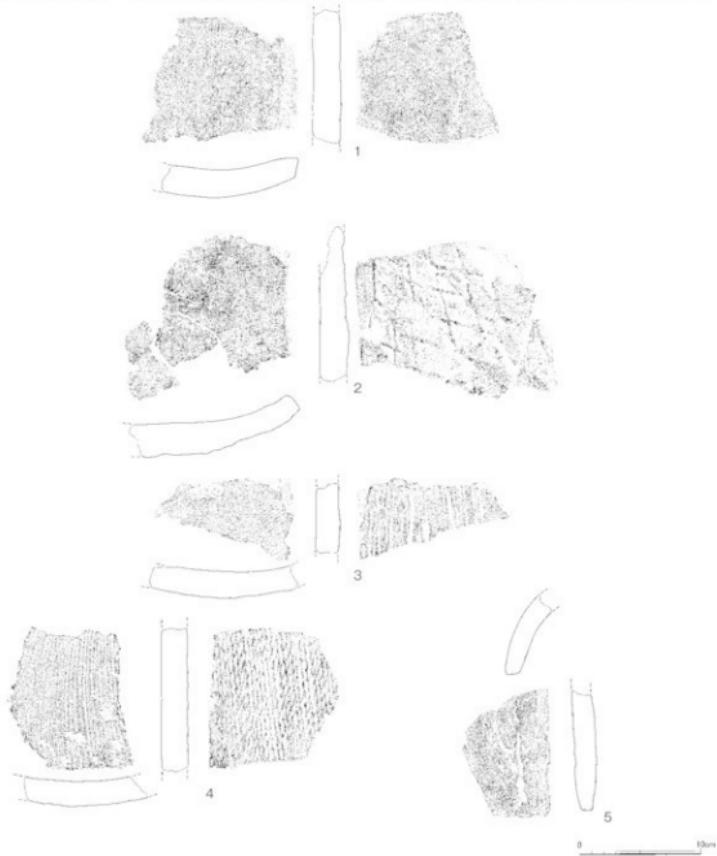
大刀装具 6は方頭大刀の柄頭で、銅製の薄い板をつないでいることが観察される。接合痕が残ることから未成品であると考えられる。



第15図 宮の後地区13号井戸出土遺物実測図 (1) (S=1:2、1:3、2:3)

玉作関連遺物 7は水晶製の平玉未成品である。主要剥離面側に調整が認められる。

瓦 第16図には瓦を掲載した。1～4は平瓦、5は丸瓦である。1は凸面成形が格子タタキ12で行われ、離れ砂が用いられる。凹面は未調整で布目压痕、糸切痕が残る。側縁はケズリが施される。2



第16図 宮の後地区13号井戸出土遺物実測図 (2) (S=1:4)

は凸面が格子タタキ15、凹面はナデで調整するが、側縁部近くには布目圧痕が残る。側縁はケズリで面取りされる。3・4は凸面が繩タタキ1、凹面には布目圧痕が認められる。1～4とも焼成は軟質である。5は丸瓦の広端部で、先端部、側縁はいずれもケズリで面取りする。凸面はナデ、凹面には布目圧痕が残る。焼成は良好で、硬質のものである。

木製品 第17図1は長さ14.6cmの棒状のもので、長辺方向に数mm幅で丁寧に面取りされる。X線写真でも墨書は確認されず、用途は不明である。2は板状のもので、厚さ約3mmである。直軸方向の両端は欠損する。図の表、裏・左側面の3面が面取り加工されているが、これも用途は不明である。(宮本)

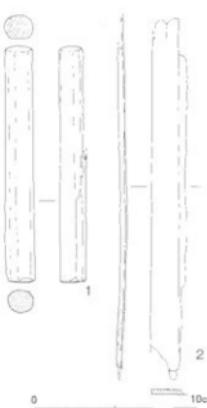
2) 70号溝（第19図・第20図）

(これまでの調査) 平成19（2007）年度の調査で宮の後調査区のN35ラインに沿って東西に延びる70号溝が検出されている。

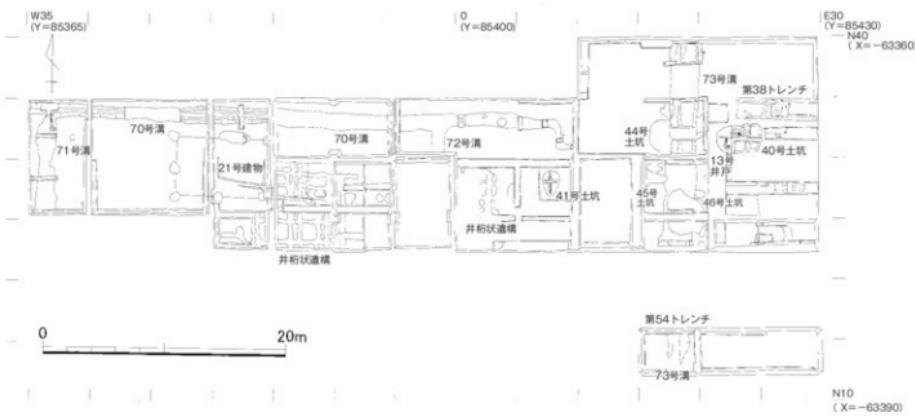
出土遺物から9世紀末から10世紀初頭の溝とされており、大倉原地区の遺構変遷ではⅡ-2期にあたると結論づけている³⁶。

(規模と構造) 平成19（2007）年度調査区で検出していった溝東側の延長部分を検出した（内部調査は実施していない）。N35W10グリッドから、N5E10グリッドにかけて検出した。E5ライン付近からクランク状に屈曲しN35ラインから東側は検出できなかった。70号溝の幅はW10ラインからE5ライン付近までは約1.5m程度であるが、そこからだんだん細くなり、検出部の東端は約0.4mとなる。深さは、断ち割りを実施した箇所で10cm程度である。検出面の標高は、今回の調査部分の西端と東端では35cmの標高差がある。

平成19（2007）年度の調査部分では、溝の両肩に石が検出されており、「溝の両肩には石が1～



第17図 宮の後地区13号井戸出土
遺物実測図(3)(S=1:3)



第18図 宮の後地区平成19～21年度調査区遺構配置図 (S=1:400)

2列程度並べてあったようだが、中近世の流路の影響により原位置を保つものはほとんどない」と報告されており、溝に伴う石だと考えられる。今回の調査では、N35W5グリッドでは、溝の検出面と同一面で石が数多く検出されており、これらは溝の埋土上面でも検出されているため同様のものとは考えられない。分布がある程度まとまっており、第20図第2層上面で検出されたピットを含め、直線上に並ぶようにも見られ、堀立柱建物跡や柵列などの柱穴に伴う可能性も考えられる。

N35W0グリッドでは、溝の埋土上面で2基の土坑を検出している。1基は径約40cm、もう1基は径約1mであった。

(遺物出土状況) 断ち割りを行ったサブレンチ内で、須恵器および瓦が出土している。

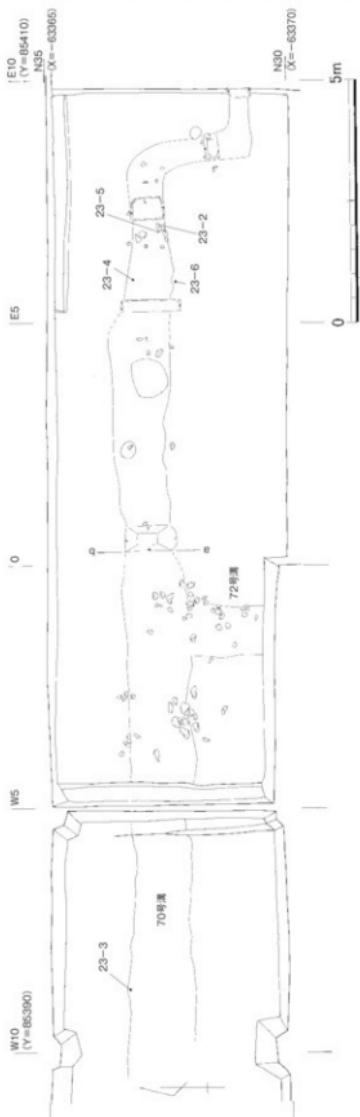
(土層堆積状況) サブレンチ掘削箇所では、暗褐色土が溝の埋土として堆積していた。平成19(2007)年度調査部分では、礫を含んだ褐灰色土が堆積し溝の上面には疊層が覆うと表記されている³⁰。(神柱)

70号溝出土遺物(第21・22図)

70号溝からは、須恵器と瓦が出土した。

須恵器 第21図1は高台付坏で、比較的高い直立気味の高台をもつ。底部外面は、回転糸切り後ナデが施される。2は無高台の坏で、体部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。底部外面は、回転糸切りの後ナデで仕上げる。

瓦 第22図1・2が平瓦、3は軒丸瓦、4~6は丸瓦である。1は凸面成形にタテ方向の繩タタキを用いる。凹面にはナデを施すが、一部に模骨痕が見られ棒巻き作りで製作されたと見られる。2は凹面に布目压痕・糸切り痕が見られる。凸面成形は風化のため不明である。3は軒丸瓦の瓦当面で、一部欠損し瓦当面の風化も進



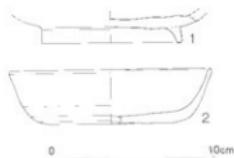
第19図 宮の後地区70号・72号溝実測図 (S = 1 : 100) 第20図 宮の後地区70号溝土層実測図 (S = 1 : 60)



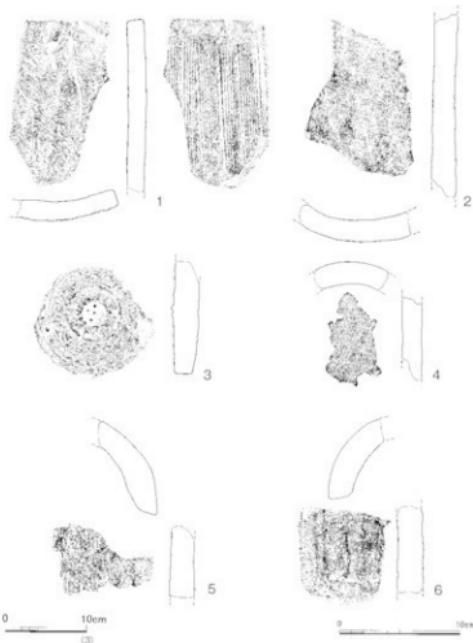
んでいるが、1 + 4 の蓮子と外区の珠文帯が認められることから、出雲国分寺 2 類³⁶である。瓦当背面に半円状の溝が掘られ、この溝に丸瓦部をはめ込む「印籠つぎ法」による接合であったことがわかる。4 は凸面はナデ、凹面には布目压痕が残る。5・6 も同様であるが、いずれも側縁をケズりで面取りしている。(宮本)

3) 72号溝（第19図）

W5N5グリッドで70号溝に南側へ延びる72号溝が接続する。72号溝の幅は約 1 m で、検出長さは約 1.9 m で、検出面の標高は 8.2 m である。N30ラインまでは検出したが、ここから南側での検出はされていない。埋土の掘削は実施せず、検出のみにとどめた。(神柱)



第21図 宮の後地区70号溝出土遺物
実測図(1)(S = 1 : 3)

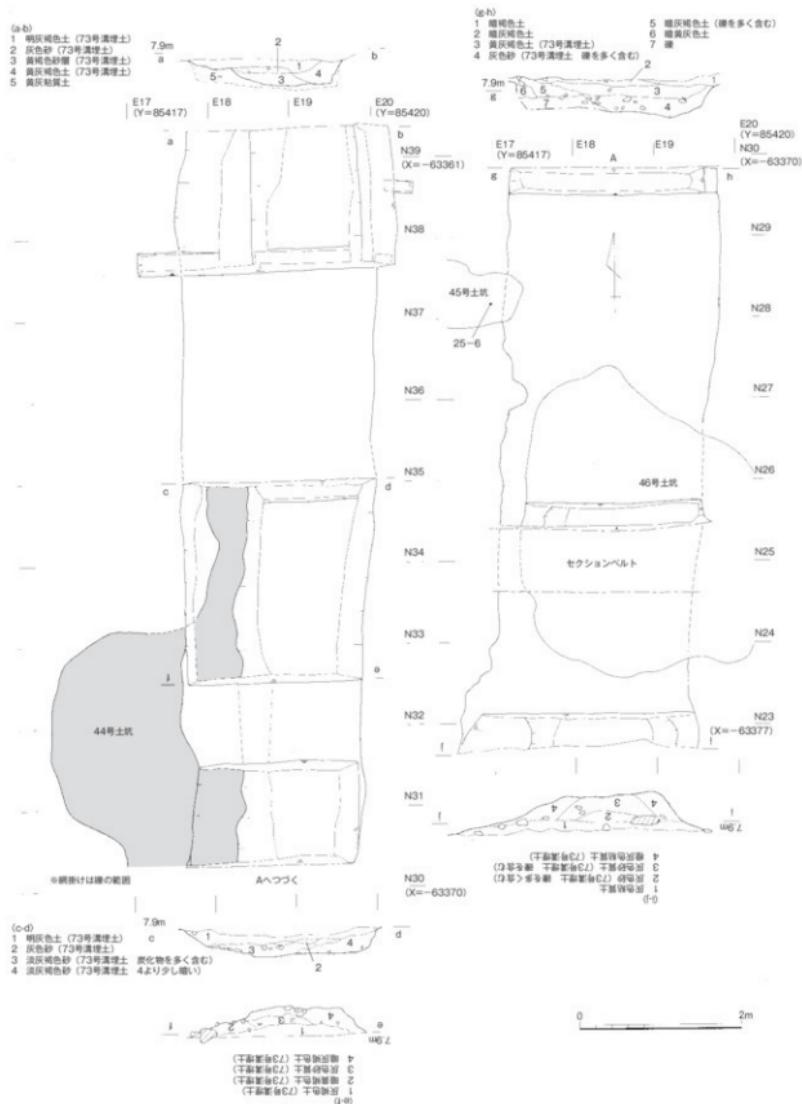


第22図 宮の後地区70号溝出土遺物実測図(2)(S = 1 : 4, 1 : 6)

4) 73号溝（第23図）

(遺構の位置) N40E15～N25E15グリッド・第54トレンチで検出されている。

(規模と構造) 検出長は27m、幅約2～3m、深さ約30～50cmである。底面の標高7.55～7.70mである¹⁾。



第23図 宮の後地区73号溝実測図 (S = 1 : 60)

南に向け徐々に浅くなりN13ライン付近より南では延長部分を検出することはできなかった。大倉原地区で検出され、「国司館」の東側を区画すると想定されている南北方向の3号・4号・56号溝³³とは、検出位置が大きく離れているために、現時点ではいずれかと同一の溝であるかは確認できていない。(土層堆積状況) 調査区北端部に設定したサブトレーンチ部分(第23図a-b)では、黄灰色の粘質土に溝が掘削されており、埋土は4層に分層された。最上層には明灰褐色土が10~20cm程度堆積している。その下層には灰色砂層が約10cm堆積している。最下層は2層に分層され溝中央部では黄褐色の砂が最大約30cm堆積し、東側は黄灰褐色土が20cm程度堆積している。

N35ライン(第23図c-d)では、埋土は4層に分層される。最上層は明灰色土で、10~20cm程度の厚さで堆積している。その下には灰色砂層を10cm程度はさみ、炭化物を多く含んだ淡灰褐色砂層が15cm程度の厚みで堆積している。3層の東側から溝の底面にかけては、3層より若干色調の暗い淡灰褐色砂層が最大20cm程度の厚みで堆積している。

調査区南端に設定したサブトレーンチ(第23図i-j)では、溝の上面には灰色の粘質土が覆っていた。埋土は3層に分層される。最上層は礫を多く含む灰色砂層上で、10cm程度の厚さで堆積している。その下には灰色砂質土が20cm程度の厚さでレンズ状に堆積しており、その一部が溝の底面に接している。3層の両側から溝の底面にかけては、橙灰褐色砂層が堆積している。

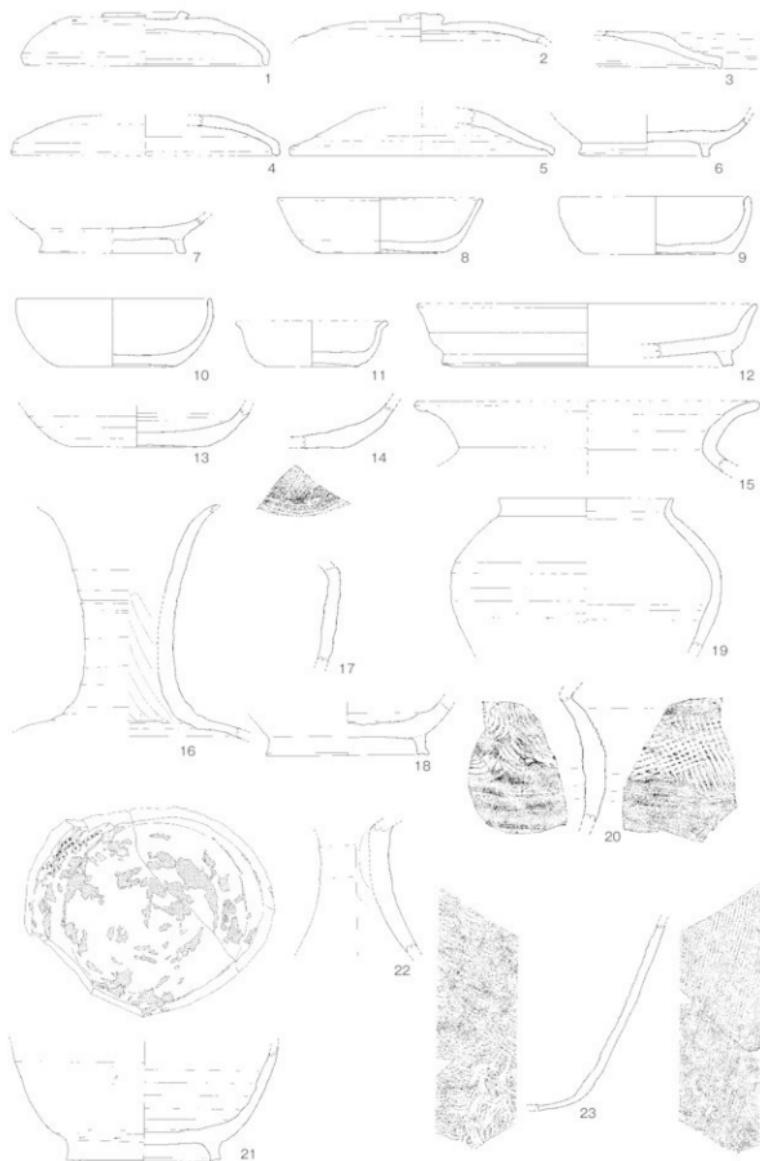
各地点の土層堆積状況では、溝の埋土下層が砂層を主体としている。ここから、この溝が流水の影響による自然堆積を主な原因として埋まっていった状況が想起される。

(周辺の遺構) N35E15グリッドで、南北約3mの範囲で砾群(44号土坑)を検出している。南北方向の全長は3m程度と考えられ、東側部分は73号溝に切られている。N30E15グリッドで45号土坑を検出した。南北約4m東西約3mの範囲で平面形を検出している。73号溝の埋土を掘り込んで掘削されている。N30E15グリッド~N25E15グリッドでは46号土坑を検出した。73号溝の埋土上から掘削されており、東西約6m南北約7.5mの不整円形を呈している。検出面での埋土は黒色系の粘質土を主体としていた。

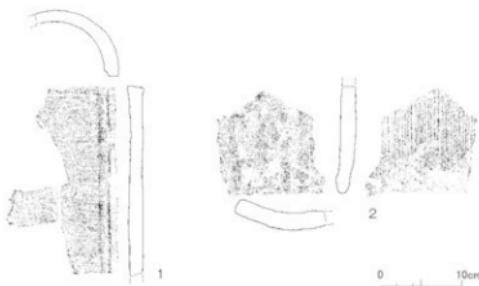
44号・46号土坑埋土からは、遺物が出土しており第45図に掲載した。(神柱)

73号溝出土遺物(第24図~第26図)

73号溝からは、須恵器、瓦、土製品、金属・玉生産関連遺物が出土している。須恵器 第24図1~5は蓋である。1は輪状つまみで、天井部外周をヘラケズリするが、つまみ外側の凹部に糸切り痕が残る。2はつまみ外周付近のみヘラケズリする。3~5は天井部にヘラケズリが見られる。なお、3は転用硯である。6・7は高台付壺で底部外面はナデを施す。8~10は壺で、底部外面は回転糸切りである。11はいわゆる灯明皿³⁴で、内面には黒色の付着物があり、転用硯または灯明に使用された可能性もある。底部は回転糸切りである。12は高台付皿で、転用硯とみられる。底部外面はナデを施す。13・14は底部で、13は回転糸切り、14は静止糸切りである。14の体部最下位はヘラケズリが認められる。15は壺で、口縁端部がわずかに肥厚する。16~18は長頸壺で、17の破面には漆が付着する。18の体部外面はヘラケズリ、底部外面はナデである。19は鉢で、体部最大径や下からヘラケズリ調整を施す。20は壺などの体部と見られ、外面に斜格子のタタキが残る。21は長頸壺の体部~底部で、体部最下位にヘラケズリを施す。底部外面は回転糸切りである。内面に多量の漆が付着し、漆容器としての利用が考えられる。22は高壺脚部、23は壺の体部~胴部である。



第24図 宮の後地区73号溝出土遺物実測図（1）(S=1:3、1:6)

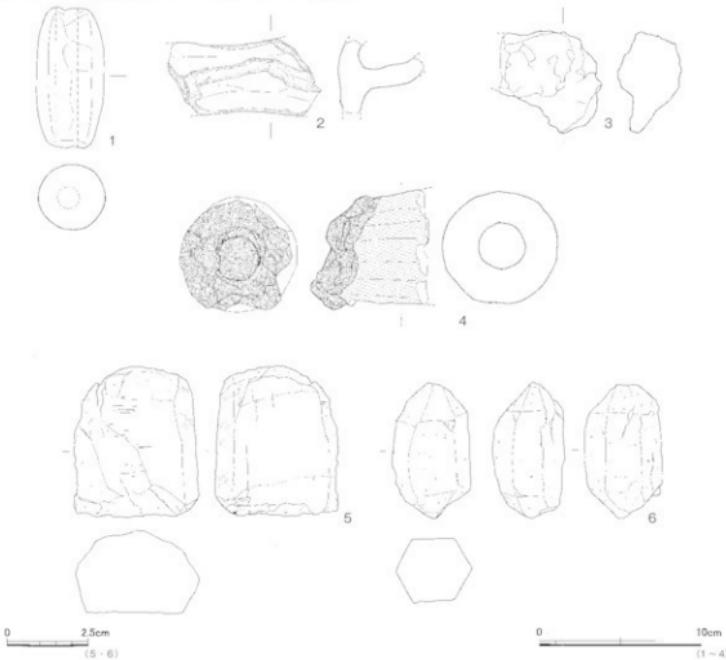


第25図 宮の後地区73号溝出土遺物実測図（2）（S=1:6）

瓦 第25図1は無段式丸瓦で、凸面はタテ方向のナデ、凹面は布目圧痕が残る。2は平瓦で凸面は繩目タキ1、凹面はナデ調整するが、両面とも先端付近に指などで押されたような圧痕がある。

土製品 第26図1はほぼ完形の土鍤で、重量は約146gである。2は移動式竈で、全体に被熱する。

生産関連遺物 3は鉄滓であるが、炉壁を多く含み、いわゆる碗形滓とは異なるものである。4は羽口で先端部はガラス化している。孔径は2.9cmである。5・6は玉作関連遺物で、いずれも水晶である。5は荒削段階、6は原石である。（宮本）



第26図 宮の後地区73号溝出土遺物実測図（3）（S=1:3、2:3）

5) 第54トレンチ（第27図）

（トレンチ設定の経緯）昭和49（1974）年に実施した史跡公園の環境整備事業に伴い、北側素掘溝（SD034）の復元工事を実施した³⁰。この際まとまった量の遺物が採集されたため工事と平行して発掘調査が実施された。この調査結果によるとSD034復元溝内で幅約2.7m、深さ約16cmの「南北大溝」が検出されている。この「南北大溝」が未調査区域でSD034と接続している可能性が高いと想定されていた³¹。これらの確認とあわせ平成20（2008）年度の発掘調査で検出した73号溝の延長部分を検出するために、2本の東西方向復元溝の間にトレンチを設定し調査を行った。復元溝に挟まれており、作業用の通路も確保する必要があったために、トレンチの規模は東西幅は15m、南北は4mと幅の狭い長方形とした。湧水が激しいえ雨水の抜けが極端に悪く調査に支障をきたしたために、トレンチの外周部分には下層の土層堆積状況を調査する目的も併せてサブトレンチを掘削した。

（トレンチの層序）地表面から順に、①公園整備にかかるパラス②公園整備にかかる真砂土③水田耕作土（褐灰色土）④暗褐色土⑤暗灰褐色土⑥炭化物を多く含む黒色粘質土⑦灰色粘質土層及び明褐色粘質土層となる。この⑦層上面が遺構検出面である。73号溝もこの面で検出されている。

（検出した遺構等）E18ライン付近で73号溝の南端部分を検出した。幅は最大で約2mで、深さ約20cm、トレンチ内での検出長さはおよそ2mであった。埋土は礫を多く含む明褐色砂質土である。底面は南に向け徐々に浅くなりN13ライン付近より南では延長部分を検出することはできなかつた。

E27ライン付近から東側には、近代以降の暗渠と畦が検出されている。暗渠と畦の西側では30cm前後の石が敷き詰められていた。暗渠部分には、木材や竹が並べられており、その下層には土管が埋められていた。埋土中にビニールが混入していた事などから近代以降のものと判断した。この暗渠および畦の延長部分と考えられる部分が本調査区E25ライン以東で検出されている。（神柱）

第54トレンチ出土遺物（第28図・第29図）

第54トレンチからは、須恵器のほか土製品、瓦、金属生産関連遺物が出土している。

①包含層出土遺物（第28図）

須恵器 第28図1～3は蓋で、1・2が算盤玉状のつまみを持つ。3も同様と見られる。4～6・8は高台付皿で、高台は6が底部最外周、ほかは底部最外周よりやや内側につく。底部は5が静止糸切り、8がナデで、ほかは回転糸切りである。7・9～11は高台付皿で、7は転用鏡である。底部外面は、7が回転糸切り、10が静止糸切りである。12・13は壺で、14は長頸壺、15・16は高壺と見られる。17は瓶類の頸部、18は同じく底部であろう。19・20は鉢の口縁部である。25はボタン状のつまみがつく蓋であろう。

土師器 21は土師器の高台付皿で、ナデ調整で仕上げる。

土製品 22は移動式竈の庇部、23は土錘、24は土製支脚である。

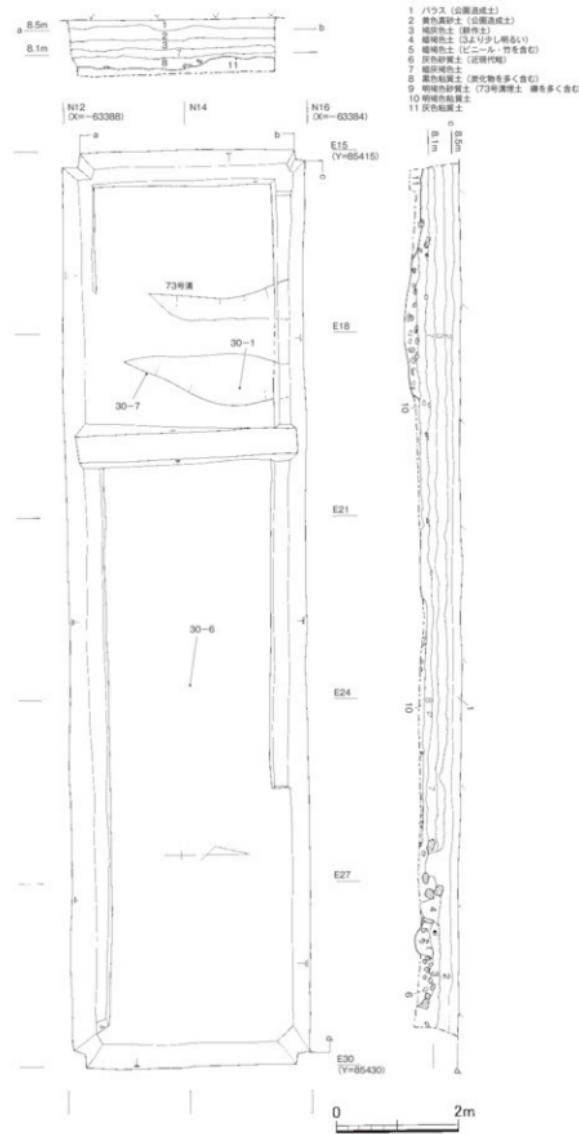
陶磁器 26は白磁で、壺の底部である。

②耕作土出土遺物（第29図）

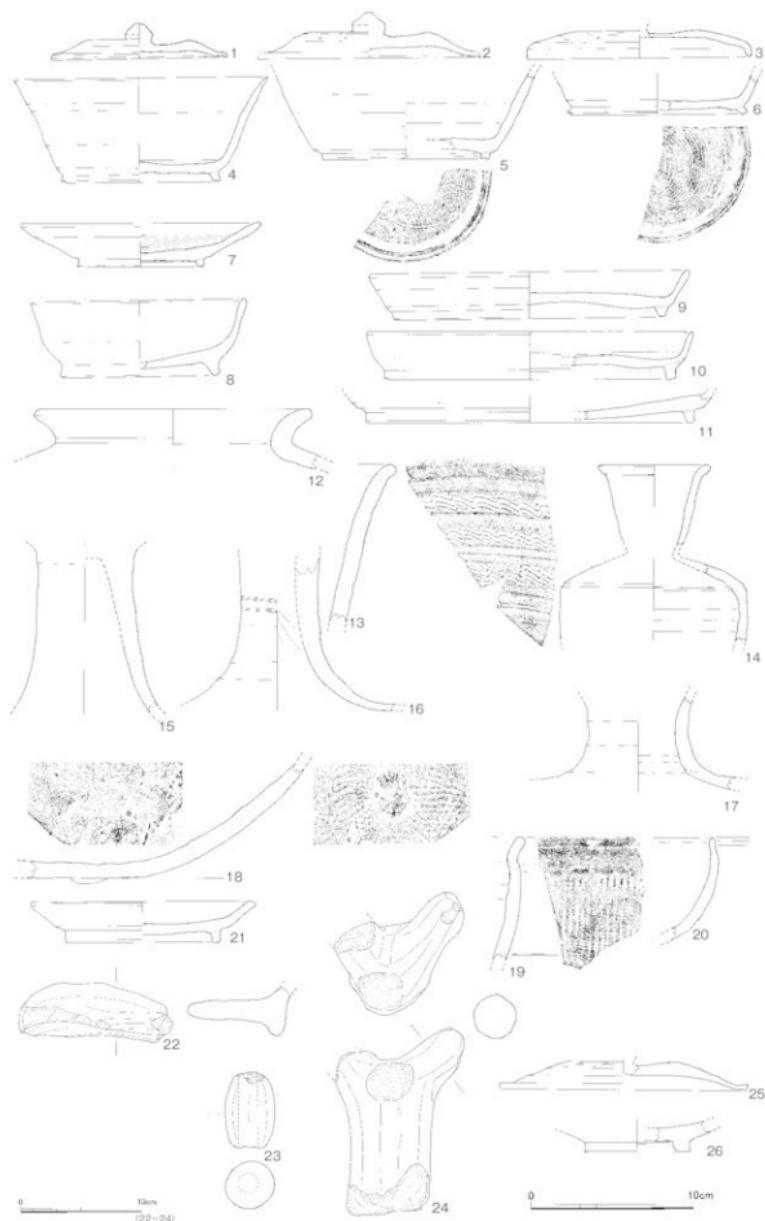
須恵器 第29図1は須恵器の高壺脚部、2は平瓶の頸部と見られる。

陶磁器 3は白磁で碗V類である。

生産関連遺物 4は鉄滓で、いわゆる碗形鐵冶滓、5は羽口で、孔径3.3cmである。

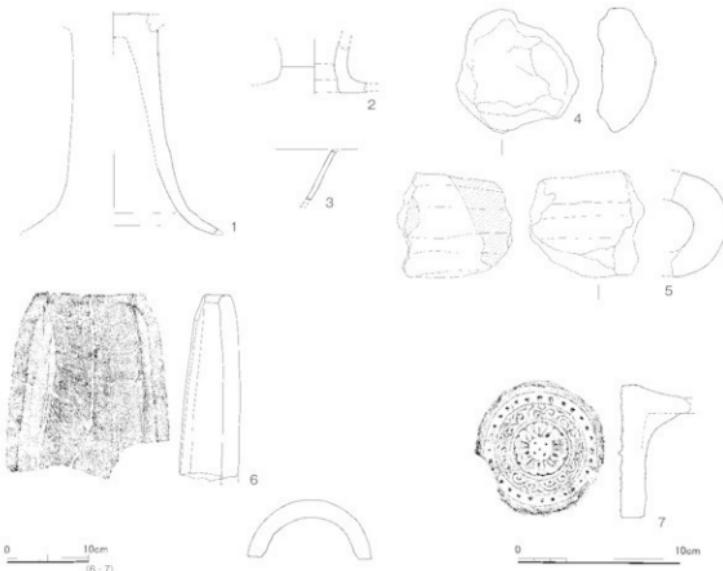


第27図 第54トレンチ実測図 ($S = 1 : 80$)



第28図 第54トレンチ出土遺物実測図（1）（S=1:3、1:4）

瓦 第30図 6は無段式丸瓦である。凹面には布目压痕のはか、布の縫じ合せ痕も残る。7は軒丸瓦で、出雲国分寺2類である。瓦当面の径は16.5cmである。(宮本)



第29図 第54号トレンチ出土遺物実測図(2) (S=1:3, 1:6)

6) 40号土坑(第30図)

(遺構の位置) N35E20グリッドに位置し、西側部分は13号井戸が掘削された際に破壊されている。

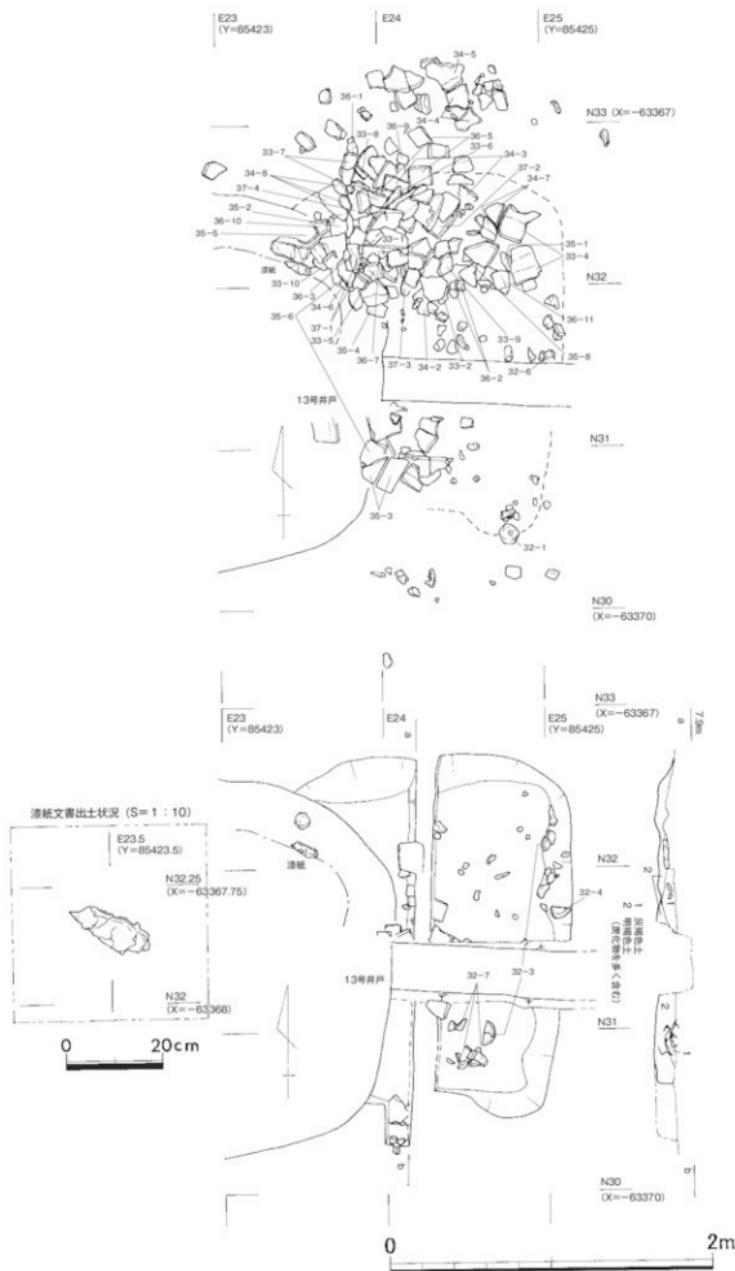
(調査状況) 遺構の検出当初は、掘方は未検出で瓦片が集積している状況のみが確認されていた。瓦片の出土状況を記録した後に瓦片を取り上げ精査を行い、平面プランを検出した。その後遺構の中央に十字形に土層観察用のベルトを残し、遺物の出土状況を記録しつつ埋土の掘削を行った。

(規模と構造) 不整形な隅丸方形状の平面形を呈していたと思われ、長さは約2.1m、幅は1.7m以上であったと考えられる。掘方の上端を検出することができなかつたが、深さは20cm程度であったと考えられる。

(土層堆積状況) 検出した埋土は2層で、上層は灰褐色土で約10cmの厚さで堆積している。下層は炭化物を多く含む明褐色土で、最大で12cm程度堆積している。これらの埋土は本来は検出時以上の厚みをもって堆積していたと考えられるが、後世に何らかの理由で削平を受けたものと考えられる。

(遺物出土状況) 埋土からは須恵器・生産関連遺物のほか多数の瓦片が出土し、瓦だまり状を呈している。出土した瓦片には出雲国分寺創建期から補修期までの瓦がある。埋土上面に堆積していた瓦は、遺構検出プランの北側に集中している。瓦の出土範囲は遺構検出プランのさらに北側にも広がっており、これは後世の削平の影響だと考えられる。

検出プランの外側で出土した遺物については、プラン内で出土した遺物とは分け、別個に掲載(第38図~第40図)した。



第30図 宮の後地区40号土坑実測図 (S = 1 : 30)

13号井戸掘削時に削平された北西隅部分では、検出した埋土のうち下層にあたる明褐色土から漆紙文書の破片が出土した。出土位置を記録できた18cm大の破片（2号・3号文書）の周辺で、5cm程度の破片（1号文書）1点と多数の小破片を検出した。2号・3号文書は、その切片が井戸の掘方に接するように出土しており、井戸の掘削時にその一部が欠失している可能性がある。

（遺構の性格）遺構内の埋土からは多数の瓦片や漆紙文書などが出土しており、埋土の下層が炭化物を多く含む層であることから、出土遺物は廃棄状態で検出されたものと考えられる。この事から40号土坑は廃棄土坑として掘られた可能性が考えられる。

また、40号土坑の検出位置は出雲国府内を南北に走る道路跡の推定位置にある⁽³⁾。瓦溜まりが道路上に位置したとすれば、不整地面を平らにならすために不要な瓦もしくは瓦片が敷き詰められた路盤として機能した可能性も想定できる。（神柱）

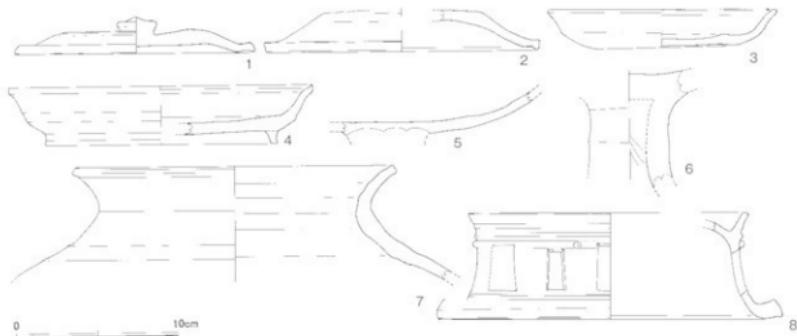
40号土坑出土遺物（第31図～第37図）

40号土坑からは、須恵器、瓦、生産関連遺物が出土しているが、特に瓦の量が多い。

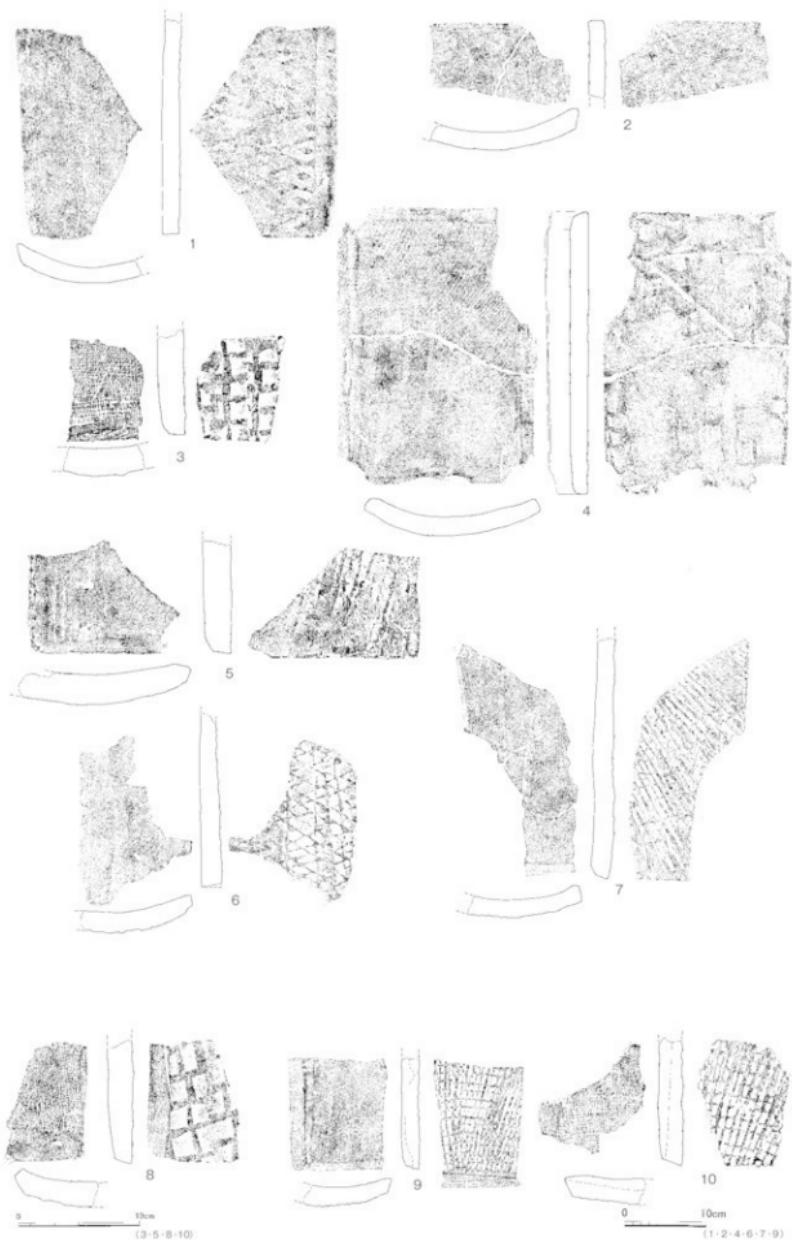
須恵器 第31図1・2は蓋で、1は算盤玉状つまみをもち、天井部の一部にはヘラケズリが施される。2も同様なつまみがつくと見られ、天井部中央付近に回転糸切り痕が残る。3は皿で、口縁部がわずかに外反し、底部は回転糸切りである。4は高台付皿で、高台は底部最外周よりや内側につき、底部外面はナデで仕上げる。5は広い坏部に大形の脚がつくもので、高坏または盤と見られる。底部内面をナデ調整、ほかは回転ナデを施す。6は高坏の底部～脚上部で内面にシボリメが残る。7は壺である。

硯 8は圓脚円面硯である。上端径17.2cm、脚端径18.9cm、高さ6.5cmで、硯面のほとんどを欠く。側面には方形の透孔をもち、この上位には径・高さとも3mmの円形の突起を貼りつける。

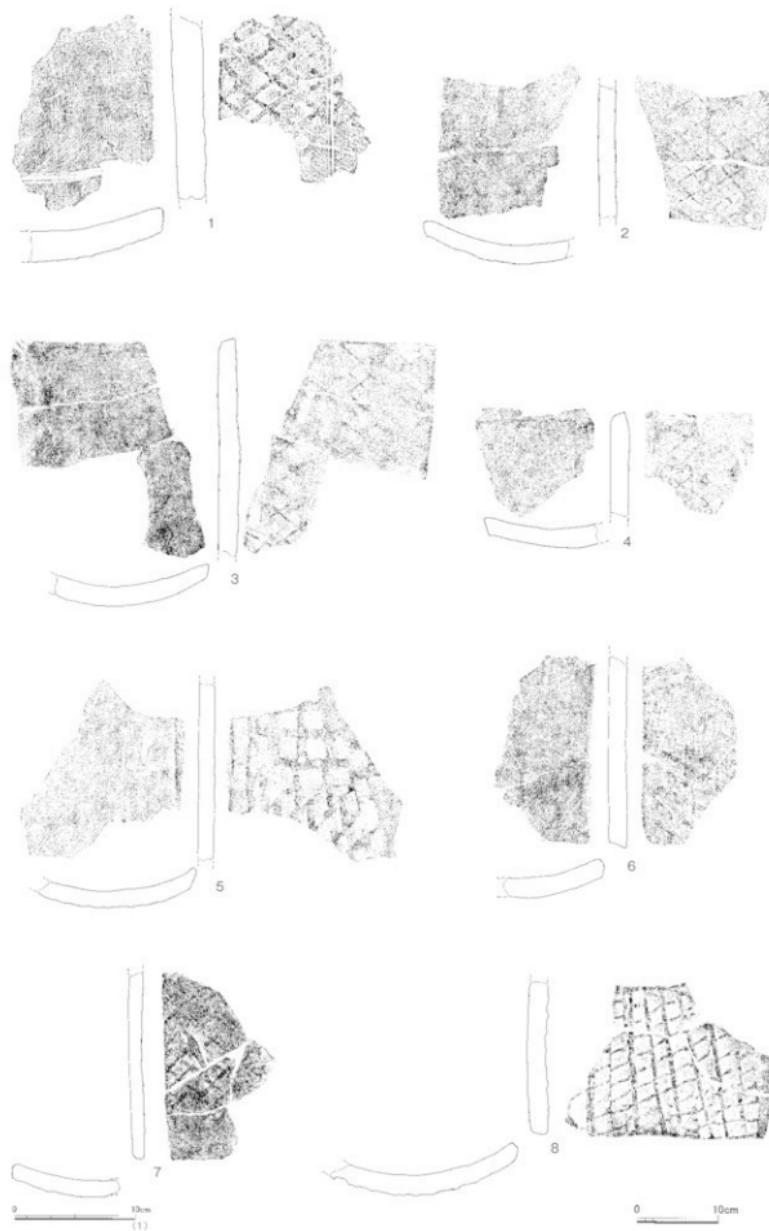
瓦 第32図～第34図は平瓦を掲載した。ほとんどが破片であるが、第32図4は長さ、幅とも計測できるもので、最大長34.8cm、最大幅21.7cmである。長さはほかに第34図6が38.6cm、幅は第34図3が25.5cmである。詳細は観察表及び集計表に譲るが、凸面成形は格子タタキ2・4、7・13、15、17、18、21のほか繩タタキも使用される。凹面はいずれも布目压痕が残る。第32図6、第34図2には模骨痕が認められ、桶巻き作りの可能性がある。平瓦のうち、格子タタキ3・7・10と繩タタキで硬質のものは国分寺創建期、格子タタキ2・4・8・9・11～20及び繩タタキで軟質のものは



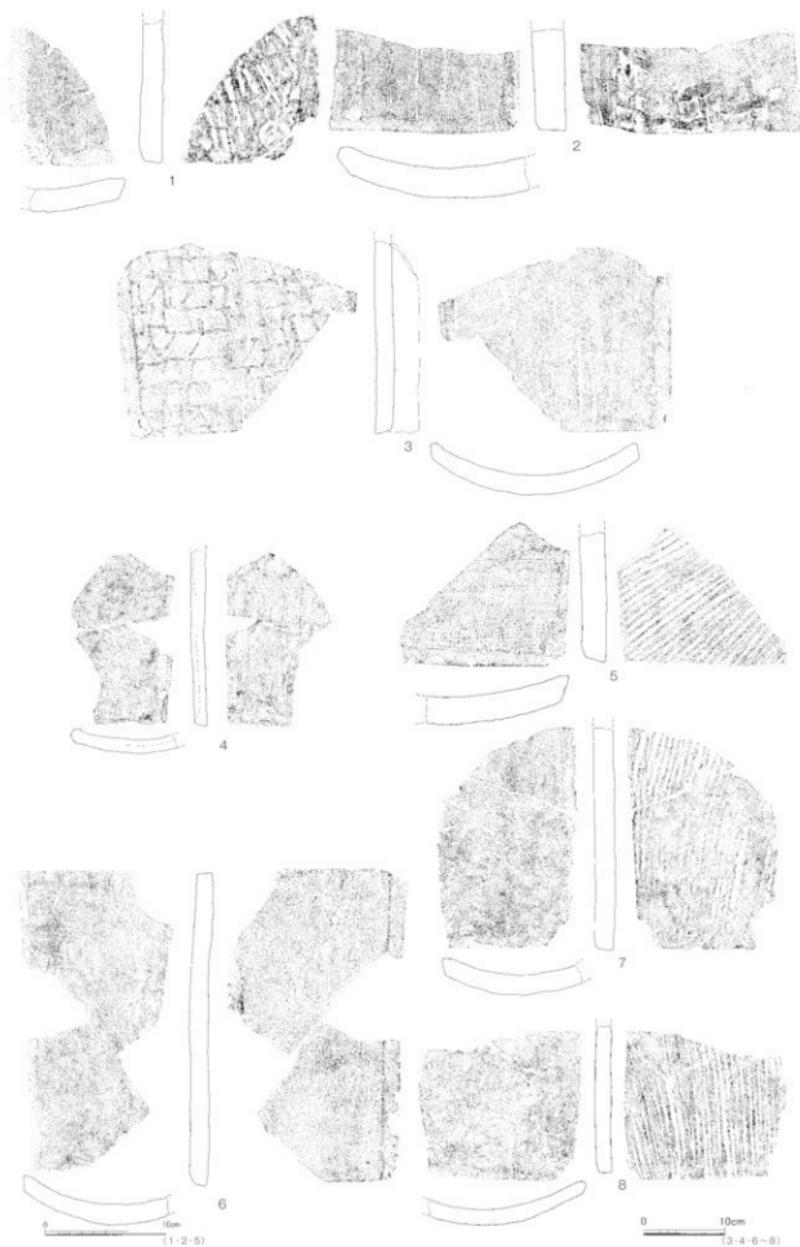
第31図 宮の後地区40号土坑出土遺物実測図（1）（S=1:3）



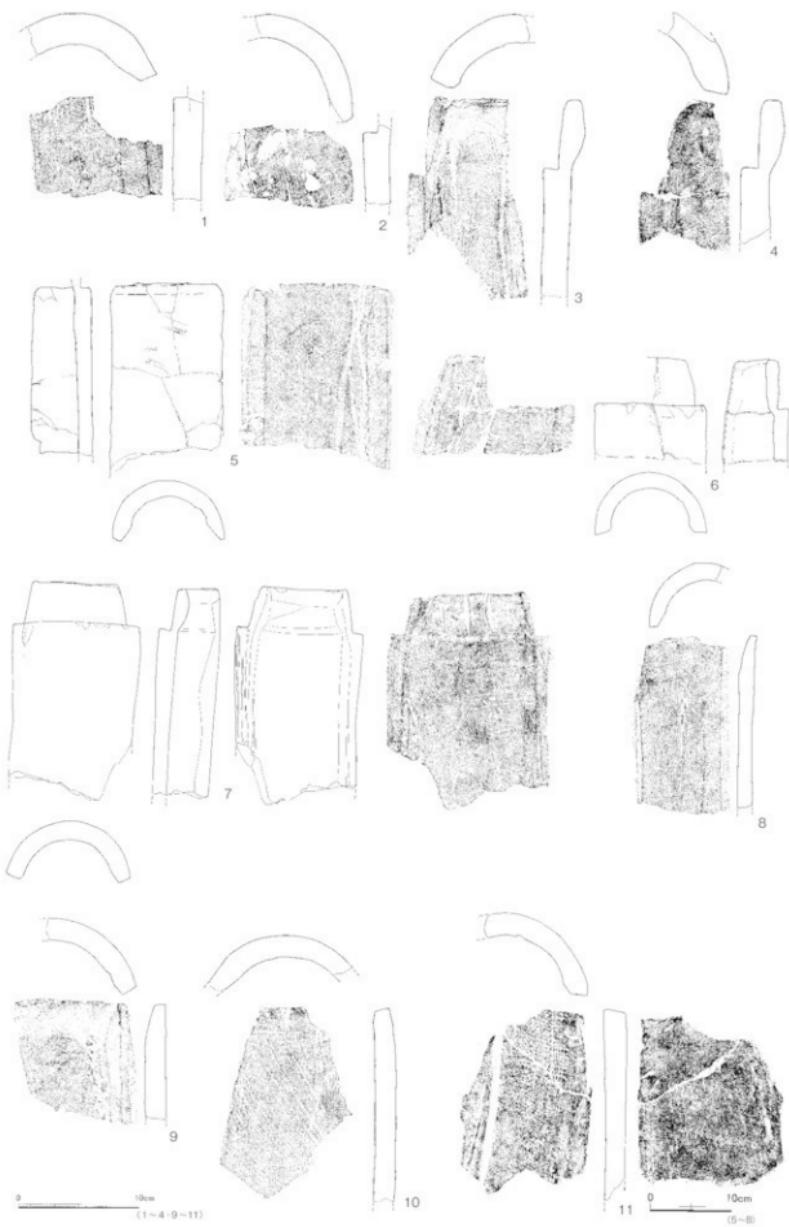
第32図 宮の後地区40号土坑出土遺物実測図（2）（S = 1 : 4、1 : 6）



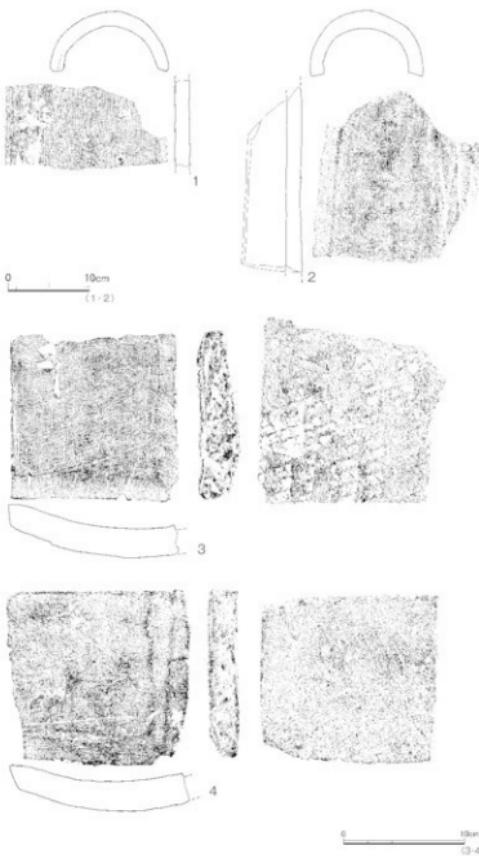
第33図 宮の後地区40号土坑出土遺物実測図（3）(S=1:4、1:6)



第34図 宮の後地区40号土坑出土遺物実測図(4) (S=1:4、1:6)



第35図 宮の後地区40号土坑出土遺物実測図（5）(S=1:4、1:6)



第36図 宮の後地区40号土坑出土遺物実測図（6）（S=1:4、1:6）

国分寺補修期とされている。

第35図・第36図は丸瓦及び駆斗瓦である。第35図1～3はいずれも須恵質で、有段式丸瓦Aである。玉縁基部の高さは1が1.1cm、2が1.2cmである。3は玉縁部の長さ5.7cm、基部高さ1.3cmである。1の凸面はヨコ方向のナデ、凹面は布目圧痕を残す。2・3は凸面に布目圧痕が認められ、凹面にナデを施す。4は軟質で、有段式丸瓦Bである。玉縁部長さ5.6cm、基部高さ1.3cmで、凹面は玉縁部1/2程度まで布目圧痕が残る。凹面はナデである。5は玉縁部を欠くが、須恵質で有段式丸瓦Aである。基部高さ1.2cm、凸面はナデ、凹面には布目圧痕が残る。6・7は軟質のもので、有段式丸瓦Bである。6は玉縁部長さ6.2cm、基部高さ1.5cmで凸面ナデ、凹面は布目圧痕が残る。7は玉縁部長さ5.3cm、基部高さ1.4cmで凹・凸面の成形は6と同様である。8～11は無段式丸瓦で、いずれも狭端部側である。8・9は凹面の狭端部側を広範囲にヘラケズリして、先端が薄くなるように仕上げている。10もヘラケズリを行うが、範囲は凹面の狭端部先端付近に限られる。11は凹面・凸

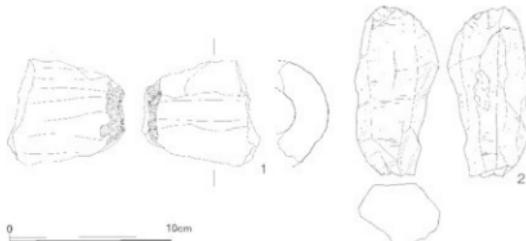
第2表 40号土坑出土瓦類集計表

種別		凸面	破片数	闊数	重量: t	種別		凸面	破片数	闊数	重量: t
平瓦	橘巻き	平行タタキ	1	1	520	平瓦	1枚作り	平行	0	0	0
		小計	1	1	520		小計	0	0	0	
1枚作り	繩タタキ1(硬質)	1	0	340	1枚作り	ナデ	17	8	4.211		
	繩タタキ1(軟質)	19	12	12.798		小計	17	8	4.211		
	繩タタキ2	0	0	0	1枚作り	タタキ不明	4	1	533		
	不明繩タタキ(硬質)	1	1	400		小計	4	1	533		
	不明繩タタキ(軟質)	6	1	1.392		総計	110	57	57.680		
		小計	27	14	14.930	丸瓦	有段式	A(硬質)	4	1	2.600
1枚作り	格子1	1	1	260			B(軟質)	4	6	3.990	
	格子2	5	4	4.320			小計	8	7	6.590	
	格子3	0	0	0		無段式	4	3	1.971		
	格子4	2	1	470			小計	4	3	1.971	
	格子5	0	0	0		不明	焼成硬質	7	3	2.436	
	格子6	0	0	0			焼成軟質	26	11	8.920	
	格子7	7	3	3.200			小計	33	14	11.356	
	格子8	1	0	740			総計	45	24	19.917	
	格子9	1	1	200		道具瓦	熨斗瓦	2	2	1.780	
	格子10	2	2	910			総計	2	2	1.780	
	格子11	1	0	190		不明		0	0	0	
	格子12	5	1	4.500							
	格子13	3	0	1.470							
	格子14	0	0	0							
	格子15	12	8	9.750							
	格子16	0	0	0							
	格子17	2	2	4.800							
	格子18	1	1	1.250							
	格子19	0	0	0							
	格子20	0	0	0							
	格子21	3	2	1.370							
	不明(硬質)	1	0	56							
	不明(軟質)	15	8	4.520							
	小計	62	34	38.006							

面ともヘラケズリは見られず、狭端部側が最も厚みがある。凸面成形は8~10がナデ、11はタテ方向の繩タタキで、凹面はいずれも布目圧痕が残る。丸瓦については、有段式丸瓦Aが国分寺創建期、同Bが国分寺補修期とされている。

第36図1・2は凸面をナデ成形し、凹面は未調整で布目圧痕を残す。3・4は熨斗瓦で、いずれも平瓦の凹面側に深さ0.4cmの切り込みを入れて割っている。凸面成形は3が格子タタキ1、4も種類不明のタタキで、離れ砂を用いる。凹面はともに布目圧痕が残る。

生産関連遺物 第37図1は羽口で、先端はガラス化している。復元される孔径は2.8cmである。2は水晶である。剥離ではなく、柱状の原石である。(宮本)



第37図 宮の後地区40号土坑出土遺物実測図 (7) (S = 1 : 3)



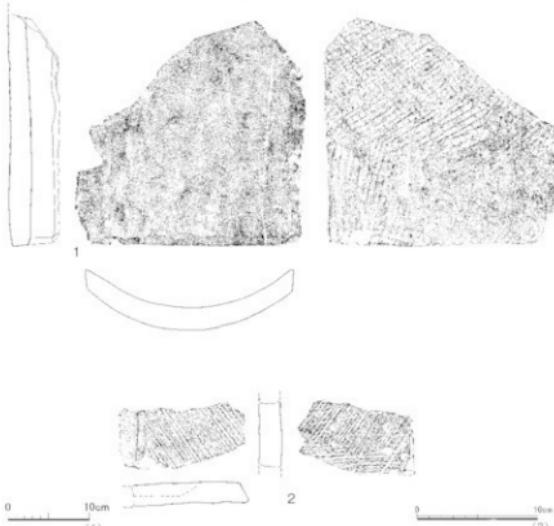
第38図 宮の後地区40号土坑周辺出土遺物実測図（1）（S=1:3）

40号土坑周辺出土遺物（第38図～第40図）

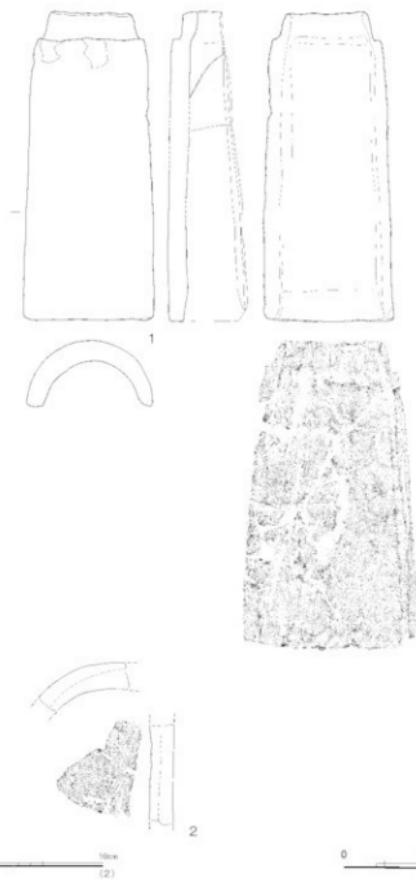
須恵器 第38図1は宝珠状つまみをもつ蓋である。端部内面はナデにより沈線状となる。調整は全体にナデであるが、天井部の狭い範囲にヘラケズリが認められる。2は高台付壺で、底部最外周に短い高台がつく、全体に風化が著しいが、全面ナデ調整と見られる。3は壺で、体部はやや内溝して立ち上がり口縁部は外反する。底部外面はやや凹み、回転糸切りが残る。4は壺の底部と見られるが、器壁が厚いものである。底部外面を回転糸切りの後ナデ調整する。

瓦 第39図は平瓦である。1は格子タタキ3で凸面成形を行い、凹面は側縁と広端部側の縁をヘラケズリで面取りするが、大部分は未調整で布目圧痕が残る。2は凸面に縄タタキを行った後、ハケ状工具でナナメ方向に粗く調整する。内面も布目圧痕の上に、凸面と同様なハケ状工具の痕跡が認められる。

第40図は丸瓦である。1は有段式丸瓦で、今回報告する中で全形がうかがえる唯一のものである。全長38.2cm、最大幅15.5cm、玉縁部3.4cm、基部高さ0.9cmで、焼成は軟質である。凸面はヨコ方向のナデで成形し、凹面は布目圧痕を残すが側縁はヘラケズリで面取りする。2は凸面がヨコ方向のナデ、内面は未調整で布目圧痕を残す。（宮本）



第39図 宮の後地区40号土坑周辺出土遺物実測図（2）（S=1:4、1:6）



第40図 宮の後地区40号土坑周辺出土遺物実測図（3）（S = 1 : 4、 1 : 6）

7) 41号土坑（第41図）

（規模と構造・土層堆積状況）調査区中央付近東寄りに位置する。平面形は南北に長い楕円形状を呈し、長さは約2m、幅は約1.4mである。明確な壁面や底面はなく、皿状の窪地状となっている。遺構内には最大14cmの厚みを持って炭化物が堆積している。

（出土遺物）出土遺物は乏しく図示できたのは平瓦片の1点のみである。（神柱）

41号土坑出土遺物（第42図）

瓦 第42図は平瓦で、焼成は軟質である。凸面は繩タタキ1で形成し、凹面は布目圧痕が残る。

側縁と狭端部縁はヘラケズリを施す。（宮本）

8) 42号土坑（第41図）

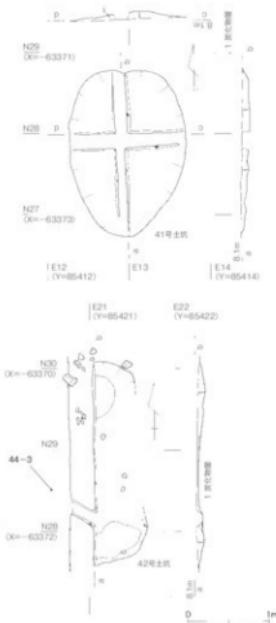
（規模と構造・土層堆積状況）調査区東側中央付近（73号溝東側）で検出した。径約80cmと想定される10cm程度深さのくぼみ状の土坑が、1m程度距離を開け2基南北方向に並んでいる。中間部分を検出できなかったが、本来1基の土坑であったと考えられる。炭化物が溜まっており、埋土や周辺から羽口や鉄滓などが出土している事から、鍛冶関連遺構だと考えられる。（神柱）

42号土坑出土遺物（第43図・第44図）

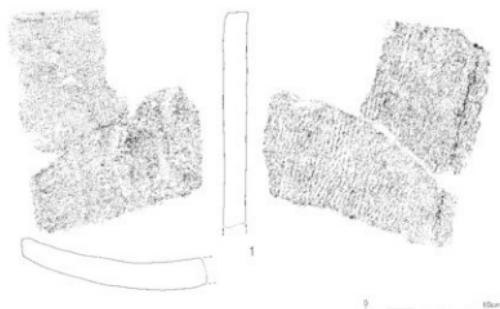
須恵器 第43図1は壺で、体部は緩やかに外形して口

縁部は丸くおさめる。底部外面に回転糸切り痕が残る。2も壺で、体部は内湾しながら立ち上がると見られる。底部外面は回転糸切りである。

土師器 3は高壺の脚部で、ナデで調整する。

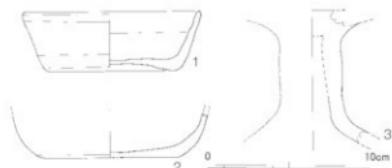


第41図 宮の後地区41号・42号土坑
実測図 (S = 1 : 60)

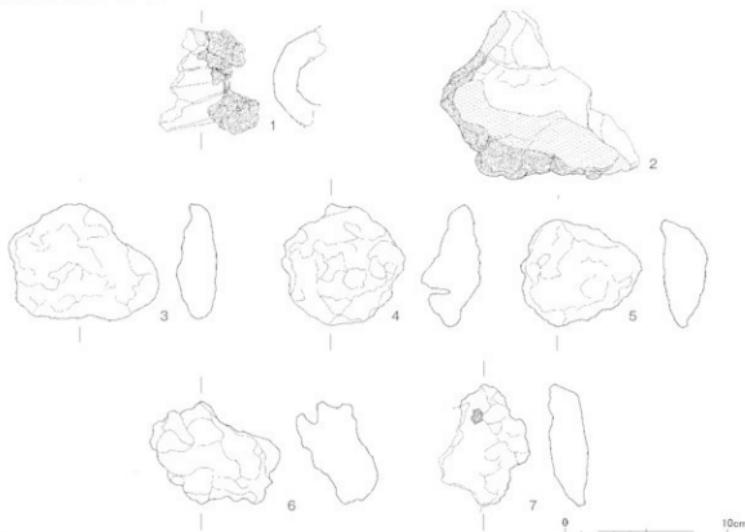


第42図 宮の後地区41号土坑出土遺物実測図 (S = 1 : 4)

金属器生産関連遺物 第44図 1は羽口で、先端はガラス化する。孔径は2.0cmと考えられる。2は炉壁で、炉内側はガラス化する。3～5はいわゆる碗形滓で、長さ7.5～9.3cm、幅6.6～7.5cm、厚さ2.5～3.9cmである。6は不純物を多く含む密度の低い滓である。7は炉壁の付着は見られないが、碗形滓の可能性がある。(宮本)



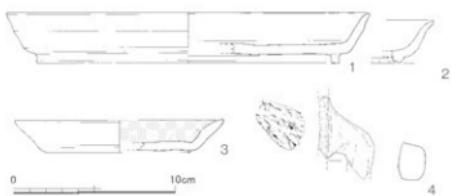
第43図 宮の後地区42号土坑出土遺物実測図(1)(S = 1 : 3)



第44図 宮の後地区42号土坑出土遺物実測図(2)(S = 1 : 3)

44号・46号土坑出土遺物（第45図）

須恵器 第45図 1・4が44号土坑、2・3が46号土坑出土である。1・2は高台付皿である。1は体部が外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。高台は底部最外周のやや内側につき、底部外面は回転ナデで調整する。2は口縁部が外反し、先端はとがり気味になる。内面には黒色の付着物があり、転用硯の可能性がある。3は無高台の皿で、口縁部は大きく外反する。内面は磨滅して墨痕も認められ、転用硯と考えられる。底部外面は糸切り後粗いナデを施す。4は須恵質の把手で、鉢などに付くものであろう。(宮本)



第45図 宮の後地区44号・46号土坑出土遺物実測図(S = 1 : 3)

9) 集石遺構（第46図）

（規模と構造）調査区西側中央付近で、南北約5m、東西約2mの範囲で、20～30cmの大の礫がまとまって検出された。礫の検出状況から、N26ライン付近を境に南北2つの遺構が接している可能性が考えられる。この場合、南側の遺構は幅約4m長さ約2.4mの楕円形が想定される。北側の遺構はその西側をサブトレレンチにより削平したために一部状況が不明だが、南北2m程度、東西1.5m以上の広がりを持っていたと考えられる。

また、南北いずれのまとまりともに、中央付近で礫の検出がごくまばらにしかなく、土坑状の落ち込みが存在した可能性も考えられるが、遺構の時期や性格は不明である。

（神柱）

10) 第1サブトレレンチ（第47図）

（トレレンチの設定）今回の調査で検出した遺構面の下層の状況を把握するために調査区西側にサブトレレンチを設定して調査を実施した。トレレンチは調査区の西側の北端ラインであるN35ラインに沿う形で幅60cmで設定し、E1ライン付近からE10ライン付近までの東西約9mを掘削した。またE15ラインに沿って南北方向のトレレンチを長さ3.6m

幅50cmで設定した。遺構検出面から深さ30cm程度まで掘削を行い、トレレンチ底面で遺構プランと考えられる土色の違いを検出したことから掘削を停止した。

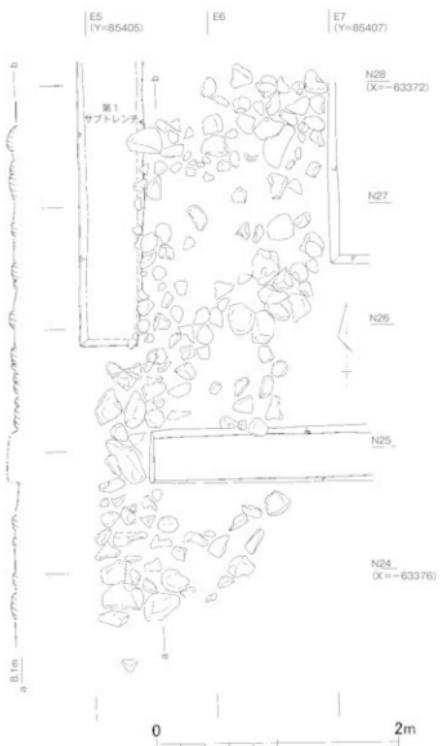
（土層堆積状況）平成22（2010）年度の調査で追加的事実が明らかになったため、土層堆積状況については今後刊行する発掘調査報告書で詳述する。

（遺物出土状況）限られたトレレンチ内の面積としては比較的多くの遺物が出土しており、特にトレレンチの底面付近で多くの土器片が出土した。（神柱）

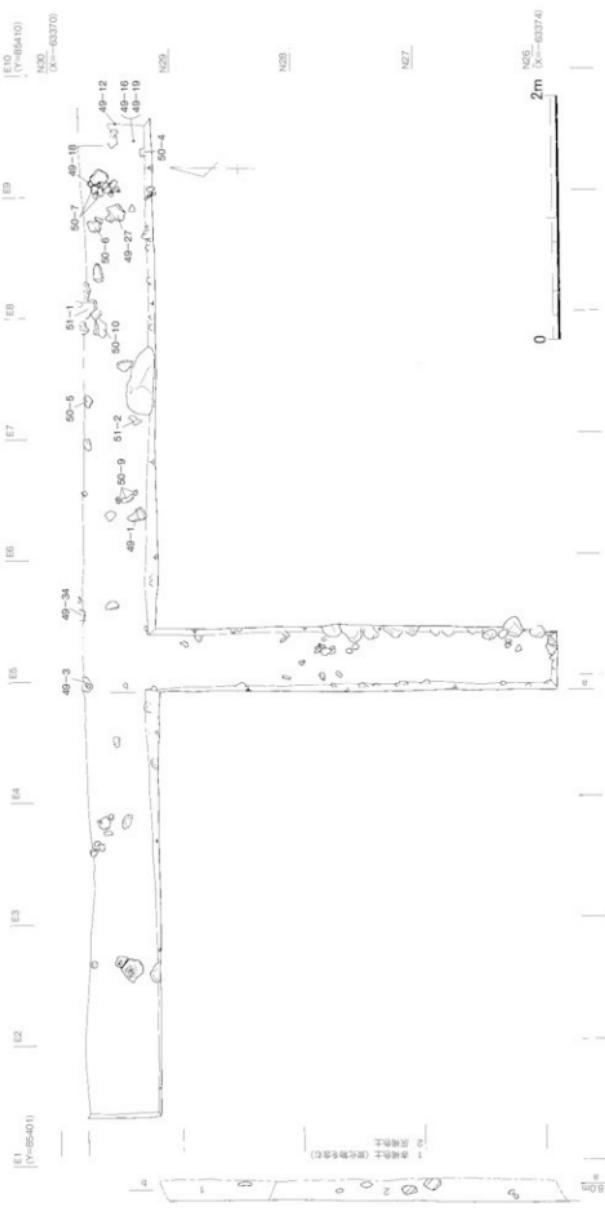
第1サブトレレンチ出土遺物（第48図～第52図）

①包含層出土遺物 第48図1・3・12・16・18・19・27・34はトレレンチ底面、その他は包含層から出土したものである。

須恵器 第48図1～5は輪状つまみをもつ蓋で、天井部の外周に回転ヘラケズリを施す。6はつまみの形状が不明であるが、天井部の調整はナデのみである。7～13は高台付壺である。7は体部が内湾して立ち上がり、口縁は丸くおさめる。底部外面には回転糸切り痕が残る。8は7と比較して形態・調整の特徴は同じであるが、壺部がやや浅い。9も7と同様な形態であるが、底部のほど



第46図 宮の後地区集石遺構実測図(S=1:40)



第47図 宮の後地区第1サブトレンチ実測図 ($S = 1 : 40$)

んどを欠く。10は体部が外傾して直線的に立ち上がるもので、底部は静止糸切りである。口縁部内面には漆が付着する。11も体部が外傾して立ち上がるもので、体部外面に刻み目が認められ、ヘラ記号の可能性がある。12は底部内面が磨滅して墨痕が認められ、転用硯と見られる。底部は回転糸切りであるが、この面にも墨痕がある。13は体部が外傾するもので、底部は回転糸切りである。14は高台付皿で、底部外面には糸切り痕と爪状圧痕が残る。15は高台付壺または皿と見られる。16～18は壺、19も壺の底部と見られる。16・17は、内湾する体部に外側へ強く屈曲する口縁部をもつ。底部は16が回転糸切り、17は静止糸切り後ナデを施す。18は口縁がわずかに外反し、底部外面には回転糸切り痕が残る。19の底部は静止糸切りである。20は高台付皿で、口縁部内面はナデによりわずかにくほみをもつ。底部は回転糸切りである。21は壺の口縁部、22は壺の体部と見られるが、22の内面には墨痕があり、器壁の磨滅も認められることから猿面硯の可能性もある。23は壺の蓋で、クシ描きの刺突文を施す。24は小形の短頸壺、25も小形の壺と見られる。26は壺の底部で、静止糸切りをナデ消している。27は長頸壺で、頸部に3条の沈線をもつ。底部外面は糸切りの後ナデを施す。28は壺または甌の口縁部であろうか。29は短脚の高环脚部で透孔が認められる。30は平瓶の肩部付近で、ボタン状の把手痕跡がある。31も瓶類の口縁と見られる。33は横瓶の体部、34は鉢の体部で、把手が剥離している。

土師器 第49図は土師器及び土製品である。1は高台付壺で、内外面ともナデ調整し、赤彩を施す。2～5は壺で、口縁部はナデ、頸部以下外面はタテ方向のハケ、内面はヘラケズリで調整する。2・5の口縁部と4の内面には煤が付着する。6は鉢または鍋と見られ、内外面ともナデ調整の後、赤彩を施す。

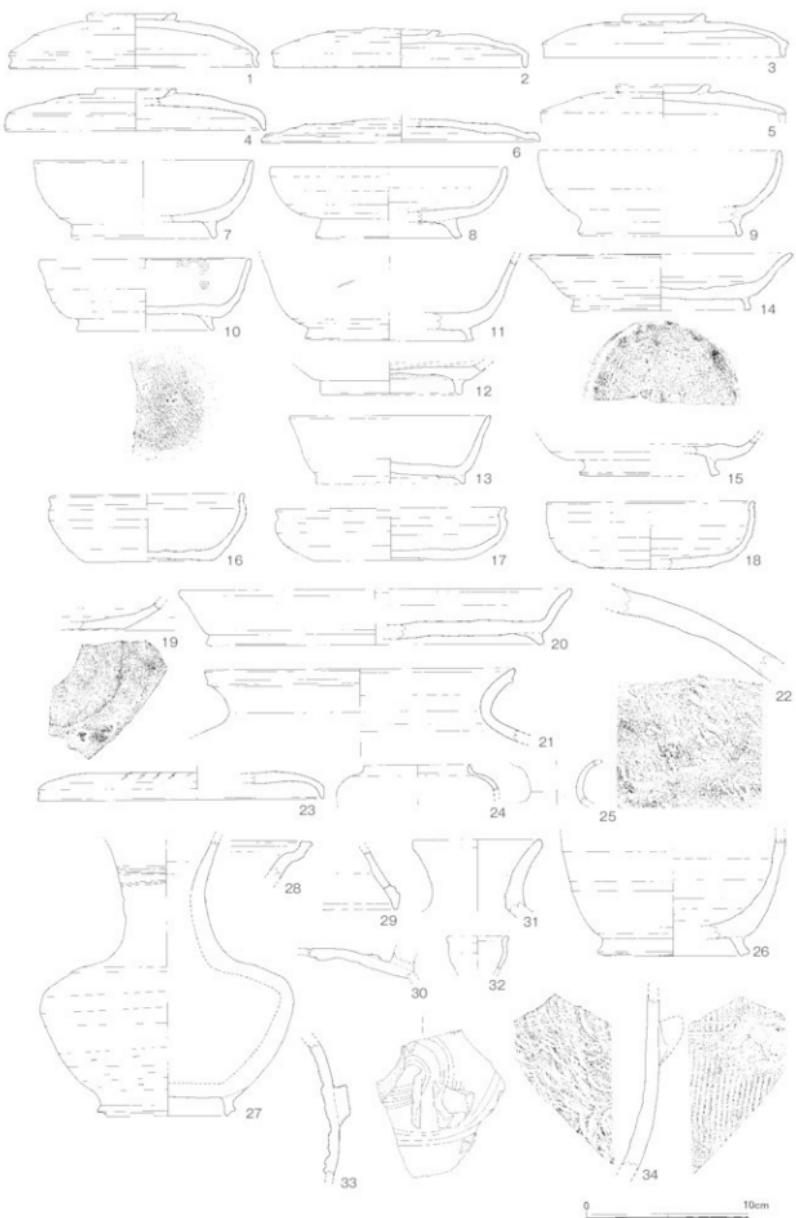
土製品 7は甌である。端部はわずかに外反し、外面をハケメ、内面をヘラケズリで調整する。8も甌の口縁部～把手付近である。9・10は移動式甌の底部分、11は土製支脚と考えられる。

瓦 第50図は平瓦である。1は広端部で、凸面は格子タタキ15で成形し、内面は布目圧痕が残る。2は凸面が繩タタキ1、凹面は布目圧痕がタテ方向のナデで部分的に消され、筋状に残る。3は格子タタキ15が部分的にナデ消される。4の凸面はケズリ及びナデ、5は繩タタキ成形する。凹面はいずれも布目圧痕が残る。

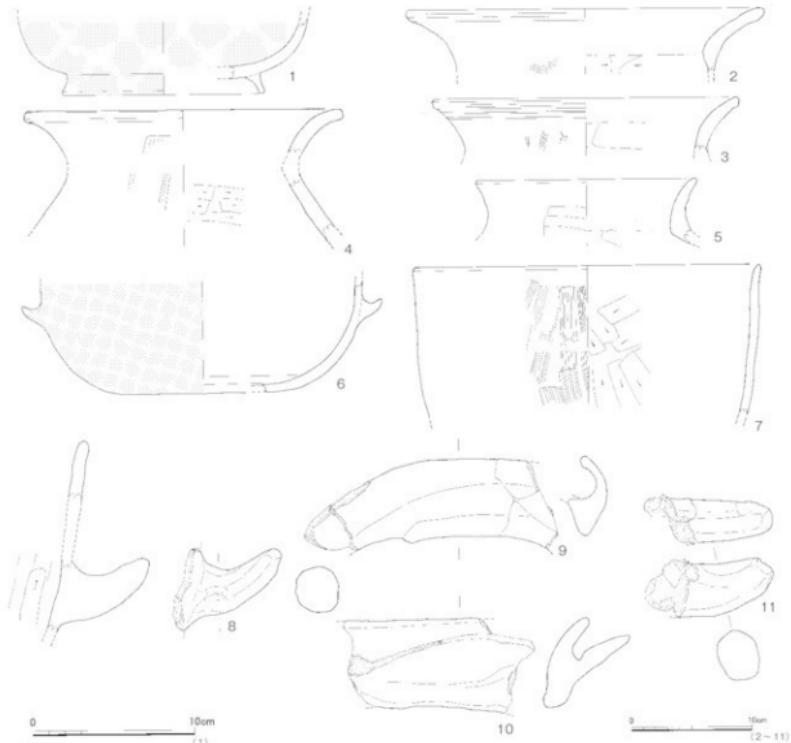
②砂利・礫層出土遺物

須恵器 第51図1は高台付壺で、体部は外傾して立ち上がる。底部は回転糸切りで、「×」状のヘラ記号をもつ。2も器高がやや低い点以外は、1と同様な形態・調整である。

生産関連遺物 第52図1は器壁が厚く小形の壺状を呈し、注口をもつものでトリベと考えられる。口径5.9cm、底部径4.4cm、器高2.3cmで、全面ナデで調整し、外面には指頭圧痕が残る。付着物はないが、色調は灰白色で被熱の影響が考えられる。2は碧玉で、荒削が行われた素材段階のものである。3はメノウの原石で、剥離は認められない。(宮本)



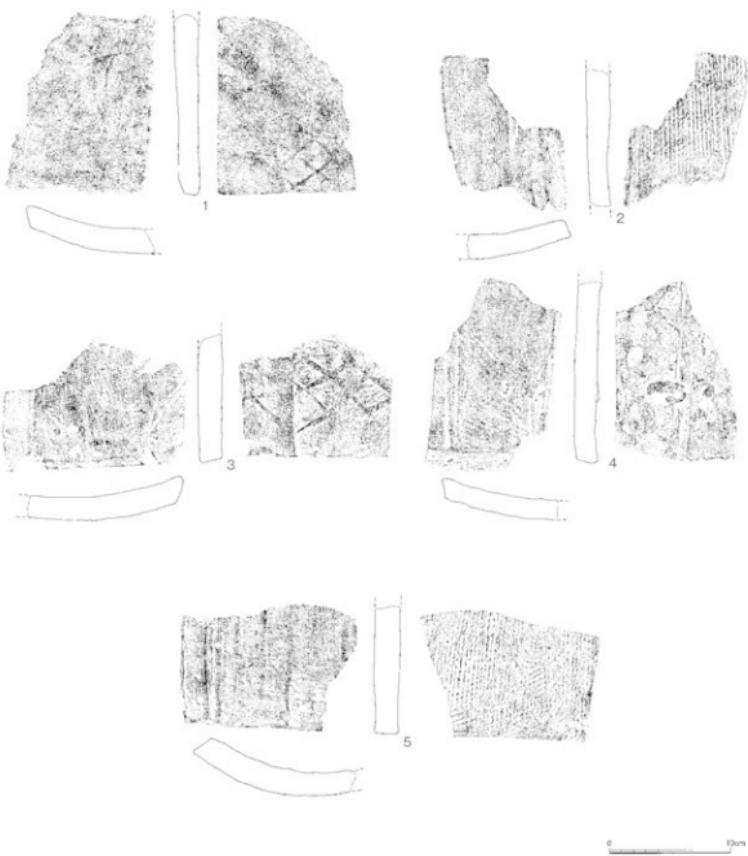
第48図 宮の後地区第1サブトレンチ出土遺物実測図（1）(S=1:3)



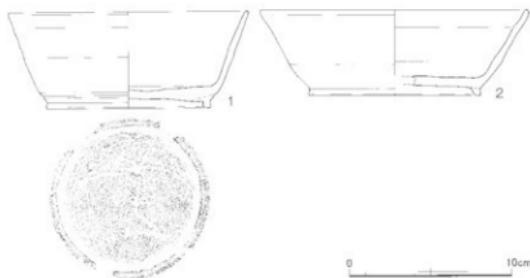
第49図 宮の後地区第1サブレンチ出土遺物実測図（2）（S=1:3、1:4）

遺構に伴わない遺物（第53図～第69図）

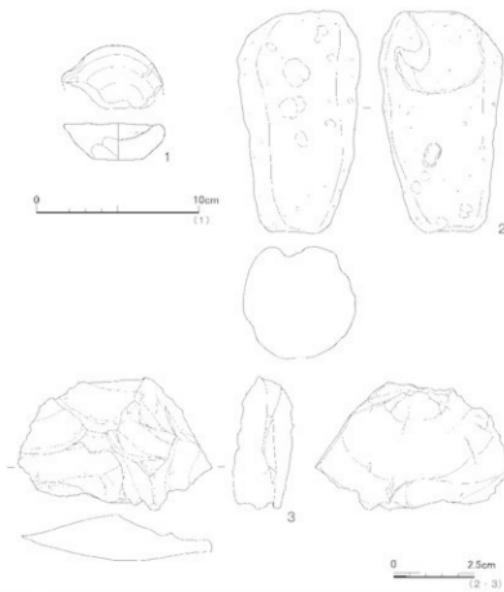
須恵器 第53図1～3は輪状つまみの蓋で、形態の分かる1・2では口縁部を下方に折り曲げる。4～9は宝珠状・ボタン状のつまみをもつもので、4～6・8はナデにより口縁部に面をつくる。7・9は口縁部を丸くおさめる。10・11はつまみの形状は不明であるが、口縁部に面をもつ。12～23は高台付坏で、12～14は体部が内湾して立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。底部外面に糸切りが認められるものは12のみである。15～21は体部が直線的に外傾して立ち上がるもので、15・16は高台が底部周縁よりやや内側につく。底部外面はナデで仕上げる。17～21は高台が底部最外周につき、底部外面は回転糸切りである。22・23は底部のみで、高台は底部最外周につく。調整は22が回転糸切り後ナデ、23は静止糸切り後ナデを施す。24～29は体部が内湾して立ち上がるもので、24～28は口縁が緩く外側に折れる。底部外面は24が静止糸切り、26～28が回転糸切り後ナデ、29は静止糸切り後ナデと見られる。30も体部が内湾するものと見られ、底部は回転糸切りのまま未調整である。31～36は体部が外傾して直線的にのびるもので、31・32は底部から緩やかに体部に移行する。31は糸切りと見られるが、風化のためナデ調整の有無は不明である。33～35は底部と体部が区別されるもので、底部は回転糸切りである。36はミニチュアの环で、底部はヘラ切り後ナデ調整される。



第50図 宮の後地区第1サブトレンチ出土遺物実測図（3）（S=1:4）



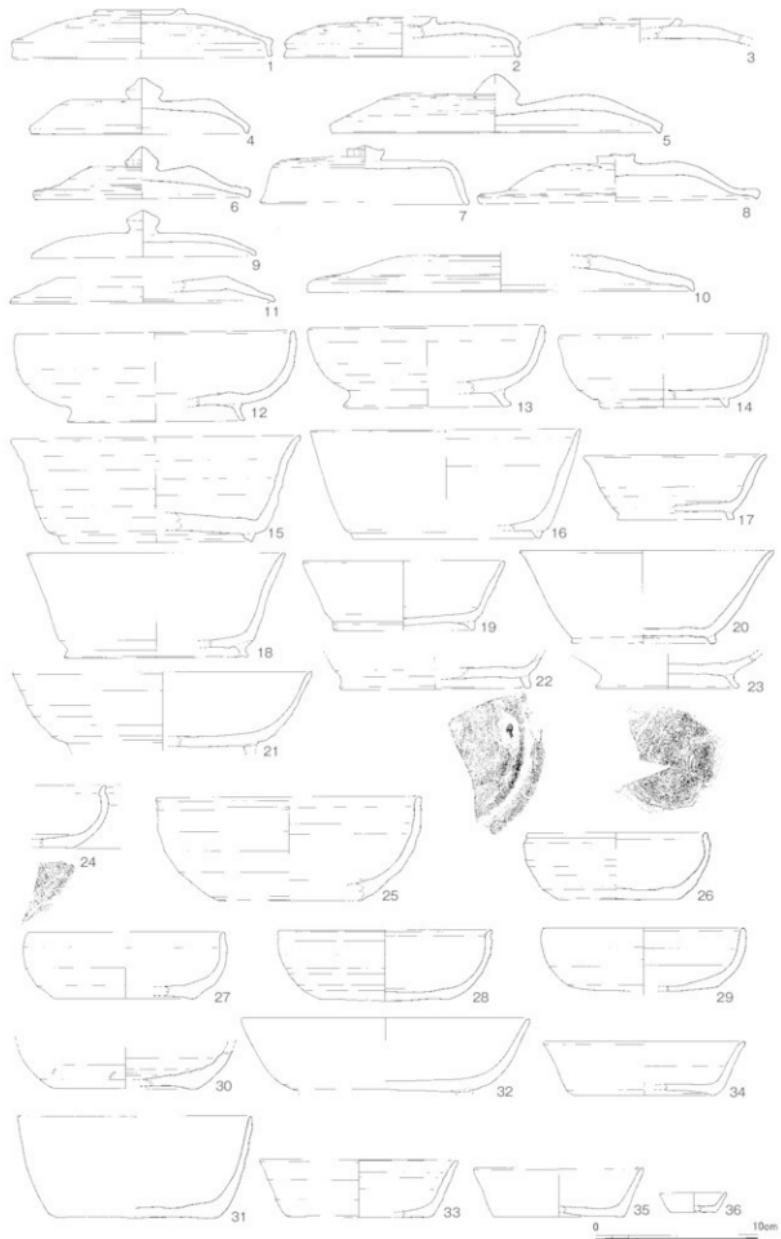
第51図 宮の後地区第1サブトレンチ出土遺物実測図（4）（S=1:3）



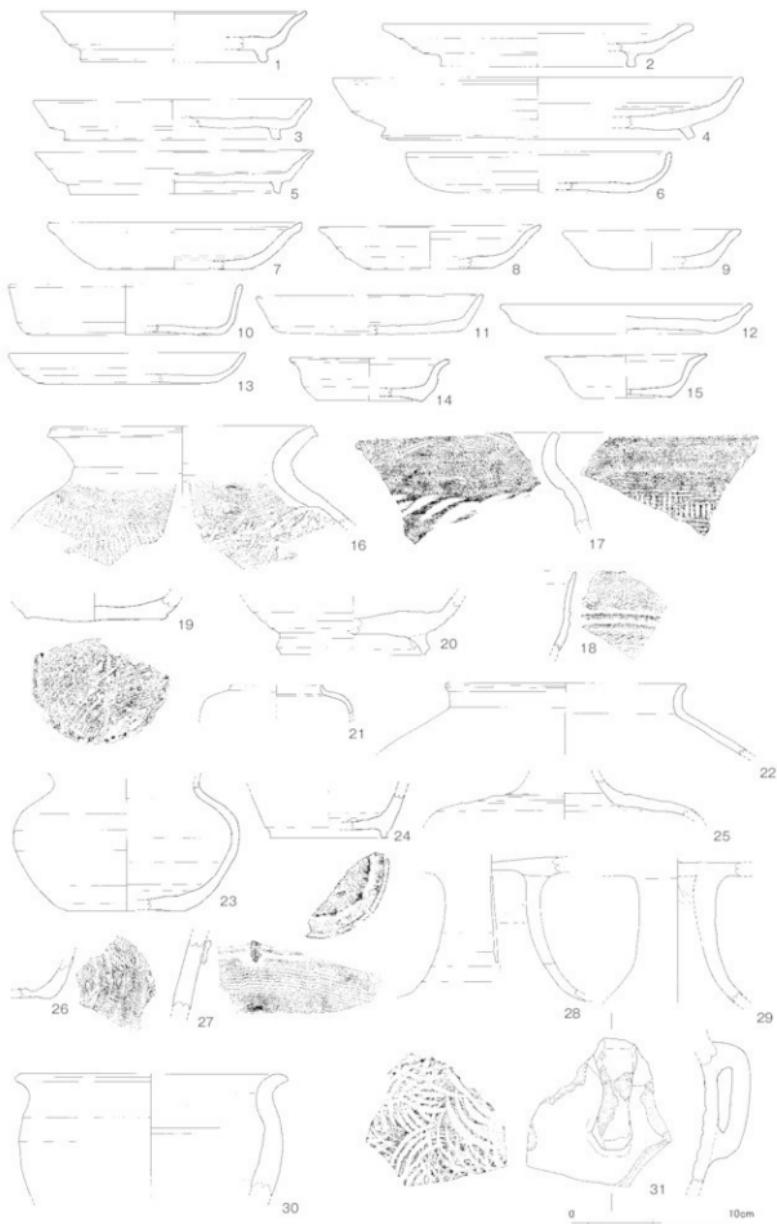
第52図 宮の後地区第1サブトレンチ出土遺物実測図（5）（S=1:3、2:3）

第54図1～5は高台付皿である。1・2は体部が外反して口縁に至るものである。1の口縁部内面はナデで沈線状になる。2は口縁部が体部より肥厚する。底部はいずれも糸切り後ナデを施す。3・5は体部から外傾して直線的に口縁に至る。高台は底部外周のやや内側に付き、底部外面をナデ調整する。4は体部が内湾するもので、底部は回転糸切り痕が残る。6～13は無高台の皿で、6は体部が内湾して立ち上がる。7～9は体部が外反して口縁に至るもので、底部外面は糸切り後未調整である。6は内面底部が磨滅して墨痕があり、転用硯と見られる。10は体部が直立気味に立ち上がり、口縁は丸くおさめる。底部はナデで調整される。11は体部がやや外傾する。底部は回転糸切りである。12・13は体部が強く外傾する。12は器壁が厚く、底部はヘラ切り後粗いナデを施すなど、他の皿とは調整も異なる。13は回転糸切り後ナデ調整する。14・15はいわゆる灯明皿で底部外面は14が回転糸切り、15が静止糸切りである。16・17は甕、18も甕の口縁部と見られ、18は2条の突縁、沈線、波状文で飾られる。19は平底の底部で、静止糸切りの後ナデを施す。20は高台が付く底部で、重ね焼きの痕跡が残る。21～23は短頸壺と見られる。24・25は長頸壺の底部・頸部であろうか。24は底部を静止糸切りの後ナデ調整する。26は底部で、竈の可能性がある。底部外面をヘラで切り離した後、粗くナデを施す。27は壺または器台の口縁部付近と見られる。複数の沈線と9条の波状文を施し、沈線の上に長さ1.5cm、高さ0.5cmの勾玉状の浮文を貼りつける。28・29は高坏である。28は3方向に切れ込み状の透孔をもつ。29では透孔は確認できなかった。30は小形の鉢で厚い器壁をもつ。31は把手である。鉢などにつくものと見られる。

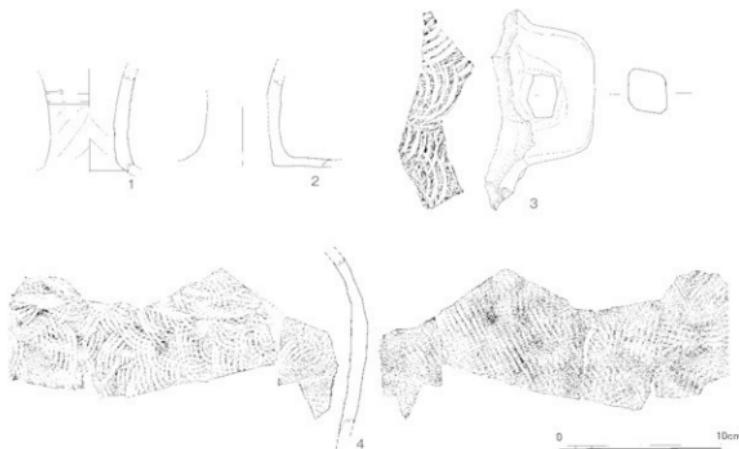
第55図1・2は瓶類または長頸壺の頸部である。1は2本の沈線をもつ。3は把手で、持ち手部分の厚さが2cmを超え、面取りが行われる。4は甕の体部と見られる。



第53図 宮の後地区出土須恵器実測図（1）(S=1:3)

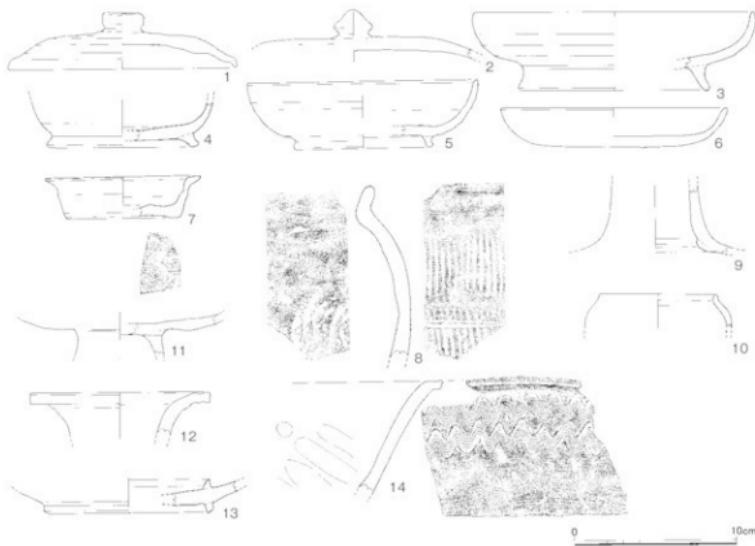


第54図 宮の後地区出土須恵器実測図（2）(S=1:3)

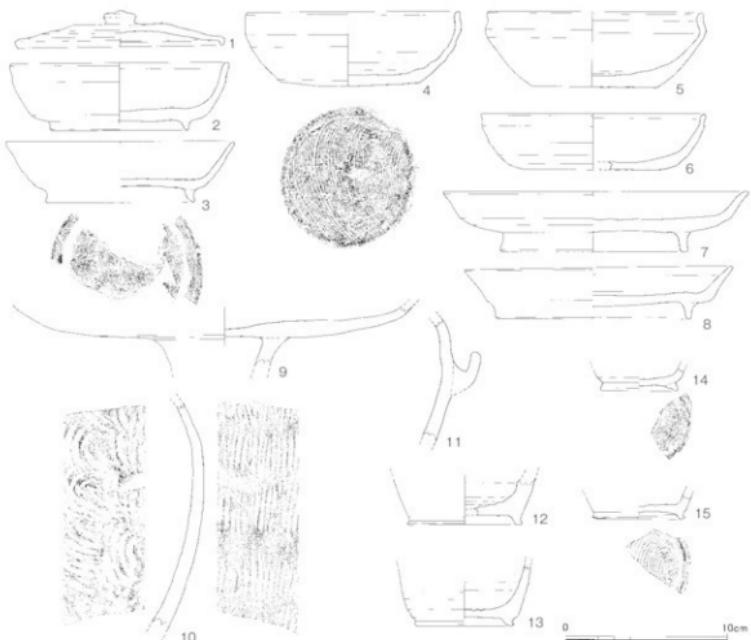


第55図 宮の後地区出土須恵器実測図（3）（S = 1 : 3）

第56図は灰色砂利層から出土したものである。1はボタン状のつまみをもつ蓋で、口縁部内面がわずかに凹み沈線状になる。調整は内外面とも回転ナデで、ヘラケズリは認められない。2は宝珠状のつまみをもち、天井部をヘラケズリする。3～5は高台付杯である。3は坏部が浅く、体部が内湾して口縁に至る。高台は高く、ハの字に開く。4は高台が低く、底部外面を糸切りの後ナデで調整する。5も体部が内湾気味に立ち上がるもので、高台は粗く面取りをする。6は焼成が甘い皿で、



第56図 宮の後地区出土須恵器実測図（4）（S = 1 : 3）

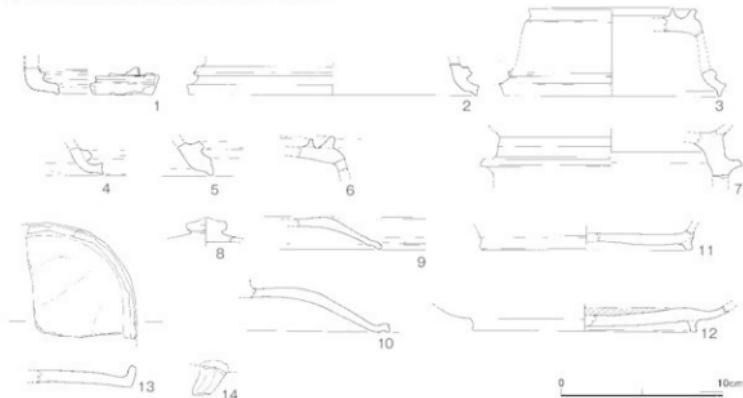


第57図 宮の後地区出土須恵器実測図(5) (S=1:3)

丸底気味の底部から体部がやや内湾して立ち上がる。底部外面は回転糸切りの後ナデを施す。7はいわゆる灯明皿形土器で、底部外面は静止糸切りである。8は壺または鉢で、胴部内面全体と外面の一部は當て具痕やタタキメをナデ消す。9は壺または瓶類の頸部と見られ、内面に粘土の接合痕が残る。10は小形の壺または鉢の口縁部であろう。11は高坏で、脚部には坏部直下から透孔が認められる。12は壺などの口縁部であろうか。高坏の脚部の可能性もある。13は托で、高台は面取りされ、底部外面は回転糸切りの後ナデで仕上げる。14は鉢の頸部～口縁部と見られる。体部はわずかに内湾し、口縁部は外側へ屈曲する。外面には2列の波状文を巡らせ、内外面ともナデ調整するが、指頭圧痕と見られる成形痕も認められる。

第57図は水田耕作土及び排土から出土した須恵器である。1はボタン状つまみをもつ蓋で、端部は下方に折れる。調整は内外面ともナデである。2・3は高台付坏で、2は体部が内湾気味になるもので、底部外面はヘラ切りの後ナデで仕上げる。3は、体部が外傾して口縁に至るもので、焼成が甘く茶褐色を呈する。底部外面は、静止糸切り後未調整である。4～6は無高台の坏である。4は体部が内湾し、口縁部はわずかに肥厚する。底部外面は静止糸切り後未調整である。5は口縁部が外側に折れるもので、底部外面は中央付近の凹んだ部分回転糸切りのままであるが、外周部はナデを施す。6は口縁部が緩く外側に折れ、底部は回転糸切りである。7・8は高台付皿で、7は口縁部がわずかに外反するもの、8は直線的に外傾するものである。7は底部を回転糸切りで切り離

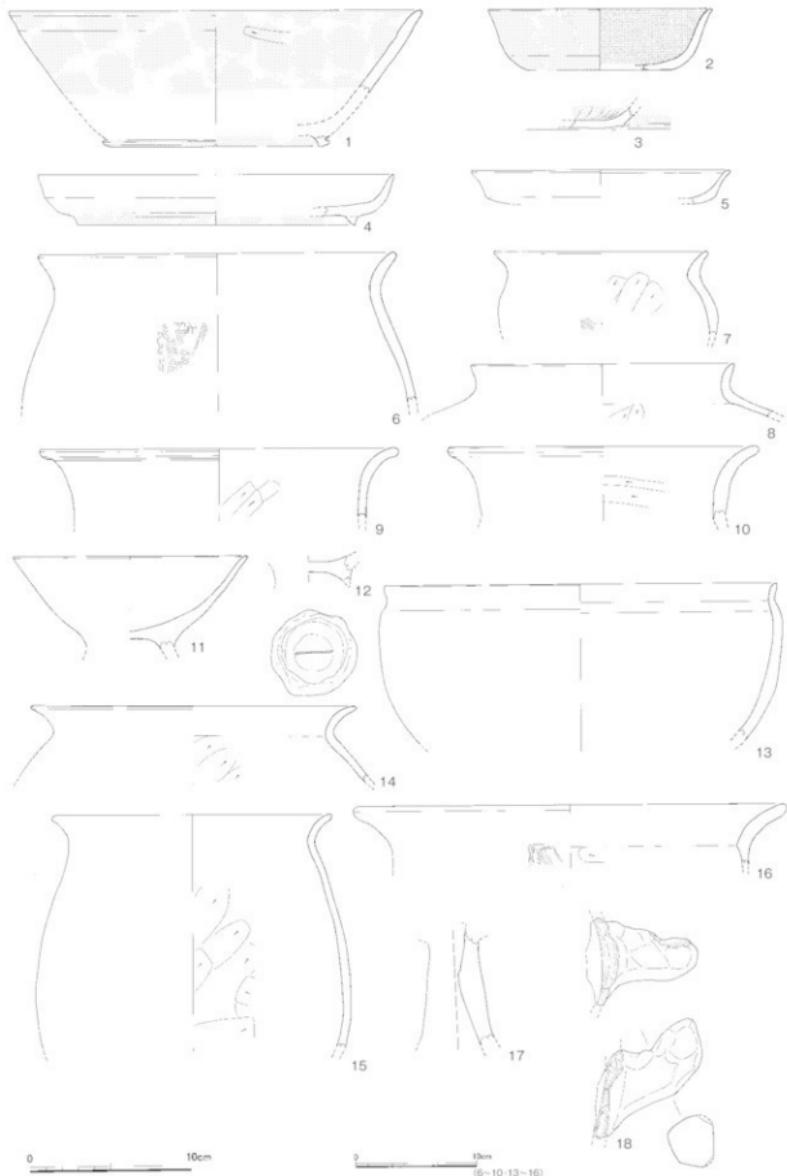
すが、8は風化のため調整不明である。9は大形の高杯で、脚部の3方向に方形の透孔をもつものと見られる。10は甕の体部、11は鉢の体部で把手部分である。12～14は高台をもつ壺の底部と考えられる。12の底部は糸切り後未調整である。13は焼成が甘く茶褐色を呈するもので、内面には強い回転ナデの痕跡が残る。底部は回転糸切り後ナデを施す。14は底部外面にヘラ記号をもつ。15は底部が静止糸切り後未調整である。(宮本)



第58図 宮の後地区出土現実測図 ($S = 1 : 3$)

硯 いずれも破片で、台脚や硯面縁部の特徴から硯と判断したものがほとんどである。第58図1～6は圓脚円面硯である。1は台脚部で、幅の狭い透孔が約1cm間隔で認められる。2でも透孔が1カ所確認できる。3は出土地点が同じであることから、同一個体と判断した。陸の周縁に堤を設けて海と区画する有堤式で、台脚は透孔をもつ。4・5も台脚部で、透孔の痕跡がある。6は3と同じ有堤式のもので、台脚には透孔をもつ。7も圓脚円面硯と見られる。台脚の透孔が2カ所で確認され、その上方に突帯が巡る。8～12は転用硯と見られるものである。8～10は蓋で、墨痕が残るものは10のみであるが、いずれも内面の磨滅が著しく、硯として使用された可能性が高い。11・12は壺または皿で、11は底部外面、12は底部内面に墨痕が明瞭に残る。13は楕円硯または風字硯の海側である。硯面は滑らかであるが、磨滅は明瞭でなくナデなどの調整痕が残る。14は脚である。13のような硯につく可能性がある。(宮本)

土師器 第59図1は高台付壺で、口径が25.4cmと推定される大形のものである。体部は外傾して口縁は丸くおさめる。底部外面を含めて赤彩が施される。2は無高台の壺で、内外面とも赤彩を施し、さらに内面全面と外面底部の一部に漆が付着する。内面では口縁部の先端まで漆が付着しており、意図的な塗布の可能性も考えられる。3は壺底部の破片で、内外面とも赤彩が施され、内面には放射状の暗文を施す。4は高台付皿で、底部外面の一部に赤彩が残る。全体に風化が著しく、赤彩は内外面全面に施されていた可能性がある。5は無高台の皿で、底部は丸底氣味となり、口縁はわずかに外反する。風化が著しく、体部はヨコナデが見られるが、底部の調整は不明である。6～10・14～16は甕である。調整が判別できるものでは、体部外面ハケメ、内面ヘラケズリである。11は高壺であろうか。口縁は外傾して丸くおさめる。脚部は高台状になる可能性もある。12は足高高台付壺と見られ、外面にヘラ記号をもつ。13は鉢で、口縁が外反する。調整は内外面ともナデである。



第59図 宮の後地区出土土器実測図 (S = 1 : 3, 1 : 4)

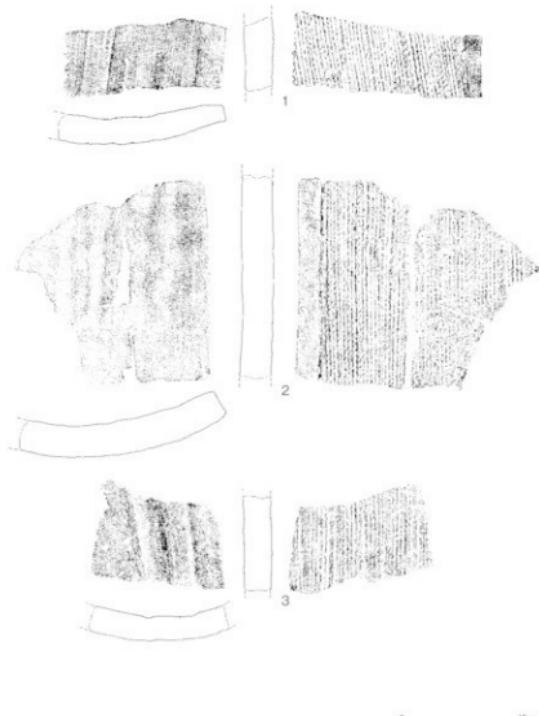
17は高杯の脚部で、杯部に差し込むように付くものである。18は瓶の把手である。(宮本)

瓦 第60図～第62図は平瓦である。第60図1～3は凸面を繩タキで成形するものである。1・3は、凹面に模骨痕が認められ、桶巻き作りのものである。2も桶巻き作りの可能性がある。

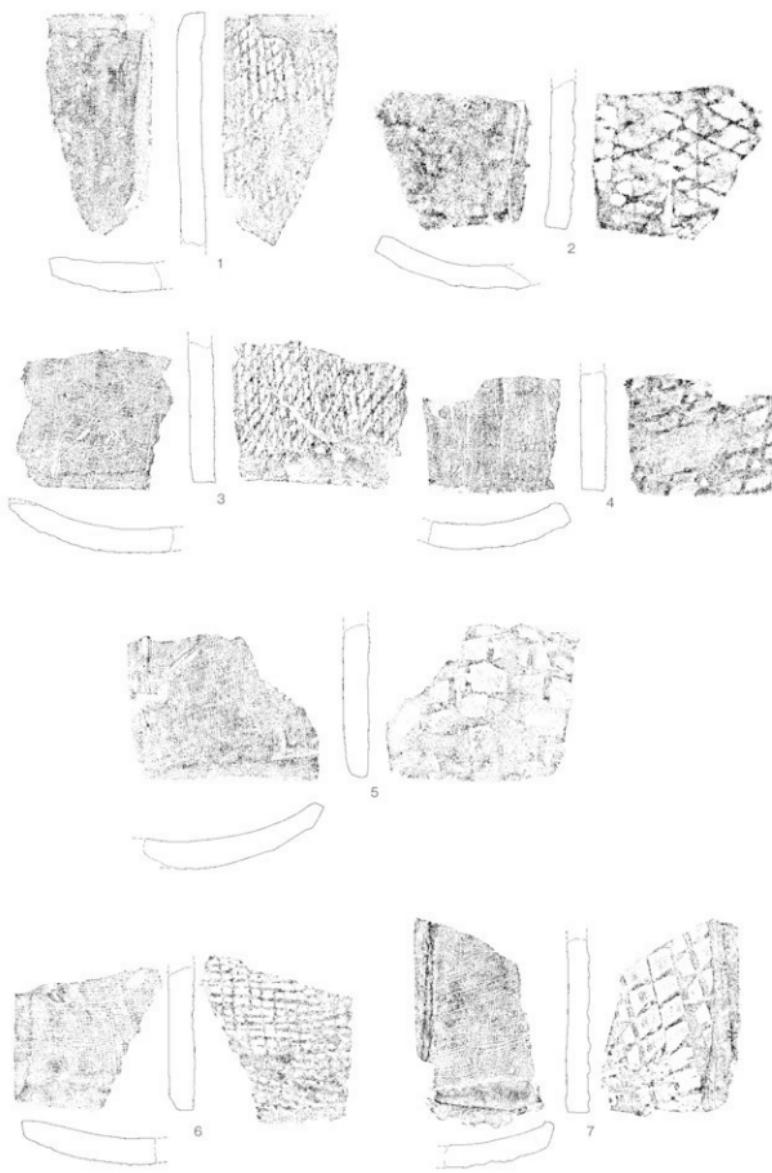
第61図・第62図の瓦はいずれも一枚作りと見られる。第61図1～第62図4は凸面成形には格子タキを用い、凹面には布目圧痕を残す。第61図1・3など糸切り痕が認められるものもある。同図2などには離れ砂が用いられる。第62図5～7は繩タキ1で凸面成形を行う。

第63図・第64図は軒丸瓦及び丸瓦である。第63図1～5は出雲国分寺2類^三で、焼成はいずれも軟質である。瓦当背面に溝を設け、丸瓦部を接合する印籠つぎ法を用いる。6は軒丸瓦の丸瓦部と見られるが、風化のため詳細は不明である。7も丸瓦部で、凹・凸面の先端に線状の刻み目を入れる。凸面はケズリ成形され、内面には布目圧痕が残る。8～10は有段式丸瓦である。8は玉縁部で、長さ6.0cm、凸面はナデ成形である。

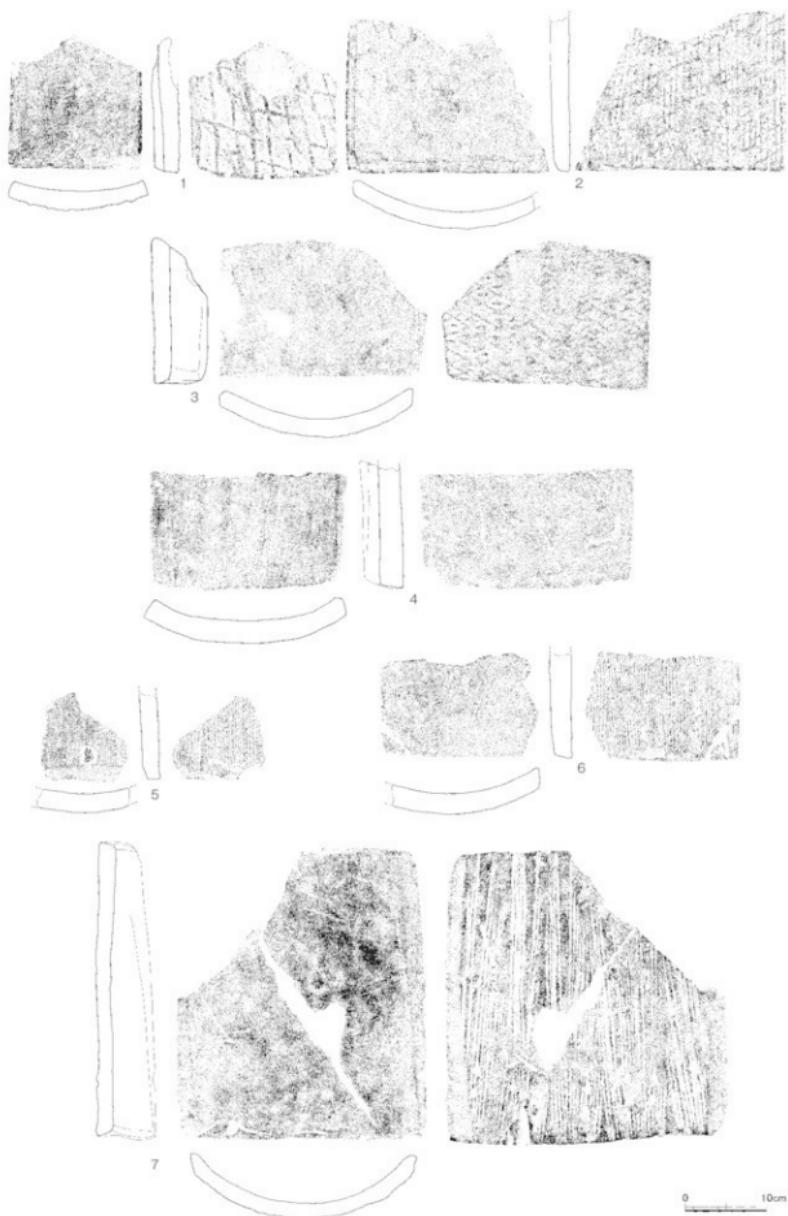
第64図1も有段式丸瓦である。凸面はナデ・ケズリで成形する。2～5はいずれも広端部側で、凸面はナデ成形、凹面には布目圧痕が残り、3～5では布の綴じ合わせ痕も確認できる。6は狭端部側が残り、無段式丸瓦と見られる。凸面はナデ成形、凹面は布目圧痕が残る。(宮本)



第60図 宮の後地区出土瓦実測図（1）（S=1:4）

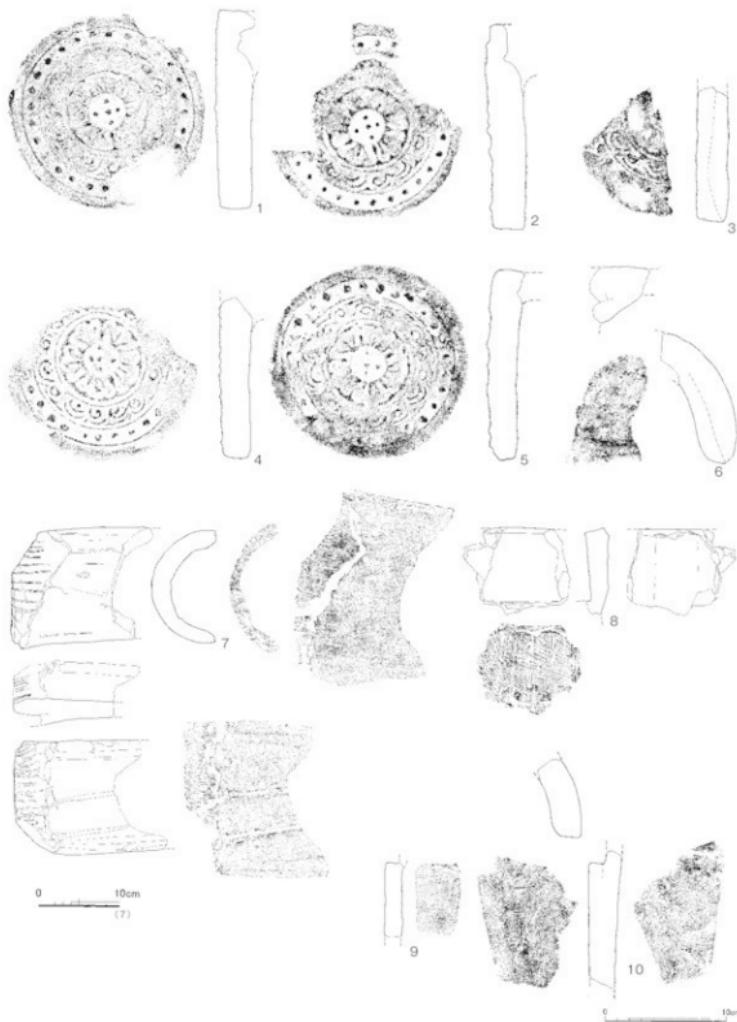


第61図 宮の後地区出土瓦実測図（2）（S = 1 : 4）



第62図 宮の後地区出土瓦実測図（3）（S = 1 : 6）

土製品 第65図 1・2は製塙土器である。内外面とも粗いナデで調整する。3・4は移動式竈の底部、5～10は土鍤、11・12は土製支脚である。6は須恵質のもので、外面をケズリで調整する。13は紡錘車で厚さ1.6cmと厚みがある。(宮本)

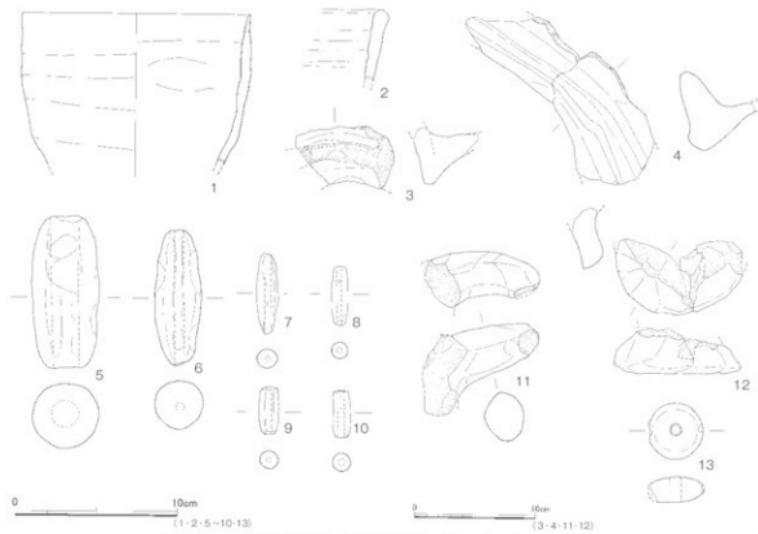


第63図 宮の後地区出土瓦実測図(4) (S=1:4, 1:6)

陶磁器 第66図 1～12は白磁である。1が碗II類、2～5が碗IV類、6・7は碗V類である。8は福建省系の碗である。9は皿であるが詳細は不明、10は皿IV類である。11も皿で、福建省系のものである。12は壺の底部と見られる。13・14は龍泉窯系青磁で、13は外面に草花文をもつ碗、14は器種不明である。15は掲軸の壺、16は灰釉陶器の壺である。17は備前焼の擂鉢、18は李朝の陶器である。(宮本)

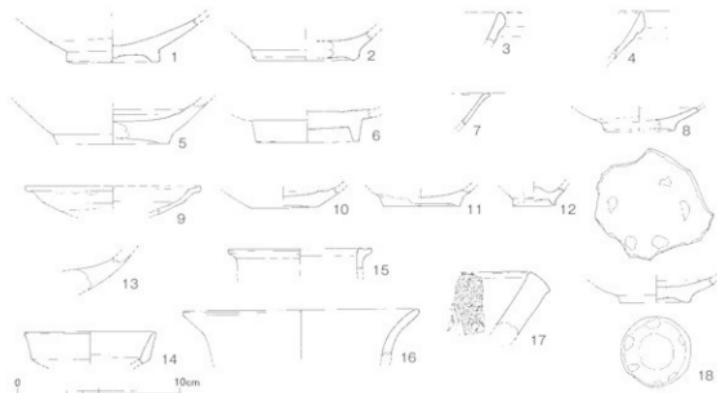


第64図 宮の後地区出土瓦実測図(5) (S=1:6)



第65図 宮の後地区出土土製品実測図 ($S = 1 : 3$ 、 $1 : 4$)

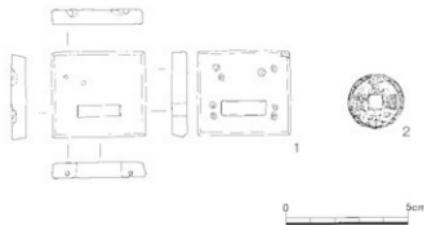
石製品・銭貨 第67図1は、滑石系の石材を用いた巡方である。革製の帯に装着するための穴が裏面に6ヵ所あるが、貫通するものはない。垂孔は細長い長方形を呈し、田中広明氏による分類の小孔型^③に該当する。銅製の巡方を模倣し、端部が斜めに面取りされる点も古い巡方の特徴とされる。時期はⅡ期にあたり、8世紀後半である。2は寛永通宝である。(宮本)



第66図 宮の後地区出土陶磁器実測図 ($S = 1 : 3$)

玉作関連遺物 第68図は玉作関連の資料である。1～11は水晶製、12・13はメノウ製、14は碧玉製で、この他の非掲載資料には黒曜石や黒色頁岩の資料もある(第10表)。

1～3は荒削り段階の資料で、六角柱の原石の側縁を直角に加工している。4～9は原石より剥



第67図 宮の後地区出土遺物実測図 (S = 1 : 2)



第68図 宮の後地区出土玉作関連遺物実測図 (S = 2 : 3)

離された素材剥片である。いずれも垂直な加撃で剥離されているため、主要剥離面のバルブはあまり発達していない。このうち、5・7～9は剥離の初期段階の資料で、背面に礫面が広く残り、断面は立体的に盛り上がっている。これに対して4や6は、連続的に剥離を行なう経過段階の資料と思われる。垂直剥離によって背面や主要剥離面に平坦面が形成されていることから、板状を志向した素材であることが分かる。従って、前者は丸玉など立体的な器種へ、後者は平玉など扁平な器種の素材となった可能性が高いだろう。

10・11は丸玉と平玉の未製品である。10は三面に礫面を残しており、六角柱素材の先端部を素材としていた可能性が高い。敲打と剥離によってほぼ全面を整形しており、一部に研磨痕も認められる。切り合い関係より、剥離・敲打→研磨の順に整形されている。11は小型の平玉の未製品である。全面を剥離と敲打で整形している。注目されるのは、側縁に認められる剥離痕である。恐らく、側縁の敲打整形中にできた偶発的な剥離と思われるが、剥離のリングが対方向に確認できることから、両極技術による痕跡と判断される。つまり、敲打をする際に台石を用いて両極敲打を行っていた可能性が指摘でき、概期の玉作技術をうかがう上で興味深い事例である。

12～14はメノウ・碧玉製の資料である。12・13はメノウ製の平玉で、乳白色に若干黄色みがかつた石材を利用している。両者とも、全面を研磨して仕上げている。14は碧玉製の石核である。分割した礫を素材とし、実測図左面側では分割面を打面として一方向から2枚以上の剥片を剥離している。打点を見ると、打面縁近からかなり深い位置を垂直に加撃しており、厚みをもった剥片を志向していたと思われる。最終剥離痕から剥片の大きさは長さ幅とともに約3cmと推測され、水晶製の他の剥片とはほぼ同じ大きさであったようだ。剥片の長さは、石核の剥離作業面の長さに規制されているため、石核分割時に剥片の大きさを想定して分割されていたと思われる。なお、実測図右面にも



第69図 宮の後地区出土金属器生産関連遺物実測図 (S=1:3)

剥離痕が見られ、こちらは打面縁辺を浅く加撃している。(稲田)

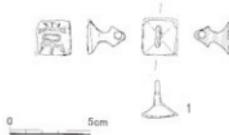
金属器生産関連遺物 第69図1・2は羽口である。外面の一部が被熱により変色して淡灰色を呈するもので、先端部を欠く。孔径は1が3.8cm、2が3.4cmである。3は炉壁で、炉内側はガラス化した滓が全面に付着する。滓を除いた厚さは3cm程度で、炉壁の炉外側はかなり剥離していると見られる。付着する滓は、ガスがよく抜けた密度の低いもので、磁着しない。炉壁の炉内側は被熱のため淡灰色に変色する。4・5は碗形滓である。4は側面に破面がわずかに見られるが、底部外面には炉壁が付着しており、炉底の形状をよく反映するものと見られる。5も碗形滓で、底部外面の一部に炉壁が付着する。4・5とも磁着反応がある。6・7は小形の滓である。鍛冶滓と見られ、磁着反応があるが、破面が大きく詳細は不明である。(宮本)

第3節 出雲国府跡採集資料（第70図）

平成21（2009）年度に鳥根県に寄贈された銅印について紹介する。

この銅印は大倉原地区で個人により採集されていたものである。遺存状態は良く、印面は縁を一部欠くが方形で22mm角に復元され、重量13g、高さは24mmである。鉢は頭頂部が突出して径4mmの円形の孔が開けられ、苔斑A類³¹に分類される有孔のものである。印面には「常」が陽刻されている。文字の大きさは縦19mm、横17mmで、輪郭線から1~2mm離して刻まれている。印文「常」は人名の一字と考えられ、国司あ

るいは郡司の私印であった可能性がある。時期は概ね平安時代と見られるが、「国司補任」などの史料に該当する人物は確認できなかった³²。出雲国府跡における銅印の発見例は2例目³³となる。(宮本)

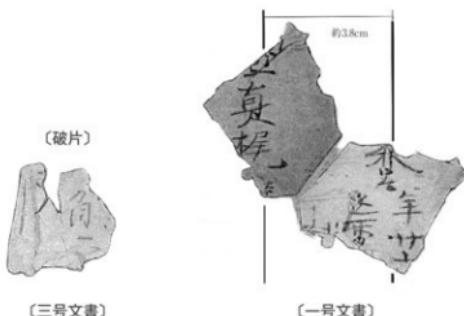


第70図 採集資料（銅印）実測図
(S=1:3)

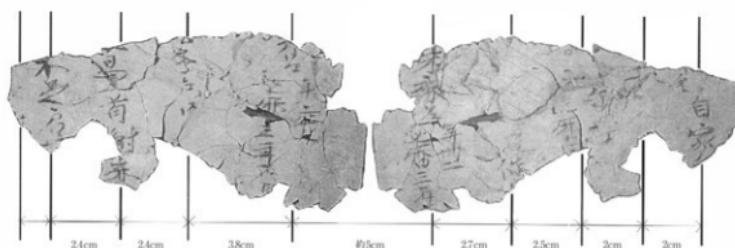
註

- (1) 鳥根県教育委員会「史跡出雲国府跡6」 2009年
- (2) 鳥根県教育委員会「史跡出雲国府跡5」 2008年
- (3) 註(2)と同じ
- (4) 註(2)と同じ
- (5) 註(2)と同じ
- (6) 註(2)と同じ
- (7) a. 松江市教育委員会「出雲国府跡発掘調査概報」 1971年
b. 鳥根県教育委員会「史跡出雲国府跡1」 2003年
- (8) 註(2)と同じ
- (9) 註(2)と同じ
- (10) 奈良文化財研究所「平城京右京八条一坊十一坪発掘調査報告書」 1984年
- (11) 調査時の日記の記述から丹井状造機としたが、造機の機能等は現在のところ不詳である。
- (12) 註(1)と同じ
- (13) 文化財調査コンサルタント株式会社に委託し、AMS年代測定、樹種同定及び花粉分析を行った。
- (14) 註(1)と同じ
- (15) 註(1)と同じ
- (16) 山本 晴「第五 出雲」「新修出雲国分寺の研究」第四卷 1991年
- (17) 註(7)b)と同じ
- (18) 井筒亮「『光明』型埴土器から見た仏教関係遺跡」『出雲古代史研究10』 2000年
- (19) 鳥根県教育委員会「史跡出雲国府跡環境整備報告書」 1975年
- (20) 註(7)b)と同じ
- (21) 出雲国府跡発掘調査指導委員会 大曾泰夫委員の指導による
- (22) 註(14)と同じ
- (23) 田中広明「腰帶の語る古代の官人社会」「地方の豪族と古代の官人」柏書房 2003年
- (24) 田路正幸「考古資料としての古代銅印について」「国立歴史民族博物館研究報告」第79集 1999年
- (25) 鳥根県古代文化センター 野々村安浩氏の調査による
- (26) 昭和18(1943)年に牛岸地区で銅印「春」が採集され、鳥根県指定有形文化財となっている。

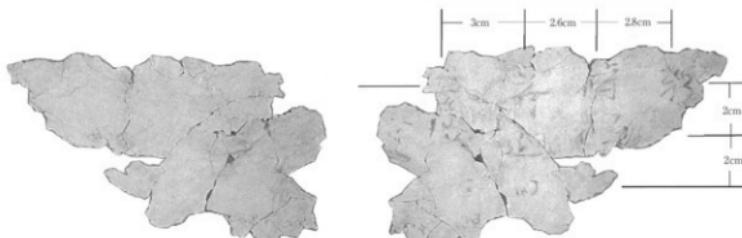
- (1) 岸後男「十二支と古代人名——籍帳記載年齢考」(『日本古代籍帳の研究』)、
塙書房、一九七三年)
- (2) 古尾谷知浩「日本古代の籍帳類にみる死亡人」(『HERSETEC』11—12、
二〇〇九年)



第5図 一号文書・三号文書(破片)



第6図 二号文書の文字配列(各行の心々数値)



第7図 三号文書の文字配列(横行と縱行の心々数値)



第3図-2 秋田城跡出土第16号漆紙文書积文

第3図-1 秋田城跡出土第16号漆紙文書

(秋田市教育委員会・秋田城跡調査事務所
「秋田城出土文字資料集」Ⅲ、2000年)

・人名がすべて男性で、女性がみえないこと
などの相違点も挙げられる。これらについては、別途検討が必要である。
○三号文書
墨痕が薄く、確実に読める文字が少ないため、詳しい内容はわからない。
一行目は「私」、また三行目の二文字目はしんによる文字（返・近などか）
である。三一3は、角偏の文字である。書体から三一1と同一文書である可
能性が高いが、端を二方向から折り込んだ形になつており直接は接続しない。
なお、本漆紙文書の枳文については、佐藤信・古尾谷知浩の両氏に実見し
ていただき、貴重なご意見をいただいた。

・秋田城のものよりも間隔をあけて大きい文字で書かれており、歴年記載の間に一行書きの行が存在するほか、文字の割り付けは天半年間山背国愛宕郡計帳の様式に類似していること

一方で、秋田城跡出土漆紙文書と比較して、年齢区分に関する記載がないこと

秋田城跡漆紙文書と異なり、

である。三一三は、角偏の文字である。書体から三一一と同一文書である可能性が高いが、端を二方向から折り込んだ形になつており直接は接続しない。

人名がすべて男性で、女性がみえないことなどの相違点も挙げられる。これらについては、別途検討が必要である。

・秋田城のものよりも間隔をあけて大きい文字で書かれており、歴年記載の間に一行書きの行が存在するほか、文字の割り付けは天半年間山背国愛宕郡計帳の様式に類似していること

一方で、秋田城跡出土漆紙文書と比較して、年齢区分に関する記載がないこと

秋田城跡漆紙文書と異なり、

の書体から同一文書である可能性は高いものの、少なくとも廃棄時に折りたたまれる際には別々の個体となっていたと推定される。また、三号文書は、行の心を数値が二・六・三・七・九と広く、文字の大きさも二号文書と比べて大きいため、歴名帳簿ではなく書状様の文書であると考えられる。二号文書と三号文書は重なった状態で出土しているが、二号文書には一部四枚重ねの部分（糸文前半部分三・五行目の上の部分）が確認でき、その部分は漆の付着も厚い。このことから、二号文書と三号文書は別の漆桶の蓋紙として使用されていたが、廃棄時に重ねて捨てられたと考えられる。

【本漆紙文書の性格】

○二号文書・二号文書

一号文書・二号文書とともに、歴名形式の帳簿である。人名の下に割書で年齢と年月を記す。現存部分にみえる年号はすべて延暦三年（七八四）のものである。月に関しては二号文書折り目の次の行に割書左「延暦三年」に統けて「正月」とわざかに確認できる。また、割書をもつ人名記載のほかに、一行書きの部分が存在する。人名の中には、天平十一年出雲国大税賑給歴名帳にみえる「日置部首」と同様のウジ名の「日置首」がある。また、「未麻呂」は四十二歳であり、この人物の生年が癸未年（七四三）に合致することも、生年の干支「未」にちなんだ人名の付け方として興味深い。

本文書のよう、人名+年齢+年月

記載を備える歴名帳簿としては、死亡人帳が挙げられる。二号文書折り一行目「自家」の上の「□□」の中心が割書のよう、残画から判断すると「死」の可能性が高いことからも、本漆紙文書は死亡人帳であると考

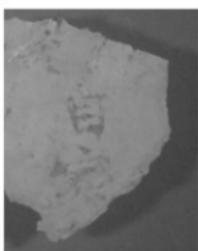


写真1 二号文書 一行目部分

えられる。死亡人帳については、「政事要略」卷五十七に私案大帳枝文の一つとして「死亡帳」が、調帳枝文として「大帳後死帳」が見られる。これらは一年間に死亡した人名を抜き書きした帳簿であり、戸籍や計帳などにおける戸口の異動を照合する文書として京進されていたほか、国府内でとどめ置かれ出舉の際の死亡免査などの基本台帳としても利用されていたと考えられる。

国府における死亡人帳およびその存在を示す出土文字資料として、以下のものが挙げられる。

①郡から国へ進上された死亡人の申告書

○兵庫県称布ヶ森遺跡出土木簡（題籠軸）

朝来郡／死逃帳／天長□／□□三年

②(1)を統合したもの

・計帳歴名への書き込み形式のもの

・計帳別項部から死「人記載を抜き書きした帳簿

○秋田城跡出土第一六号漆紙文書（第3図1-1・2）

本文書は、上下二段書き、二行割書の帳簿であり、墨による抹消痕や墨朱による圈点が確認できるので、京進文書ではなく秋田城内での事務处理に用いられた帳簿であると考えられる。記載方式は、

戸主××戸口

年××

×××

今半（去年）×月×日死

とあり、死亡人が戸口の場合にはその戸主を最初に記載してからその戸

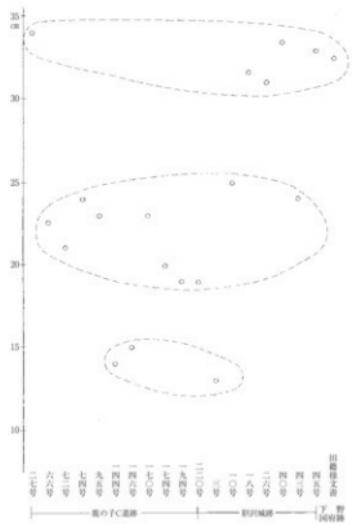
中の死亡人を書き上げている。書き上げられた死亡人の死亡時期は「去年七月」～「今年六月」の一年間である。

③(2)を清書して京進した帳簿

○長岡宮跡出土漆紙文書（第4図）

本漆紙文書の記載様式も、「人名+年齢区分+死亡年月日+死」である。

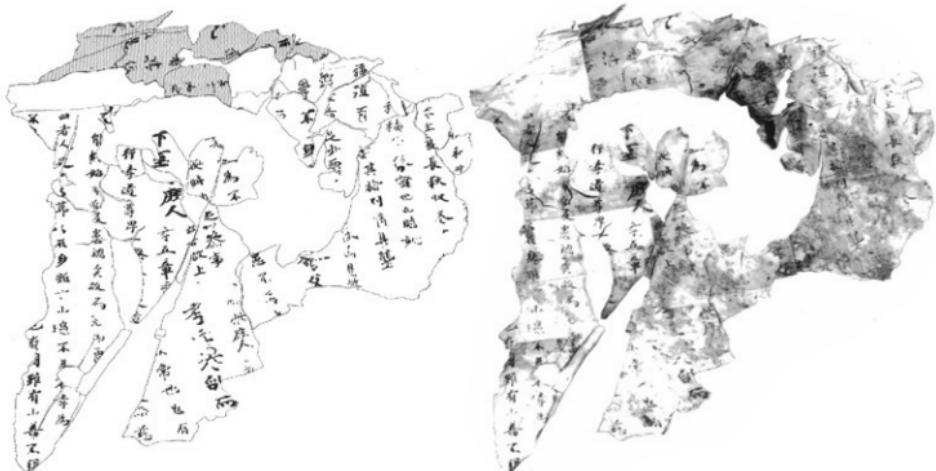
桶の径を想定すると約三十二センチ前後となる。



第1図 漆液を入れた容器（曲げ物）の推定径

三号文書の径三十二センチは、古代の漆桶でも最大の部類に入る。通常紙よりも大きな径の漆桶にふた紙をする場合、胆沢城跡出土漆紙文書（古文孝経）などのように、一紙では足りない部分に別の紙を充ててふさぐ方式がとられた。今回の漆桶径の推定からしても、古代の一紙（縦一尺、横二尺）の大きさでは桶をふさぎきれないで、蓋紙としては二紙以上が用いられたと考えられる。

各文書については、一号文書・二号文書が帳簿形式の文書である。人名の下に割書で年齢と年纪を記す行と、一行書きの部分があり、行間はおおよそ心々数値で二～二・五センチ間隔である。一号文書と二号文書は、後述のように同内容の帳簿形式の文書であると考えられるが、二号文書が文字の行に対して平行した折り目のみであるのに対し、一号文書は一回目の折り目が文字列に対して斜交、二回目が文字に対して平行に折られている。よって、そ



第2図-2 胆沢城跡出土古文孝経
(実測図)

第2図-1 胆沢城跡出土古文孝経
(赤外線テレビ写真)

第4章 島根県 史跡出雲国府跡出土 漆紙文書

平川 南（国立歴史民俗博物館）
武井 紀子（日本学術振興会特別研究員）

【遺構の概要と出土状況】

本漆紙文書は、史跡出雲国府跡平成二二年度調査において、調査区である宮の後地区の四十号土坑の中から出土したもので、同遺跡における漆紙文書の出土は今回で二例目である。本漆紙は四十号土坑の中から、遺構面に垂直の状態で出土した。これは、土坑が中世の井戸の掘削を受けたためである。出土時は、二号文書・三号文書が重なった状態であった（二号文書根文前半部分と三一2号文書を内側にした状態）。その後、両文書を分離・再接続したところ、二号文書根文前半部分の文字を確認できた。

【形状】

本漆紙文書の文字はすべて左文字である。これは、漆面を内側にして折りたたまれた状態で廃棄され、紙の外側が風化したために、漆面の文字が左文字で見えるようになったと考えられる。二号・三号文書とも現状で二つ折りの状態で、展開すると帶状の形を呈している。このような形状は、漆紙文書が出土した遺構が中世の井戸の掘削を受けた時に、本漆紙も大部分を削り取られてしまつたためと考えられる。上述のような出土状況に加え、漆の付着状況からみて漆桶の枠部分を特定できないので、本断簡が漆桶全体のどの部分に相当するかを想定することは難しい。だが、二号文書を折り目部分で展開すると最長二十六センチとなり、漆桶の径は最小で見積もっても二十六センチ以上となるであろう。また、三号文書を展開すると、わずかに円弧状の形に復原でき、それをもとにして漆

【积文】

○ 一号文書

× 麻呂 年廿 ×
延曆

置真榦 年

○ 三号文書 三一1

○ 二号文書

日光寺自家
年

時
日

保

三一2

（墨痕確認できず）

未麻呂 年廿一
延暦三年
…… (折り目) ……

麻呂 年六十一
延暦三年
…… (折り目) ……

三一3

（墨痕確認できず）

日置首鮋麻
年
戸成

日置首鮋麻
年
戸成

木足戸口
日置首鮋麻
年
戸成

第5章 総括

昭和調査区の記録の誤差

平成18（2006）年度に行った報告書作成業務において、昭和調査区で記録された遺構の位置から求められる日本測地系の座標が、実際の座標からずれていることが判明した。この問題を解決するために平成19（2007）年度以降の調査で、昭和調査区を再発掘し座標のずれを確認してきた。

これらの再発掘の結果、各調査区ごとに遺構の位置が異なった方向にずれている事が明らかとなつた。これらの誤差は、昭和調査区に設定した基準線の誤差や座標の記録の誤り等を反映している可能性がある。また、実測図面を合成する際に誤差が生じている可能性もありうる。

これらの誤差の修正の方法を検討した結果、これまで行ってきた小規模なトレーニングによる確認調査では誤差の確定はきわめて困難との結論にいたつた。このため平成22（2010）年度の発掘調査指導委員会で、トレーニング調査の中斷の方針を示し各委員により了承された。

検出した遺構

40号土坑からは、漆紙文書が出土しており、記載された年号「延暦三年（784年）」以降に埋められている事がわかる。先に第3章で述べたように、「国司館」近接地で廃棄物（土器片、漆紙、瓦片など）の処理のため、土坑が掘られたことや、道路の路面上の崖地を整地するため廃棄物が投棄された事などが想定される。

73号溝から出土した須恵器では、出雲国宇第5形式^①が最新の土器型式となり、この溝は9世紀初頭に埋め立てられたものと考えられる。調査区は大倉原地区を中心とする「国司館」の南端部分と想定されている^②。73号溝は、同地区的変遷^③でⅡ-1期の4号溝と同時期に相当する。43号溝の北端と4号溝の南端は延長すると若干ずれつつもほぼ重なる位置関係にある。4号溝は、過去の調査成果から宮の後地区SD034と接続し、「国司館」の東側を区画する溝であったと想定されている^④。今回検出した73号溝がこの区画溝の一部であった可能性は高いと考えられる。

70号溝は、「国司館」の内部をさらに区画する溝である可能性があるが、この溝とSD034の間では、建物が1棟しか検出されていない事などから、区画の南限の溝であった可能性も想定される。遺構の時期は、出土した9世紀末から10世紀初頭頃の土器から、大倉原地区のⅡ-2期に当たると思われている^⑤。

13号井戸は、中世の遺物の混ざる砂利層を掘り抜いて掘削されており、埋土内からは平安時代後半期の土師器（第15図2～5）が出土している。遺構の時期を検出状況から中世の遺構と考えた場合、大倉原地区的遺構変遷では、「国司館」廃絶後のⅢ期に相当する。大倉原地区的調査では、平安時代後半以降の遺構として2号溝・8号溝・1号井戸跡が確認されている^⑥。

大倉原Ⅲ期には、施設群の中心が大倉原地区的やや東寄りに移る事が指摘されている^⑦。今回の13号井戸の検出位置は、大倉原地区的Ⅱ期以前の建物配置の中軸線から東に36m離れた位置にあたりこの指摘と矛盾しない。なお、自然科学分析による年代測定では、この井戸が8世紀後半から10世紀中頃までに作られたとの結果を得ている。

手工業生産

これまでの出雲国府跡の発掘調査では、玉作、金属器生産関連遺物をはじめとする手工業生産関連遺物がまとまって出土している。今回の調査でも、水晶の素材や原石をはじめとする玉作関連遺

物や、羽口・鉄滓等の金属生産関連遺物、漆紙文書等が出土している。42号土坑は鍛冶関連の遺構と想定され、調査区周辺で金属器や玉類を生産する作業が行われていたと考えられる。このほか漆付着土器から漆を使用した作業も行われていたと考えられる。

ただし、これらの作業を行っていた工房と国司館の関係は今回の調査を含め、これまでの調査では明らかになっていない。

漆紙文書

40号土坑からは漆紙文書が出土した⁽³⁾。出雲国府跡からの漆紙文書の出土はこれで2例目となる。文書の性格は死亡人帳とみられ、出雲国府で行われていた文書行政の一端を具体的に示す貴重な資料となった。

成果と課題

今回の調査で大倉原地区の4号溝と同一の溝である可能性が高いと考えられる73号溝を検出した。このことにより、8世紀後葉から9世紀前葉にかけて「国司館」が溝に囲まれた区画を成していたというこれまでの想定が補強されることとなった。しかし、大倉原地区南端部と宮の後地区的調査区北端の間には未調査区が残されており、この地点の発掘調査を進め、両地区的南北溝の関係を明らかにしていく必要がある。また、4号溝とSD034との結節点の検出を目的として、第54トレーナーの調査を実施したが、目的を達することはできなかった。

堂田地区的調査（平成18（2006）年度）では平安時代後半の道路遺構の一部が確認されている。今回の本調査区の東端部分は、道路遺構の延長部分の検出を目的の一つとして調査を行ったが、路面などは検出されなかった。

調査の目的として、「国司館」の施設配置を明らかにすることも掲げたが、建物跡を確認することはできなかった。これは、大倉原地区で多くの建物跡が確認されている状況とは対照的である。「国司館」の南側部分は主要な建物が存在しなかった可能性が考えられる。

これまでの調査で史跡公園北側の中央部付近の古代の整地土層下で、「井桁状遺構」をはじめとして、これまで検出してきた大倉原II期の遺構より古い時期の遺構の存在が確認されている。これらの遺構については、その検出が一部にとどまり内部の調査も不十分なため、様相が明らかになっていない。「国司館」の成立過程を明らかにするためにも、この地点での下層の調査を今後進める必要があると考えられる。

註

- (1) 松江市教育委員会「出雲国守発掘調査概報」1970年
- (2) 烏根郡教育委員会「史跡出雲国府跡1」2003年
- (3) 註2に同じ
- (4) 註2に同じ
- (5) 烏根郡教育委員会「史跡出雲国府跡6」2009年
- (6) 註2に同じ
- (7) 註2に同じ
- (8) 詳細は第4章の報告文に譲る

第3表 出雲国府跡出土遺物観察表

拂回 番号	写真 番号	出土遺物名 出土年月日	種 別	器 種	口徑 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	形態・手法の特徴	施 土	焼 成	色 調	備 考
5-1	10	T52SD01押土080612	須恵器	高台付环		5.2		ナデ。回転ナデ。糸切り	素、白色細砂粒。1mm以下の砂粒を少し含む。	良好	明灰色	外周擦付有り
5-2	10	T52SD01押土080612	須恵器	环	(13.0)	9.0	14.0	ナデ。回転ナデ。糸切り	素、1mm以下の白色細砂粒を多く含む。	良好	灰褐色	
5-3	10	T52未調査区黑色土層 080620	須恵器	蓋	(18.0)			ナデ。回転ナデ。回転ナデ。	素、3mm以下の白色細砂粒を多く含む。	良好	褐色	
5-4	10	T52未調査区黑色土層 080627	須恵器	高台付环		9.0		ナデ。回転ナデ。回転ナデ。糸切り	素、5mm以下の白色細砂粒を多く含む。	良好	明灰色	底外周ヘラ盛り有り
5-5	10	T52未調査区黑色土層 080602	須恵器	高台付环		8.0		ナデ。回転ナデ。回転ナデ。糸切り。糸切り痕	素、1mm以下の白色細砂粒を少し含む。	良好	灰色	底外周爪状痕
5-6	10	T52未調査区黑色土層 080611	須恵器	环	20.8	7.7	4.0	ナデ。回転ナデ。回転ナデ。糸切り	素、2mm以下の白色細砂粒を多く含む。	良好	青灰色	
5-7	10	T52未調査区黑色土層 080611	須恵器	环	11.1	7.9	4.3	ナデ。回転ナデ。回転ナデ。糸切り	素、2mm以下の白色細砂粒を多く含む。	良好	淡褐色	
5-8	10	T52未調査区黑色土層 080620	須恵器	高台付环	20.0	(11.5)	5.4	ナデ。回転ナデ。回転ナデ。糸切り	素、8mm大と3mmの石粒、白色細砂粒を少し含む。	良好	明灰色	
5-9	10	T52未調査区黑色土層 080611	須恵器	皿	14.0	7.9	2.5	ナデ。回転ナデ。回転ナデ。糸切り。回転希望形	素、約1mmの白色砂粒を多く含む。	良好	明灰色	伝統形有り
5-10	10	T52未調査区黑色土層 080610	須恵器	皿	(14.0)	10.0	2.8	ナデ。回転ナデ。回転ナデ。糸切り	素、2mm以下の白色細砂粒を多く含む。	良好	明灰色	
5-11	10	T52未調査区黑色土層 080602	須恵器	皿	6.0			回転ナデ	素、2mm以下の白色細砂粒を少し含む。	良好	明灰色	小型
5-12	10	T52未調査区黑色土層 080611	須恵器	高环		11.0		回転ナデ	素、白色細砂粒を側面に含む。	良好	灰白色	脚部スカシあり
5-13	10	T52未調査区黑色土層 080624	碗	風字模様				ケズリ。ヘラケズリ	素、1mm以下の白色細砂粒を側面に含む。	良好	明灰色	
5-14	10	T52未調査区黑色土層 080620	土器	蓋					素、褐色細砂粒を側面に含む。	良好	淡褐色	宝珠状つまみ、つまみ径：20mm
5-15	10	T52未調査区黑色土層 080620	土器	高台付环		7.0		ナデ。横ナデ	素、褐色細砂粒を側面に含む。	良好	乳褐色	
5-16	10	T52未調査区黑色土層 080610	土器	环	(9.7)	5.1	Q.I.	ナデ。糸切り	素、砂粒を含む。	良好	乳褐色	
5-17	10	T52未調査区黑色土層 080611	土器	环	14.2	5.0	4.2	ナデ。横ナデ	素、2mm以下の白色細砂粒と白色細砂粒を少し含む。	良好	淡褐色	
5-18	10	T52未調査区黑色土層 080620	土器	蓋	(23.0)			ナデ。ハケ目	素、15mm以下の砂粒を含む。	良好	乳褐色	
5-19	10	T52未調査区黑色土層 080620	土器	蓋	(19.2)			横ナデ	素、2mm以下の砂粒を多く含む。	良好	明褐色	
5-20	10	T52未調査区黑色土層 080606	土器	高环	8	9.6		横ナデ	素、4mmの白色細砂粒と白色細砂粒を含む。	良好	乳褐色	足高高台
5-21	10	T52未調査区黑色土層 080620	土器	高环		6.0		横ナデ	素、砂粒を側面に含む。	良好	淡褐色	足高高台付环
5-22	11	T52未調査区黑色土層 080627	土器	高环		5.3		ナデ。横ナデ	素、砂粒を少し含む。	良好	淡褐色	足高高台付环
5-23	11	T52未調査区黑色土層 080602	土器	高环		5.4		ナデ。横ナデ	素、砂粒を少し含む。	良好	淡褐色	足高高台付环
5-24	11	T52未調査区黑色土層 080602	土器	高环	9.0	5.9	Q.I.	ナデ。横ナデ	素、1mm以下の白色細砂粒を多く含む。	良好	淡褐色	
5-25	11	T52未調査区黑色土層 080610	土器	高环		6.0		横ナデ	素、1mm以下の白色細砂粒を多く含む。	良好	淡褐色	
5-26	11	T52未調査区黑色土層 080620	土器	柱状高台付环		4.4		横ナデ。糸切り	素、1mm以下の白色細砂粒を少し含む。	良好	乳褐色	
5-27	11	T52未調査区黑色土層 080620	土器	柱状高台付环		5.7		ナデ。横ナデ。糸切り。	素、砂粒を含む。	良好	淡褐色	
5-28	11	T52未調査区黑色土層 080620	土器	柱状高台付环		7.35		ナデ。横ナデ。糸切り	素、砂粒を少し含む。	良好	乳褐色	
5-29	11	T52未調査区黑色土層 080602	土器	柱状高台付环		6.3		横ナデ。糸切り	素、1mm以下の砂粒を含む。	良好	乳褐色	
5-30	11	T52未調査区黑色土層 080602	土器	柱状高台付环		9.0		ナデ。横ナデ。糸切り	素、砂粒を含む。	良好	乳褐色	
5-31	10	T52未調査区黑色土層 080620	土器	瓶				ナデ	素、砂粒を多く含む。	良好	淡褐色	把手
6-1	11	T52未調査区黑色土層 080628	白磁	瓶	(15.0)			施輪。回転ナデ	素	良好	灰白色	圓方型
6-2	11	T52未調査区黑色土層 080602	白磁	瓶	(5.0)			内面施輪。ケズリ	素	良好	灰白色	圓V型
6-3	11	T52未調査区黑色土層 080620	白磁	盖	(5.0)			内面施輪。ケズリ	素	良好	灰白色	圓舌型
6-4	11	T52未調査区黑色土層 080620	白磁	四耳壺	8.0			施輪	素	良好	灰白色	直首型
6-5	11	T52未調査区黑色土層 080625	中空器	盖				回転ナデ。ナデ	素、細砂粒を少し含む。	良好	黄褐色～灰白色	把手
6-6	11	T52未調査区黑色土層 080627	杏葉器	杏葉				施輪。回転ナデ	素、細砂粒を少し含む。	良好	オーバープラグ	直首型
6-7	11	T52未調査区黑色土層 080620	杏葉器	杏葉				回転ナデ。ナデ。平行クサギ。追昇張	素、白色細砂粒を側面に含む。	良好	黄褐色	

検証番号	写真 図版	出土実績名 出土日月日	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成 色調	備考
6.8	11	T52W反1土08002 底厚1.0cm 底径1.0cm	容器系 鉢					施釉、ナデ	密、白・黑色砂粒を少し含む	良好	オリーブ灰 ～黒色
7.1	12	T52W反1土080025	煎壺器	耳壺	(14.0)			回転ナデ	更、細砂粒を確かに含む	良好	深赤灰色 外面灰被り
7.2	12	T52W反1土080027	煎壺器	高台付耳	(5.3)			ナデ、回転ナデ、回転系 切り	更、1mm以下の砂粒を全体に少し含む	良好	深灰色
7.3	12	T52W反1土080027	煎壺器	高台付耳	(7.2)			回転ナデ、回転系切り	更、2mm以下の白・黑 色砂粒を少し含む	良好	灰色
7.4	11	T52W反1土080006	煎壺器	高台付耳	6.5			ナデ、回転ナデ、回転ケ ズリ、系統圧痕	更、2mm以下の白・黑 色砂粒を多く含む	良好	暗灰色
7.5	12	T52W反1土080011	煎壺器	耳	(11.2)	(9.4)	4.0	回転ナデ、系切り	更、1mm以下の白・黑 色砂粒を少し含む	良好	深灰色
7.6	12	T52W反1土080022	煎壺器	盤				ナデ、回転ナデ	更、1mm以下の白・黑 色砂粒を多く含む	良好	暗灰色
7.7	12	T52W反1土080006	煎壺器	蓋	(20.1)			回転ナデ、タッキ後ケズ リ	更、1mm以下の白・黑 色砂粒を多く含む	良好	明灰色 軽用吸
7.8	12	T52W反1土080023	煎壺器	蓋+裏	(4.8)			ナデ、回転ナデ、ケズリ	更、2mm以下の白・黑 色砂粒を多く含む	良好	灰白色
7.9	12	T52W反1土080025	煎壺器	平底				面取り	密、白・黒・手造り細 砂粒を少し含む	良好	深灰色 把手
7.10	12	T52W反1土080022	煎壺器	長脚瓶	(11.4)			回転ナデ、回転ケズリ、 静止系切り	更、3mmの白色砂と細 砂粒を少し含む	良好	明灰色 表面外静止系切り、 内面墨刷、軽用吸
7.11	11	T52ハイF1980702	煎壺器	蓋+題				回転ナデ	更、1mm以下の白・黑 色砂粒を少し含む	良好	暗灰色
7.12	12	T52W反1土080021	煎壺器	蓋+題				ナデ、回転ナデ	更、1mm以下の白色砂 粒を多く含む	良好	明灰色 打刃墨壓土器器、把 手付き
7.13	12	T52W反1土080023	煎壺器	蓋				回転ナデ、絞り瓶	更、2mm以下の白・黑 色砂粒を少し含む	良好	暗褐色灰
7.14	12	T52W反1土080009	煎壺器	蓋	(5.2)			回転ナデ、回転ケズリ、 面取り	更、0.5mm以下の白・ 黑色砂粒を少し含む	良好	灰 小型
7.15	11	T52W反1土080022	煎壺器	蓋				回転ナデ	更、細砂粒を確かに 含む	良好	暗褐色
7.16	12	T52W反1土080009	煎壺器	蓋				ナデ	更、白色砂粒を少し 含む	良好	ハラ括き□
7.17	12	T52W反1土080028	土器類	砂輪車				ハケ目、ハラケズリ	密、砂粒を多く含む	良好	暗褐色 要の軸用、外径：約42 cmφ、厚：0.6cm
7.18	11	T52W反1土080027	土器類	枝状高台 付耳	3.5			ナデ、回転系切り	更、1mm以下の白・黑 色砂粒を少し含む	良好	乳褐色
7.19	11	T52W反1土080027	土器類	枝状高台 付耳	5.2			様ナデ、回転系切り	やや密、3mm以下の砂 粒を多く含む	良好	乳褐色
7.20	11	T52W反1土080028	土器類	枝状高台 付耳	6.3			ナデ、回転系切り	密、砂粒を多く含む	良好	乳褐色
7.21	12	T52W反1土080004	土器類	枝状高台 付耳	3.9			ナデ、回転系切り	密、白・橙色砂粒を 含む	良好	淡褐色
7.22	12	T52W反1土080021	土器類	高台付耳	(11.8)				密	良好	乳褐色～棕 褐色 内外面赤彩
7.23	12	T52W反1土080004	土器類	蓋				様ナデ	更、1mm以下の砂粒を 多く含む	良好	明褐色
7.24	12	T52W反1土080011	土器類	蓋				ハケ目	密、砂粒を多く含む	良好	暗褐色
7.25	12	T52W反1土080023	土製品	土拂				ナデ	更、6mm以上の白・ 黑色砂粒を多く含む	良好	淡褐色
7.26	12	T52W反1土080009	土製品	土拂					密、砂粒を少し含む	良好	褐褐色
7.27	12	T52W反1土080009	土製品	移動式爐				ナデ	やや粗、砂粒を多く 含む	良好	淡褐色
7.28	12	T52W反1土080004	土製品	爐				ナデ	やや粗、1mm以下の砂 粒を多く含む	良好	淡赤褐色 把手
8.1	11	T52W反1土080023	白磁	圓	(5.7)			内面施釉、ケズリ	密	良好	に赤い黄 白白色
8.2	11	T52W反1土080023	白磁	圓	(4.5)			施釉、回転ナデ	密	良好	白白色
8.3	11	T52W反1土080027	白磁	圓	(3.2)			施釉	密	良好	白白色
8.4	11	T52W反1土080028	白磁	圓	(5.0)			施釉	密	良好	白白色
8.5	11	T52W反1土080004	白磁	圓	(36.0)			施釉	密	良好	白白色
8.6	11	T52W反1土080023	白磁	圓	(7.1)			施釉、ケズリ	密	良好	白白色 内・外・質
8.7	11	T52W反1土080023	白磁	圓	(5.0)			施釉、ケズリ、段あり	密	良好	白白色 建物名
8.8	11	T52W反1土080027	白磁	圓				施釉	密	良好	白白色
8.9	11	T52W反1土080022	白磁	圓				施釉	密	良好	白白色
8.10	11	T52W反1土080028	白磁	圓				施釉	密	良好	白白色
8.11	11	T52W反1土080010	白磁	圓				施釉	密	良好	白白色
8.12	11	T52W反1土080023	白磁	小口+合 子	(3.0)			施釉、ケズリ	密	良好	灰黃色～灰 白色
8.13	11	T52W反1土080028	白磁	蓋				施釉、回転ケズリ、沈継2条	密	良好	灰白色
8.14	11	T52W反1土080026	青磁	圓				施釉	密	良好	明褐色～灰 白色 龍泉窯系瓶V類
8.15	11	T52W反1土080023	青磁	圓	(3.0)			施釉	密	良好	灰オーリーブ 越州系
8.16	11	T52W反1土080028	中国陶器	蓋				施釉、回転ナデ	密、1mm以下の黑色砂 粒を少し含む	良好	黄褐色～灰白 褐色

種別 番号	写真 番号	出土遺物名 出土年月日	種 別	器 種	口徑 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	形態・手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
8-17	11	T52ハイド080702	灰陶陶器	碗	(13.7)			回転ナデ	重	良好	灰白～明緑 灰色	一部縮あり
8-18	11	T52埋戻土080528	灰陶陶器	碗		8.8		回転ナデ、ナデ	重	良好	灰 白～オーブ グリーン	内面縮あり
8-19	11	T52埋戻土080609	縁付陶器	盤	(14.2)			輪郭	重	良好	オーブ灰 ～灰白色	縁(破質)
8-20	11	T52埋戻土080521	縁付陶器	盤				輪郭	重	良好	明緑色～灰 白色	近江系(破質)
8-21	11	T52埋戻土080526	縁付陶器	盤				輪郭、回転ナデ	重、細砂粒を少し含む	良好	オーブ灰 ～灰褐色	
11-1	13	T53内側アート灰陶 粘土質土090901	須恵器	环	(10.2)		3.5	ナデ、回転ナデ	重、砂粒を少し含む	良好	灰	
11-2	12	T53内側アート灰陶 (091208)	須恵器	盖	12.6		3.2	ナデ、回転ナデ、回転ナデ	重、白・黑色砂粒を含む	良好	青灰白色	宝珠状つまみ、つまみ径：2.2cm
11-3	13	T53内側アート灰陶 (091208)	須恵器	高台付环	(16.8)	(11.8)	3.2	ナデ、回転ナデ	重、白色砂粒を含む	良好	灰白色	
11-4	13	T53内側アート灰陶 (091222)	須恵器	环	(12.6)	6.0	4.4	ナデ、回転ナデ	重、白色砂粒を多く含む	良好	灰白色	
11-5	13	T53埋戻土090928	須恵器	皿	(25.0)	6.0	3.1	ナデ、回転ナデ、回転ナデ	重、白・黑色砂粒を含む	良好	青灰白色	
11-6	13	T53内側アート灰陶 091125	須恵器	要				ナデ、回転ナデ、回転ナデ	重、白色砂粒を含む	良好	暗青灰色	
11-7	12	T53内側アート灰陶 091109	須恵器	蓋	14.5		1.5	ナデ、回転ナデ、回転ナデ	重、2mm以下の白・黑色砂粒を多く含む	良好	青灰白色	ボタン状つまみ、つまみ径：1.5cm
11-8	12	T53内側アート灰陶 091207	土器	蓋				回転ナデ、回転ケズリ	重、砂粒を少し含む	良好	乳白色～青 褐色	外側赤彩
11-9	12	T53埋戻土090925	須恵器	环				ナデ、回転ナデ、静止系	重、白色砂粒を少し含む	良好	明灰褐色	
11-10	13	T53埋戻土090728	須恵器	环+				ナデ、回転ナデ、灰灰陶、浅腹、回転ナデ	重、砂粒を僅かに含む	良好	灰	突起物あり
11-11	13	T53埋戻土090925	須恵器	环+				ナデ、回転ナデ、カキ目	重、砂粒を少し含む	良好	灰	灰外側ヘラ記号「×」
11-12	12	T53埋戻土090101	土器	高台付皿				横ナデ	重、白色砂粒を僅かに含む	良好	淡青褐色	内面赤彩
11-13	12	T53埋戻土090924	青磁			6.3		横ナデ	重	良好	暗青色	
11-14	13	T53091125	白磁	蓋		6.5		回転ナデ、ケズリ	重	良好	灰白色	
15-1	14	N3GE28S201北西隅土 F 09090728	須恵器	高台付环				ナデ、回転ナデ	重、1mm以下の白色砂粒を含む	良好	明灰白色	
15-2	14	N3GE28S201北西隅土 F 09090730	土器	高环	10.8			ナデ、回転ナデ	重、白色砂粒を少し含む	良好	乳白色	
15-3	14	N3GE28S201北西隅灰陶 上土090723	土器	高环		6.2		横ナデ、ナデ	重、砂粒をとても多く含む	良好	淡褐色	
15-4	14	N3GE28S201北西サブ ト上土下層(最) F 09090730	土器	高环		6.0		ナデ、横ナデ	重、砂粒を多く含む	良好	乳白色	足高高台环、高台 滑擦
15-5	14	N3GE28S201北西サブ ト上土下層(最) F 09090728	土器	高环		6.78		横ナデ、ナデ	重、褐色砂粒を少し含む	良好	乳白色	
16-1	14	N3GE28S201北西サブ ト上土下層(最) F 09090724	瓦	平瓦				凸面・格子タキ12 凹面・凹面：布目：束 系帯引張、圓錐ケズリ	2mm以下の白色砂粒を多く含む	やや不良	淡黄色	秋質
16-2	14	N3GE28S201北西サブ ト上土下層(最) F 09090724	瓦	平瓦				凸面・格子タキ12 凹面：布目压痕、ナデ、 横ケズリ	1mm以下の砂粒をとても多く含む	やや不良	淡黄色	秋質
16-3	14	N3GE28S201北西サブ ト上土下層(最) F 09090720	瓦	平瓦				凸面・織目タキ12 凹面：布目压痕、布切引痕	白・黑色砂粒を多く含む	やや不良	淡褐色	秋質
16-4	14	N3GE28S201北西サブ ト上土下層(最) F 09090720	瓦	平瓦				凸面・織目タキ12 凹面：布目压痕、布切引痕	2mm以下の砂粒を多く含む	やや不良	灰褐色	秋質
16-5	14	N3GE28S201北西サブ ト上土下層(最) F 09090728	瓦	丸瓦				凸面・ナデ、ケズリ・西面 布目压痕、圓錐ケズリ	1mm以下の白色砂粒を多く含む	良好	灰	硬質
21-1	15	N3GE08SD0008上層 091104	須恵器	高台付环		8.6		回転ナデ、回転希留ナデ	重、白・黑色砂粒を含む	良好	灰白色	
21-2	15	SD0001埋土090901	須恵器	环	(12.0)	6.75	3.3	ナデ、回転ナデ、回転希 留ナデ	重、白・白色砂粒を多く含む	良好	明灰白色	
22-1	15	N3GE10SD002下層 091128	瓦	平瓦				凸面・織目タキ西面 ナデ、横ケズリ	白・黒・暗赤色の砂 粒を多く含む	やや不良	灰	植巻作りキ
22-2	15	N3GE10SD001%267 091128	瓦	平瓦				凸面・風化・西面：布目 压痕、布切引痕	1mm以下の砂粒を多く含む	やや不良	淡黄色	秋質
22-3	15	N3GEWS001%259 091106	瓦	軒丸瓦					白色砂粒を多く含む	やや不良	灰白色	瓦当面、瓦云 固分合2個、印蓋つり 法
22-4	15	N3GEWS001%263 090905	瓦	丸瓦				凸面・ナデ・西面：布目 压痕、圓錐ケズリ	白色砂粒を僅かに含む	やや不良	灰白色	秋質
22-5	15	N3GEWS001%268 091120	瓦	丸瓦				凸面・ナデ・西面：布目 压痕、圓錐ケズリ	白・優色砂粒を少し含む	やや不良	灰白色	秋質
22-6	15	N3GEWS001%269 091120	瓦	丸瓦				凸面・ナデ・西面：布目 压痕、圓錐ケズリ	白色砂粒を僅かに含む	やや不良	淡褐色	秋質
24-1	16	N3GEWS002下層 081127	須恵器	蓋	14.9		3.2	ナデ、回転ナデ、回転ナデ リ、回転ケズリ	重、3mm以下の砂粒を 多く含む	良好	淡褐色	長短つまみ、つまみ 径：5.4cm、全体的に 赤みを帯びる
24-2	16	N3GEWS002上層 081102	須恵器	蓋				ナデ、回転ナデ、回転ナデ リ	重、1mm以上の白・黑 色砂粒を含む	良好	灰	ボタン状つまみ、つ まみ径：2.7cm
24-3	16	N3GE11-28SD002地 上土090119	須恵器	蓋				ナデ、回転ナデ、回転ナデ リ	重、2mm以上の白・黑 色砂粒を多く含む	良好	暗青灰色	内面や絞部・茎部、 糊跡

検証番号	写真	試験箇所	出土土体構成物 出土日月日	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	基高(cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
24-4	16	N33E15-2SD10002 原土上.0601119	直窓器	蓋	(16.0)				ナゲ、回転ナゲ、回転ケイズリ	泥、2mm以下の白色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
24-5	16	N33E15-2SD10002 原土上.1M061119	直窓器	蓋	(16.0)				ナゲ、回転ナゲ、回転ケイズリ	泥、4mm以下の白色砂粒を多く、2mm以下の黒色砂粒を少し含む	良好	明灰色	内面墨痕+
24-6	16	N33E15D0002a.290 061120	直窓器	高台付耳		7.6			ナゲ、回転ナゲ	泥、白色砂粒を少し含む	良好	明灰色	
24-7	16	N33E15D0002a.290 061120-25	直窓器	高台付耳		8.0			ナゲ、回転ナゲ	泥、3mm以下の白色砂粒、黒色細砂粒を多く含む	良好	明灰色	
24-8	16	N33E15D0002a.290 061120-25 N33E15-2SD10002 原土上.0601119	直窓器	耳	(12.0)	8.0	8.3		ナゲ、回転ナゲ、回転ケイズリ	泥、1mm以下の白色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
24-9	16	N33E15D0002a.290 061120-25	直窓器	耳	21.5	8.7	3.6		ナゲ、回転ナゲ、回転ケイズリ	泥、2mm以下の白色砂粒、黒色細砂粒を多く含む	良好	明灰色	
24-10	16	N33E15D0002a.290 原土上.060120-20 N33E15-2SD10002 原土上.060120-20	直窓器	耳	11.8	7.0	4.2		ナゲ、回転ナゲ、回転ケイズリ	泥、白色砂粒を多く含む	良好	暗灰色	内面灰面斑、道具痕+
24-11	16	N33E15-2SD10002 原土上.060120-25	直窓器	耳	(9.0)	(5.7)	2.8		ナゲ、回転ナゲ、回転ケイズリ	泥、2mm以下の白・黒色砂粒を少し含む	良好	明灰色	外明灰土器上、内面 研磨・墨痕、輪環破
24-12	16	N33E15-2SD10002 原土上.060120-25	直窓器	高台付耳	(20.0)	(15.7)	(13.0)		ナゲ、回転ナゲ	泥、3mm以下の白色砂粒、白色細砂粒を多く含む	良好	明灰色	輪環
24-13	16	N33E15-2SD10002 原土上.060120-25	直窓器	耳					ナゲ、回転ナゲ、回転ケイズリ	泥、2mm以下の白・黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	内面挂壁+、外面部墨痕+、輪環破
24-14	16	N33E15-2SD10002 原土上.060120-25 N33E15-2SD10002 原土上.060120-25	直窓器	蓋					回転ナゲ、回転ケイズリ ナゲ、静止系切り	泥、2mm以下の白・平滑明砂粒を多く含む	良好	明灰色	
24-15	16	N33E15-2SD10002 原土上.060120-25 N33E15-2SD10002 原土上.060120-25	直窓器	耳	(20.0)				回転ナゲ、タタキ	泥、3mm以下の白色砂粒、黑色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
24-16	16	N33E15-2SD10002 原土上.060120-25 N33E15-2SD10002 原土上.060120-25	直窓器	長頸瓶					回転ナゲ、ケイズリ	泥、4mm以下の白色砂粒、細砂粒を多く含む	良好	明灰色	
24-17	16	N33E15-2SD10002 原土上.060120-25 N33E15-2SD10002 原土上.060120-25	直窓器	長頸瓶					回転ナゲ	泥、1mm以下の白色砂粒を少し含む	良好	明灰色	罐面剥付+、外面部 墨痕
24-18	16	S00002a.290灰土層 060003	直窓器	長頸瓶					ナゲ、回転ナゲ、回転ケイズリ	泥、1mm以下の白色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
24-19	17	N40E15D0002 090826-090827 N33E15-2SD10002 原土上.060120-25 N33E15-2SD10002 原土上.060120-25	直窓器	耳					回転ナゲ、回転ケイズリ	泥、1mm以下の白色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
24-20	17	N33E15-2SD10002 原土上.060120-25 N33E15-2SD10002 原土上.060120-25	直窓器	耳					回転ナゲ、回転ケイズリ、同心内 凹凸系切り	泥、白・黒色細砂粒を少し含む	良好	明灰色	
24-21	16	N33E15D0002a.290 原土上.060120-25	直窓器	長頸瓶		8.4			回転ナゲ、回転ケイズリ、 回転系切り	泥、1mm以下の白色砂粒を少し含む	良好	明灰色	内面、瓶底斑、高台 輪環跡
24-22	17	S00002a.290灰土層 060003	直窓器	高耳					ナゲ、回転ナゲ	泥、1mm以下の白色砂粒をとても多く含む	良好	明灰色	
24-23	17	S00002a.290灰土層 060003	直窓器	蓋					塔子タッキ、同心内当 円板	泥、3mm以下の白・黒色砂粒を含む	良好	暗青灰色	
25-1	17	N33E15D0002a.290 原土上.060120-25	瓦	丸瓦					凸面+ナゲ、凹面+布片 糊捺捺接ケイズリ	1mm以下の白・糊捺捺 接砂粒を多く含む	やや不良	灰色	痕跡、無段式
25-2	17	N33E15D0002a.290 原土上.060120-25	瓦	平瓦					凸面+糊捺捺接ケイズリ ナゲ、糊捺捺接ケイズリ	1mm以下の白・糊捺捺 接砂粒を多く含む	やや不良	灰色	痕跡
26-1	17	N33E15D0002a.290 原土上.060120-25	土製品	土拂					ナゲ	やや糊、砂粒を多く含む	良好	浅褐色	糊捺捺接、1.2cm 幅辺
26-2	17	N40E15D0002 090826	移耕式壙	瓦					ナゲ、ハラケイズリ	やや糊、砂粒を多く含む	良好	暗青灰色	痕跡、瓦上部
26-3	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	蓋	(10.7)		2.1		ナゲ、回転ナゲ、回転ケイズリ、 回転系切り	泥、白色砂粒を含む	良好	明灰色	直状灰つまみ、つま み辺: 17cm
26-4	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	蓋	(12.8)		2.8		ナゲ、回転ナゲ	泥、3mmの黒色と白 色細砂粒を含む	良好	青灰色	直状灰つまみ、つま み辺: 11cm
26-5	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	蓋	(12.8)		2.8		ナゲ、回転ナゲ、回転ケイズリ	泥、白色砂粒を含む	良好	青灰色	内面研磨、輪環
26-6	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	高台付耳	(35.0)	9.4	6.4		ナゲ、回転ナゲ、回転ケイズリ	泥、白・黒色砂粒を 多く含む	良好	灰白色	
26-7	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	高台付耳	(30.0)				ナゲ、回転ナゲ、静止系 切り	泥、白・黒色砂粒を 多く含む	良好	灰白色	
26-8	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	高台付耳	(30.0)				ナゲ、回転ナゲ、静止系 切り	泥、白・黒色砂粒を 多く含む	良好	灰白色	
26-9	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	高台付耳	(30.0)				ナゲ、回転ナゲ	泥、砂粒を握り心に含む	良好	青灰色	高台内面フメ状 灰
26-10	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	高台付耳	(30.0)				ナゲ、回転ナゲ、静止系 切り	泥、白・黒色砂粒を 多く含む	良好	灰白色	内面墨痕、輪環
26-11	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	高台付耳	(30.0)				ナゲ、回転ナゲ、回転ケイズリ	泥、白・黒色細砂粒を 多く含む	良好	灰白色	
26-12	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	高台付耳	(30.0)				ナゲ、回転ナゲ	泥、白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
26-13	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	高台付耳	(30.0)				ナゲ、回転ナゲ	泥、白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
26-14	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	高台付耳	(30.0)				ナゲ、回転ナゲ	泥、白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
26-15	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	高台付耳	(30.0)				ナゲ、回転ナゲ	泥、白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
26-16	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	高台付耳	(30.0)				ナゲ、回転ナゲ	泥、白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
26-17	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	高台付耳	(30.0)				ナゲ、回転ナゲ	泥、白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
26-18	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	高台付耳	(30.0)				ナゲ、回転ナゲ	泥、白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
26-19	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	高台付耳	(30.0)				ナゲ、回転ナゲ	泥、白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
26-20	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	高台付耳	(30.0)				ナゲ、回転ナゲ	泥、白色砂粒を多く含む	良好	灰色	
26-21	17	T54-1620灰土層 060009	直窓器	高台付耳	(30.0)				ナゲ、回転ナゲ	泥、白色砂粒を多く含む	良好	灰色	

種 因 番号	写 真 面版	出土遺物名 出土年月日	種 別	器 形	口徑 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	形態・手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考	
28-12	18	T54 N16E25W6色粘土 1.5.09030	須志器	甌	16.6			回転ナデ。同心円当て具 痕	重、1mm以下の白色砂 粒を複数に含む	良好	灰白		
28-13	18	T54 N16E25W6-ト短 091015陶片-東洋サ ブリ-6色粘土層 090909	須志器	甌				回転ナデ、波状文	重、白・黒色砂粒を 複数に含む	良好	灰白	三段の波状文	
28-14	18	T54 N16E25W6色粘 土1.5.09030	須志器	長脚甌+	6.2			回転ナデ	重、白色細砂粒を複 数に含む	良好	淡赤灰白	自然輪付希	
28-15	18	T54 N16E25W6色粘 土1.5.09030	須志器	高耳				回転ナデ	重、白・黒色砂粒を 含む	良好	灰白色		
28-16	18	T54 N16E25W6色粘 土1.5.09030	須志器	高耳				回転ナデ、沈刷。硬り痕 を多く含む	重、2mm以下の白色砂 粒を多く含む	良好	暗赤灰白	脚部	
28-17	18	T54 N16E25W6色粘 土1.5.09030	須志器	瓶類				ナデ、回転ナデ	重、白色砂粒を含む	良好	灰白		
28-18	18	T54 N16E25W6色粘 土1.5.09030	須志器	瓶				ナデ、平行タタキ。同心 円当て具痕	重、白・黒色砂粒を 含む	良好	青灰白		
28-19	18	T54 N16E25W6色粘 土1.5.09030	須志器	甌				回転ナデ。平手タタキ。 沈刷。同心円当て具痕	重、白色砂粒を含む	良好	暗赤灰白		
28-20	18	T54 N16E25W6色粘 土1.5.09030	須志器	伝持土 器				回転ナデ	重、白・黒色砂粒を 含む	良好	青灰白		
28-21	17	T54 N16E25W6色粘 土1.5.09030	土器	高台付甌	13.0	0.9	3.5	ナデ、横ナデ	重、細砂粒を複数か に含む	良好	乳褐色		
28-22	18	N16E25W6色粘土層 091125	土器	移動式甌				ナデ、ヘラケツリ	やや重、砂粒を多く 含む	良好	淡褐色		
28-23	18	N16E25W6色粘土層 090908	土器	土鉢				ナデ	やや重、砂粒を多く 含む	良好	淡褐色	長さ：6.5cm幅：4.0cm 厚さ：3.9cm孔径：1.7 cm	
28-24	18	N16E25W6色砂利 090916	土器	土質支脚				ヘラケツリ	粗、砂粒を多く含む	良好	淡褐色～淡 綠色		
28-25	18	T54 N16E25W6色粘 土090907	須志器	蓋	15.2			ナデ、回転ナデ、回転ケ ツリ	重、白・黒色砂粒を 含む	良好	灰白		
28-26	18	T54 N16E25W6色砂利 090907	白磁	蓋		6.0		ナデ、ケツリ	重	良好	灰白色		
29-1	18	N16E25W6色粘土層 156 090917	須志器	高环				回転ナデ	重、1mm以下の白・相 互に合む	良好	乳褐色		
29-2	18	T54 N16E25W6色粘 土1.5.090907	須志器	平瓶				ナデ、回転ナデ	重、砂粒を複数か に含む	良好	灰白色		
29-3	18	T54 N16E25W6色粘 土1.5.091119	白磁	瓶				鶴嘴、回転ナデ	重	良好	灰白色	V型	
29-6	19	N16E25W6268 091023 T54	瓦	丸瓦				凸面・ナデ・凹面：布目 压痕、系切り痕、布の縫 じ合せ等、隕接端接ケス リ	白・黑色細砂粒を少 し含む	やや不良	灰白色	軋質、瓦当面長：165 cm最大幅：32cm、出 雲笠寺分寸2點	
29-7	19	N16E25W6色粘土層 154 090917 T54	瓦	軒丸瓦				凸面・ナデ	白・黑色細砂粒を少 し含む	やや不良	浅黃褐色	秋質、瓦当面長：165 cm最大幅：32cm、出 雲笠寺分寸2點	
31-1	19	N16E25W6色粘土層 090905	須志器	蓋	14.7		2.3	ナデ、回転ナデ、回転ケ ツリ	重、1mm以下の砂粒を 多く含む	良好	灰白	算額伏つまみ、つま み径：25cm	
31-2	19	N16E25W6色粘土層 090907	須志器	蓋	16.7			ナデ、回転ナデ、回転系 切り	重、粗、白色砂粒を少 し含む	良好	淡褐色		
31-3	19	N16E25W6色粘土層 090905	須志器	皿	14.1	8.4	2.4	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	重、3mm以下の白・相 互に合む	良好	明灰色		
31-4	19	N16E25W6色粘土層 090905	須志器	高台付盤	18.7	14.3	3.6	ナデ、回転ナデ	重、3mm以下の白・相 互に合む	良好	淡褐色		
31-5	19	N16E25W6色粘土層 090928	須志器	高环+盤				ナデ、回転ナデ	重、白・黒色砂粒を 含む	良好	青灰白		
31-6	19	N16E25W6色粘土層 090904	須志器	高环				ナデ、回転ナデ、硬り痕 を多く含む	重、3mm以下の白・相 互に合む	良好	明灰色		
31-7	19	N16E25W6色粘土層 090901	須志器	要	19.5			回転ナデ、平行タタキ。 同心円当て具痕	重、2mm以下の白色砂 粒を多く含む	良好	明灰色		
31-8	19	N16E25W6色粘土層 090905	須志器	盤	圓盤門付	17.2	18.9	6.50	回転ナデ	重、2mm以下の砂粒を 多く含む	良好	明灰色	外側面被り
32-1	20	N16E25W6色粘土層 090907	瓦	平瓦				凸面・格子タタキ2、壓 印、西面：布目压痕、系 切り痕、ナデ、隕接端接 ケズリ	2mm以下の砂粒を多く 含む	やや不良	灰白～灰白	秋質	
32-2	20	N16E25W6色粘土層 090905	瓦	平瓦				凸面・格子タタキ2、壓 印、西面：布目压痕、系 切り痕ケズリ	2mm以下の白・黒色砂 粒を多く含む	やや不良	灰白色	秋質	
32-3	20	N16E25W6色粘土層 090907	瓦	平瓦				凸面・格子タタキ4、西面 ：布目压痕、系切り痕、壓 印	2mm以下の白色砂粒 を多く含む	良好	灰白	硬質	
32-4	20	N16E25W6色粘土層 090903	瓦	平瓦				凸面・格子タタキ4、壓 印、西面：布目压痕、系 切り痕、隕接端接ケズリ	2mm以下の白色砂粒 を多く含む	やや不良	灰白～灰白	秋質、最大長：34.8cm 最大幅：21.7cm最大厚 ：2.2cm	
32-5	20	N16E25W6色粘土層 090903	瓦	平瓦				凸面・格子タタキ4、壓 印、西面：布目压痕	白色砂粒を少し含む	良好	灰白	硬質	
32-6	20	N16E25W6色粘土層 090907	瓦	平瓦				凸面・格子タタキ4、西面 ：布目压痕、系切り痕、壓 印	3mm以上の白色砂粒 を多く含む	やや不良	浅黃褐色	秋質	
32-7	20	N16E25W6色粘土層 090903	瓦	平瓦				凸面・格子タタキ4、ナデ 凹面：布目压痕、系切 り痕、ナデ、隕接端接ケズ リ	3mm以上の白色砂粒 を多く含む	良好	灰白	硬質	

検証番号	写真 図版	出土場所名 出土日月日	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
32-8	20	NSIE20J周りN683 090903	瓦	平瓦				凸面: 様子タキ10. 布 砂. 西面: 布目瓦灰. 布 切り版. 開縫端縁ケズリ	1mm以下の白色砂粒を 多く含む	良好	灰褐色	経質
32-9	20	NSIE20J周りアゼ北 部N208 090925	瓦	平瓦				凸面: 様子タキ10. 西 面: 布目瓦灰. 布切り版. 開縫端縁ケズリ	白色細砂粒を少し含 む	良好	灰褐色	経質
32-10	20	NSIE20J周りN6145 090907	瓦	平瓦				凸面: 様子タキ11. 西 面: 布目瓦灰	白・黑色砂粒を多く含 む	やや不良	灰白～灰褐色	経質
33-1	20	NSIE20J周り090907	瓦	平瓦				凸面: 様子タキ12. 西 面: 布目瓦灰. 布切り版. 開縫端縁ケズリ	1mm以下の白・黑色砂 粒を多く含む	良好	灰褐色	経質
33-2	20	NSIE20J周り090907 アゼ北部N207 090925	瓦	平瓦				凸面: 様子タキ12. 布 砂. 西面: 布目瓦灰. 布 切り版	1mm以下の砂粒を多く 含む	やや不良	淡黃褐色	経質
33-3	21	NSIE20J周りN100. 101 090904	瓦	平瓦				凸面: 様子タキ12. 布 砂. 西面: 布目瓦灰. 布 切り版. 開縫端縁ケズリ	1mm以下の砂粒を多く 含む	やや不良	淡黃褐色	経質
33-4	21	NSIE20J周りN649 090903	瓦	平瓦				凸面: 様子タキ15. 西 面: 布目瓦灰. 開縫端 縁ケズリ	砂粒を多く含む	やや不良	淡褐色	経質
33-5	21	NSIE20J周りN648 090903	瓦	平瓦				凸面: 様子タキ13. 西 面: 布目瓦灰. 布切り版. 開縫端縁ケズリ	更に、2mm以下の白色砂 粒を多く含む	やや不良	灰白～淡黃褐色	経質
33-6	21	NSIE20J周りN687 090903	瓦	平瓦				凸面: 様子タキ13. 西 面: 布目瓦灰. 布切り版. 板状化痕跡. 開縫端縁 ケズリ	4mm以下の砂粒を少し 含む	やや不良	淡黃褐色	経質
33-7	21	NSIE20J周りN658 090903	瓦	平瓦				凸面: 様子タキ15. 西 面: ナラ. 開縫端縁ケズリ	3mm以下の白色砂粒. 滑面細砂粒を少し含 む	やや不良	淡黃褐色	経質
33-8	21	NSIE20J周りN677 090903	瓦	平瓦				凸面: 様子タキ18 西面: ナラ. 開縫端 縁ケズリ	3mm以下の砂粒を多く 含む	やや不良	淡褐色	経質
34-1	21	NSIE20J周りアゼ北 部N207 090925	瓦	平瓦				凸面: 様子タキ21. 西 面: 布目瓦灰. 開縫端 縁ケズリ	砂粒を少し含む	やや不良	褐灰色	経質
34-2	21	NSIE20J周りN6120 090907	瓦	平瓦				凸面: 様子タキ21. 布 砂. 西面: 布目瓦灰. 布 切り版. 開縫端縁ケズリ	2mm以下の白色砂粒を 多く含む	良好	灰褐色	経質. 植き巻き作り
34-3	22	NSIE20J周りアゼ南 部N218 090925	瓦	平瓦				凸面: 様子タキ21.7 西面: 布目瓦灰. 板状化痕 跡. ナラ. 開縫端縁ケズリ	2mm以下の白・黑色砂 粒をとても多く含む	良好	灰褐色	経質. 植き巻き作り 入る。
34-4	22	NSIE20J周りN6129. 143 090907	瓦	平瓦				凸面: 織タキ1. 布砂. 西面: 布目瓦灰. 開縫 端縁ケズリ	2mm以下の砂粒を多く 含む	良好	淡黃褐色	経質
34-5	22	NSIE20J周りN6116 090907	瓦	平瓦				凸面: 織タキ1. 西面: 布目瓦灰. 板状化痕. 開 縫端縁ケズリ	白・黑色砂粒を多く 含む	良好	灰褐色	経質
34-6	22	NSIE20J周りN6 144090007 アゼ南部 4627090925	瓦	平瓦				凸面: 織タキ1. 布砂. 西面: 布目瓦灰. 開縫端 縁ケズリスラグ	8mm以下の白色砂粒を とても多く含む	良好	灰白色	経質
34-7	22	NSIE20A色粘土1号 N200 090907 瓦瀬りアゼ北部N201 090925	瓦	平瓦				凸面: 織タキ1. 布砂. 西面: 布目瓦灰. 布切り版. 開縫端縁ケズリ	1mm以下の白色砂粒を とても多く含む	やや不良	灰褐色	経質
34-8	22	NSIE20J周りアゼ北 部N200 090925	瓦	平瓦				凸面: 織タキ1. 西面: 布目瓦灰. 布切り版. 開 縫端縁ケズリ	2mm以下の砂粒を多く 含む	やや不良	淡黃褐色	経質
35-1	23	NSIE20J周りN682 090903	丸瓦					凸面: ナラ/西面: 布目瓦 灰. 開縫端縁ケズリ	白・黑色砂粒を少し含む	良好	青灰褐色	
35-2	23	NSIE20J周りアゼ北 部N203 090925	瓦	丸瓦				凸面: ナラ/西面: 布目瓦 灰. 開縫端縁ケズリ	3mm以下の暗褐色砂 粒を少し含む	良好	青灰褐色	経質. 有段式A. 玉 縄基部高: 1.3cm
35-3	23	NSIE20J周りN686 090903	瓦	丸瓦				凸面: ナラ. ケズリ/西面: 布目瓦灰. 布の織じ合 せ. 開縫端縁ケズリ	2mm以下の白・黑色砂 粒を多く含む	良好	灰褐色	有段式A. 玉縄基部 長: 5.7cm. 基部幅: 1.6cm.
35-4	23	NSIE20J周りアゼ北 部N205 090925	瓦	丸瓦				凸面: ナラ/西面: 布目瓦 灰. 開縫端縁ケズリ	砂粒を少し含む	やや不良	灰白色～青 褐色	経質. 有段式. 玉縄 基部長: 5.6cm. 玉縄基 部幅: 1.3cm. 継縫長: 0.3cm
35-5	23	NSIE20J周りN692 090907-BK	瓦	丸瓦				凸面: ナラ/西面: 布目瓦 灰. 布切り版. 開縫端 縁ケズリ	2mm以下の白・黑色 砂粒を多く含む	良好	青灰褐色	経質. 有段式A. 玉縄 基部長: 5.6cm. 玉縄基 部幅: 1.3cm.
35-6	23	NSIE20J周りN627 090902	瓦	丸瓦				凸面: ナラ. ケズリ/西面: 布目瓦灰. 布の織じ合 せ. 開縫端縁ケズリ	2mm以下の白色砂粒を 少し含む	やや不良	灰白色	経質. 有段式B. 最大 玉縄基部長: 5.5cm. 基部 幅: 1.2cm. 継縫長: 0.3cm
35-7	24	NSIE20J周りN6152 090907	瓦	丸瓦				凸面: ナラ/西面: 布目瓦 灰. 布切り版. 開縫端 縁ケズリ	白・黑色砂粒を多く 含む	やや不良	灰白色	経質. 有段式. 玉縄 基部長: 5.5cm. 基部幅: 1.1cm. 継縫長: 0.3cm
35-8	24	NSIE20J周りN6138 090907	瓦	丸瓦				凸面: ナラ. ケズリ/西面: 布目瓦灰. 布切り版. 開 縫端縁ケズリ	2mm以下の白色砂粒を 少し含む	良好	灰褐色	経質. 有段式
35-9	24	NSIE20J周りN6103 090904	瓦	丸瓦				凸面: ナラ. ケズリ/西面: 布目瓦灰. 開縫端縁ケズ リ	白・鐵質鉱物を多く 含む	良好	灰褐色	経質
35-10	24	NSIE20J周りN6117 090907	瓦	丸瓦				凸面: ナラ/西面: 布目 瓦灰. 布切り版. 開縫端 縁ケズリ	白・黑色砂粒を多く 含む	良好	灰褐色	経質
35-11	24	NSIE20J周りN669 090903	瓦	丸瓦				凸面: 織タキ. 西面: 布目瓦灰. 布の織じ合 せ. 開縫端縁ケズリ	1mm以下の白色砂粒を 多く含む	やや不良	灰白～灰褐色	経質
36-1	24	NSIE20J周りN6119 090907	瓦	丸瓦				凸面: 織タキ. 西面: 布目瓦灰. 布切り版. ナラ ケズリ	白・褐色砂粒を多く 含む	良好	灰褐色	経質

拂因 番号	写真 番號	出土遺物名 出土年月日	種 別	器 種	口徑 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	形態・手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考		
36.2	24	N35E20瓦御りアセ北 屋敷土層 090925	瓦	丸瓦				凸面・ナデ 口面：布目 压痕、布の縫合せ、 模様彫刻ナズリ	1mm以下の白色砂粒を 多く含む	やや不良	淡黄～灰色	軽質		
36.3	25	N35E20瓦御りN6132 090907	瓦	対牛瓦				凸面・ナデ 口面：布目 压痕、布の縫合せ、 模様彫刻ナズリ	2mm以下の白・黒色砂 粒を多く含む	良好	灰	硬質、切削翼4、広 端部、切りこみ深さ 0.4cm		
36.4	25	N35E20瓦御りN6110 090907	瓦	対牛瓦				凸面・ナデ 口面不規 則凹面：布目压痕、布の 縫合せ、 模様彫刻ナズリ	1mm以下の砂粒を多 く含む	良好	灰白色	硬質、切削翼4、広 端部、切りこみ深さ 0.4cm		
38.1	25	N36E20瓦色鉛質土層 N6276 091104	須恵器	壺	16.5		4.2	ナデ、回転ナデ、回転ケ ズリ	白色、白色砂粒を含む	良好	暗灰	宝珠状つまみ、つま み幅：2.5cm		
38.2	25	N36E20瓦色鉛質土層 N6272 091104	須恵器	高台付壺		12.1		ナデ、回転ナデ	白、黑色砂粒を少し 含む	良好	灰白色	表面風化		
38.3	25	N36E20瓦色鉛質土層 N6269 091104	須恵器	壺	12.0	8.3	4.3	回転ナデ、回転系引 き	白、2mm以下の白色砂 粒を含む	良好	灰			
38.4	25	N36E20瓦色鉛質土層 N6237 091005	須恵器	壺			8.9	ナデ、回転ナデ、回転系 引き	厚、7mm以下の白色石 粒と細砂粒を多く含む	良好	明灰			
39.1	25	N36E20瓦色鉛質土層 N6168 090917	瓦	平瓦				凸面・ナデ 口面：布目 压痕、布の縫合せ、 模様彫刻ナズリ	3mm以下の白色砂粒を 多く含む	良好	灰	硬質		
39.2	25	N36E20瓦色鉛質土層 N60827	瓦	平瓦				凸面・ナデ 口面：布目 压痕、ハナカス、 模様彫刻ナズリ	2mm以下の白色砂粒を 多く含む	良好	灰	硬質		
40.1	26	N36E20瓦色鉛質土層 N6228 090925	瓦	丸瓦				凸面・ナデ 口面：布目 压痕、布の縫合せ、 模様彫刻ナズリ	1mm以下の白・黒色砂 粒に合わせ、 模様彫刻ナズリ	やや不良	灰白色	軽質、有段式丸瓦		
40.2	26	N36E20瓦色鉛質土層 N6226 091005	瓦	丸瓦				凸面・ナデ 口面：布目 压痕	白色細砂粒を僅かに 含む	良好	灰	硬質		
41.1	26	N36E20XN1 091006	瓦	平瓦				凸面・調タキ1 口面：布 目压痕、模様彫刻ナズリ	2mm以下の砂粒をと ても多く含む	やや不良	淡黄色	軽質		
41.3	26	N36E20S20Z026277 091104	須恵器	壺	10.8	7.6	4.7	ナデ、回転ナデ、回転系 引き	厚、3mm以下の白色砂 粒を含む	良好	暗灰			
43.2	26	N36E20S20Z0209009	須恵器	壺			8.0	ナデ、回転ナデ、回転系 引き	白、白色細砂粒を少 し含む	良好	灰			
43.3	26	N36E20S20Z0276278 091104	土加器	高耳				ナデ	白、砂粒を含む	良好	灰			
45.1	27	N36E10埋留上面 091014	須恵器	高台付壺	22.0	16.0	3.1	ナデ、回転ナデ、回転ケ ズリ	厚、3mm以下の砂粒を 多く含む	良好	明灰			
45.2	27	N36E15南側サブトレ 091025	須恵器	高台付壺				回転ナデ		良好	淡黄色	内面墨痕+		
45.3	27	N36E15南側サブトレ 091025(埋留土層)	須恵器	壺	G226	9.0	12.0	回転ナデ、回転系引 き	白、黑色細砂粒を僅 かに含む	良好	淡灰	内面墨痕、軽用泥+		
45.4	27	N36E10レキ留上面 091014	須恵器	鍵				ナデ、平行ナデ、同心 円内凹具	白、黑色砂粒を少し 含む	良好	灰			
48.1	29	N36E15北側サブトレ 091025(埋留土層) N6171 090925	須恵器	壺	15.0	5.0	3.3	ナデ、回転ナデ、回転ヘ ラズリ	厚、3mm以下の白色砂 粒、白色細砂粒を多く 含む	良好	灰			
48.2	28	N36E15南側サブトレ 091025(埋留土層)	須恵器	壺			15.5	2.3	ナデ、回転ナデ、回転系 引き、切削ナズリ	厚、1mm以下の白色砂 粒を多く含む	良好	明灰	輪状つまみ	
48.3	28	N36E15北側サブトレ 091025(埋留土層)	須恵器	壺			14.7	4.8	2.6	ナデ、回転ナデ、回転ヘ ラズリ	厚、3mm以下の白・黑 色砂粒を多く含む	良好	明灰	輪状つまみ
48.4	29	N36E15北側サブトレ 091025(埋留土層) N6123 090925	須恵器	壺			16.0	2.1	ナデ、回転ナデ、回転ケ ズリ	厚、1mm以下の白・黑 色砂粒を多く含む	良好	淡灰白色	輪状つまみ、つまみ 幅：5.0cm	
48.5	29	N36E15南側サブトレ 091025(埋留土層)	須恵器	壺				ナデ、回転ナデ、回転ケ ズリ	厚、白・黑色細砂粒 を少し含む	良好	灰	輪状つまみ、つまみ 幅：5.0cm		
48.6	29	N36E15南側サブトレ 091025(埋留土層)	須恵器	壺			07.0	ナデ、回転ナデ	白、2mm以下の白・黑 色砂粒を多く含む	良好	明灰			
48.7	29	N36W9-15北北サ ブトレ(白色鉛質土層) 091014	須恵器	高台付壺	13.0	6.0	4.8	ナデ、回転ナデ、回転系 引き	厚、1mm以下の白色砂 粒を含む	良好	明灰			
48.8	28	N36W9-15北側サブトレ 091028	須恵器	高台付壺	14.0	6.0	4.4	ナデ、回転ナデ、回転系 引き	厚、2mm以下の白・黑 色砂粒を多く含む	良好	淡灰			
48.9	28	N36E15南側サブトレ 091023	須恵器	高台付壺	14.0	6.0	5.3	ナデ、回転ナデ	厚、白・黑色細砂粒 を少し含む	良好	淡灰			
48.10	28	N36E15南側サブトレ 091028	須恵器	高台付壺	13.0	6.4	4.4	ナデ、回転ナデ、回転系 引き	厚、1mm以下の砂粒、 白色砂粒を少し含む	良好	淡灰灰	口縁部内面塗付		
48.11	29	N36E15北側サブトレ 091027	須恵器	高台付壺			6.0	ナデ、回転ナデ	厚、1mm以下の白・黑 色砂粒を含む	良好	明灰	体部外へラ記号+		
48.12	29	N36W9-15北北サ ブトレ(白色鉛質土層) 091006	須恵器	高台付壺			8.2	回転ナデ、回転系引 き	厚、白・黑色細砂粒 を少し含む	良好	暗灰	軽用泥、内面研磨、 墨痕、高台内面塗付		
48.13	29	N36E15南側サブトレ 091027	須恵器	高台付壺	12.4	9.0	4.2	ナデ、回転ナデ、回転系 引き	厚、2mm以下の白・黑 色砂粒を多く含む	良好	明灰			
48.14	29	N36W9-5南側サブトレ 091028	須恵器	高台付壺	16.0	11.0	3.5	回転ナデ、系引ナズリ、 ワメ状ナズリ	厚、白色砂粒を含む	良好	青灰			
48.15	29	N36E15北側サブトレ 091028	須恵器	高台付壺			7.7	ナデ、回転ナデ	厚、白色細砂粒を 少し含む	良好	青灰			
48.16	28	N36W9-15北北サ ブトレ(白色鉛質土層) N6251 090906	須恵器	壺	01.0	7.9	4.1	ナデ、回転ナデ、回転系 引き	厚、1mm以下のしら く色砂粒を多く含む	良好	明灰			

検証番号	写真 回数	出土品名 日付	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
48-17	28	N030545 黒色粘土質 灰窓器	灰窓器	环	(14.0)	(8.0)	4.2	ナゲ、回転ナゲ、静止系 砂をナガす。	更、5mm以下の白色 砂粒を多く含む	良好	暗灰～明 灰色	
48-18	28	N030546 北様サブトレ 灰色粘土質No.893	灰窓器	环	(12.7)	(7.4)	4.2	ナゲ、回転ナゲ、回転系 砂	更、5mm以下の白、黑 色砂粒を多く含む	良好	深灰色	
48-19	29	N030901-1-5北型サブト レNo.527-2 (091006)	灰窓器	环				回転ナゲ、静止系切り 口	更、白、黑色細砂粒 を少し含む	良好	深赤灰色	静止系切り
48-20	29	N030906 北型サブトレ 灰化物質-灰色粘土質 No.127-1 - 081203	灰窓器	高台付环	(24.1)	(20.4)	3.4	ナゲ、回転ナゲ、回転系 砂	更、1.5mm以下の白、黑 色砂粒を多く含む	良好	深灰色	
48-21	29	N030910 北型サブトレ 灰色粘土質No.891(2)	灰窓器	束	(19.0)			回転ナゲ	更、1mm以下の白、黑 色砂粒を少し含む	良好	明灰色	
48-22	29	N030546 北様サブトレ 灰化物質-灰色粘土質 No.27-1	灰窓器	束				ヘラケズリ、平行タキナ 底直削	更、5mm以下の白色 砂粒を多く含む	良好	灰白色	内面研磨・墨刷、鏡 面鏡
48-23	29	N030910 北型サブトレ 灰化物質-灰色粘土質No.909	灰窓器	蓋	(17.5)			ナゲ、回転ナゲ、クシ痕 の剥突	更、1mm以下の白、黑 色砂粒を多く含む	良好	明灰色	高輝き
48-24	29	N030910 北型サブトレ 灰化物質-灰色粘土質 No.891(2)	灰窓器	短脚瓶	(6.5)			回転ナゲ	更、白、黑色細砂粒を 層状に含む	良好	明灰色	小型
48-25	29	N030910 北型サブトレ 灰化物質-灰色粘土質 No.891(2)	灰窓器	束				回転ナゲ	更、5mm以下の白、黑 色砂粒を層状に含む	良好	明灰色	小型、底部
48-26	29	N030546 北様サブトレ 灰 色粘土質No.891(2)	灰窓器	高台付环	(8.0)			回転ナゲ、静止系切り口	更、1mm以下の砂粒を 多く含む	良好	深灰色	
48-27	28	N030546 北様サブトレ 灰 色粘土質No.679 (081208)	灰窓器	瓶瓶			7.3	回転ナゲ、回転ケズリ、 砂	更、3mm以下の白、半 透明細砂粒を多く、黒 色砂粒を少し含む	良好	明灰色	
48-28	28	N030546 北型サブトレ 灰 色粘土質-灰 色粘土質No.890(8)	灰窓器	束・端	(4.8)			回転ナゲ	更、1mm以下の白、黑 色砂粒を少し含む	良好	明灰色	
48-29	29	N030906 北型サブトレ 灰 色粘土質No.81203	灰窓器	高环	(9.0)			回転ナゲ、カキ目	更、1mm以下の白、黑 色砂粒を少し含む	良好	明灰色	底部遮かあり
48-30	29	N030546 北様サブトレ 灰 色粘土質No.891(2) (手半分No.891(2))	灰窓器	平瓶				ヘラケズリ、回転ナゲ	更、2mm以下の白、黑 色砂粒を多く含む	良好	明灰色	外側に直径0.5~10cm のボタル装置
48-31	29	N030906 北型サブトレ 灰 化物質-灰 色粘土質No.891(2)- (081203)	灰窓器	瓶瓶	(7.8)			回転ナゲ	更、2mm以下の半透明 砂粒、白色細砂粒を 少し含む	良好	明灰色	
48-32	29	N030546 北様サブトレ 灰 色粘土質No.891(2)	灰窓器	束	(3.1)			回転ナゲ	更、白、黑色細砂粒を 層状に含む	良好	暗灰色	小型
48-33	29	N030906 北型サブトレ 灰 色粘土質No.81202	灰窓器	瓶瓶				タキナ、カキ目、同心 円状に具瓶	更、白、半透明細砂 粒を少し含む	良好	明灰色	別個体が貼りつく
48-34	29	N030546 北型サブトレ 灰 色粘土質No.884 (081208)	灰窓器	路				平行タキナ、カキ目、同 心円状に具瓶	更、白色細砂粒を含む	良好	深赤色	
49-1	30	N030906 北型サブトレ 灰 色粘土質No.892(8)	土器	高台付环	(12.2)			ナゲ	更、砂粒を層状に含む	良好	深褐色	内面研磨
49-2	30	N030906 北型サブトレ 灰 色粘土質No.892(8)	土器	束	(29.0)			横ナゲ、ハケ目、ヘラ ケズリ	更、1mm以下の砂粒を 多く含む	良好	深褐色	
49-3	30	N030906 北型サブトレ 灰 色粘土質No.892(8)	土器	束	(24.9)			横ナゲ、カキ目、沈 泥	更、砂粒を多く含む	良好	深褐色	
49-4	30	N030546 北様サブトレ 灰 色粘土質No.483 (081208)	土器	束	(25.0)			ナゲ、ヘラケズリ、ハケ 目	更、1.5mm以下の砂粒 を多く含む	良好	深褐色	内面研磨
49-5	30	N030546 北様サブトレ 灰 色粘土質No.674 (081208)	土器	束	(37.9)			ナゲ、ケズリ、ハケ目	更、2mm以下の褐色 砂粒を多く含む	良好	暗褐色	外側研磨
49-6	30	N030546 北様サブトレ 灰 色粘土質No.678 (081208)	土器	瓶・端	(9.7)			ナゲ	更、1mm以下の白色 砂粒を少し含む	良好	明褐色	外側赤色剥離
49-7	30	N030546 北様サブトレ 灰 色粘土質No.680 (081208)	土器	瓶	(28.1)			ハケ目、ナゲ、ヘラケ 目	やや白、3mm以下の砂 粒を多く含む	良好	深褐色	底部
49-8	30	N030546 北様サブトレ 灰 色粘土質No.891(2)	土器	瓶	(9.0)			ナゲ、ヘラケズリ、ハケ 目	やや白、2mm以下の砂 粒を多く含む	良好	乳褐色	把手
49-9	30	N030546 北型サブトレ 灰 色粘土質No.672 (081208)	土器	移動式壺				ヘラケズリ、横ナゲ	やや粗、砂粒を多く 含む	良好	深褐色	
49-10	30	N030546 北型サブトレ 灰 色粘土質No.475 (081208)	土器	移動式壺				ヘラケズリ	更、2mm以下の砂粒 をとても多く含む	良好	深褐色～灰 褐色	全体的に質然、11層 部
49-11	30	N030906 北型サブトレ 灰 色粘土質No.916	土器	土質支撑				ナゲ	やや密、砂粒を多く 含む	良好	深褐色	
50-1	30	N030546 北型サブトレ 灰 色粘土質No.676 (081208)	瓦	平瓦				凸面：横子タキナ15 凹面：布目压痕、横縫隙 ケズリ	2mm以下の砂粒を多く 含む	やや不良	灰白色	軽質
50-2	30	N030546 北型サブトレ 灰 色粘土質No.673 (081208)	瓦	平瓦				凸面：横タキナ1 凹面：布目压痕、ナゲ、開 縫隙ケズリ	1mm以下の白、黑色 砂粒を多く含む	やや不良	灰白色	質質、縮合き
50-3	30	N030906 北型サブトレ 灰 色粘土質No.661 (081208)	瓦	平瓦				凸面：布目压痕、開縫隙 ケズリ	1mm以下の白色砂粒 を少し含む	良好	灰白色	縫合
50-4	30	N030906 北型サブトレ 灰 色粘土質No.662 (081208)	瓦	平瓦				凹面：布目压痕、赤切 縫隙ケズリ	2mm以下の白色砂粒 を少し含む	良好	灰白色	縫合
50-5	30	N030906 北型サブトレ 灰 色粘土質No.663 (081208)	瓦	平瓦				凸面：横タキナ1 凹面：布目压痕、開縫隙 ケズリ	1mm以下の白色砂粒 を少し含む	良好	灰白色	縫合

種 因 番号	出土遺物名 又は類別	出土年月日	種 別	器 形	口 径 (cm)	底 径 (cm)	器 高 (cm)	形態・手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
51-1	28 N25E106西側土器 ト・灰色地刷毛土器	1980/07	須志器	高台付耳	114.0	9.9	5.9	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、2mm以下の白・黒 色砂粒を多く含む	良好	明灰色	底面にヘラ記号「□」
51-2	28 N25E106白色質土 器N26.09.08015	1980/07	須志器	高台付耳	116.4	10.0	5.2	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、2.5mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
53-1	31 N30E106白色質土 器N26.04.09100	1980/07	須志器	壺	15.8		4.0	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、1mm以下の白色砂 粒を僅かに含む	良好	灰色	輪状つまみ、つまみ み径：5.6cm
53-2	31 N40E106白色質土 器N26.04.09079	1980/07	須志器	壺	14.4		2.5	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、砂粒を含む	良好	灰色	輪状つまみ、つまみ み径：5.9cm
53-3	31 N30E106西側土器 ト・灰色質土器N26.11.9	1980/11	須志器	壺				ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、1.5mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	輪状つまみ、つまみ み径：5.2cm
53-4	31 N30E106白色質土 器N26.09.08100	1980/09	須志器	壺	13.3		3.4	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、3mm以下の白色砂 粒を多く、回転系を 含む	良好	明灰色	宝珠状つまみ、つま み径：2.5cm
53-5	31 N40E106白色質土 器N26.09.08028	1980/09	須志器	壺	20.0		3.6	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、白色砂粒を多く 含む	良好	明灰色	宝珠状つまみ、つま み径：2.8cm
53-6	31 N30E106白色質土 器N26.09.08100	1980/09	須志器	壺	13.0		3.2	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、1.5mm以下の白・ 黒色砂粒を多く含む	良好	明灰色	宝珠状つまみ、つま み径：2.1cm
53-7	31 N40E106白色質土 器N26.09.08117	1980/11	須志器	壺	12.8		3.6	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、白色砂粒を僅か に含む	良好	淡赤灰色～ 灰色	ボタン状つまみ、つま み径：2.0cm
53-8	31 N30E106白色質土 器N26.09.08062	1980/09	須志器	壺	17.3		2.9	ナデ、回転ナデ、回転系 切り、回転スリフ	灰、3mm以下の砂粒を 含む	良好	明灰色	ボタン状つまみ、つま み径：2.0cm
53-9	31 N30E106白色質土 器N26.09.08024	1980/09	須志器	壺	13.8		2.9	ナデ、回転ナデ	灰、1mm以下の小輪状砂 粒を少し含む	良好	赤灰色	宝珠状つまみ、つま み径：2.5cm
53-10	31 N30E106白色質土 器N26.09.08104	1980/09	須志器	壺	23.4			ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、3mm以下の白色砂 粒、黑色砂粒を多く 含む	良好	明灰色	
53-11	31 N30E106白色質土 器N26.09.08105	1980/09	須志器	壺	16.0			ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、3mm以下の白・黑 色砂粒を多く含む	良好	淡赤色	
53-12	34 N25E106白色質土 器N26.06.08128	1980/06	須志器	高台付耳	17.0	10.8	5.5	ナデ、回転ナデ、回転系 切り、回転系切り	灰、1mm以下の白・黑 色砂粒を多く含む	良好	淡赤色	
53-13	34 N25E106白色質土 器N26.06.08117	1980/06	須志器	高台付耳	14.0	9.8	5.0	ナデ、回転ナデ	灰、白・黑色砂粒を 含む	良好	灰白色	
53-14	34 N25E106白色質土 器N26.06.08028	1980/06	須志器	高台付耳	12.7	7.6	4.5	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、白・黑色砂粒を 含む	良好	灰白色	
53-15	32 N25E106白色質土 器N26.06.08100	1980/06	須志器	高台付耳	17.2	11.5	6.5	ナデ、回転ナデ	灰、3mmの粒と白色砂 粒を多く含む	良好	灰白色	
53-16	32 N25E106白色質土 器N26.06.08015	1980/06	須志器	高台付耳	16.5	11.9	6.7	ナデ、回転ナデ	灰、白色砂粒を含む	やや小品	淡灰褐色	
53-17	32 N30E106白色質土 器N26.06.08023	1980/06	須志器	高台付耳	11.0	7.0	4.0	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、白・黑色砂粒を 少し含む	良好	灰色	
53-18	32 N30E106白色質土 器N26.06.08119	1980/06	須志器	高台付耳	10.8	11.1	6.5	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、3mm以下の砂粒を 多く含む	良好	青灰色	
53-19	32 N30E106白色質土 器N26.06.08105	1980/06	須志器	高台付耳	12.4	8.8	4.3	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、砂粒を少し含む	良好	灰色	
53-20	32 N30E106白色質土 器N26.06.08027	1980/06	須志器	高台付耳	15.6	8.7	5.7	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、砂粒を多く含む	良好	淡灰褐色	
53-21	32 N30E106白色質土 器N26.06.08029	1980/06	須志器	高台付耳	18.0			ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、白・黑色砂粒を 含む	良好	明灰色	
53-22	34 N25E106白色質土 器N26.06.08128	1980/06	須志器	高台付耳	11.9			ナデ、回転ナデ、メタ 装压	灰、砂粒を少し含む	良好	暗灰褐色	
53-23	34 N25E106白色質土 器N26.06.080119	1980/06	須志器	高台付耳	8.9			ナデ、回転ナデ、静止系 切り	灰、0.5mm以下の白・ 黑色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
53-24	34 N25E106白色質土 器N26.06.08028	1980/06	須志器	壺	12.4	8.2		回転ナデ、静止系 切り	灰、1mm以下の白色砂 粒を多く含む	良好	灰色	
53-25	34 N25E106白色質土 器N26.06.08021	1980/06	須志器	壺	16.0	8.0	6.4	ナデ、回転ナデ	灰、5mm以下の白色砂 粒、黒色砂粒を含む	良好	青灰色	
53-26	34 N25E106白色質土 器N26.06.08128	1980/06	須志器	壺	11.0	7.2	4.1	ナデ、回転ナデ、回転系 切りナデナデ	灰、1.5mm以下の白・ 黑色砂粒を多く含む	良好	灰色	
53-27	32 N40E106白色質土 器N26.06.08027	1980/06	須志器	壺	12.0	8.9	4.3	回転ナデ、回転系切り	灰、白色砂粒を多く 含む	良好	青灰色	
53-28	32 N30E106白色質土 器N26.06.08028	1980/06	須志器	壺	13.0	8.0	4.0	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、白・黑色砂粒を 多く含む	良好	明灰色	
53-29	34 N25E106白色質土 器N26.06.08028	1980/06	須志器	壺	12.4	8.5		ナデ、回転ナデ、ヘラク スリフ	灰、5mm以下の白色砂 粒を含む	良好	灰色	
53-30	34 N25E106白色質土 器N26.06.08025	1980/06	須志器	壺			7.8	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、2mm以下の白・ 黑色砂粒を含む	良好	明灰色	外表面灰褐色
53-31	32 N30E106白色質土 器N26.06.08003	1980/06	須志器	壺	14.3	9.8	6.3	ナデ、回転ナデ	灰、白色砂粒を多く 含む	良好	灰白色	
53-32	34 N26E106白色質土 器N26.06.080118	1980/06	須志器	高台付耳	17.0			ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、白・橙色砂粒を 含む	良好	青灰色	
53-33	34 N30E106白色質土 器N26.06.08105	1980/06	須志器	壺	12.0	8.7	3.5	回転ナデ、回転系 切り	灰、白色砂粒を少し 含む	良好	暗灰褐色	
53-34	34 N30E106白色質土 器N26.06.08105	1980/06	須志器	壺	12.0	8.0	3.3	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、白色砂粒を僅かに 含む	良好	青灰色	
53-35	34 N30E106白色質土 器N26.06.08020	1980/06	須志器	壺	10.0	8.0	3.0	ナデ、回転ナデ、静止系 切り	灰、白・淡黄色砂粒	良好	灰色	
53-36	34 N25E106北側土器 ト・白色質土器N26.06.080119	1980/06	須志器	壺	14.0	9.8	1.2	ナデ、回転ナデ	灰	良好	青灰色	1ニチュア
54-1	34 N25E106白色質土 器N26.06.08008	1980/06	須志器	高台付耳	16.0	11.2	3.1	ナデ、回転ナデ	灰、3mm以下の白・ 黑色砂粒を多く含む	良好	灰色	
54-2	32 N25E106白色質土 器N26.06.08128	1980/06	須志器	高台付耳	19.0	21.8	2.6	ナデ、回転ナデ、回転系 切り	灰、2mm以下の白・ 黑色砂粒を多く含む	良好	暗灰褐色	

検証番号	登録番号	出土場所名 出土日月日	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
54-3	34	N30E156A色粘質土層 No.06165	灰窓器	高白付 盤	(17.1)	(13.8)	(2.5)	ナゲ、回転ナデ	更、3mm以下の白色 白色砂粒を多く含む	良好	明灰色	
54-4	33	N25E25Aセゼ灰釉 土層No.09124	灰窓器	高台付盤	(15.2)	(10.5)	8.8	回転ナデ、回転系切り	更、3mm以下の砂粒を 多く含む	良好	暗青灰色	
54-5	33	N30E156A色粘質土層 No.070	灰窓器	高台付盤	(17.0)	(12.4)	2.65	ナゲ、回転ナデ	更、白色砂粒を多く 含む	やや不良	深灰褐色	
54-6	34	N30E109A色粘質土層 No.090817	灰窓器	盤	(16.2)	(10.8)	2.5	ナゲ	更、白・黑色砂粒を 含む	良好	深灰色	表面風化
54-7	34	N30E209A色粘質土層 No.09024	灰窓器	盤	(5.9)	(5.3)	2.9	切り	更、細砂粒を僅かに 含む	良好	明灰色	内面研磨±、茎部
54-8	34	N25E109A色粘質土層 No.186	灰窓器	盤	(13.0)	(7.0)	2.7	ナゲ、回転ナデ、系切り	更、1mm以下の白色 砂粒を多く含む	良好	明灰色	
54-9	34	N25E109A色粘質土層 No.198	灰窓器	盤	(10.6)	(4.8)	2.4	ナゲ、回転ナデ、回転系 切り	更、1mm以下の白色 砂粒を多く、白色砂 粒を僅かに含む	良好	灰白色	
54-10	32	N25E156A色粘質土層 No.08025	灰窓器	盤	(14.2)	(11.3)	3.1	ナゲ、回転ナデ、ヘタケ ズリ	更、1mm以上の白色 砂粒を多く含む	良好	灰白色	口縁主張美しい
54-11	32	N30N109A色粘質土層 No.08119	灰窓器	盤	(13.8)	(11.2)	2.4	ナゲ、回転ナデ、回転系 切り	更、1.5mm以下の白・ 灰色砂粒を多く含む	良好	灰白色	
54-12	32	N25E156A色粘質土層 No.80	灰窓器	盤	(15.2)	(11.0)	1.9	ナゲ、回転ナデ	更、2mm以下の白・ 半透明砂粒を多く、黑 色砂粒を僅かに含む	良好	明灰色	内面研磨、板用瓶
54-13	34	N30E156A色粘質土層 No.08022	灰窓器	盤	(21.0)	(10.8)	2.0	ナゲ、回転ナデ、回転系 切り	更、2mm以下の白色 砂粒を多く含む	良好	暗赤色	板用瓶±
54-14	34	N40E156A色粘質土層 No.09079	灰窓器	角舟	6.6	6.6	3.6	回転ナデ、回転系切り	更、白・黑色砂粒を 多く含む	良好	暗褐色	打明盤土器
54-15	34	N30E109A色粘質土層 No.09028	灰窓器	角舟	6.9	6.0	2.6	ナゲ、回転ナデ、静止系 切り	更、1mm以下の白色 砂粒を多く含む	良好	灰白色～灰 褐色	打明盤土器
54-16	33	N25E109A色粘質土層 No.198	灰窓器	蓋	(16.0)			回転ナデ、平行タキ シ、同心円当て具組	更、1mm以下の白・黑 色砂粒を含む	良好	暗赤色	
54-17	34	N30E209A色粘質土層 No.09072	灰窓器	蓋				回転ナデ、カキメ、タキ シ、同心円当て具組	更、2mm以下の砂粒を 少し含む	良好	灰白色	
54-18	34	N30E209Aセゼ土 灰釉土層No.09119	灰窓器	蓋				回転ナデ、波状文	更、砂粒を僅かに含む	良好	灰白色	
54-19	34	N40E109A色粘質土層 No.09076	灰窓器	蓋			8.4	ナゲ、回転ナデ、静止系 切り	更、砂粒を少し含む	良好	明灰色	
54-20	34	N30E15-209A色粘質 土層No.2610981029	灰窓器	丸皿				回転ナデ、回転ケズリ	更、細砂粒を僅かに 含む	良好	灰白色	重ね焼きによる粘土 付着
54-21	34	N30E156A色粘質土層 No.08003	灰窓器	短脚盤	(5.6)			回転ナデ	更、1mm以下の白・明 砂粒・白色細砂粒を 僅かに含む	良好	明灰色	小型
54-22	34	N40E109A色粘質土層 (09116N40E15西)セ ゼ色粘質土層No.09116	灰窓器	短脚盤	(4.0)			回転ナデ	更、細砂粒を僅かに 含む	良好	暗褐色	
54-23	34	N40E109A色粘質土層 No.09076	灰窓器	短脚盤			8.7h	ナゲ、回転ナデ、ヘタケ ズリ	更、白・黑色砂粒を 少し含む	良好	深灰褐色	
54-24	34	N25E156A色粘質土層 No.08019	灰窓器	蓋			6.2h	回転ナデ、静止系切り	更、2mm以下の白色 砂粒を多く含む	良好	暗赤色	
54-25	34	N40E156A色粘質土層 No.09073	灰窓器	長脚盤				回転ナデ	更、白・黑色砂粒を 含む	良好	暗褐色	外側灰褐色
54-26	35	N30N109A色粘質土層 No.08008	灰窓器	蓋				回転ナデ、沈殿、道具組	更、1mm以下の白・黑 色砂粒を含む	良好	深灰褐色	
54-27	35	N30E156A色粘質土層 No.09016	灰窓器	器台±蓋				回転ナデ、沈殿、水滴	更、細砂粒を僅かに 含む	良好	灰白色	反覆り、擦り部あり
54-28	35	N30N06-N30S4 No.08100	灰窓器	高环				ナゲ、回転ナデ	更、1mm以下の白色 砂粒を少し含む	良好	明灰色	脚部三方向に迷かし み
54-29	35	N40E156A色粘質土層 No.09118	灰窓器	高环				ナゲ、回転ナデ、絞り瓶	更、白・黑色砂粒を 含む	良好	暗褐色	
54-30	35	N30N109A色粘質土層 No.08019	灰窓器	蹄	(15.7)			回転ナデ	更、1mm以下の白色 砂粒、黑色細砂粒を 多く含む	良好	灰白色	
54-31	35	N30N06-N30S4 No.09028	灰窓器	蹄±				平行タキシ、同心円当 て具組	更、白色砂粒を含む	良好	灰白色	把手
55-1		N25E25Aセゼ砂利層 灰釉土層No.080919	灰窓器	長脚瓶				回転ナデ、沈殿	更、細砂粒を多く含む	良好	灰白色	内外面成形板
55-2		N30E156A色粘質土層 No.08030	灰窓器	長脚瓶				回転ナデ	更、1mm以下の白・ 黑色砂粒を多く含む	良好	明灰色	頭部外径: 3.8cm
55-3	35	N30E0-E35A色粘質 土層No.09119	灰窓器	平瓶				ケズリ、同心円当て具 組	更、白色砂粒を少し 含む	良好	深灰褐色	把手
55-4	35	N30E156A色粘質土層 No.22	灰窓器	蓋				平行タキシ、同心円当 て具組	更、細砂粒を多く含 む	良好	深灰褐色	外側一部擦付±
56-1	36	N25E109Aセゼ砂利層 灰釉土層No.08089	灰窓器	蓋	(14.0)		2.4	ナゲ、回転ナデ、回転ケ ズリ	1.5mm以下の白色 砂粒を多く含む	良好	灰白色	ボタン状つまみ、つ まみ径: 2.0cm
56-2	36	N30E156A色粘質土層 No.09025	灰窓器	蓋				ナゲ、回転ナデ、回転ケ ズリ	更、砂粒を含む	良好	乳白色	突起状つまみ、つ まみ径: 2.0cm
56-3	36	N30E156A色粘質土層 No.09025	灰窓器	高台付耳	(17.1)	(11.8)	4.8	ナゲ、回転ナデ、回転ケ ズリ	更、白・黑色細砂粒 を少し含む	良好	灰白色	
56-4	36	N30N109Aセゼ砂利層 No.08001	灰窓器	高台付耳	(8.4)			ナゲ、回転ナデ	更、1mm以下の白色 砂粒を少し含む	良好	明灰色	
56-5	36	N25E109Aセゼ砂利層 灰釉土層No.0808120	灰窓器	高台付耳	(14.1)	(8.2)	4.1	ナゲ、回転ナデ	更、1mm以下の白・黑 色砂粒を少し含む	良好	明灰色	
56-6	36	N30N109Aセゼ砂利層 No.09030	灰窓器	盤	(13.8)	(6.6)	2.4	ナゲ、回転ナデ	更、砂粒を少し含む	良好	深灰褐色	

種 因 番号	原 产地 名	出 土 諸 様 名 目	出 土 年 月 日	種 別	器 種	口 檻 (cm)	底 檻 (cm)	器 高 (cm)	形 狽・手 法 の 特 徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
56.7	36	N32W50A:色砂利層	090625	須 恵 器	壺	9.3	6.5	2.6	回転ナメ、静止赤切り	重、紗綱を採りに含む	良好	滑灰褐色	灯明底型土器
56.8	36	N32E10K:色砂利層	090620	須 恵 器	壺				回転ナメ、平行タキ、同心円当て具輪をナメ消す	重、白色細砂粒を少し含む	良好	灰褐色	
56.9	36	N32W50A:色砂利層	090625	須 恵 器	直瓶壺				回転ナメ	重、紗綱を採りに含む	良好	淡灰褐色	自然施付着
56.10	36	N32E10K:色砂利層	090625	須 恵 器	壺	7.3			回転ナメ	重、紗綱を含む	良好	淡灰褐色	小型
56.11	36	N32W50A:色砂利層	081028	須 恵 器	高耳壺				ナメ、回転ナメ、達し手	重、1m以下の白・黑色砂粒を多く含む	良好	灰褐色	三方向の達し手
56.12	36	N32E10K:色砂利層	090626	須 恵 器	壺+瓶	11.0			回転ナメ	重、白色砂粒を含む	良好	青灰褐色	
56.13	33	N32E10K:色砂利層	090626-090629	須 恵 器	壺			6.5	回転ナメ	重、白色細砂粒を少し含む	良好	灰白色	
56.14	36	N32E10K:色砂利層	090620	須 恵 器	壺				回転ナメ、波状文	重、紗綱を採りに含む	良好	淡灰褐色	
57.1	36	N22E10K:赤土層	090624	須 恵 器	壺	12.0		2.3	ナメ、回転ナメ、回転ナメ	重、白・黑色砂粒を含む	良好	灰色	ボタン状つまみ、つまみ径：20cm
57.2	33	N32E10K:西壁サブトレ	091116	須 恵 器	高台付壺	13.0	6.0	5.1	ナメ、回転ナメ、回転ナメ	重、2m以下の白色砂粒を少し含む	良好	暗青灰褐色	
57.3	33	N22E10K:赤土層	090620	須 恵 器	高台付壺	14.0	10.0	3.8	ナメ、回転ナメ、静止赤切り	重、1m以下の白色砂粒を含む	良好	にふい赤褐色	
57.4	33	N32E10K:西壁サブトレ	091106	須 恵 器	壺	13.0	8.8	4.6	ナメ、回転ナメ、静止赤切り	重、1m以下の白・黑色砂粒を多く含む	良好	明灰褐色	静止赤切り
57.5	33	N32E10K:西壁サブトレ	091106	須 恵 器	壺	13.0	7.5	4.6	ナメ、回転ナメ、回転赤切り	重、1m以下の白・黑色砂粒を多く含む	良好	明灰褐色	
57.6	36	N40E10K:赤土層	091116	須 恵 器	壺	13.7	6.0	3.5	ナメ、回転ナメ、回転赤切り	重、2m以下の砂粒を含む	良好	灰褐色	
57.7	33	N32E10K:240	091105	須 恵 器	高台付壺	18.7	11.4	3.7	ナメ、回転ナメ	重、2m以下の砂粒を多く含む	良好	灰白色	
57.8	33	N32E10K:西トレンチ	091229	須 恵 器	高台付壺	16.5	11.8	3.2	ナメ、回転ナメ	重、2m以下の黒、褐色砂粒を多く含む	良好	淡灰褐色	表面施化
57.9	36	N40E10K:赤土層	091116	須 恵 器	盤+高耳壺				ナメ、回転ナメ、回転ナメ	重、紗綱を含む	良好	黄灰白褐色	
57.10	36	N32E10K:西壁サブトレ	091116	須 恵 器	壺				平行タキ、同心円当て具輪、カキ目	重、白色砂粒を少し含む	良好	青灰褐色	
57.11	36	N40E10K:赤土層	090619	須 恵 器	盤+鉢				ナメ、回転ナメ、タナカ方向のタキ	重、白色細砂粒を採りに含む	良好	明灰褐色	把手
57.12	36	N22E10K:赤土層	091029	須 恵 器	壺				回転ナメ、静止赤切り	重、2m以下の砂粒を多く含む	良好	暗青灰褐色	
57.13	36	甕:081127		須 恵 器	直瓶壺			5.7	回転ナメ、回転赤切り	重、6mm以下の石粒、1.5mm以下の白・黑色砂粒を多く含む	良好	明赤褐色	
57.14	36	N22E10K:赤土層	081031	須 恵 器	盤+		(4.7)		ナメ、回転ナメ、ヘラ記号	重、1m以下の白色砂粒を採りに含む	良好	明灰褐色	底外側ヘラ記号「□」
57.15	36	甕:土質不詳090922		須 恵 器	盤+		(5.0)		回転ナメ、静止赤切り	重、1m以下の白・黑色砂粒を含む	良好	明灰褐色	
58.1	37	N32E10K:赤土層	081201	鏡	圓鏡				回転ナメ	重、4mm以下の白色砂粒、紗綱砂粒を含む	良好	暗青灰褐色	底13mmの通かし（方孔）
58.2	37	N32W50A:色砂利層	081008	鏡	圓鏡		(17.5)		回転ナメ、ケズリ	重、白色細砂粒を少し含む	良好	暗青灰褐色	
58.3	37	N32E10K:色砂利層	090626	鏡	圓鏡	7.6	(13.3)	(5.5)	ナメ、回転ナメ	重、紗綱砂粒を採りに含む	良好	暗青灰褐色	
58.4	37	N32E10K:色砂利層+灰 色砂質土080819		鏡	圓鏡				回転ナメ	重、1m以下の白色砂粒を採りに含む	良好	明灰褐色	透かし
58.5	37	N40E10K:西壁+インク 色砂質土080118		鏡	圓鏡				回転ナメ	重、白色砂粒を少し含む	良好	暗青灰褐色	スカリあり
58.6	37	N32E10K:色砂利層+灰 色砂質土080919		鏡	圓鏡				回転ナメ	重、1m以下の白色砂粒を少し含む	良好	明灰褐色	外周灰褐色
58.7	37	N32E10K:色砂質土 091117		鏡	圓鏡				回転ナメ、ナメ	重、1m以下の白・黑色砂粒を含む	良好	青灰褐色	透かし
58.8	37	N32E10K:色砂利層+ 色砂質土080106		須 恵 器	壺				ナメ、回転ナメ	重、紗綱砂粒を少し含む	良好	灰褐色	天井部研磨、転用鏡。つまみ径：2.5cm
58.9	37	N22E10K:色砂質土層	081126	須 恵 器	壺				ナメ、回転ナメ、回転ナメ	重、2m以下の白色砂粒、回転砂粒を少し含む	良好	明灰褐色	天井部研磨
58.10	37	N32E10K:色砂利層+ 色砂質土層081106		須 恵 器	壺				ナメ、回転ナメ、回転ナメ	重、1.5mm以下の白色砂粒を多く含む	良好	明灰褐色	天井部研磨-張膜、転用鏡
58.11	37	N32E10K:20K:色砂質土 層081017		須 恵 器	高台付壺		(12.4)		ナメ、回転ナメ、回転赤切り	重、1m以下の白・黑色砂粒を多く含む	良好	淡灰褐色	底外面や中腰・墨痕
58.12	37	N32E10K:色砂質土層	091116	須 恵 器	高台付壺		(13.5)		ナメ、回転ナメ	重、1m以下の白・黑色砂粒を含む	良好	灰褐色	墨痕
58.13	37	N32E10K:色砂利層 081001		鏡	屬子鏡#				ケズリ、ナメ	重、1m以下の白・黑色砂粒を少し含む	良好	淡灰褐色	
58.14	37	N32E10K:色砂利層 090702		鏡	鏡				重、紗綱を含む	重、紗綱を含む	良好	明灰褐色	三足鏡#?
59.1	38	N32E10K:色砂質土層 No.180 081015		土器類	高台付壺	(25.4)	(13.1)	(8.4)	横ナメ、ナメ(ハサワ)	重、2m以下の白・黑色砂粒を多く含む	良好	帶輪包+灰褐色	内外面赤色地顔
59.2	38	N32E10K:色砂質土層	090706	土器類	壺	(3.5)	(18.8)	3.8	ナメ、剪切刃前	重、白色砂粒を採りに含む	良好	乳輪包+灰褐色	全周面建り、内外面磨痕が残る
59.3	38	N22E10K:色砂質土層	091119	土器類	壺				ヘラケズリ、斜腹粘状紋	重、紗綱を少し含む	良好	淡灰褐色	内外面赤色
59.4	38	N32E10K:色砂質土層	090723	土器類	高台付壺	G220	(17.0)	3.1	風化	重、紗綱を少し含む	良好	滑灰褐色	内外面赤色

種 因 番 号	出 土 遺 品 名 出 土 年 月 日	種 别	器 種	口 径 (cm)	底 径 (cm)	器 高 (cm)	形 态・手 法 の 特 徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
63-5	42 N3GE109K色砂利層№4 090728	瓦	軒丸瓦				1cmの石粒を多く含む。 2mm以下の白色砂粒を 少し含む	灰色～淡黃 色	灰質、瓦当面、底面 厚さ2mm	灰質、瓦当面、底面 厚さ2mm	
63-6	41 N2SE50K色粘質土層№ 376 081105	瓦	軒丸瓦				凸面：ナガ凹面：布目仕面、 側縁ケズリ	白色砂粒を少し含む	やや不均	灰白色～帶 褐色	灰質、瓦當面
63-7	41 N3GE109K色粘質土層 №497 081210	瓦	軒丸瓦				凸面：ナガ凹面：布目仕面、 側縁側縁ケズリ	白色砂粒を多く含む	良好	青灰褐色	
63-8	41 N3GE109K色粘質土層№ 352 081105	瓦	丸瓦				凸面：ナガ凹面：布目仕面、 側縁側縁ケズリ	白色砂粒を少し含む	良好	青灰褐色	
63-9	41 N2SE50K色粘質土層№ 361 081015	瓦	丸瓦				凸面：ナガ凹面：布目仕面、 側縁ケズリ	3mm以下の白色砂粒を 少し含む	良好	明青灰褐色	
63-10	41 N2SE20K色砂利層№2 090702	瓦	丸瓦				凸面：ナガ、ケズリ、凹面： 布目仕面、側縁ケズリ	1mm以下の白色砂粒を 少し含む	やや不均	灰白色	軒質、丸瓦部、筒部 厚さ1.5cm、底面厚さ 1.0cm、高さ1.3cm 段部長：0.8cm
64-1	42 N3DW09K色砂利層№2 090728	瓦	丸瓦				凸面：ナガ、ケズリ、凹面： 布目仕面、側縁側縁ケズリ	2mm以下の白・黑色砂 粒を多く含む	やや不均	灰白色～暗 褐色	灰質、有段式丸瓦部、 玉緑部基部高：1.0cm、 段部長：0.8cm
64-2	42 N3GE109K色粘質土層№ 56156 081015	瓦	丸瓦				凸面：ナガ、ケズリ、凹面： 布目仕面、側縁側縁ケズリ	1mm以下の白色砂粒を 少し含む	良好	灰褐色	被質
64-3	42 N3GE109K色粘質土層№ 56155 081110	瓦	丸瓦				凸面：ナガ、凹面：布目 仕面、側縁側縁ケズリ	1mm以下の白・黑色砂 粒を多く含む	やや不均	灰白色	軒質、広幅部
64-4	42 N3GE15 - 206 色粘質 土層№294 081029	瓦	丸瓦				凸面：ナガ、ケズリ、凹面： 布目仕面、側縁側縁ケズリ	2mm以下の白・黑色砂 粒を多く含む	良好	灰褐色	被質、有段式丸瓦部、 玉緑部基部高：1.0cm、 段部長：0.8cm
64-5	42 N2SE109K色粘質土層№ 56110 081015	瓦	丸瓦				凸面：ナガ、凹面：布目 仕面、側縁側縁ケズリ	1mm以下の白・黑色砂 粒を多く含む	やや不均	灰白色	軒質
64-6	42 N3DW09K色粘質土層№ 56149 - 150 080105	瓦	丸瓦				凸面：ナガ、凹面：布目 仕面、側縁側縁ケズリ	1mm以下の白・黑色砂 粒を多く含む	やや不均	灰白色	被質
65-1	43 N2SE50K色粘質土層№ 56154 081126	製塼土器	製塼土器	(14.0)			ナガ	灰、1mm以下の砂粒を 少し含む	良好	深褐色	
65-2	43 N2SE50K色粘質土層№ 56109	製塼土器	製塼土器				底、砂粒を多く含む	良好	深褐色		
65-3	43 N2DW09K色粘質土層№ 561030	土製品	移動式竈				ナガ	やや灰、白色砂粒を 多く含む	良好	深褐色	底部
65-4	43 N3GE15 ライアセ 6.6土層№99117	土製品	移動式竈				ナガ、砂粒を多く 含む	良好	深褐色	底部	
65-5	43 N4GE209K色粘質土層№ 56266 091009	土製品	土鍤				底、1mm以下の砂粒を 多く含む	良好	深褐色	底部	
65-6	43 N3GE109K色粘質土層№ 526 081111	土製品	土鍤				底、3mm以下の白色砂 粒を多く含む	良好	青灰褐色		
65-7	43 N3GE109K色粘質土層№ 59075	土製品	土鍤				ナガ	灰、白色砂粒を多く 含む	良好	深褐色	底部
65-8	43 N3GE209K色粘質土層№ 56115 081115	土製品	土鍤				底、細砂粒を極小に 含む	良好	乳白色	底部	
65-9	43 N2SE50K色粘質土層№ 590818	土製品	土鍤				ナガ	灰、細砂粒を極小に 含む	良好	深褐色	底部
65-10	43 N3GE15 - 20陶灰土 層№1016	土製品	土鍤				底、細砂粒を極小に 含む	良好	深褐色	底部	
65-11	43 N3GE209K色砂利層№ 590702	土製品	土質支撑				ナガ	やや灰、砂粒を多く 含む	良好	深褐色	
65-12	43 N2SE50K色粘質土層№ 56229 090925	土製品	土質支撑				ナガ	やや灰、砂粒を多く 含む	良好	深褐色	底部
65-13	43 N3GE209K東西ラン シテ層№208 091025	土製品	粘板車				底、砂粒を多く含む	良好	黑褐色		
66-1	43 N2GE109K色砂利層- 0.6.6色粘質土層№101000 N3SE50K土質支撑 090626	白磁	瓶	(1.8)			回転ヘラケズリ	致密	良好	灰白色	碗形
66-2	43 N3GE209K陶灰土層№ 590609	白磁	瓶	6.5			回転ヘラケズリ	密	良好	灰白色、黄	碗形
66-3	43 N3GE109K色砂利層- 0.6.6色粘質土層№101000 N3SE50K土質支撑 090626	白磁	瓶	(1.8)			施釉	致密	良好	灰白色	碗形
66-4	43 ♀ 9.10.1124	白磁	瓶				施釉	密	良好	灰白色	碗形、内面段あり
66-5	43 N4GE15陶灰土層 590618	白磁	瓶	6.5			沈瓶、ケズリ	密	良好	灰白色	碗形、内面段あり
66-6	43 N3SE50Kセラミック 090706	白磁	瓶	6.5			内面施釉、ケズリ	密	良好	灰白色	碗形
66-7	43 N4GE150K色粘質土層 090706	白磁	瓶				施釉、沈瓶、クリヤー	密	良好	灰白色	碗形
66-8	43 N3GE109K色砂利層 090620	白磁	瓶	(1.2)			施釉、沈瓶、ケズリ	密	良好	灰白色	福建省
66-9	43 N3GE209Kライアセ 6.6色粘質土層№1028	白磁	瓶	(10.2)			施釉、回転ナガ	密	良好	灰白色～ 乳白色	
66-10	43 N3GE209K陶灰土層№ 590624	白磁	瓶	(1.8)			回転ナガ、施釉	密	良好	灰白色	碗形
66-11	43 N2DW09K色砂利層 090702	白磁	瓶	(1.7)			施釉、ケズリ	密	良好	灰白色	福建省

拂回 番号	写真 図版	出土遺構名 出土年月日	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	基高 (cm)	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
66.12	43	N25E1506E北粘質土層 090730	白磁	盃		(2.0)		施釉、ケズリ	密	良好	灰白色	
66.13	43	N25E10南陶灰土層 081002	青磁	瓶				施釉	密	良好	緑灰色	龍泉窯系、内面片割り外面草花文
66.14	43	N25E09南陶灰土層 090623	青磁	瓶	(0.8)			施釉	致密	良好	灰白色、薄緑色	龍泉窯系
66.15	43	N25E5南陶灰土層 080824	中国陶器	盃	(0.8)			施釉	密	良好	暗オーラー緑色	
66.16	43	N25E20南陶灰土層 090627	中国陶器	盃	(1.4)			施釉、回転ナメ	密	良好	暗オーラー緑色	
66.17	43	N25E10南陶灰土層 081201	青磁	瓶				回転ナメ、スリット	密	良好	灰褐色	瓶跡加熱
66.18	43	N25E15南陶灰土層 080809	李朝陶器		4.0			施釉、ケズリ、目あと	密	良好	灰白～褐色	内面目あと5つ、呉内面目あと6つ

第4表 出雲国府跡出土金属製品観察表

拂回 番号	写真 図版	出土遺構名 出土年月日	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
70.1		採集遺物	鋼製品	鉗子	(2.1)	0.5	2.05	13.00「金」	
11.17	13	T53W4E±090105	鋼製品	束文鏡	3.5	3.6	0.55	8.50	
15.6	14	N25E05E030南西サブトレ北埋削 ±1.1 頃N22 090728	鋼製品	方面太刀	4.5	3.5	0.1～ 0.2	24.24	柄頭未完成

第5表 出雲国府跡 13号井戸出土木製品観察表

拂回 番号	写真 図版	出土遺構名 出土年月日	器種	樹種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考
17.1	14	N25E20S10北東サブトレ埋土层 下層090730			14.6	1.8	1.4	円柱状
17.2	14	N25E20S10北東サブトレ埋土层 下層090730			22.3	1.6	0.4	木棒状

第6表 出雲国府跡出土錢貨観察表

拂回 番号	写真 図版	出土遺構名 出土年月日	名稱	初期年	銘文(A) / (B) mm	内径 (A) / (D) mm	銘文 mm	量目 g	備考
6.9	13	T52E02調査区090624	照寧元寶 北宋(1068)		24.5/245		20.5/20.5	1.0	2.3
67.2	40	N25E25調査±090612	寛永通宝 寛永13年(1636)		23.5/249		19.7/19.5	1.0	2.74

第7表 出雲国府跡出土金属器皿生産関連遺物観察表

拂回 番号	写真 図版	出土遺構名 出土年月日	種別	胎土	色調	義さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
26.3	17	N25E15S0202±01 091009	洋				6.3	6.3	39	100
26.4	17	N25E15・20東側サブトレ灰色砂利081022	羽口	密、2mm以下の白色砂 粒を多く含む	灰白～にぼい橙褐色				20	25.26 内径2.9cm、外径7.2cm
29.4	18	T54E16E25褐色土層090907	楕型鋳治沿			7.6	7.6	2.0		
29.5	18	T54E6A色砂利090917	羽口	やや密、1mm以下の白 色砂粒を多く含む	灰白～黄褐色				21	132 内径(3.3)cm、外径(6.4)cm
37.1	25	N25E20瓦頭引	羽口	密、2mm以下の砂粒を 含む	灰白色				21	101.56 内径(2.8)cm、外径(6.4)cm
44.1	27	N25E20S30200909	羽口	密、白色砂粒を少し 含む	緑黒～灰褐色					内径(2.0)cm、外径(3.0)cm
44.2	27	N25E20S3020251 091006	印壺	密、砂粒を多く含む	緑黒～灰白色	10.5	12.6		35.48	鋳治印
44.3	27	SK02埋 1.9H0104	楕型鋳治沿			9.3	7.2	2.5	150	
44.4	27	SK02埋 1.9H0104	楕型鋳治沿			7.6	7.5	2.6	135	
44.5	27	SK02埋 1.9H0104	楕型鋳治沿			7.5	6.6	2.9	130	
44.6	27	N25E20S302 090909	洋			8.0	6.4	5.0	109.16	墨が落付いたもの
44.7	27	N25E20S3020261 091007	洋			5.7	7.5	2.4	65	
52.1	31	N25W10年賀サブトレ灰化粧層～灰土層 ±01 091203	1.9×e	密、白色砂粒を少し 含む	灰白色				37.96	内径(4.4)cm、外径(5.9)cm、指痕 左側、注口あり、小判のもの
69.1	44	N25E20A色砂利090702	羽口	やや密、3mm以下の白 色砂粒を含む	灰～にぼい橙褐色				23	160 内径(3.8)cm、外径(7.4)cm
69.2	44	N25E20A色粘質土層081020	羽口	密、1mm以下の白色 砂粒を多く含む	灰～にぼい橙褐色				26	75 内径(3.4)cm、外径(7.8)cm
69.3	44	N25E20A色粘質土層081029	5号壺			10.1	12.2	4.9	263.36	
69.4	44	N25E20A色粘質土層081030	楕型鋳治沿			9.3	10.1	4.2	448.72	
69.5	44	N25E15・20A色粘質土層No315 081029	楕型鋳治沿			8.9	5.4	2.9	99	
69.6	44	N25E15A色粘質土層No343 081030	洋			5.9	4.7	2.8	58.47	
69.7	44	N25E20A色粘質土層081030	洋			2.6	2.9	1.8	8.62	

第8表 出雲国府跡出土玉作関連遺物観察表

備考	重さ(g)	幅(cm)	高さ(cm)	製作時期	石材	器種	出土遺物名	出土年月日
9.1 11 TS204色粒質土器附調査区疇 991027	水晶 平玉 調整	1.9	1.8	1.6	5.0	小型の原石をそのまま加筆		
9.2 11 TS204色粒質土器附調査区疇 990526	水晶 平玉 調整	2.6	2.8	2.7	18.29	小型の原石をそのまま加筆		
9.3 11 TS204ハイテク990702	翡翠 平玉 調整	1.8	1.8	0.8	3.43	垂直に加筆し、素材を剥離。斜線に微調整の調査前		
9.4 11 TS204ハイテク990522	碧色翡翠 平玉 成品	2.2	2.2	0.5	5.45	一部欠損、研磨している。		
9.5 11 TS204ハイテク990702	黑色翡翠 平玉 成品	2.3	2.1	0.6	4.21	研磨している。		
11.15 13 TS204色粒質土器附調査区疇 991027	花崗岩 磨礫石	30.8	17.0	13.4	8.56 (kg)	三面削用で一面に溝、一面は研磨前		
11.16 11 TS204色粒質土器附調査区疇 990928	水晶 平玉 成品	1.6	1.4	0.8	2.18	研磨している。		
15.7 14 NSKE15-20 SD0020埋土上層 081119	水晶 平玉 調整	2.4	2.1	1.4	7.66	主要調査面を調整		
26.5 16 NSKE15-202 検サブフレーム 081110 73号調	水晶 美術	4.6	3.8	2.5	71.27	垂直に調査？自然面の可能性		
26.6 16 NSKE20丸底アゼ北壁No.210 090925	水晶 原石	4.2	2.4	2.0	25.24	柱状の原石		
37.2 25 NSKE20丸底アゼ北壁No.210 090925	水晶 原石	10.5	5.2	3.8	23.6	柱状の原石		
52.2 31 NSKE25垂直サブフレーム化物類 - 岩 色粒質土器98091227	メノウ 原石	6.9	3.8	3.3	33.28	柱状の原石		
52.3 31 NSKE25垂直サブフレーム化物類 - 岩 色粒質土器98091227	翡翠 原料	4.2	6.0	1.9	33.28	横長調片		
67.1 43 NSKE25K色砂利型 - 岩色粒質土 器980916	透石系 高方 成品	3.5	3.8	0.6	17.45	傾き度：0.5%横造丸：180cm丸深：0.2 ~ 0.3m。剥離面 - 白色 斑斑面褐色化物		
68.1 44 NSKE269A色粒質土器981117	水晶 美術	3.5	3.5	2.7	34.02	原石の側面から、打面を固定し垂直に加筆し、素材を剥離している。		
68.2 44 NSKE269B色粒質土器981117	水晶 美術	2.5	3.1	3.1	34.02	原石の側面から、打面を固定し垂直に加筆し、素材を剥離している。		
68.3 44 NSKEW5K色粒質土器980100	水晶 定形	3.5	2.1	2.0	14.57	原石の側面から、打面を固定し垂直に加筆し、素材を剥離している。		
68.4 44 NSKEW5K色砂利型990626	水晶 平玉 原料	2.0	2.5	0.3	3.84	原石の側面から垂直に加筆して素材を剥離。		
68.5 44 NSKE269K色粒質土器981022	水晶 平玉 原料	2.7	2.2	1.0	7.14	垂直に加筆して素材を剥離。主要調査面の端部に調整板。背面に縦 筋が見られる。		
68.6 44 NSKEW10K色粒質土器981126	水晶 平玉 原料	2.6	3.0	1.5	9.96	原石の側面から垂直に加筆して素材を剥離		
68.7 44 NSKE35-206K色粒質土器980204	水晶 平玉 原料	2.4	2.0	1.1	4.39	原石の側面から垂直に加筆して素材を剥離		
68.8 44 NSKE269A色粒質土器981024	水晶 平玉 調整	1.8	1.9	0.9	3.12	垂直に加筆して素材を剥離。主要調査面の端部に調整板。背面に縦 筋が見られる。		
68.9 44 NSKE269A色粒質土器980917	水晶 平玉 原料	1.6	1.9	1.0	2.42	（11F垂直に加筆して素材を剥離。主要調査面に反対方向のリンクが 見られる）		
68.10 44 N4KE109K色粒質土器980806	水晶 平玉 研打	1.9	2.0	1.7	8.17	全面に研磨面と剥離面		
68.11 44 NSKE10場灰土色 080905	水晶 平玉 研打	1.1	0.9	0.6	0.78	全面に最打痕。欠損部には両側剥離面が残ることから、両側最打痕 の可能性		
68.12 44 NOKWY陶灰土色 081001	メノウ 平玉 成品	1.3	1.1	0.6	1.19	研磨している。		
68.13 44 NSKE10場灰土色 081201	メノウ 平玉 成品	2.0	1.3	0.5	1.85	研磨している。		
68.14 44 NSKEW5K色粒質土器981009	翡翠 研磨	4.1	8.3	3.5	149.87	原石の側面から、打面を固定し垂直に加筆。横長の素材を剥離し ている。		

第9表 出雲国府跡出土金属器生産関連遺物集計表

地区	遺構名	宮の塚		13号井戸		70号・72号墓		73号溝		40号土坑		42号・43号土坑		46号土坑	
		点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
津	特L(●)	1	88.79												
M(○)	6	408.17						2	93.73			2	73.71		
H(□)	319	4607.45	5	189.66		25	2902.27	1	3.15	14	657.78				
鉄化(△)	262	2931.10	8	32.38	2	7.65	12	56.38	10	51.09	5	223.31			
H(□)	1	1.66													
鉄化(△)	1	2.33													
羽口	143	2315.24	3	33.59		6	335.15	6	187.36	29	387.41				
羽口先端解物	507	2774.22	18	71.72		40	204.98	23	319.46	15	92.31	1	213		
伊壁		3	75.26									1	471.52		
堀廻		1	27.96												
T52		T52 SD0010		T53		T54									
津	特L(●)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
	M(○)	1	100.78					2	222.86						
H(□)	25	675.31	2	21.38	1	1222	10	9969							
鉄化(△)															
羽口	40	911.56				2	33.44	10	580.51						
羽口先端解物	30	201.41	1	3.19	1	10.22	9	50.67							
伊壁		1	19.43												

第10表 出雲国府跡出土玉作関連遺物・石器集計表

水晶	原石		磨削		素材		調査		調整片		剥片		内部		大玉		調査		大玉		削打		
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
2008年度	22	400.15	25	828.19	11	117.79			1	10.70	218	391.87			56	166.94			1	30.09			
T52			11	264.37																			
本調査区	33	701.52	46	1,113.05	2	232.92	1	20.56	1	29.67	184	500.21			1	390.07			1	30.09			
T53	4	101.54	31	323.38	3	36.96										8	18.65						
T54	31	45.97	4	222.27	6	134.59										22	24.55						
計	62	1,249.18	99	2,692.23	25	313.26	11	20.56	21	80.37	482	1,102.22			1	390.07			11	30.09			
平玉																							
水晶																							
丸玉		調査		完成品		素材		調査		丸玉		調査		丸玉		調査		丸玉		合計			
点数		重量(g)		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数			
2008年度	121	111.74	8	364.60	1	6.76			1	17.41	2	14.01			3	121.11			308	1,936.28			
T52	31	33.96	2	29.73												1	18.29			2	53.65		
本調査区	16	177.83	5	294.47	1	67.8			3	14.15	2	10.60			2	27.79			19	217.96			
T53																				36	425.90		
T54			1	25.2																			
計	31	322.86	17	98.37	2	754	11	218	4	31.56	61	43.18	2	39.90		738	5,833.57						
朝玉																							
原石		石核		磨削		素材		剥片		原石		磨削		剥片		原石		磨削		合計			
点数		重量(g)		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数			
2008年度	1	1488.07		5	12016.09	18	1,37.82			1	6.80			55	415.18								
T52			4	176.97		21	66.71			21	1.21			343	296.63								
本調査区	1	1,308.10	4	358.94	3	102.81	42	144.11		5	30.34			50	1,992.96								
T53			2	106.43		11	20.94			5	11.39			2	117.82								
T54			11	365.24	41	176.97	81	223.50	124	200.37	1	8.12			103	281.93			147				
カド石																							
原石		石核		磨削		素材		剥片		原石		磨削		剥片		原石		磨削		合計			
点数		重量(g)		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数			
2008年度	21	183.57	5	162.86	2	26.01	3	62.47	80	391.50						77	444.25	1	1.82	80	500.00		
T52	4	85.72	3	98.82		21	129.66									32	169.49			41	566.13		
本調査区	5	72.30	9	151.41	9	57.69	66	206.79		4	17.57					80	1,363.63			93	605.76		
T53			11	218.63		1	18.12									2	3.85						
T54			11	15.32	1	126.3	6	29.84								1	1.53			5	60.33		
計	19	1,048.33	91	254.31	5	108.83	113	558.61	80	391.50										221	1,740.07		
メノウ																							
原石		磨削		素材		剥片		剥片		原石		磨削		不規		合計		原石		磨削			
点数		重量(g)		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数			
2008年度	21	183.57	5	162.86	2	26.01	3	62.47	80	391.50						77	444.25	1	1.82	80	500.00		
T52			4	85.72		21	129.66									32	169.49			41	566.13		
本調査区	5	72.30	9	151.41	9	57.69	66	206.79		4	17.57					80	1,363.63			93	605.76		
T53			11	218.63		1	18.12									2	3.85						
T54			11	15.32	1	126.3	6	29.84								1	1.53			5	60.33		
計	21	27.99	11	201	11	194	2	295	2	6.80	231	282.61								221	1,740.07		
石英																							
原石		石核		磨削		素材		剥片		石英		磨削		不規		合計		原石		磨削			
点数		重量(g)		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数			
2008年度	4	79.83		5	95.72	39	113.54	20	31.43	31	21.13	89	341.65										
T52			2	27.99		1	3.94	2	295	2	6.80					102	87.44						
本調査区	17	1,046.30		4	118.78	21	20.92	4	7.66							30	31.00						
T53			2	20.92		4	11.59									4	1.21						
T54			1	358		1	3.58									1	1.53			3	153		
計	21	1,126.39	21	144.52	12	307.55	100	276.82	31	52.57	31	21.13	167	1,928.78									
黒曜石																							
石核		調整剥片		不規		石核		合計		石核		調整剥片		不規		合計		石核		調整剥片			
点数		重量(g)		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数		点数			
2008年度	23	381.57	21	381.57	21	381.57		2	10.70	218	391.87					15	56.58						
T52	2	7.66	15	320.4	17	367.70									6	11.56							
本調査区	25	517.0	25	517.0	26	517.0									25	216.15							
T53			1	358		6	36.76								1	3.58							
T54			2	245	2	245									6	36.76							
計	21	7.66	62	124.34	62	124.34	137.97								1	0.98	53	324.63					
その他																							
(安山岩)		(石核)		不規		(安山岩)		スクリーパー		剥片		(石核)		不規		合計		石核		調整剥片			
点数																							

第11表 出雲国府跡出土陶器分類表

種別	分類	2008年度調査 宮の後地区 本調査区 T52 T53 T54				2009年度調査 宮の後地区 本調査区 T52 T53 T54				計	
		2008年度調査 宮の後地区 本調査区 T52 T53 T54		2009年度調査 宮の後地区 本調査区 T52 T53 T54		2008年度調査 宮の後地区 本調査区 T52 T53 T54		2009年度調査 宮の後地区 本調査区 T52 T53 T54			
		計	種別	分類	計	種別	分類	計	種別		
白磁	碗 Ⅱ類	10	9	5	1	25	青白磁	皿	2	2	
白磁	碗 Ⅲ類a				1				1	1	
白磁	碗 Ⅲ類b	10	32	16	3	61	青白磁 合子(蓋)		1	1	
白磁	碗 V類	8	10	5	2	25	青白磁 合子	1		1	
白磁	碗 V~VI類	1	6			7	青花 皿		1	1	
白磁	碗 V~VI+蝶類		1			1	中國陶器 蝶柄 甌	1	3	2 3 9	
白磁	碗 X類			1		1	中國陶器 蝶柄 甌	6	1	2	
白磁	碗 X.Ⅱ+X.Ⅲ類近東省系			1		1	中國陶器 鋼+盤	2	1	2	
白磁	碗 黄釉系	7	7	3	2	19	中國陶器 黄釉盤	1		1	
白磁	碗 福建省系	3	29	9	4	45	中國陶器 黄釉盤	2	2	0	
白磁	碗 福建省系	50	71	27	7	156	李朝陶器	1		1	
白磁	碗 a			1		1	李朝陶器 備津+李朝	1	1	2	
白磁	碗 花瓶	5	6		1	12	高麗陶器 甌	3		2	
白磁	瓶 V~2-b	1				1	高麗陶器 甌	1		1	
白磁	瓶 蝶類		1			1	高麗陶器 甌+風	1		1	
白磁	瓶 壺類	1				1	高麗陶器 甌	1	1	2	
白磁	瓶 玉瓶		1			1	高麗陶器 甌	1		1	
白磁	瓶 玉					1	高麗陶器 甌	1		1	
白磁	瓶 近東省系		1			1	高麗陶器 破片 近江系	1		1	
白磁	瓶 福建省系		1			1	高麗陶器 破片 京都系	1		1	
白磁	瓶	1				1	高麗陶器 破片 京都系	1		1	
白磁	瓶 金	11	12	5	1	29	高麗陶器 破片 京都系	1		1	
白磁	瓶 四足	2	11			13	高麗陶器 破片 京都系	1	7	6 14	
白磁	金	5	11	4	2	1	23	高麗陶器 破片 破片 近江系	2		2
白磁	合子 庫	1				1	高麗陶器 破片 破片 京都系	1		1	
白磁	小道a 合子	1				1	高麗陶器 破片 破片 京都系	1		1	
白磁	小道b 合子	20	14	12	1	47	高麗陶器 破片 破片	3	4	7	
青磁	罐 廣東省系	2	1	1	1	6	高麗陶器 破片 破片	2		2	
青磁	罐 廣東省系	2				2	高麗陶器 破片 破片 小瓶	1		1	
青磁	罐 廣東省系 瓷		1			1	日本陶器 金	3	80	1 84	
青磁	罐 廣東省系 瓷	2				2	日本陶器 瓷	1		1	
青磁	罐 廣東省系 瓷	3	3			6	日本陶器 瓷	1		1	
青磁	罐 廣東省系 瓷	2	6	2		10	日本陶器 瓷	1		1	
青磁	罐 廣東省系 瓷 II類		1			1	日本陶器 瓷	1		1	
青磁	罐 廣東省系 瓷 II類	1				1	日本陶器 瓷	1		1	
青磁	罐 廣東省系 瓷 V類		1			1	日本陶器 瓷	1		1	
青磁	罐 廣東省系 瓷	3	2	1		11	日本陶器 瓷	1		1	
青磁	罐 廣東省系 瓷 a		1			1	日本陶器 破片 破片 容器	1		1	
青磁	罐 廣東省系 瓷	2	1			2	日本陶器 破片 破片 容器	1		1	
青磁	罐 廣東省系 D類		1			1	高麗陶器 瓷	1		1	
青磁	罐 廣東省系 I類	2				2	高麗陶器 瓷	2		2	
青磁	罐 廣東省系 II類		1			1	高麗陶器 瓷	1		1	
青磁	罐 廣東省系	3	7	1		11	高麗陶器 瓷	5	6 3 2	16	
青磁	罐 廣東省系		1			1	高麗陶器 瓷	1		1	
青磁	合子 盒		1			1	不明陶器 染付			1	
						1	不明陶器 染付	31	36	10 57	
						165	22	162	43	12 405	
			0	417		366	21	77	23	1187	
			合計			366	417	304	77	23 1187	

第12表 出雲国府跡軒瓦等の出土点数一覧

地区名	年度	区	軒丸瓦				軒半瓦				積尾	鬼瓦	計
			1類	2類	3類	不明	丸瓦部	1類	2類	3類	半瓦部		
六所塚	1920	I~J			3	1	3					1	8
	2006	T67		1	1							2	
	2007	T69			2	1						3	
				1	6	2	3					1	13
	小計		0	2	12	4	6	0	0	0	0	2	26
宮の後	1968~1970	A	6	4		10					1		21
		B		1	1	2					1		3
		C	5	3	3	6					1		10
		不明			1	4					2		5
	1972~1974	東山復元課											1
		北山復元課		1									1
		基礎整備手番					1						1
	1999~2004	4-6		2									2
		7-8		1									1
		2006		1									1
	2007~2008	5	1	1	4	2							12
		6	1	1	3	2							12
		小計	0	27	11	12	27	0	0	0	4	1	82
大倉原	1999~2004	1区		1	1	5							7
		2区	1	2	1	1							5
		3区~T33	21	2	1	5					2		17
		4区	1	1		4					1		12
	1991採集	1											2
		2											2
		小計	2	18	4	1	15	0	0	0	3	0	40
	貢貢 2006~2007		2			1					1		4
	貢貢 1999~2006		1		1						1		2
	計		2	49	28	17	49	0	0	11	81	1	215

*表3 出雲国府跡軒瓦等の出土点数一覧（鳥根県古代文化センター『出雲国の形成と国府成立の研究』2010 P217）に誤りがあったため、訂正して再掲

附編 山代郷南新造院跡

第1節 山代郷南新造院跡の調査に至る経緯と経過

松江市山代町に所在する山代郷南新造院跡は、平成5年に島根県の史跡に指定され、平成6年に整備事業を実施した。山代郷南新造院跡は四王寺跡とも呼ばれていた遺跡で、『出雲国風土記』記載の山代郷新造院の内の1所と考えられている。『出雲国風土記』の山代郷には新造院の記載が2ヶ所見られることから、位置関係より山代郷北新造院・南新造院と呼び分けている。

平成21年1月になって、山代郷南新造院跡の県指定史跡隣接地で住宅新築計画が持ち上がったことから、遺跡の範囲確認調査を実施することになった。

山代郷南新造院跡は松江市山代町144番地付近（字内堀など）に位置している。付近は古くから古瓦の散布地として知られており、『出雲国風土記』記載の出雲臣弟山が建立した「新造院」の有力な推定地である。また、隣接地に字「師王寺」が在ることから『三代実録』に見られる貞觀3年の「四天王安置の寺」が師王寺に変化したものとも考えられていた。この遺跡の実体を明らかにするため、島根県教育委員会では昭和59～平成5年度の間に3次にわたる発掘調査を実施し、東西23mに及ぶ大規模な基壇や多量の瓦類、塑像片などが出土した。この調査によって『出雲国風土記』記載の新造院跡であることがほぼ明らかになった一方、貞觀3年の四天王安置の寺であったことを示す有力な手がかりはなく、今後の調査の進展を待つこととなった。

平成19年にリニューアルした島根県立八雲立つ風土記の丘展示学習館では、展示の目玉として、「再現！古代の意宇1/1,000模型」を作成している。この模型制作時の検討に際しては、県指定史跡山代郷南新造院跡の指定地北側背面にある広大な平地が注目され、以下の点が検討された。

- ① 昭和59・62年度の発掘調査で発見された基壇は、横方向に長い建物であることから、金堂よりも講堂の可能性が高い。
- ② 基壇北側の平坦面は茶臼山麓を長方形に切り崩して造成したもので、これほど大規模な造成が一般家屋建設によるものとは考えにくい。また、平成5年に発掘された瓦溜まりの存在から、知られている基壇よりも上方（北側）により古い建物があった可能性が高い。
- ③ 基壇北側の平坦面は、平成18年度までに発掘調査が行われた山代郷北新造院跡の主要伽藍が展開する平坦面に匹敵する規模があり、主要伽藍を置くのに相応しい。

この様な理由から、指定地北側に接する平場は、山代郷南新造院跡の主要伽藍が展開していた可能性が高いと結論付け、そのように模型を製作した。

この場所について、住宅建設の計画が持ち上がった際に「再現！古代の意宇1/1,000模型」での検討どおりに重要遺構が展開していれば、十分な保護措置を講じる必要があるため、平成21年12月に急遽試掘調査を行うことになった。なお、地権者からは言い伝えとして「中世茶臼山城の家老の屋敷」と聞いており、中世後半以降の造成である可能性も残されていた。

調査は平成21年12月1日に着手し、平成21年12月8日に埋め戻しを行って終了した。

第2節 遺構の概要

現地の標高は25.5～26.0mで、平成7年頃まで建っていた建物の地覆石などが残されている。平坦面は東西50m以上、南北20m程の広さがあり、東側には住宅1棟が、西側には薬師堂が建っている。平坦面背後には茶臼山からの湧水がわき出す亀裂があり、排水のための溝が東西方向に数多く延びていた。平坦面中央には、平成11年まで住宅と蔵が建っており、蔵の基礎が平坦面北側に残されている。調査は平坦面の中心、想定される古代寺院の中軸線を狙って設定した。東西3m、南北



第1図 山代郷南新造院跡調査区配置図 (S = 1 : 2,000)

5mのトレンチを設定し、遺構検出状況を見ながら、西側に3×3mのトレンチを追加した。

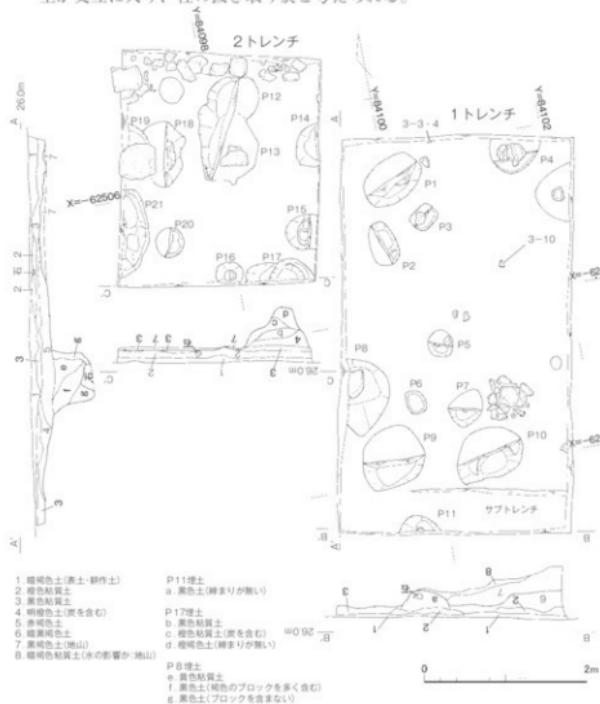
薄い耕作土と約20cm堆積している縞まりのない橙色粘質土を取り除くと、東側では黒色の堅い粘質土に、西側では橙褐色土面にあたる。耕作土・橙色粘質土中には、少量のいぶし瓦片や現代の陶器片を含んでいるが、古代に遡る遺物はほとんど見られない。

橙褐色土面には柱穴が多く見られる。柱穴の多くは縞まりのない黒色土が詰まっており、新しい埋土であろう。

P1は、長径70cm、深さ46cmを測り、橙色粘質土と黒色粘質土が斜めに交互に入っている。土層堆積状況から、柱を抜き取った可能性がある。底には扁平な石が置かれており、礎盤と思われる。埋土から3~7土器類小皿片が出土している。

P2は長径56cm、深さ33cmで埋土は縞まりのない橙色土が充満している。P3も同様の土で埋まっている。石は床面から浮いた位置にある。なお、P3からは3-1須恵器蓋が出土している。P4は耕作土が入り込んでおり、石も浮いた位置にある。P5は赤変した浅い土坑状だが、耕作土直下であり、新しいものであろう。P6・7・9・10・11も縞まりのない黒色土が充満しており、新しいものであろう。P10からは3-2須恵器甌が出土した。

P8は、長径78cm、深さ51cmで、底には扁平な石が置かれている。土層は黄色の粘質土と黒色土が交互に入り、柱の抜き取り痕と考えられる。



第2図 山代郷南新造院跡遺構配置図・土層断面図 (S=1:60)

P13は、深さ38cmで
P12はやや浅い。P12
とP13は切り合いで明
瞭で、P13が新しい。
P12にはしまった橙色
粘質土が、P13には橙色
プロックを含んだ黒
色土が入っていた。

P14は深さ12cmで、
耕作土直下の橙色粘質
土が入っていた。P15
は、深さ18cmで炭を
含んだ黒色土を含んで
いる。P16・18は縞
まりのない黒色土が入っ
ている。P19は深さ
15cmで黄褐色土を含
んでいる。P18は切つ
ており新しい。

P21は、深さ21cmの
不整形の土坑で、2基
が切り合っている可能

性がある。締まりのない褐色粘質土と橙色粘質土が入っており、拳大の石を多く含んでいる。遺物は見られない。

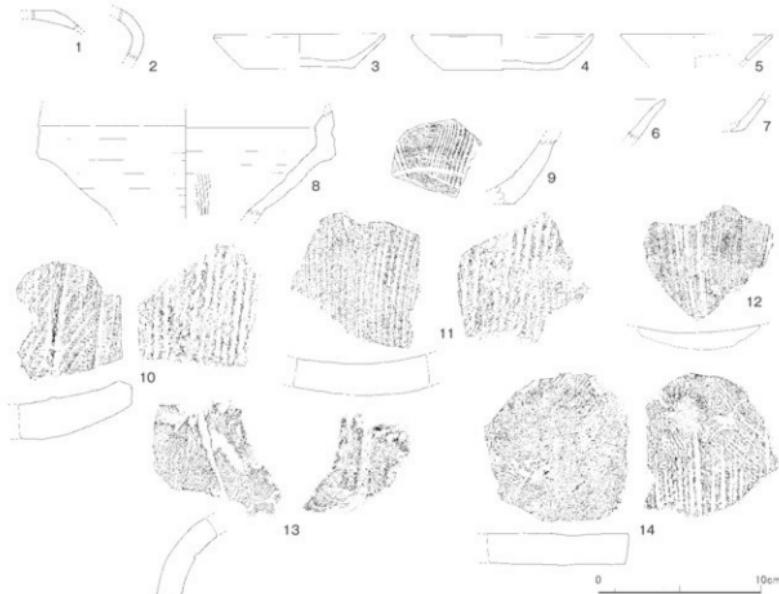
近代以降に掘られたと想像される締まりのない黒色土が充満しているピットを除くと、P1・8・17があり、いずれも柱を抜き取った可能性がある。また、P1・8には、礎盤と考えられる石が置かれている。P17を中心とP1・P8の位置関係を見ると、ほぼ直角に並び、それぞれとの間隔は約18mである。

第3節 出土遺物

古代以前と考えられる遺物は、須恵器小片2点と少量の瓦類が出土した。3-1は須恵器蓋、3-2は甕の体部である。いずれもピットの埋土から出土した。

中世の遺物としては土師器小皿と備前の捕鉢がある。3-3～7は土師器小皿である。この内3-4は、1トレンチ北端で口を合わせて黒色土面の上面におかれた状態で出土した。3の内面にはススが付着しており、灯明皿として使用された可能性が高い。3-7はP1から出土している。3-8・9は灰色を呈した備前の捕鉢で、同一個体の可能性が高い。

古代の瓦類は5点が出土した。3-10～12は平瓦である。10・11は凸面縦目タタキで離れ砂が見られる。10の凹面には模骨状の圧痕が見られるが、圧痕内は布目が消えていることから、乾燥時の台の痕跡であろう。12は、凹面側の破片で糸切り痕を明瞭に残す。いずれも一枚造りと思われる。13は丸瓦側部の破片である。凸面側は丁寧に調整され、凹面側には布目圧痕を残している。14は埠



第3図 山代郷南新造院跡出土土器・瓦類実測図 (S = 1 : 3)



第4図 山代郷南新造院跡出土古銭拓影
(S=1:1)

出遺物から15世紀後半から16世紀前半¹⁾と考えられている。また、備前の捕鉢は16世紀代と考えられる²⁾。

第4節　まとめ

指定地北側の平坦面上で実施した今回の調査では、古代の遺構面を確認することができなかった。柱穴と考えられる落ち込み多数を検出しているが、含まれる遺物は中世後半以降のもので、古代の遺物は、耕作土中から少量の須恵器片・瓦片が出土したに過ぎなかった。もし、古代寺院の主要部が位置していれば、多少の削平を受けたとしても、多量の瓦が出土するはずで、抜き取り痕跡が見られる柱穴埋土中からも瓦片がまったく出土していない以上、この平坦面上に古代寺院の主要部は及んでいなかったと考えられる。

検出した遺構の内、柱の抜き取り痕のあるピットは、中世後半に遡る可能性が高い。出土した土師器小皿や備前捕鉢の年代から、15世紀後半～16世紀前半代と考えられる。

実は、同時期の遺跡は山代郷南新造院跡周辺に多数存在している。山代郷南新造院跡の発掘調査では14～16世紀代の青磁・白磁、石鍋、備前すり鉢が出土している他、平成5年度調査の掘立柱建物SB014は、ピット内の土師器から16～17世紀と考えられており、同時に検出したいくつかの建物跡や土坑も同時期の可能性が高い。一方、平成5年には今回の調査区に隣接する第Ⅷ調査区の調査を行っている³⁾が、第Ⅸ調査区からは中世後半まで下る遺物は出土していない。

山代郷南新造院跡のすぐ西側に所在する字内堀には162点もの石塔石材の集積⁴⁾が知られている。また、その南西側に隣接する市場遺跡でも15～16世紀代の青磁、染付、瀬戸、備前焼片が出土し、掘立柱建物跡と考えられる径25cm前後の直線に並ぶ柱穴群を検出している⁵⁾。

山代郷南新造院跡の背後にそびえる茶臼山山頂では15～16世紀代の青磁、白磁、備前陶器片、土師質土器、瓦質土器が採集⁶⁾されており、同時期に山城として機能したものと考えられている。山代郷南新造院跡の南西約300mに位置する小無田遺跡では中世後半の掘立柱建物跡が検出されており、石を使用した礎盤の存在も知られている⁷⁾。また、山代郷南新造院跡の西約400mには15～16世紀が盛期とされる黒田館跡や下黒田遺跡が知られており、山代郷正倉跡でも同時期の建物跡が知られている⁸⁾。

である。片面には縄目タタキが残るほか、糸切り痕が見られる。

第4図は、寛永通宝である。耕作土中から出土した。土器類で古代以前に遡るものは、3～1・2があるが、いずれも小片であり出土状況からも古代以前の遺構の存在を示すものではない。また、瓦類も小片ばかりで数も非常に少ない。

3～3～7の土師器小皿は、底部に回転糸切り痕を残し、体部が直線的に延びるもので、同様のものは黒田館跡や下黒田遺跡から出土している。黒田館跡では伴

出遺物から15世紀後半から16世紀前半¹⁾と考えられている。また、備前の捕鉢は16世紀代と考えられる²⁾。

山代郷南新造院跡出土土器・瓦類觀察表

件号	写真版	出土遺構名 出土年月日	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	形態・手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
3-1	48	1トレシ No3 黄褐 土色 091202	灰器	蓋	-	-	-	内面・回転ケリナダ 底部・回転系切り	白色の微細粒を 含む	良好	褐灰色	
3-2	48	P10 黒色土 091202	灰器	蓋	-	-	-	内外面ともに回転ナダ 底部・回転系切り	白色の微細粒を 含む	良好	灰色	
3-3	48	1トレシ No1 091204	土器部	小皿	106	67	21	内外面ともに厚手な回転ナダ 底部・回転系切り	砂粒をほとんど 含まない	良好	明褐色	内面に、確かに黒色 付着物あり。灯明板 跡か
3-4	48	1トレシ No1 091204	土器部	小皿	112	7.5	22	内外面ともに厚手な回転ナダ 底部・回転系切り	白色・赤褐色の 砂粒を確かに含む	良好	褐色	
3-5	48	1トレシ No2 091208	土器部	小皿	82	-	-	内外面ともに厚手な回転ナダ 底部・回転系切り	褐色の砂粒を少 量含む	やや秋質	明褐色	
3-6	48	No3 091208	土器部	小皿	-	-	-	内面・回転ナダ 底部・厚底	黒色・赤色の 砂粒を含む	やや秋質	明褐色	
3-7	48	P1 黒色土 091202	土器部	小皿	-	-	-	内外面ともに厚手な回転ナダ 底部・回転系切り	白色的砂粒を 少量含む	良好	褐色	
3-8	48	1トレシ 稲作土 091201	陶瓶	すり鉢	-	-	-	内外面ともに厚手なナダ 底部・厚底	白色的微細粒を 含む	褐元黄で 良好	褐色	3-9と同一個体か
3-9	48	1トレシ 稲作土 091201	陶瓶	すり鉢	-	-	-	内外面ともに厚手なナダ 底部・厚底	1mm程度の白色 の砂粒を少量含む	褐元黄で 良好	褐色	3-8と同一個体か
3-10	48	1トレシ No4 091208	瓦	平瓦	厚さ：2.1	-	-	内面・布目仕面、希切引痕、 スノコ状欠陥 側面・ケリナダ 凸面・窓目タキ	2mm以下の白色 の砂粒を多く含む	酸化良だ が破質で 良好	赤色	凸面に擦れ砂が多量 に付着
3-11	48	2トレシ 稲作土 091202	瓦	平瓦	厚さ：1.9	-	-	内面・布目仕面、希切引痕、 スノコ状欠陥 側面・ケリナダ 凸面・窓目タキ希切引痕 背面・窓目タキ	1mm以下の白 色の砂粒を多く含 む	褐元黄で 良好	明褐色	凸面に確かに擦れ砂 があるか
3-12	48	1トレシ No5 091208	瓦	平瓦	-	-	-	内面・布目仕面、希切引痕 背面・窓目タキ	白色の小砂粒を 多く含む	褐元黄だ が破質で 良好	褐灰色	
3-13	48	1トレシ 塗褐色土 091202	瓦	丸瓦	厚さ：1.6	-	-	内面・タマ・窓目タキを複 数に残す 側面・ケリナダ 凸面・布目仕面	砂粒がほとんど 見えない	褐元黄だ が破質	くすんだ風 色	
3-14	48	1トレシ 稲作土 0.9.1.2.0.1	瓦	唐	厚さ：1.9	-	-	上面・塵減か、確かにあ切り 痕を残す 側面・タマ 背面・深い窓目、希切引痕を 残す	白色の微細粒を 少量含む	酸化良だ が良好	灰褐色 断面は、中 心近く風化 層と外周 部は桃色	
4	48	2トレシ 稲作土 091202	古鉢	寛永造室	-	-	-	-	-	-	-	

にも16世紀前後の遺跡が多い。茶臼山の西麓にある山代二子塚古墳からは、李朝系とも言われる瓦が出土^⑨したことがあり、困惑したことがあるが、背後には中世山城である茶臼山城跡を控え、近接して中世土居跡である黒田館跡がある。山代郷南新造院跡での中世後半の遺跡の確認は、古代出雲の中心地であった意字平野のその後や近世への移りわりを示す重要な資料を提供了と言え、周辺地域で見られる多数の石塔の集積や中世後半の遺跡群の存在を総合的に検討する必要がある。

(林)

註

- (1) 「黒田館跡」松江市教育委員会 1984年
『下黒田遺道発掘調査報告書』松江市教育委員会 1981年
『風土記の丘内地内遺道発掘調査報告書Ⅰ－团原古墳・下黒田遺跡－』鳥根県教育委員会 1989年
- (2) 備前燒の年代観は以下の中文献を参考にした。
岡理忠彦「備前」「世界陶磁全集」3日本中世 株式会社小学館 1977年
- (3) 『風土記の丘内地内遺道発掘調査報告書Ⅳ－鳥根県松江市山代町所在・四王寺跡－』鳥根県教育委員会 1985年
『風土記の丘内地内遺道発掘調査報告書V－鳥根県松江市山代町所在・四王寺跡－』鳥根県教育委員会 1988年
『風土記の丘内地内遺道発掘調査報告書X－山代郷南新造院跡－』鳥根県教育委員会 1994年
- (4) 『風土記の丘内地内遺道発掘調査報告書Ⅴ－茶臼山城跡・市場遺跡・内駁石塔群－』鳥根県教育委員会 1990年
- (5) 註4文献による
- (6) 註4文献による
- (7) 『風土記の丘内地内遺道発掘調査報告書Ⅲ－小無田遺跡－』鳥根県教育委員会 1984年
- (8) 「山代二子塚古墳整備事業報告書」鳥根県教育委員会 2001年
- (9) 「史跡出雲山代郷正倉跡」鳥根県教育委員会 1981年

図 版



第52トレンチ
(北東から)



第52トレンチ未調査部分
(東から)



第52トレンチ未調査部分
SD010e-ライン (南東から)

図版 2



第52トレンチSA004 P7
(東から)



第52トレンチSA004 P6
SB004 P2 P12 (東から)



第53トレンチ
(北から)



平成20年度調査区全景
(東から)



平成20年度調査区
(東から)



平成21年度調査区全景
(西から)

図版 4



13号井戸
(南から)



13号井戸南西部
(東から)



13号井戸南西部
方頭大刀(柄頭)出土状況(南から)



13号井戸・40号土坑
遺物出土状況（南西から）



13号井戸・40号土坑
遺物出土状況（南西から）



漆紙文書出土状況
(南から)

图版 6



40号土坑北西部掘削状況
(西から)



70号溝
(東から)



73号溝
(南から)



73号溝・44号土坑
(東から)



73号溝 e-fライン土層断面
(北から)



第54トレンチ
(西から)

図版 8



第54トレンチ
(北から)



第54トレンチ 73号溝
(南から)



42号・43号土坑
(北から)



集石遺構・第1サブトレンチ
(西から)



集石遺構・第1サブトレンチ
(南から)



石製巡方出土状況
(西から)

図版 10

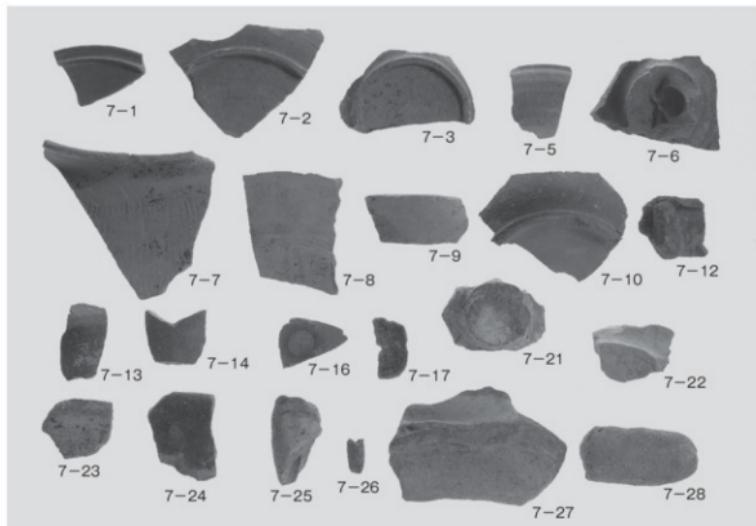


第52トレンチ出土遺物

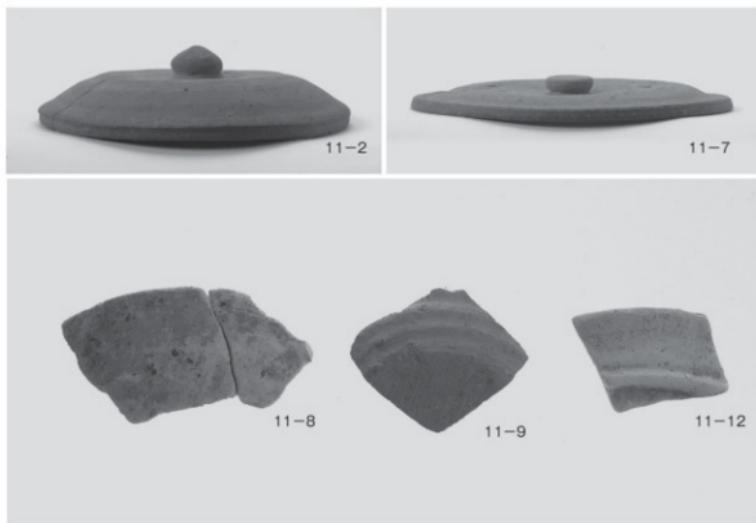


第52トレンチ出土遺物

図版 12

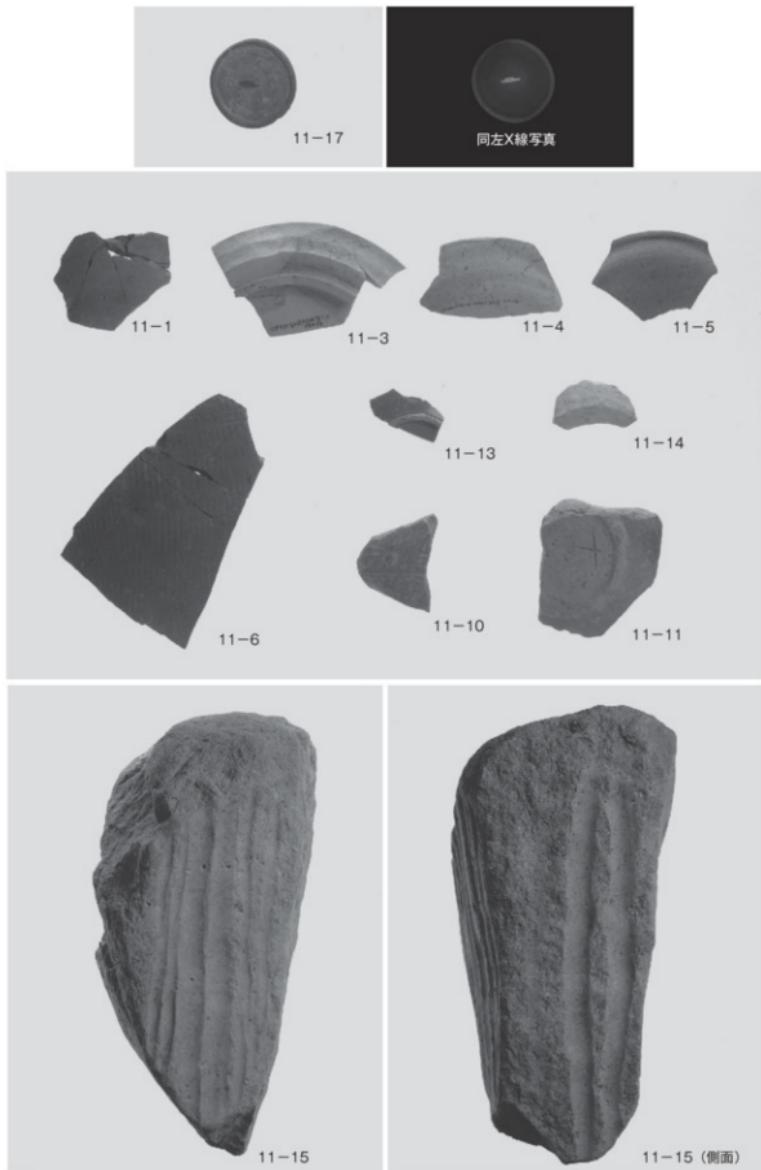


第52トレンチ出土遺物



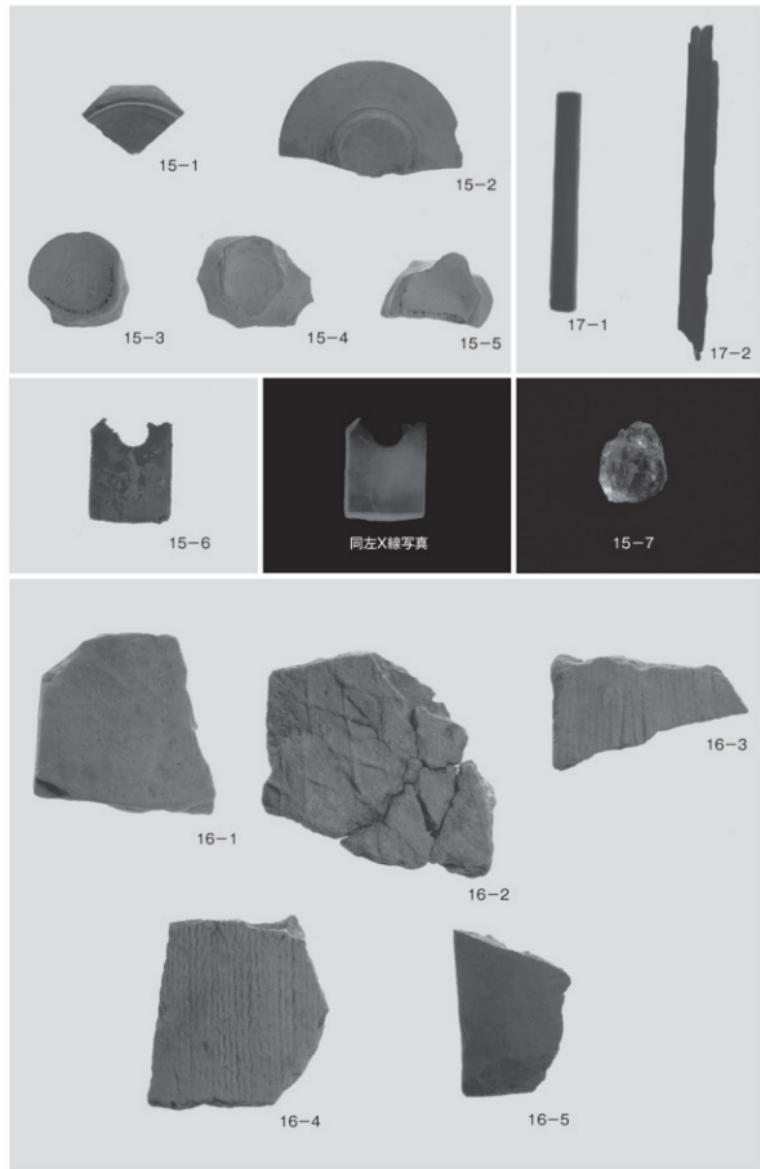
第53トレンチ出土遺物

図版 13



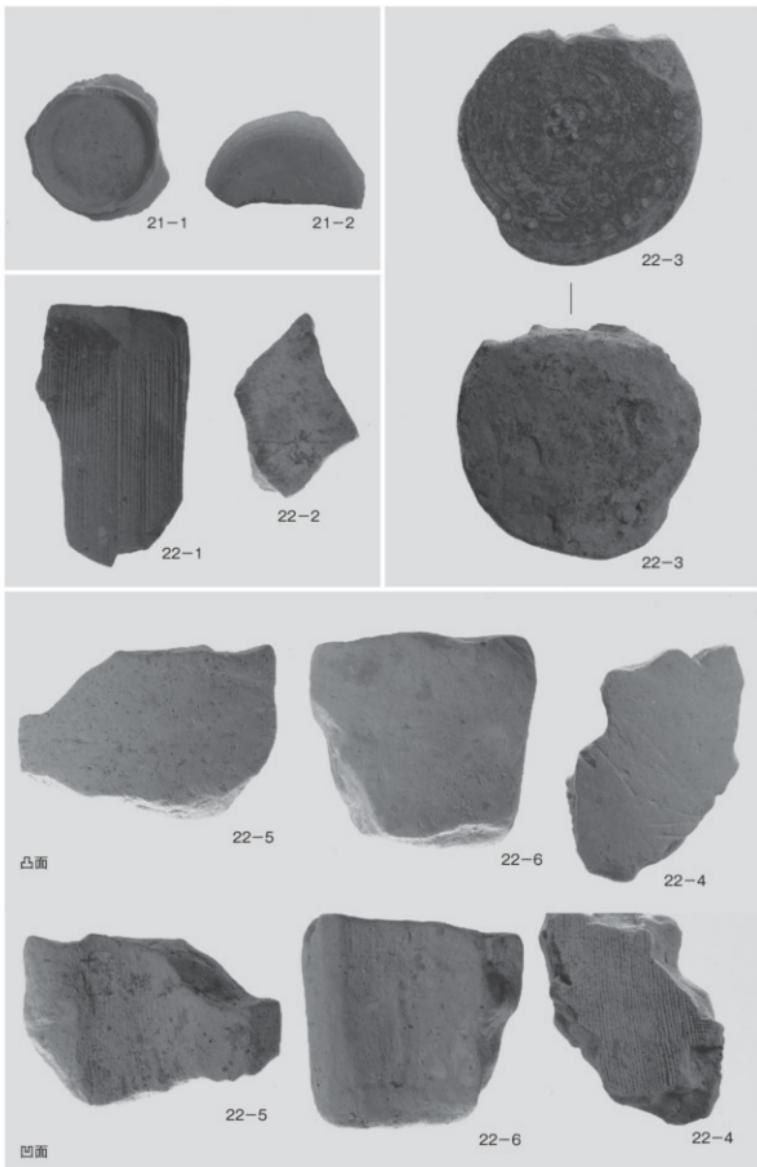
第53トレンチ出土遺物

图版 14



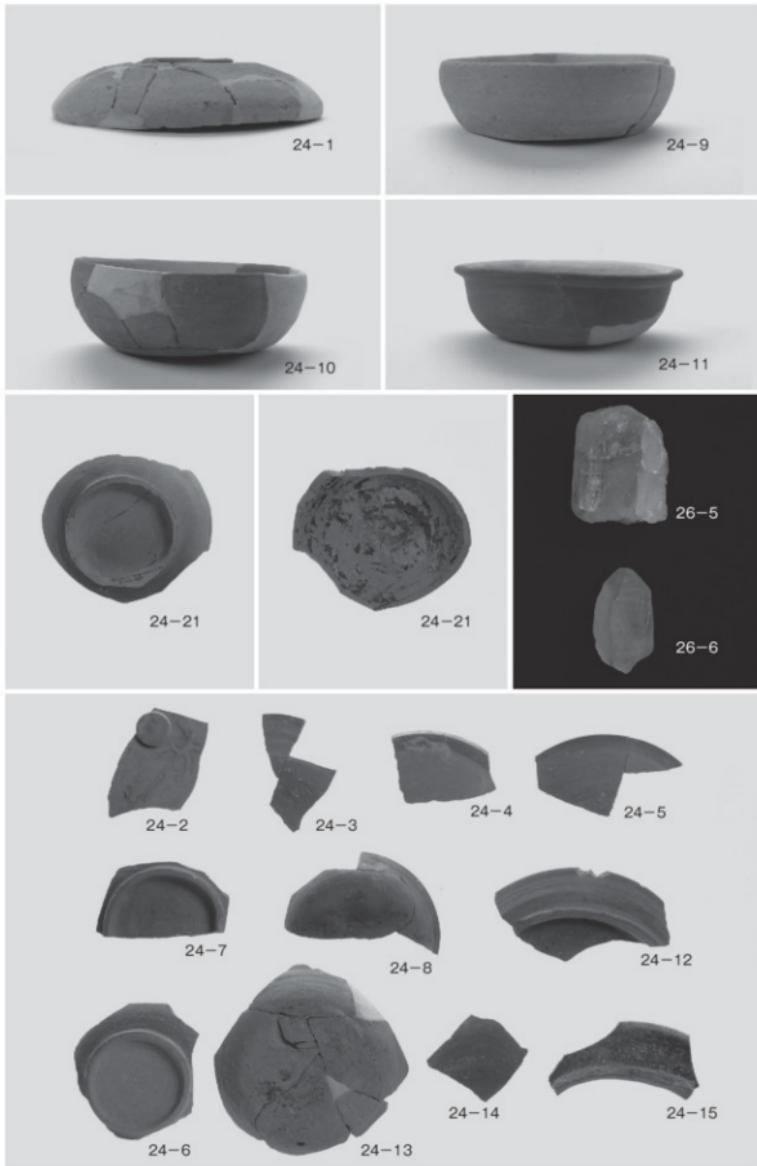
13号井戸出土遺物

図版 15



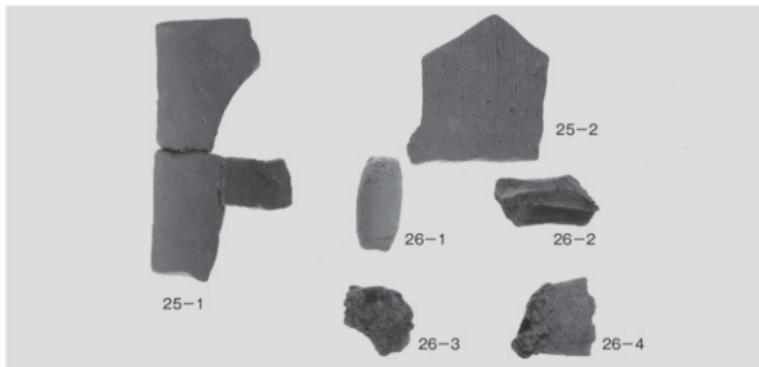
70号溝・72号溝出土遺物

图版 16



73号满出土遗物

図版 17

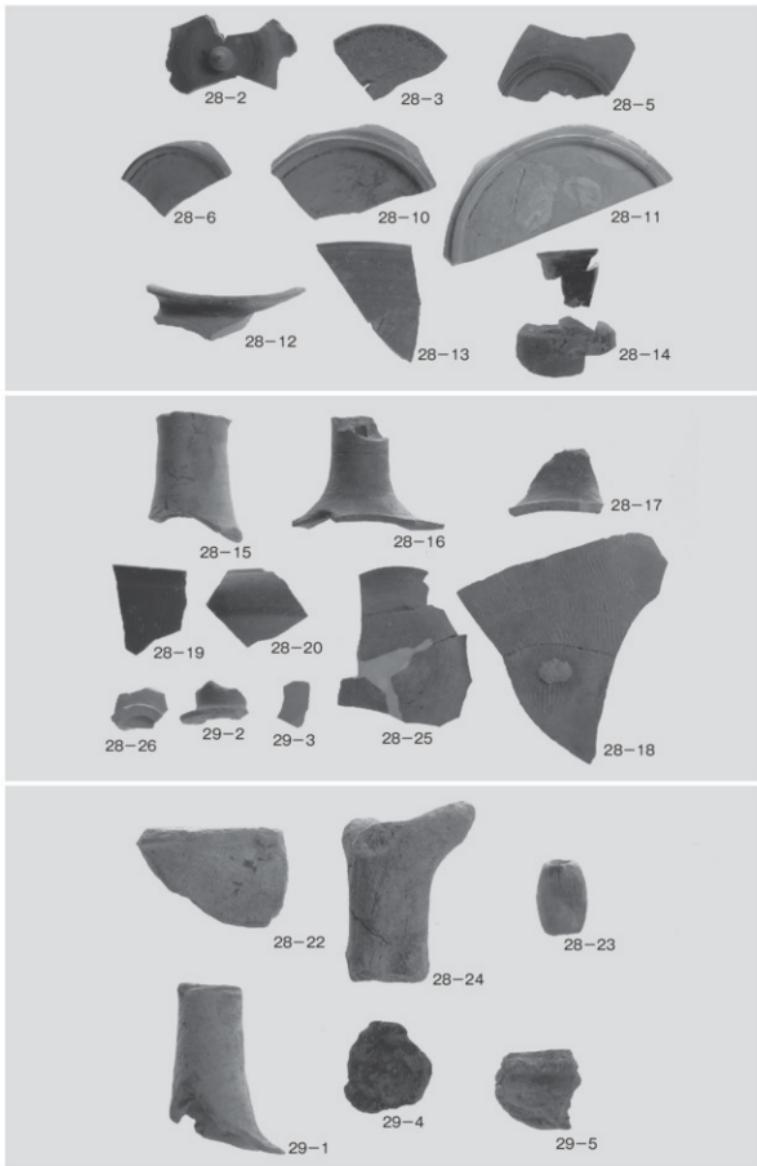


73号溝出土遺物



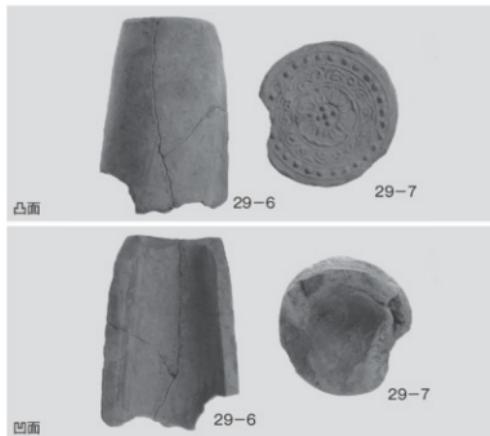
第54トレンチ出土遺物

図版 18



第54トレンチ出土遺物

図版 19

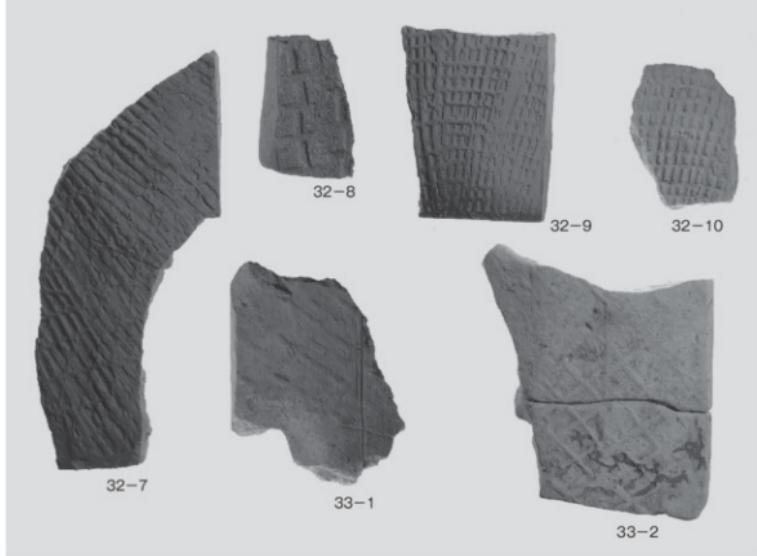
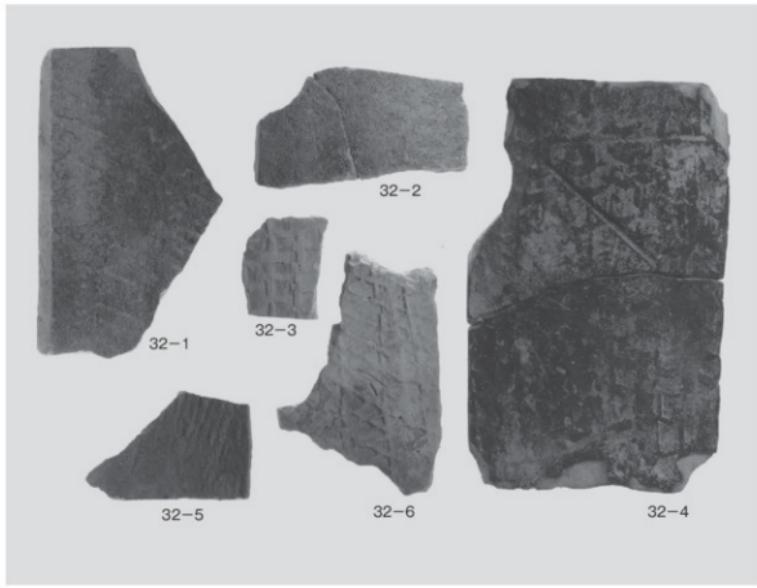


第54トレンチ出土遺物

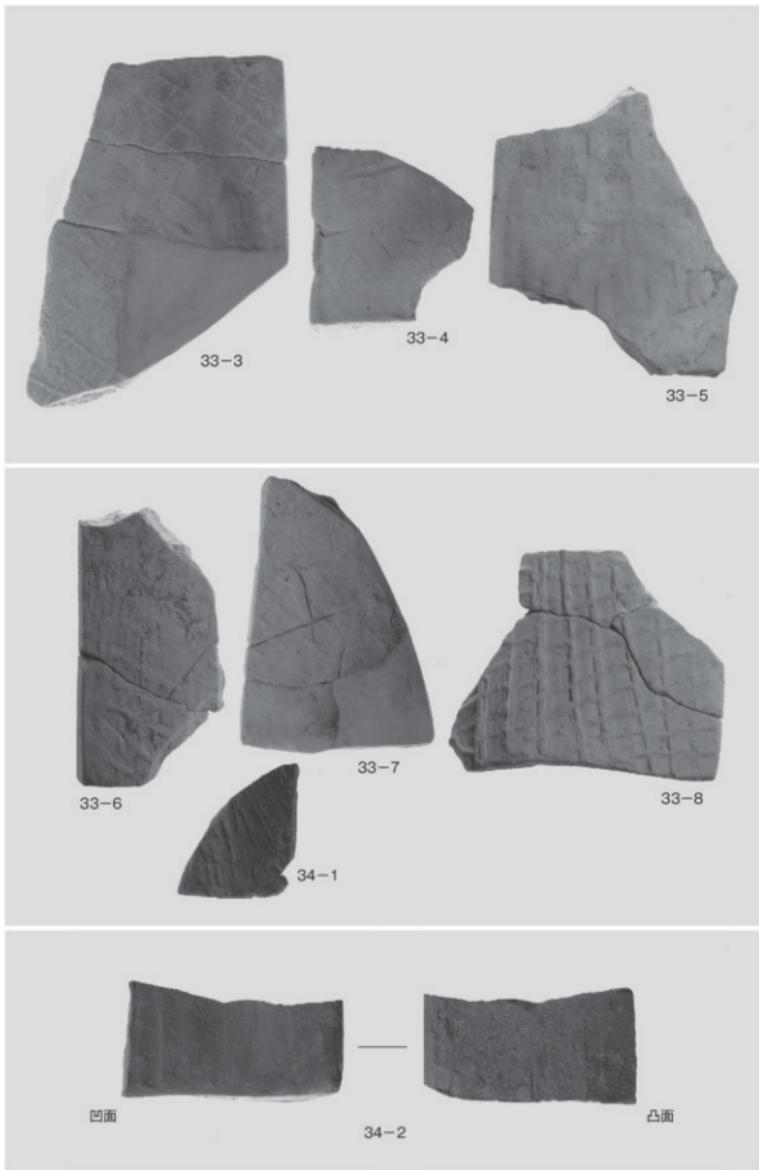


40号土坑出土遺物

图版 20

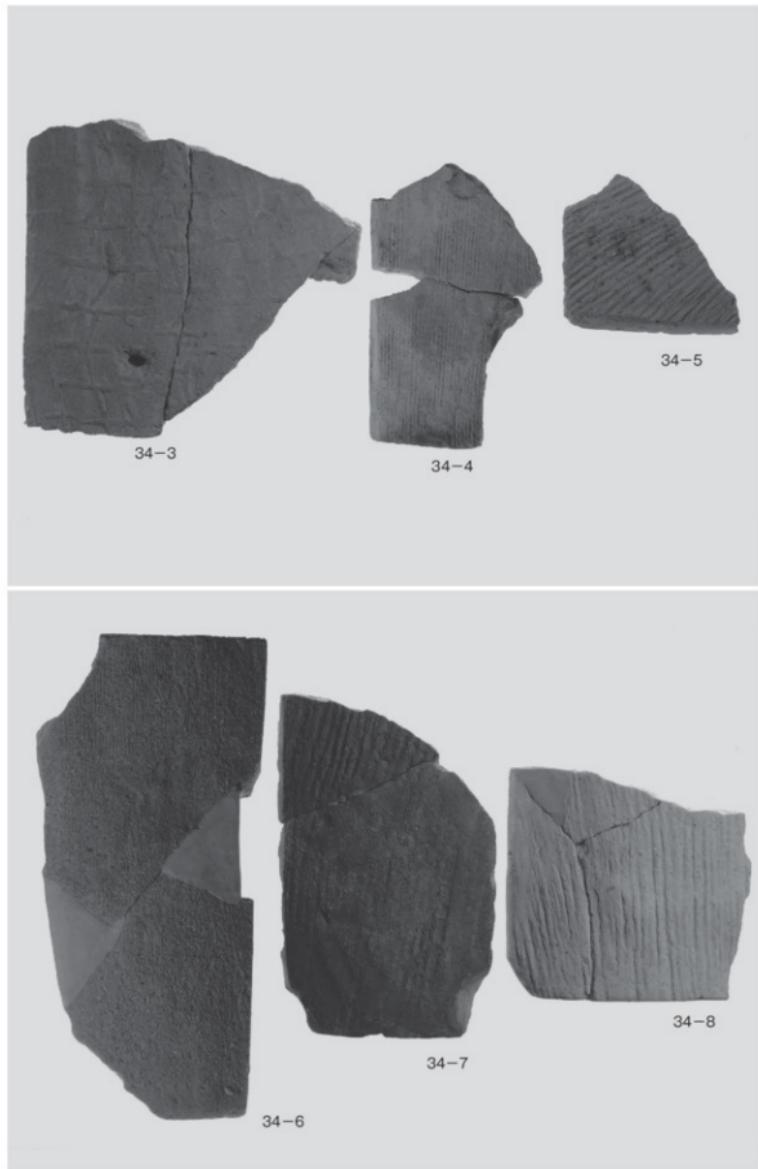


40号土坑出土瓦



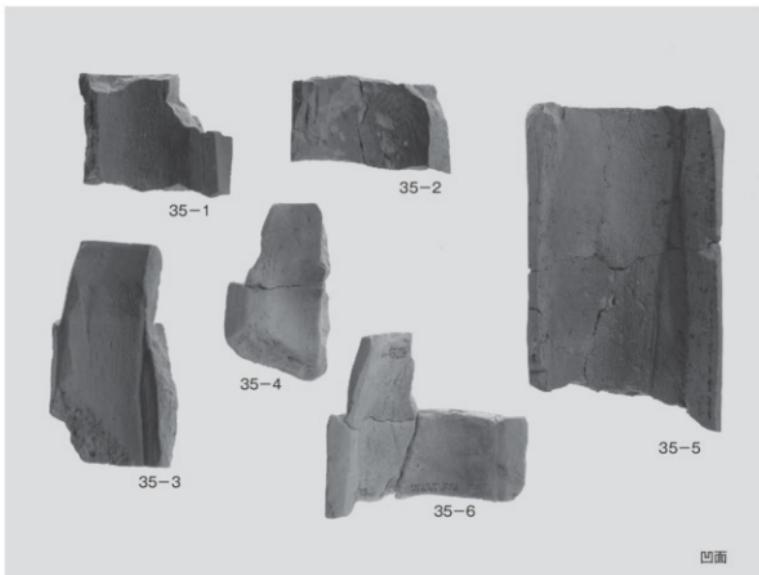
40号土坑出土瓦

图版 22



40号土坑出土瓦

図版 23



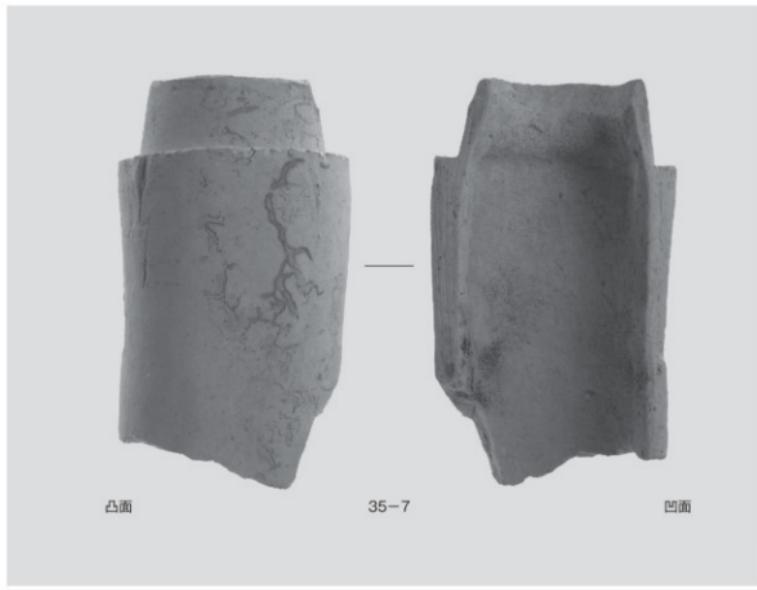
凹面



凸面

40号土坑出土瓦

图版 24



凸面

35-7

凹面



35-8

35-9

35-11

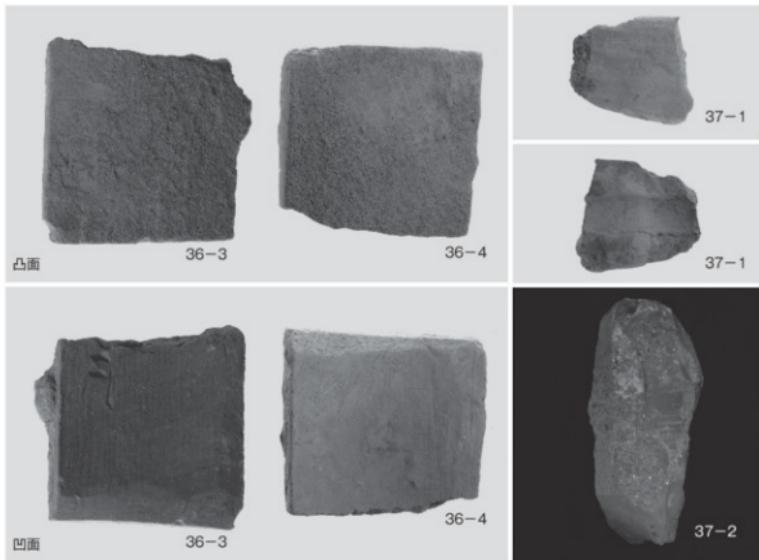
36-2

35-10

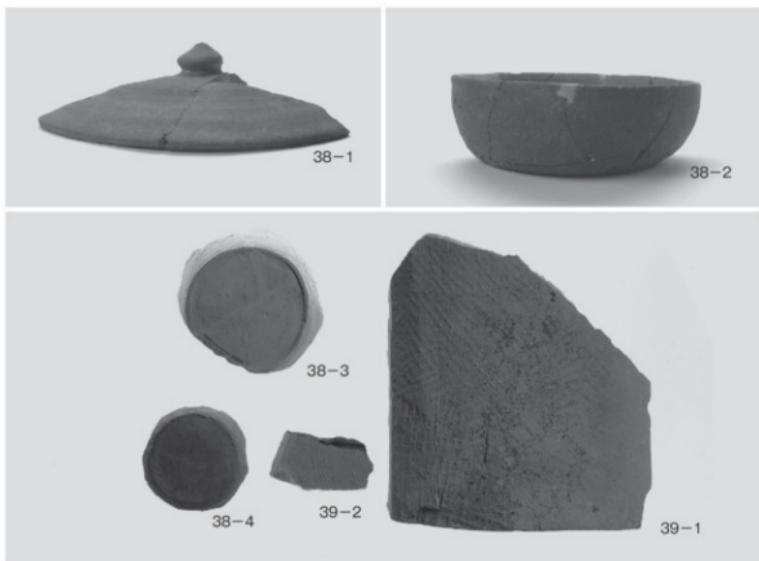
36-1

40号土坑出土瓦

図版 25

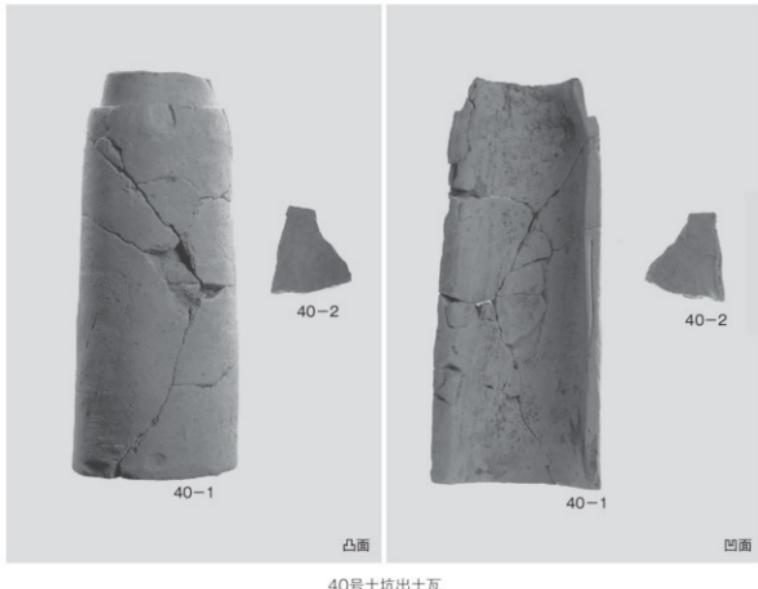


40号土坑出土遺物



40号土坑周辺出土遺物

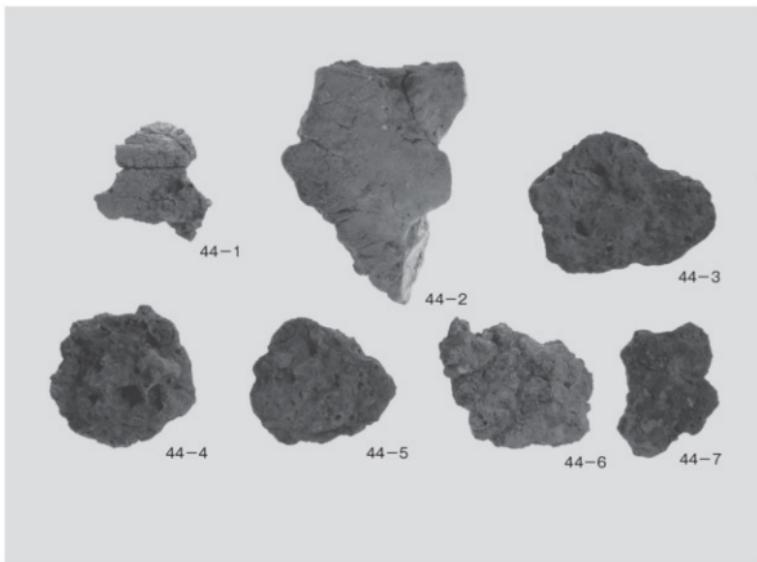
图版 26



40号土坑出土瓦



41号土坑出土瓦 42号土坑出土遗物

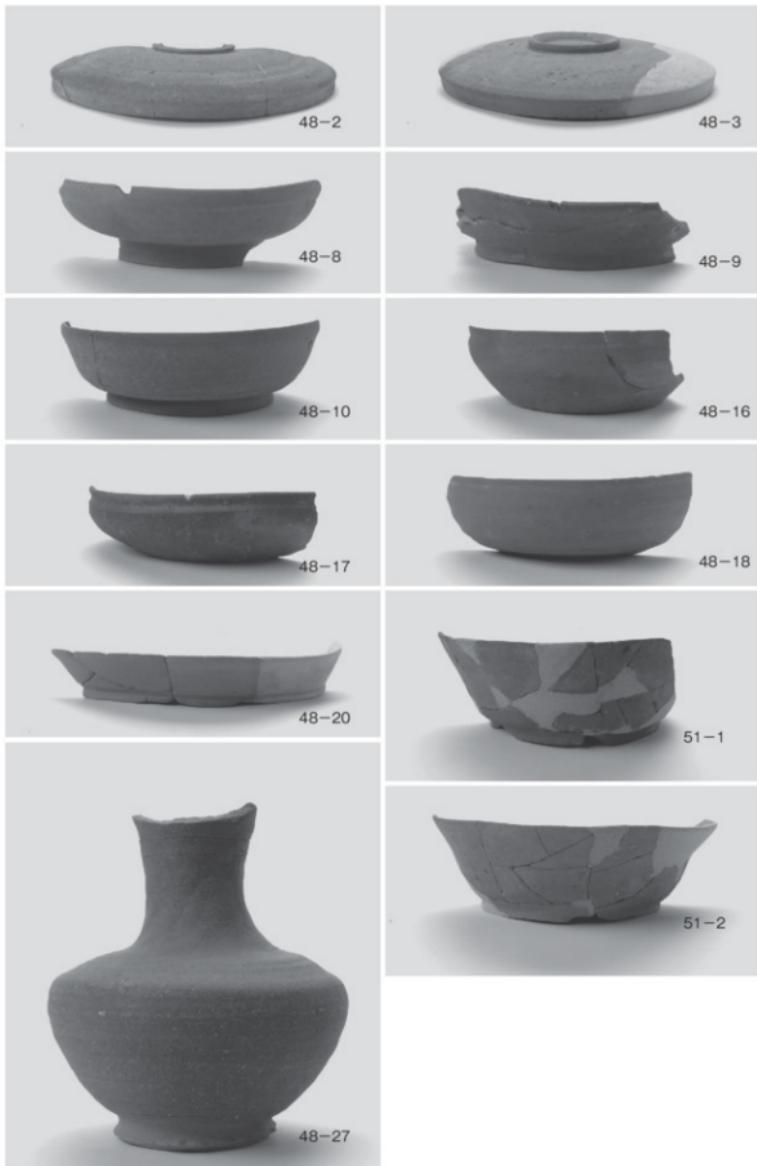


42号土坑出土遺物

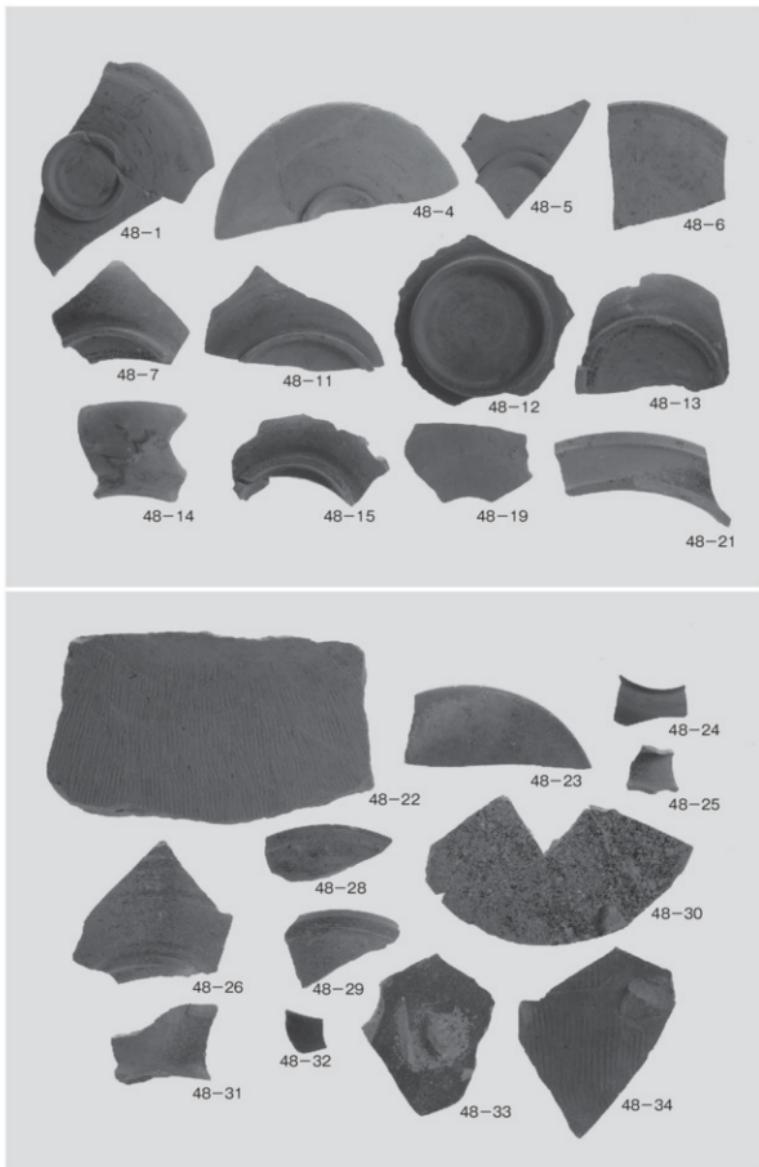


44号・46号土坑出土遺物

图版 28

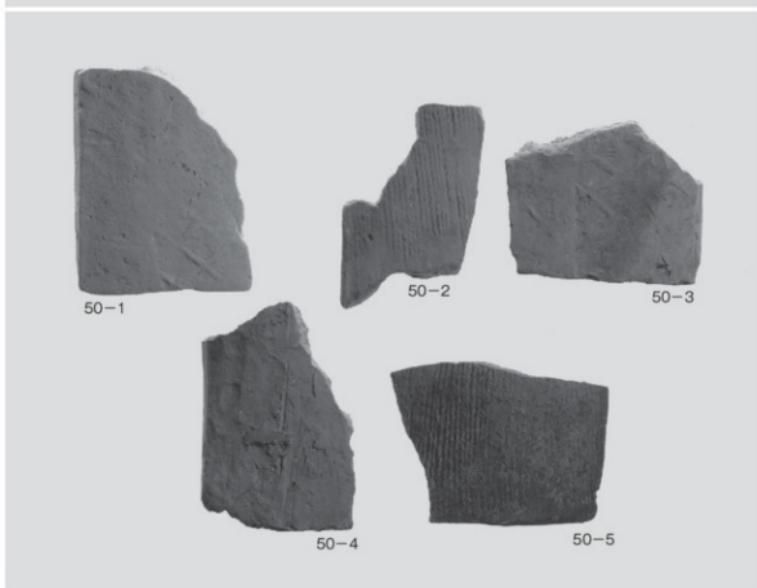
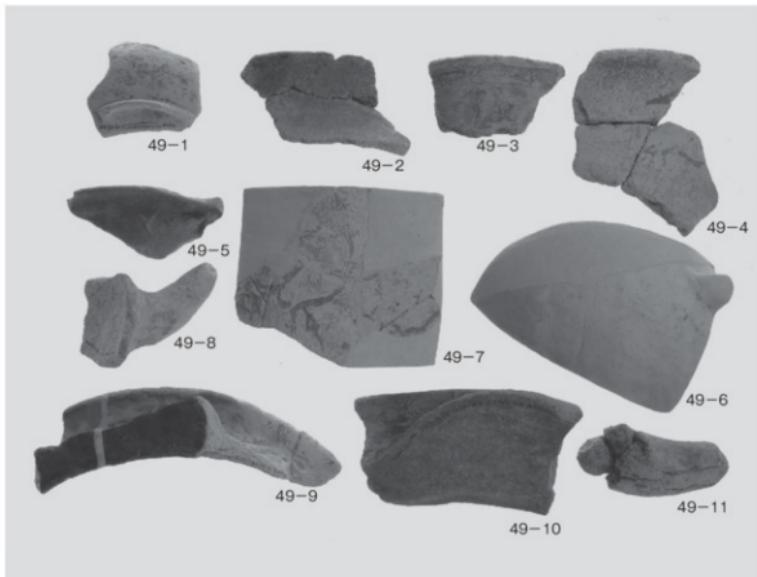


第 1 サブトレンチ出土遺物

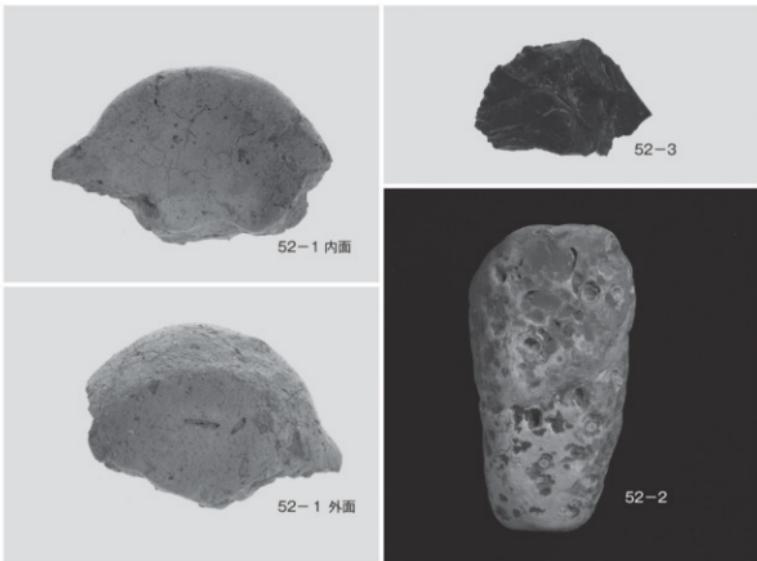


第1サブトレンチ出土遺物

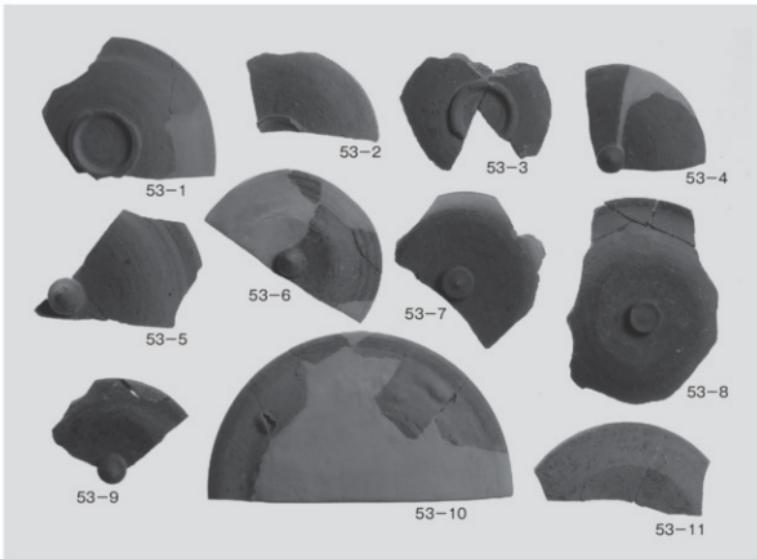
図版 30



第1サブトレンチ出土遺物



第1サブトレンチ出土遺物



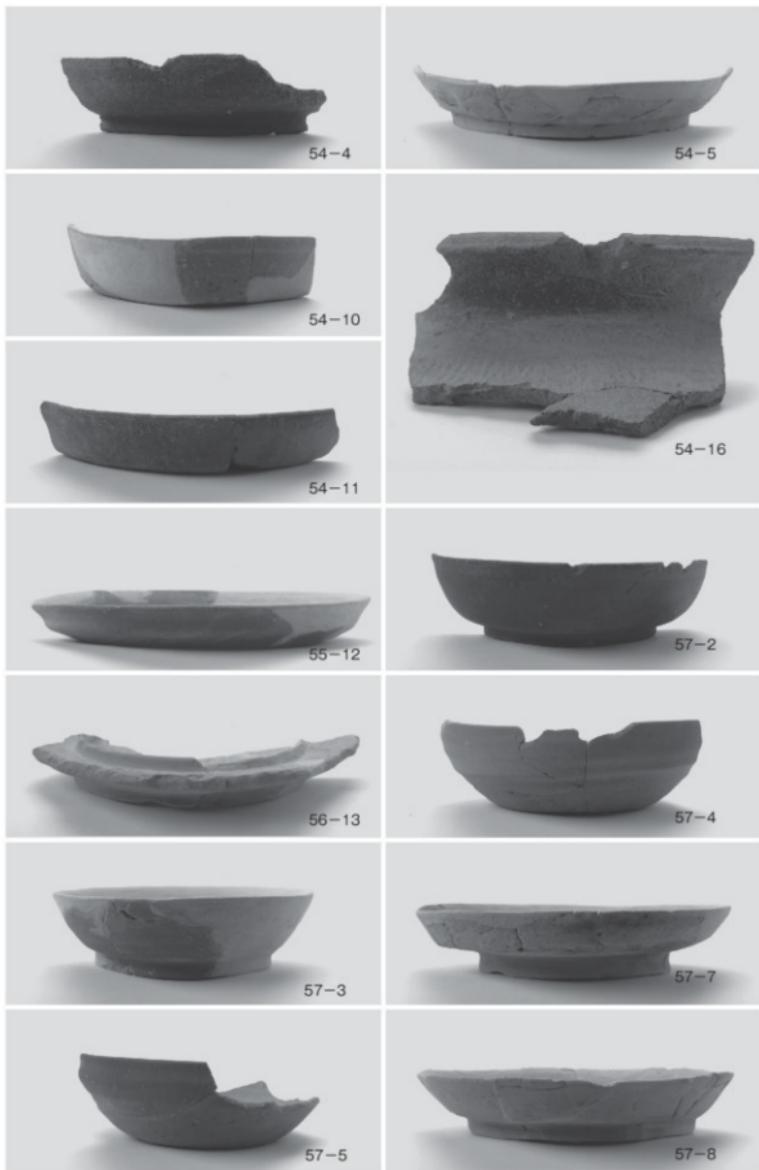
宮の後地区出土須恵器

图版 32



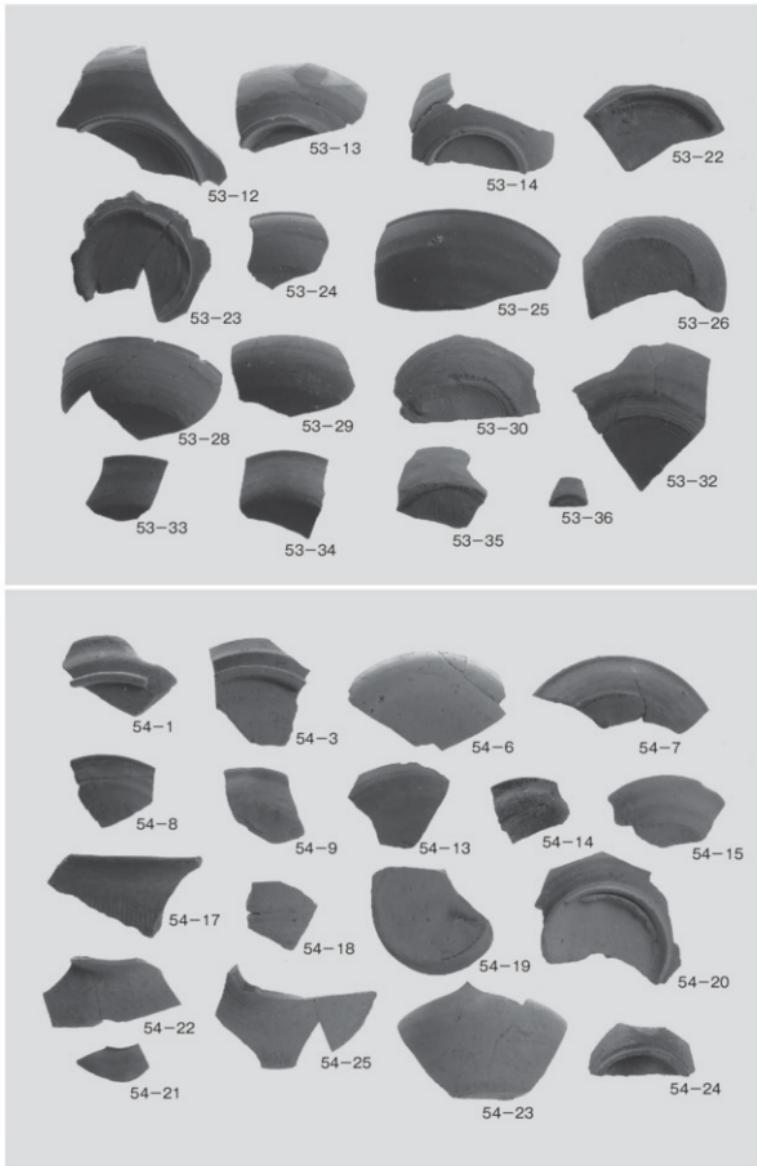
宮の後地区出土須恵器

図版 33

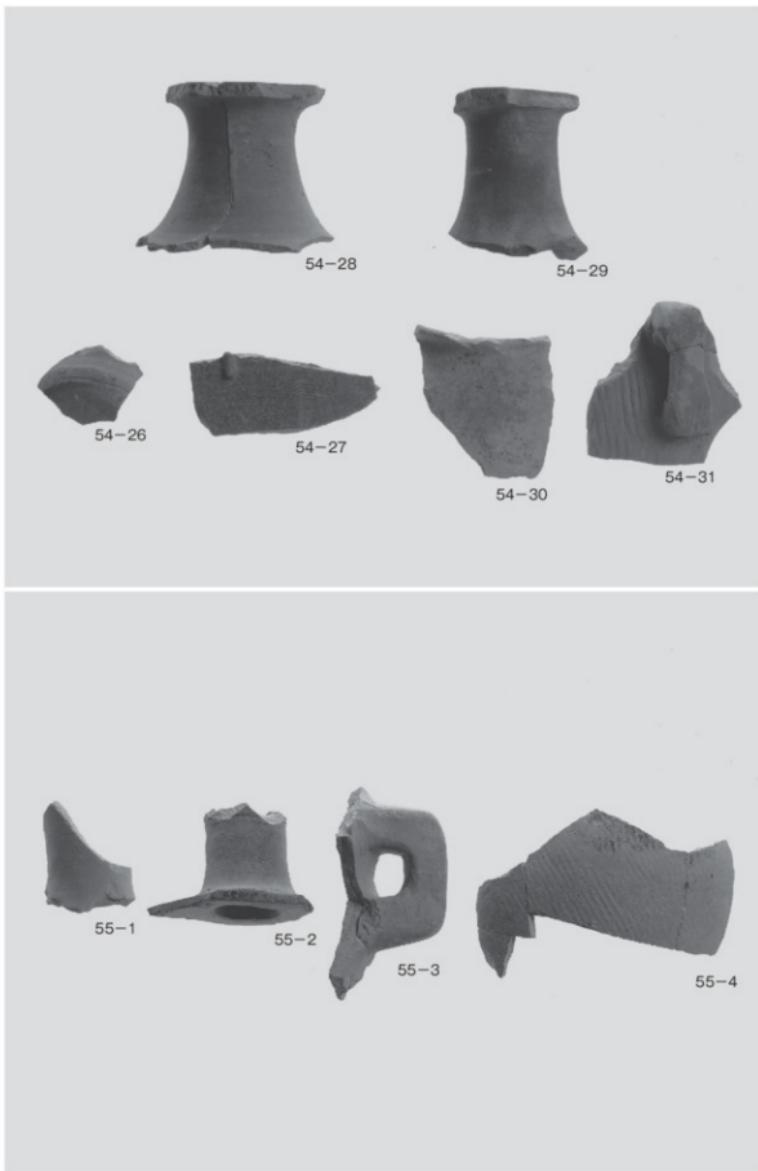


宮の後地区出土須恵器

図版 34

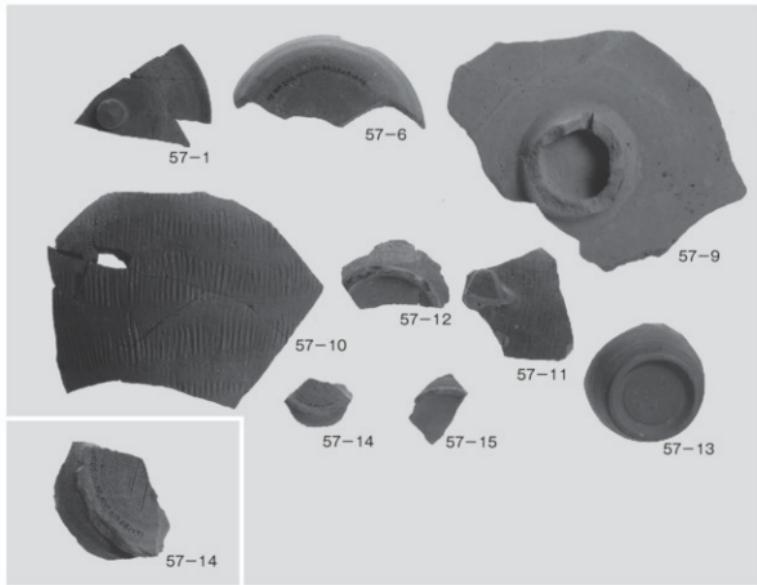
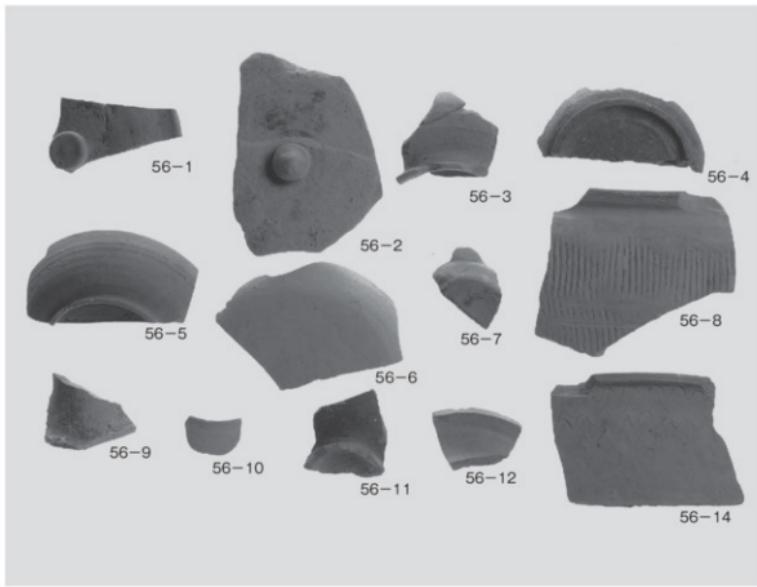


宮の後地区出土須恵器

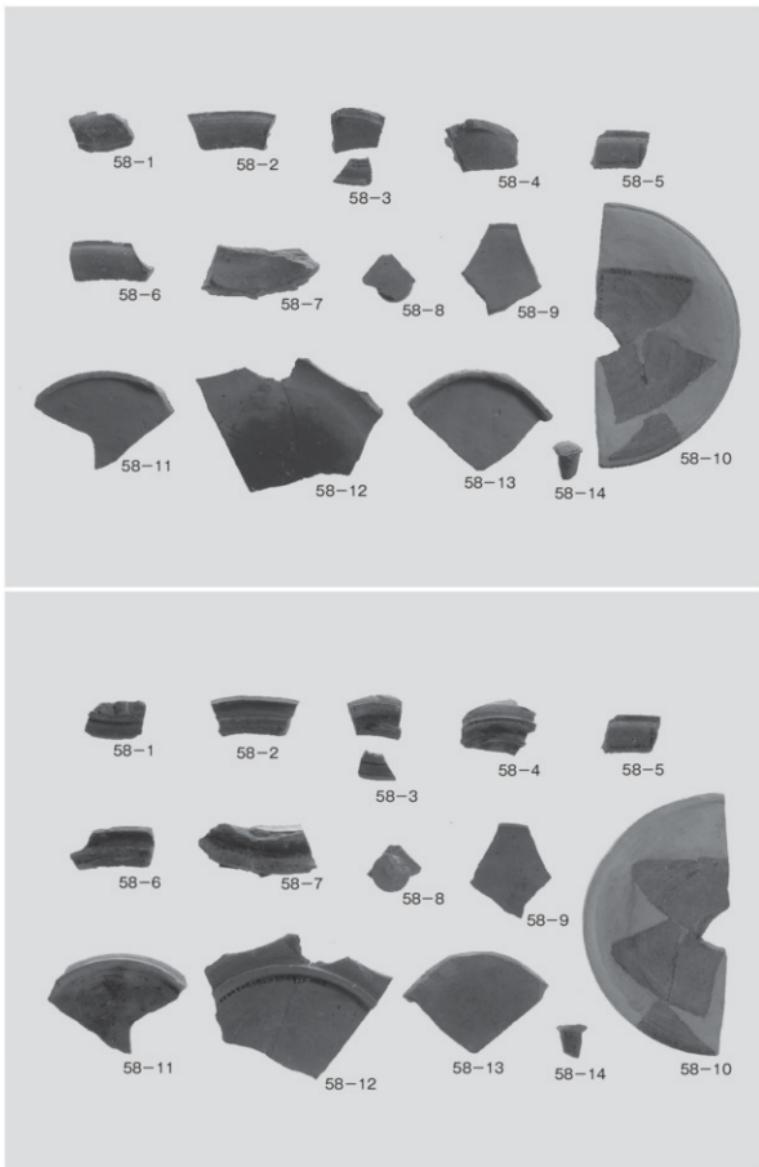


宮の後地区出土須恵器

図版 36

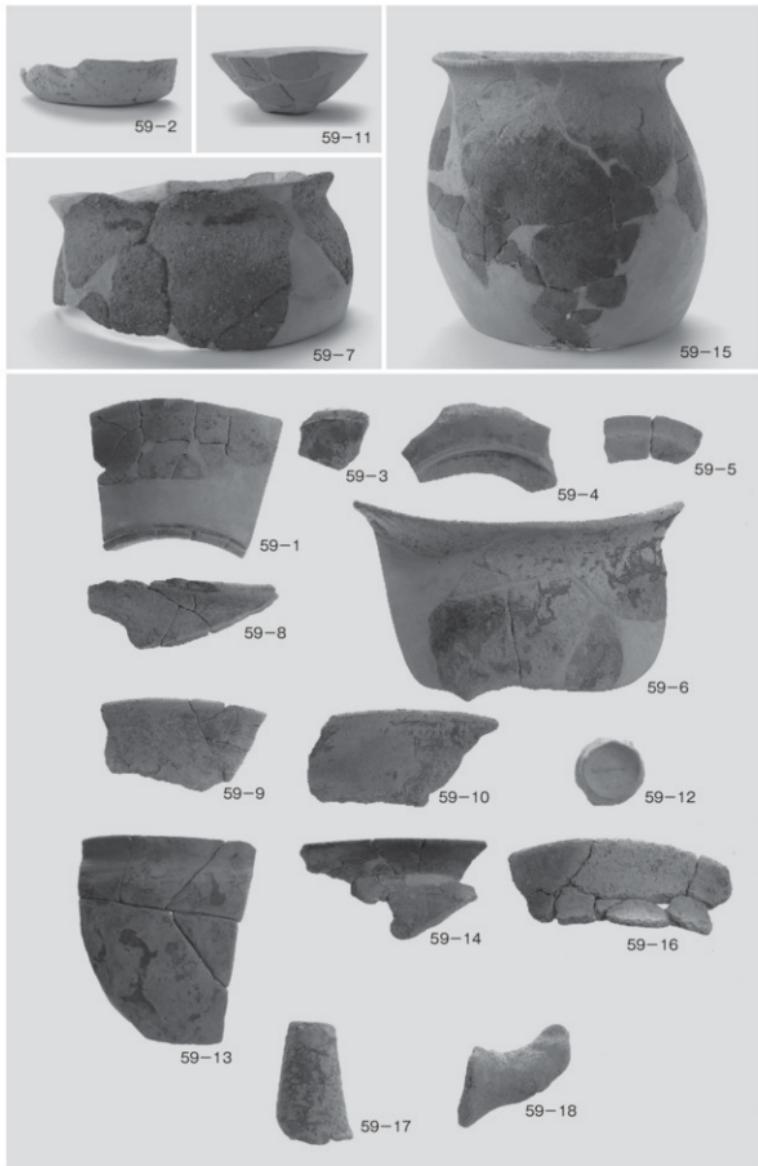


宮の後地区出土須恵器

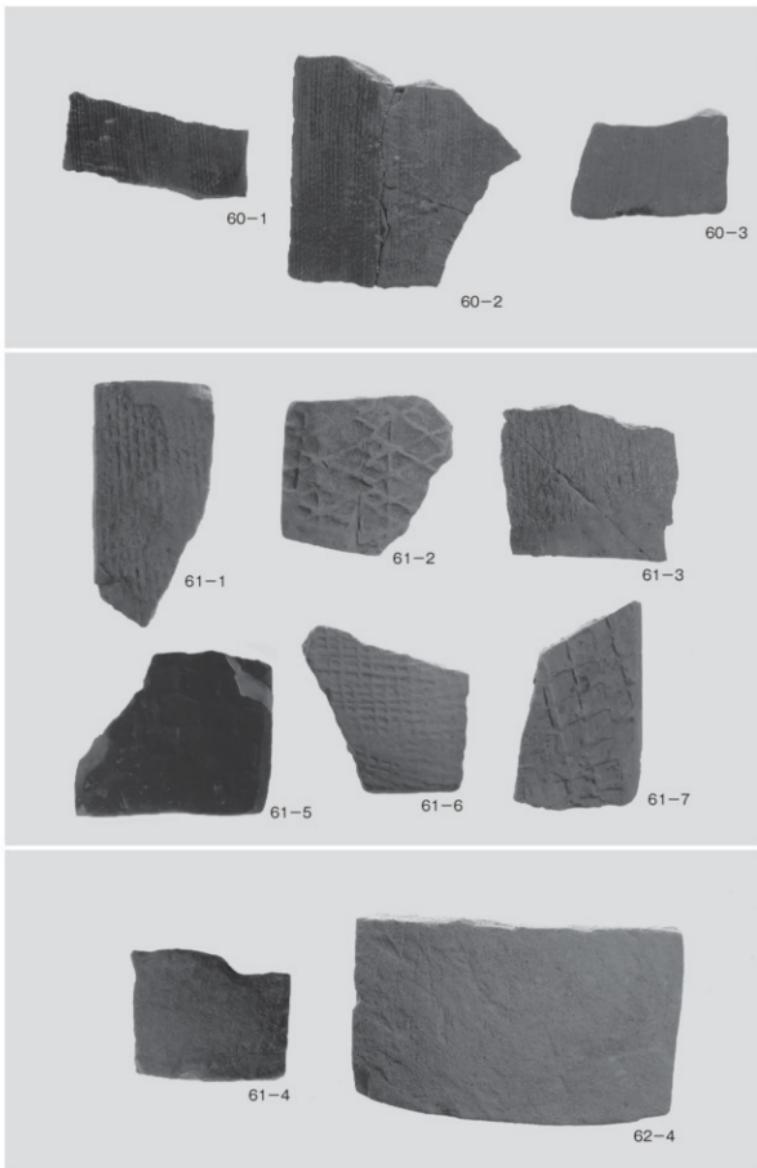


宮の後地区出土硯

図版 38

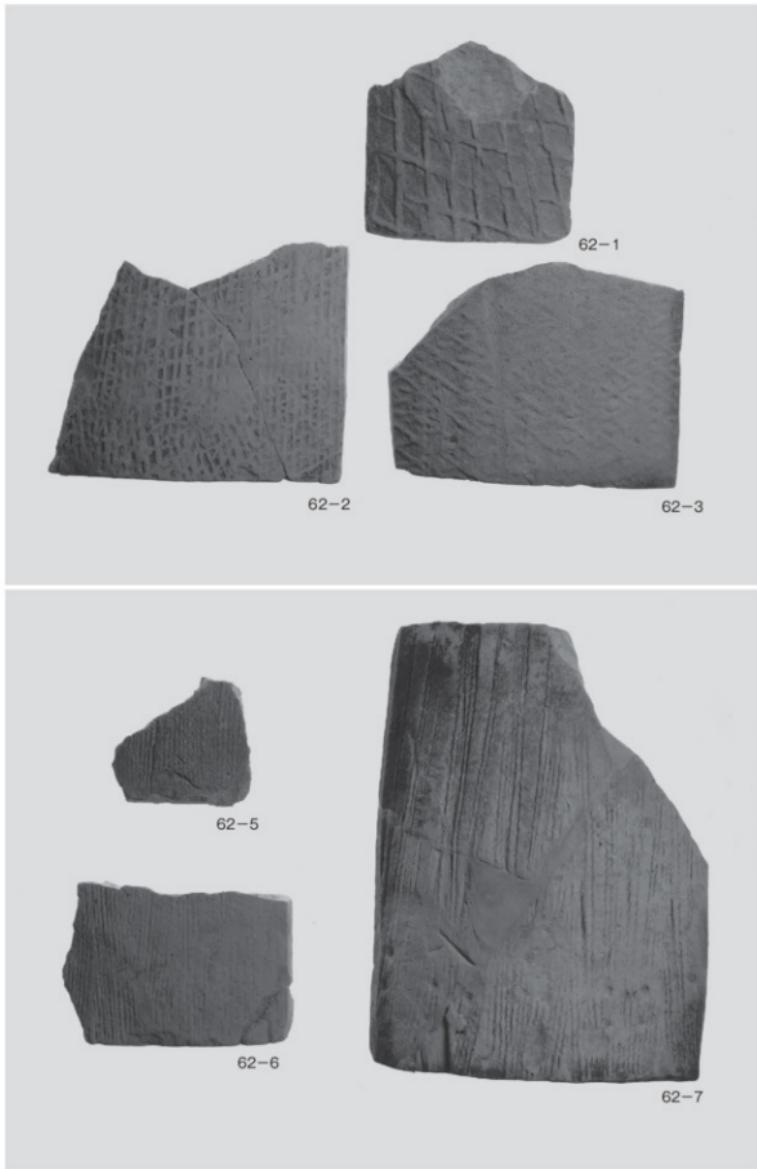


宮の後地区出土土師器



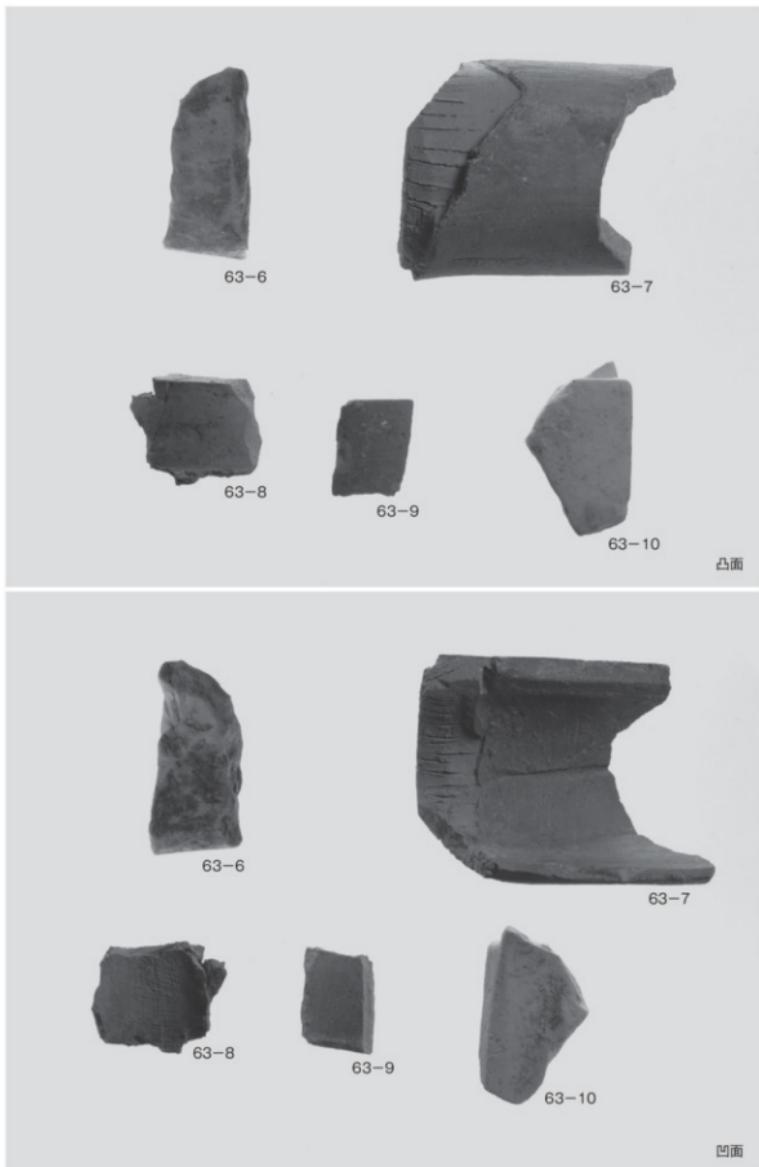
宮の後地区出土瓦

图版 40



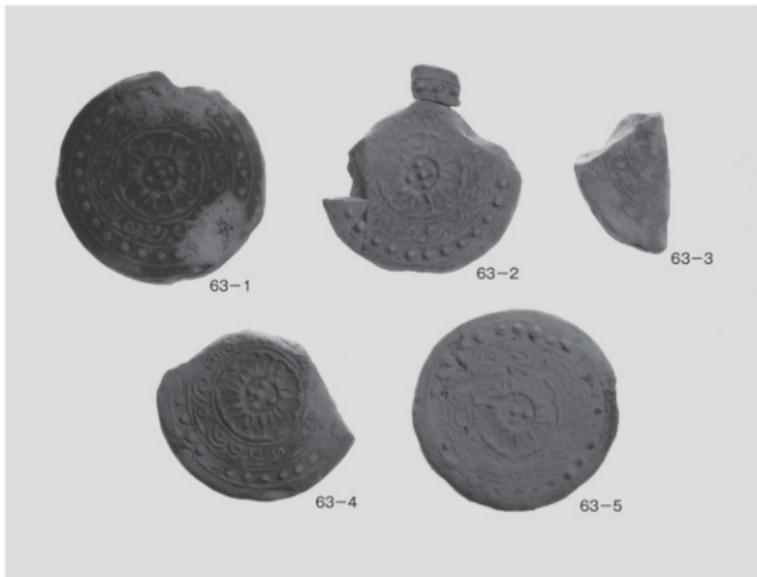
宮の後地区出土瓦

図版 41



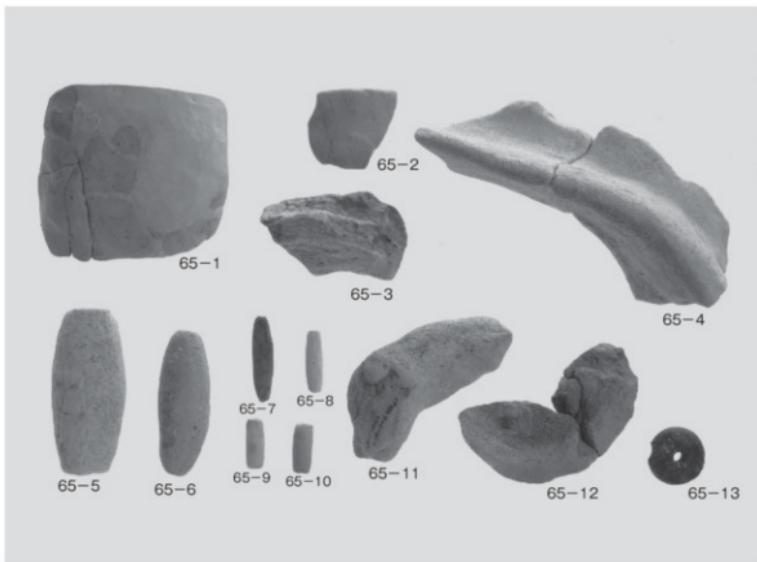
宮の後地区出土瓦

图版 42

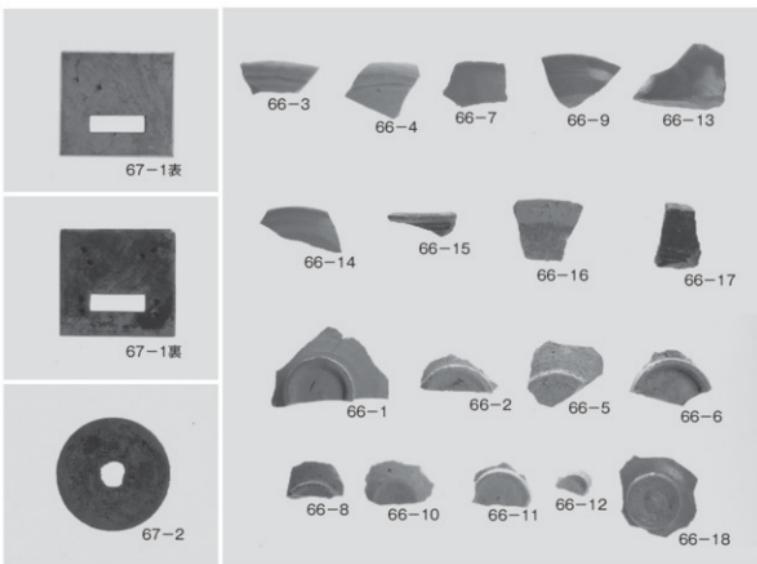


宮の後地区出土瓦

図版 43

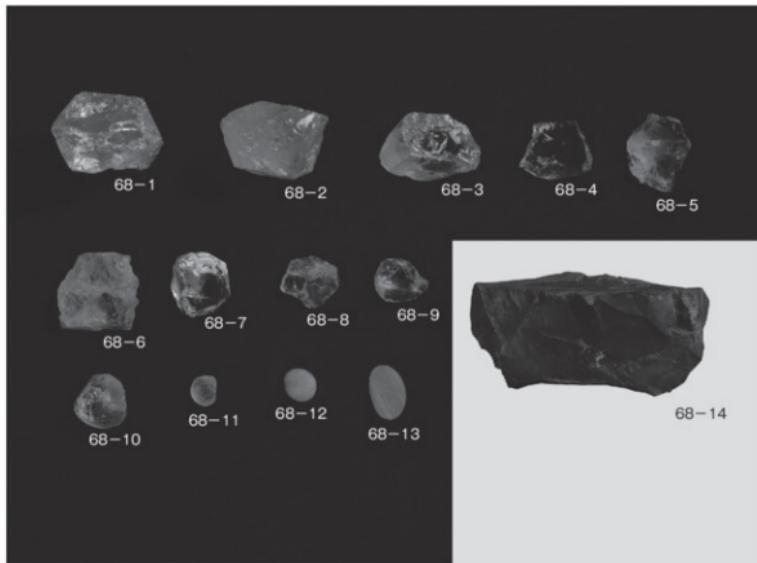


宮の後地区出土土製品

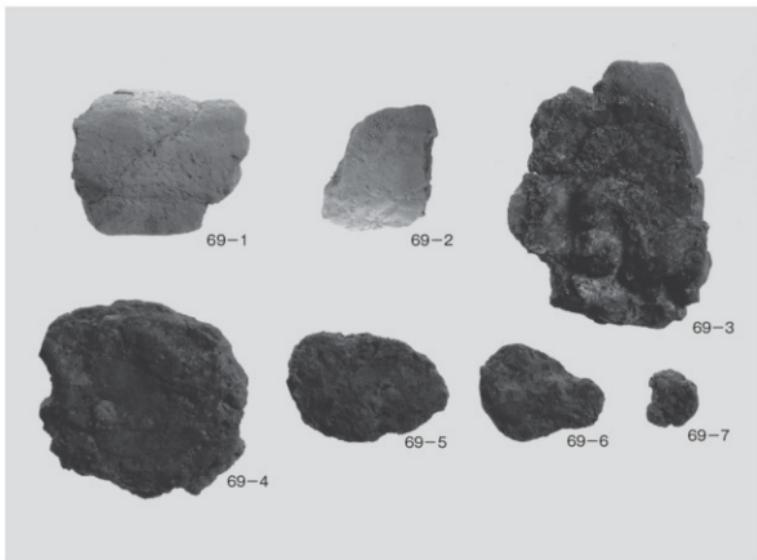


宮の後地区出土巡方・錢貨・陶磁器

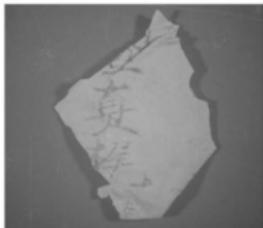
図版 44



宮の後地区出土玉作関連遺物



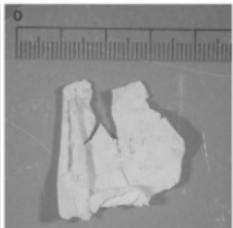
宮の後地区出土金属器生産関連遺物



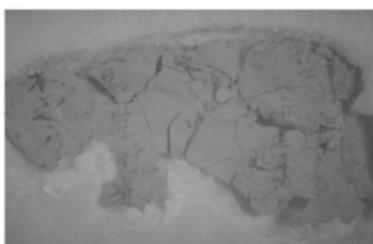
1号文書



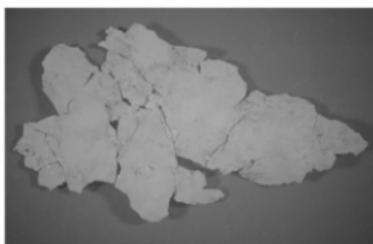
1号文書



3号文書



2号文書



3号文書

図版 46



山代郷南新造院跡
調査地遠景（南から）



山代郷南新造院跡
完掘状況（北西から）



第2トレンチP12・13
(北西から)



第1トレンチ完掘状況
(北東から)

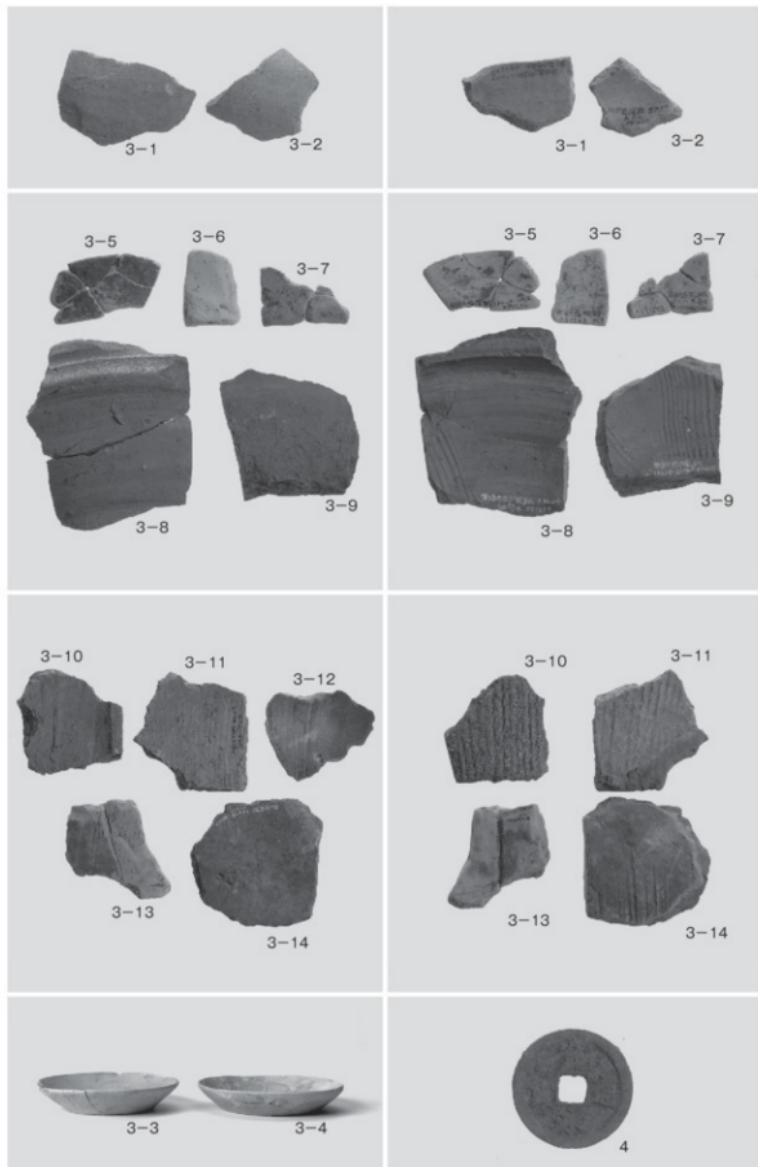


第1トレンチ完掘状況
(北西から)



第1トレンチ P8
(東から)

图版 48



山代鄉南新造院跡出土遺物

報 告 書 抄 錄

フリガナ	シセキイズモコクフアト
書名	史跡出雲国府跡7
シリーズ名	風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書
シリーズ番号	
編著者名	宮本正保、神柱靖彦、稲田陽介、平川南、武井紀子、林健亮
編集機関	島根県教育厅理藏文化財調査センター http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/
所在地	〒690-0131 島根県松江市打出町33番地 TEL 0852-36-8608 (代) E-mail:maibun@pref.shimane.lg.jp
発行年月日	平成23(2011)年3月18日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
出雲国府跡	島根県 松江市 大草町	32201	D285	35° 25' 35''	133° 06' 25''	20080519 ~ 20081213	900m ²	重要遺跡 内容確認 範囲確認
						20090601 ~ 20091130		
山代郷南新造院跡	島根県 松江市 山代町	32201	D231	35° 25' 59''	133° 05' 34''	20091201 ~ 20091208	24m ²	重要遺跡 内容確認
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
出雲国府跡	官衙跡	奈良時代 平安時代	溝、井戸	須恵器 土師器 瓦				
山代郷南新造院跡	寺院跡	室町時代	柱穴	須恵器 土師器 瓦				

要約	島根県松江市大草町他に所在する史跡出雲国府跡の発掘調査。本書は平成20・21(2008・2009)年度に実施した宮の後地区の調査成果を報告したものである。「国司館」の一角と推定される地点を調査し、溝跡井戸跡などを検出した。「国司館」の施設変遷を考えるうえで貴重な成果となった。あわせて、平成21(2009)年度に実施した山代郷南新造院跡の調査成果についても収録した。
----	---

風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書20

史跡出雲国府跡

- 7 -

発 行 平成23（2011）年3月

発行者 烏根県教育委員会

編 集 烏根県教育厅理蔵文化財調査センター

〒690-0131 烏根県松江市打出町33番地

maibun@pref.shimane.lg.jp

<http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>

電 話 0852-36-8608（代）

印 刷 さんきゅう印刷株式会社